教育テック大学院大学

2025年度

シラバス

シラバス目次

教育テック総論2
教育データ・アナリティクス論 (I)7
教育データ・アナリティクス論(II)11
教育デジタルエコシステム概論15
教育テック事例研究(I)19
教育テック事例研究(II)23
教育学特殊講義
教育国際論31
教育効果論34
教育国際交流演習
持続可能な開発のための教育41
教育デジタルエコシステム演習45
教育テックの倫理的・法的・社会的な課題(ELSI)
教育テックのための I C T 基礎 52
プログラミング特論55
カリキュラム・マネジメント59
ICT を活用した就学前教育
ICT を活用した初等中等教育67
ICT を活用した高等教育71
ICT を活用した特別支援教育75
XR の教育応用
教育政策論
ソーシャル・アントレプレナーシップ論
教育マーケティング・広報ブランディング92
教育機関と経営戦略論97
教育マネジメント論101
教育人材マネジメント論106
教育ファイナンス論 111
教育経済学
教育構想演習 (I)
教育構想演習(II)
教育構想研究(I)194
教育構想研究(Ⅱ)

教育テック総論

講義名	教育テック総論
単位数	2
単位区分(必修・選択・自由)	必修
講義開講時期	1年前期
講義区分(講義・演習・実習)	講義(オムニバス)
	秋田次郎、大和田茂、大和田順子、河﨑雷太、木岡一
担当教員名	明、柴山慎一、妹尾昌俊、竹村治雄、根岸正州、藤本典
	裕、松田孝、山田恒夫、山本淳子

	教育界における課題を発見し、背景や関わる要因をグローバル視点で俯瞰し定義する	
DP1	ことができる。	
	(課題発見・要因定義能力)	
DP2-1	教育界における課題に情報学の知識・スキルを活用し改善・解決することができる。	
D1 2-1	(改善・解決能力)	
DP2-2	教育界における課題に経営学の知識・スキルを活用し改善・解決することができる。	
D1 2-2	(改善・解決能力)	
DP3	科学的知見に基づき実践からデータを取得し仮説を立て検証することができる。	
DP3	(科学的な検証能力)	
	教育テックによる教育界に関する社会変革を目標に、自らの構想を実装または実践す	
DP4	ることができる。	
	(構想の実装・実践能力)	

履修条件	特になし
授業の概要	本授業は、研究科の修了成果物となっている「教育構想実践書」の完成に向けた教育指導を行う。
	【教育テック総論】では、教育をテクノロジーや経営学の知見で進化させる「教育テック」とは何かを理解し、教育的課題や社会課題に対して、なぜ教育テックが必要なのかを理解する。研究指導科目の担当者それぞれの専門分野を知り、「教育構想実践書」の完成に基礎となる考え方に関する講義を行う。

授業のテーマ 現在の教育的課題や社会課題の要因を知り、テクノロジーや経営学の活 用を理解する

○教育テックの研究で必要となる基礎的な考え方を身につける

授業計画 (1回90分)			授業外の学習		
	(第1回)特別講義(講義)				
	根岸教授	事前	シラバス内容閲覧		
第1講	教育界の課題を含む社会課題を科学的に分析し、				
	工学・情報科学または経済・経営学の方法論や知	事後	コメントペーパーの提出 (2h) 指定された文献の精読 (2h)		
	見から社会変革を目指す		THE CAST SCHOOL STILL		
	(第 2 回)専門および教育テック研究紹介(講	事前	 授業資料の確認(2h)		
	義)				
	竹村教授				
	ICT の教育応用について、各種利用状況の変遷を				
	理解し、教育支援情報システムの変遷、VR や AR				
第2講	の教育応用の現状と課題について学ぶ。				
	(第 3 回)専門および教育テック研究紹介(講 業)	事後	コメントペーパーの提出 (2h) 指定された文献の精読 (4h)		
	義) 山田恒夫教授		相定された文献の情就(知)		
	旧田巴入教社 情報学・教育工学を背景とした、デジタルエコシ				
	ステムによる教育情報システム設計の現状と課題				
	について学ぶ				
	(第 4 回)専門および教育テック研究紹介(講	**			
	義)	事前	授業資料の確認(2h) 		
	柴山教授				
	教育機関経営について、そのベースになる組織論				
	を通じて組織のあり方やマネジメントの理論を学				
第3講	び、マーケティングや広報・ブランディングの理				
NI O IHT	論を通じて、教育機関の成長に向けた戦略・施策	事後	コメントペーパーの提出 (2h) 指定された文献の精読 (4h)		
	の考え方を学ぶ。	, ,,,			
	(第 5 回)専門および教育テック研究紹介(講				
	義)				
	秋田教授				
	近代経済学・計量経済学を背景とする教育テック (第 6 回)専門および教育テック研究紹介(講				
	(第 6 回) 専門および教育アック研究紹介 (講義)	事前	授業資料の確認(2h)		
第4講	松田教授				
	新しい社会(Society5.0)に求められる資質・能力	事後	コメントペーパーの提出 (2h) 指定された文献の精読 (4h)		
	MICHAL (Council Color) Testino Data of R.M.				

		1	
	を真に育む ICT 等を活用した教育実践の在り方		
	を、教育現場での実践知をもとに次の3点から問		
	題点を提起し、「教育構想実践書」の作成に向か		
	う動機を喚起する。		
	①非認知能力の育成と学習評価		
	②コンピュータサイエンスの入り口としてのプロ		
	グラミング教育		
	③学校経営と ICT 教育の推進		
	(第 7 回)専門および教育テック研究紹介(講		
	義)		
	大和田茂教授		
	保育テックに関する研究を行い、論文発表を重ね		
	てきた経験をもとに、研究活動とはどのようなも		
	のかについて概要説明した上で、具体的に論文執		
	筆から学会発表・論文誌掲載までのプロセスにつ		
	いて解説します。		
	(第8回)専門および教育テック研究紹介(講	車並	極要次則の豫却(91)
	義)	事前	授業資料の確認(2h)
	木岡教授		
	【学校組織開発の考え方と促進手法】閉塞した学		
	校を活性化するために学校組織開発をいかに進め		
	ていくといいのかについて理論的・実践的に講述		
<i>bb</i> = 5#	し、学校組織開発の視点から教育構想を描くこと		
第5講	に繋げていく。	±//	コメントペーパーの提出 (2h)
		事後	指定された文献の精読 (4h)
	(第 9 回)専門および教育テック研究紹介(講		
	義)		
	妹尾教授		
	教職員の人材マネジメント、働き方改革、学校改		
	善善		
	(第 10 回)専門および教育テック研究紹介(講		
	義)	事前	授業資料の確認 (2h)
	藤本教授		
	現代の学校教育制度をめぐる諸課題について、特		
第6講	に学校教職員の役割とその変化などに着目しなが		
	ら検討する。	事後	コメントペーパーの提出 (2h)
	(第 11 回)専門および教育テック研究紹介(講		指定された文献の精読(4h)
	義)		
	山本教授		
1			1

	幼児教育に	おける幼児の主体的な活動と保育者の			
	関わり、保育	ず・幼児教育と ICT の導入の現状と課			
	題				
	(第 12 回)	専門および教育テック研究紹介(講	事故	極要次型の変型(91)	
	義)大和田川	頁子教授	事前	授業資料の確認 (2h)	
	SDGs、ESD	とソーシャルイノベーション			
	(第 13 回)	専門および教育テック研究紹介(講			
第7講	義)				
	河﨑教授		事後	コメントペーパーの提出 (2h) 指定された文献の精読 (4h)	
	ゲームライク	ウな教育方法の構想。やりたい気持ち		1日足された文献の特就(411)	
	を作る仕組み	みの宝庫であるゲームの教育への応用			
	やテクノロシ	^ブ ー活用を考える。			
	(第 14 回)	研究領域のまとめ(講義)			
	河崎教授		事前	授業資料の確認 (2h)	
	各回の内容は	と教育情報コースおよび教育経営コー			
	スの学びの[目標を再確認し、自身の学びの目標を			
第8講	見直す				
	(第 15 回)	専門選択に向けたディスカッション	事後	指定された文献の精読 (3h)	
	(演習)		7.12	まとめレポート (3h)	
	河崎教授				
	小グループで	ごそれぞれの目標を共有する			
定期試験		定期試験はおこなわない。	l.		
使用テキ	 キスト	必要な場合、LMS に資料を掲載する			
参考文献	44	必要な場合、別途指示する			
多号入用	И	必安は物ロ、別処相小りの			
受講生は	こ対する評価	各回にそれぞれ課されたコメントペーパーまたは課題レポートに対し			
		て、それぞれの教員による評価の累積で行う(100%)			
	果題等に対す				
3		・毎回の授業ごとにコメントペーパーまたは課題レポートを課す。			
フィー	ヾバック	・小グループに分ける時はビデオ会議システムのブレイクアウトルーム			
		などを利用する。そのため、履修者が			
		に応じて探究していくことが必要とな	る。ま	た、履修者は、他者の発表	
に対してコメントをすること。					
オフィスアワー		授業の前後時間、もしくは授業時間内で担当教員と相談の上、個別に設			
(オン)	ライン曜日・	定してください。			

時間)		
受講生へのメッセー		
ジ*任意項目	1	
備考		
*任意項目	1	
授業用 URL		
*任意項目		
授業用 E-Mail		
*任意項目		

教育データ・アナリティクス論 (I)

講義名	教育データ・アナリティクス論 (I)
単位数	2
単位区分(必修・選択・自由)	必修
講義開講時期	1年前期
講義区分(講義・演習・実習)	講義・演習
担当教員名	秋田次郎・日引聡

	教育界における課題を発見し、背景や関わる要因をグローバル視点で俯瞰し定	
DP1	義することができる。	
	(課題発見・要因定義能力)	
	教育界における課題に情報学の知識・スキルを活用し改善・解決することがで	
DP2-1	きる。	
	(改善・解決能力)	
	教育界における課題に経営学の知識・スキルを活用し改善・解決することがで	
DP2-2	きる。	
	(改善・解決能力)	
	科学的知見に基づき実践からデータを取得し仮説を立て検証することができ	
DP3		•
	(科学的な検証能力)	
	教育テックによる教育界に関する社会変革を目標に、自らの構想を立てること	
DP4	ができる。	
	(社会変革への構想能力)	

履修条件	修条件 学部入門レベルの統計学の準備があることが望ましいが必須ではない			
授業の概要 教科書;「データ分析の力 因果関係に迫る思考法」(伊藤)およて 因と結果」の経済学―データから真実を見抜く思考法」(中室-津 沿って、データ・アナリティクスの主要課題を概観する。			友く思考法」(中室-津川)に	
授業のテーマ 各種の統計手法、教育データの分析方法、社会調査法を理解し、教育 及び到達目標 ータを取得し解析するスキルを身につけること。				
授業計画 (授業は1回を90分とし、2限連続で実施する場合がある)				
授業計画	 町(授業は1回を 90	分とし、2 限連続で実施する場合がある)	授業	外の学習 (60 時間)
授業計画	国 (授業は1回を90 (第 1 回) 詞		授業	外の学習 (60 時間) シラバス・教材下検討 (3h)

	(第2回) 講義	事前	教材予習 (6h)
第 2 講	因果推論 伊藤第1章・中室津川第1章 なぜデータから因果関係を導くのが無づかしいのか、因果関係と相関関係との違い、見せかけの相関、逆相関等について学ぶ。 (第3回) 講義 ランダム化比較試験 (RCT) 1 伊藤第2章・中室津川第2章 因果推論の理想形としての「ランダム化比較試験」の発想を学ぶ。介入グループと比較グループの概念、自己選抜問題について学ぶ。	事後	学習内容の復習・確認 (2h)
	(第4回) 講義	事前	教材予習 (6h)
第3講	ランダム化比較試験 (RCT) 2 伊藤第2章・中室津川第2章 因果推論の理想形としての「ランダム化比較試験」の手法を学ぶ。グループ分けの無作為性、サンプル数バランスの重要性について学ぶ。 (第5回) 講義 自然実験 伊藤第3章・中室津川第3章 偶さか生じる実験のような状況を活用する自然実験について学ぶ。介入グループと比較グループが自然に分かれる状況とその利用について学ぶ。	事後	学習内容の復習・確認 (2h)
	(第6回)講義	事前	教材予習(6h)
第4講	回帰不連続デザイン 伊藤第3章・中室津川第6章 章 自然実験状況を活かす方法の一つとして、不連続 的なジャンプから情報を読み取る回帰不連続 (RD) デザインについて学ぶ。 (第7回) 講義 集積分析 伊藤第4章 自然実験状況を活かす方法の一つとして、階段状 の変化から情報を読み取る集積分析 (bunching analysis)について学ぶ。	事後	学習内容の復習・確認 (2h)
	(第8回)講義	事前	教材予習 (6h)
第 5 講	パネル・データ分析と差の差分析 1 伊藤第 5 章・中室津川第 4 章 複数グループの複数期間に渡るデータを活かすパ ネルデータ分析、トレンドを除去するための差の 差 (DID) 分析の発想を学ぶ。	事後	学習内容の復習・確認(2h)

	(第9回) 詞	構義		
	パネル・デ	ータ分析と差の差分析 2 伊藤第5		
	章・中室津川			
		プの複数期間に渡るデータを活かすパ		
		分析、トレンドを除去するための差の		
		分析の技法を学ぶ。		
	(第 10 回)		事前	教材予習 (6h)
		中室・津川第5章		
		し結果には直接に影響しない第三の変		
		論に活用する操作変数法について学		
	چې د ا			
第6講	(第 11 回)	講義	事後	 学習内容の復習・確認 (2h)
		ま、中室・津川第7章		
	•	プと類似した比較対象を対象グループ		
		すマッチング法、プロペンシティ・ス		
	コア・マッラ	チング法について学ぶ。		
	(第 12 回)		事前	教材予習 (6h)
		中室・津川第8章		
	回帰分析の基	基本的考え方、重回帰分析と因果推論		学習内容の復習・確認 (2h)
		変数の制御/コントロールの概念等につ		
totatta	いて学ぶ。			
第7講	(第 13 回)	演習	事後	
	データ分析と	ビビジネス・政策形成 伊藤第6章		
	エビデンス	(証拠) に基づく政策形成とその事		
	例、留意点は	こついて学び、Excel を用いたデータ解		
	析を実習する	3 。		
	(第 14 回)	講義	事前	教材予習 (6h)
	データ分析の	の不完全性と限界 伊藤第7章・中室		
	津川補論1			
	因果推論と	その理想形ととしてのランダム化比較		
	試験の限界、	分析結果の内的妥当性および外的妥		
第8講	当性の概念は	こついて学ぶ。	事後	 学習内容の復習・確認(2h)
	(第15回)	演習	予及	丁目F3台ツ阪白・唯総(ZII <i>)</i>
	総括			
	実証研究によ	おける因果推論の在り方についての諸		
	技法の議論を総括しつつ、Excel を用いたデータ解			
	析を実習する	5 .		
定期試験	定期試験 学期末に理解度確認を LMS にて行う。			
使用テキスト ○データ分析の力 因果関係に迫る思考法(光文社新書) 伊藤 公一朗				

	(著) 光文社 (2017) ISBN-10 :4334039863 ISBN-13 :978-				
	4334039868				
	○「原因と結果」の経済学―データから真実を見抜く思考法 中室牧子				
	(著), 津川友介(著) ダイヤモンド社(2017) ISBN-10: 447803947X				
	ISBN-13: 978-4478039472				
参考文献	○RCT 大全 アンドリュー・リー (著), 上原 裕美子 (翻訳) みすず書				
	房(2020) ISBN-10: 4622089335 ISBN-13: 978-4622089339				
	○統計学が最強の学問である 西内 啓 (著) ダイヤモンド社 (2013)				
	ISBN-10 : 9784478022214 ISBN-13 : 978-4478022214				
	○計量経済学の第一歩 実証分析のススメ (有斐閣ストゥディア)				
	田中 隆一(著) 有斐閣(2015) ISBN-10:4641150281 ISBN-13:				
	978-4641150287				
受講生に対する評価	通常成績(レポート等)(30%) と学期末の理解度確認(70%)によっ				
	て評価する。				
授業・課題等に対す	Google Classroom あるいは Microsoft Teams 経由で行う。				
3					
フィードバック					
オフィスアワー	オンラインで行う。				
(オンライン曜日・					
時間)					
受講生へのメッセー					
ジ*任意項目					
備考					
*任意項目					
授業用 URL					
*任意項目					
授業用 E-Mail					
*任意項目					

教育データ・アナリティクス論 (II)

講義名	教育データ・アナリティクス論(II)
単位数	2
単位区分(必修・選択・自由)	必修
講義開講時期	1年後期
講義区分(講義・演習・実習)	講義・演習
担当教員名	秋田次郎・日引聡

	教育界における課題を発見し、背景や関わる要因をグローバル視点で俯瞰し定	
DP1	義することができる。	
	(課題発見・要因定義能力)	
	教育界における課題に情報学の知識・スキルを活用し改善・解決することがで	
DP2-1	きる。	
	(改善・解決能力)	
	教育界における課題に経営学の知識・スキルを活用し改善・解決することがで	
DP2-2	きる。	
	(改善・解決能力)	
	科学的知見に基づき実践からデータを取得し仮説を立て検証することができ	
DP3	る。	
	(科学的な検証能力)	
	教育テックによる教育界に関する社会変革を目標に、自らの構想を立てること	
DP4	ができる。	
	(社会変革への構想能力)	

履修条件		学部入門レベルの統計学の準備があることが望ましいが必須ではない。			
授業の概要		教科書;「計量経済学の第一歩」(田中)に沿って、データ・アナリティクスの主要課題を概観する。			
授業の	のテーマ	各種の統計手法、教育データの分析方法、社会調査法を理解し、教育デ			
及び到達目標		ータを取得し解析するスキルを身につけること。			
授業計画 (授業は1回を90		分とし、2 限連続で実施する場合がある)	ける場合がある) 授業外の学習 (60 時間)		
	(第1回) 訂	構義	事前	シラバス・教材下検討(3h)	
		因果関係の相違、証拠に基づく政策の 内アプローチと経計量経済学的アプロ	事後	学習内容の復習・確認(1h	
第2講	(第2回) 演習		事前	教材予習 (6h)	
\1. 1 H.3				学習内容の復習・確認 (2h)	

		1	
	第2章:データの扱い方 数字に隠された意味を 読み取る		
	記述統計、母集団と標本、推測統計と統計量の概		
	要、相関係数等について学び、Excel を用いたデー		
	タ解析で実習する。		
	(第3回)演習		
	第3章:計量経済学のための確率論 不確かなこ		
	とについて語る		
	確率、確率変数と確率分布、期待値、分散につい		
	て学び、Excel を用いたデータ解析で実習する。		
	(第4回)講義	事前	教材予習 (6h)
	第4章:統計学による推論 観察データの背後の		
	メカニズムを探る		
	推測統計と統計量の詳細と仮説検討の概念を学		
第3講	ప్.		
知り時	(第5回)演習	事後	学習内容の復習・確認 (2h)
	第5章:単回帰分析 2つの事柄の関係をシンプル		
	なモデルに当てはめる		
	最小二乗法の基本概念を単回帰分析において学		
	び、Excel を用いたデータ解析で実習する。		
	(第6回)演習	事前	教材予習(6h)
	第6章:重回帰分析 外的条件を制御して本質に迫		
	3		
	重回帰分析の基本と、変数の制御/コントロールの		
tota	概念を学び、Excel を用いたデータ解析で実習す		
第4講	3.	事後	学習内容の復習・確認 (2h)
	(第7回)講義		
	第7章:重回帰分析の応用 本質に迫るためのい		
	くつかのコツ		
	重回帰分析における二乗項、ダミー変数の利用に ついて学ぶ。		
	(第8回)演習	事前	教材予習(6h)
	第7章:重回帰分析の応用 本質に迫るためのい	3 103	2117 11 (1-5)
	くつかのコツ		
	重回帰分析における二乗項、ダミー変数の利用		
第5講	を、Excel を用いたデータ解析で実習する。	事後	学習内容の復習・確認(2h)
	(第9回)講義		
	第8章:操作変数法 政策変数を間接的に動かし		
	て本質に迫る		

	回帰分析に	おける変数の内生性問題および解決策			
	としての操作	F変数法について学ぶ。			
	(第10回)	演習	事前	教材予習 (6h)	
第6講	て本質に迫る 操作変数法 Excel を用い (第 11 回) 第 9 章:パン ことでわかる パネルデータ と差の差(I	と二段階最小二乗法について学び、 たデータ解析で実習する。 演習 ネル・データ分析 繰り返し観察する	事後	学習内容の復習・確認(2h)	
	(第 12 回)	. , , , , , ,	事前	教材予習 (6h)	
第7講	第9章:パネル・データ分析 繰り返し観察する ことでわかること パネルデータ分析の変量効果 (random effect)モデ ル、固定効果モデルといずれを用いるかについて		事後	学習内容の復習・確認(2h)	
	(第14回)	講義	事前	教材予習 (6h)	
第8講	第 11 章:回帰不連続デザイン 「事件」の前後を 比較する 制度の特徴から自然実験機会を活用する回帰不連 続(RD)デザインについて学ぶ。 (第 15 回)演習 総括 総括 諸手法について総括し、Excelを用いたデータ解析で実習する。		事後	学習内容の復習・確認 (2h)	
定期試験		学期末に理解度確認を行う。			
使用テキスト参考文献		計量経済学の第一歩 実証分析のススメ (有斐閣ストゥディア) 田中 隆一 (著) 有斐閣 (2015) ISBN-10:4641150281 ISBN-13:978-4641150287 ○統計学 改訂版 (New Liberal Arts Selection) 森棟・照井他 (著) 有斐			
			015) ISBN-10: 4641053804 ISBN-13: 978-4641053809 ータ分析の力 因果関係に迫る思考法(光文社新書) 伊藤 公一朗		

	(著) 光文社 (2017) ISBN-10 :4334039863 ISBN-13 :978-				
	4334039868				
	○「原因と結果」の経済学―データから真実を見抜く思考法 中室牧子				
	(著), 津川友介(著) ダイヤモンド社(2017) ISBN-10: 447803947X				
	ISBN-13: 978-4478039472				
受講生に対する評価	通常成績(レポート等)(30%)と学期末の理解度確認(70%)によ				
	って評価する。				
授業・課題等に対す	Google Classroom あるいは Microsoft Teams 経由で行う。				
3					
フィードバック					
オフィスアワー	オンラインで行う。				
(オンライン曜日・					
時間)					
受講生へのメッセー					
ジ*任意項目					
備考					
*任意項目					
授業用 URL					
*任意項目					
授業用 E-Mail					
*任意項目					

教育デジタルエコシステム概論

講義名	教育デジタルエコシステム概論
単位数	1
単位区分(必修・選択・自由)	必修
講義開講時期	1年後期
講義区分(講義・演習・実習)	講義
担当教員名	山田恒夫

	教育界における課題を発見し、背景や関わる要因をグローバル視点で俯瞰し定	
DP1	義することができる。	
	(課題発見・要因定義能力)	
	教育界における課題に情報学の知識・スキルを活用し改善・解決することがで	
DP2-1	きる。	
	(改善・解決能力)	
	教育界における課題に経営学の知識・スキルを活用し改善・解決することがで	
DP2-2	きる。	
	(改善・解決能力)	
	科学的知見に基づき実践からデータを取得し仮説を立て検証することができ	
DP3	ప .	
	(科学的な検証能力)	
	教育テックによる教育界に関する社会変革を目標に、自らの構想を立てること	
DP4	ができる。	
	(社会変革への構想能力)	

履修条件	該当なし
授業の概要	生涯学習を見据えた次世代学習情報基盤という観点から、学習システムやツールの構成と連携、デジタルエコシステムとしての要件とその相互運用性を保証する国際技術標準、学習ログデータの収集と利用方法(学習解析)について学ぶ。大学等教育機関や企業の研修部門では、学習ログデータを活用する教育情報システムの導入が図られるが、その原理や機能を知ることはよりよい活用につながる。教育分野にとどまらず、システムエンジニアやデジタルコンテンツ開発者を志望する方にも知っておいていただきたい知識をまとめる。
授業のテーマ及び到達目標	○教育情報システム、特に教育デジタルエコシステムの設計・構築方法を知る。○教育情報システムの相互運用性と国際技術標準について理解する。○学習情報データの蓄積方法と解析方法について学ぶ。

授業計画 (授業は1回を90分とする)			授業外の学習 (29 時間)	
	(講義)次世代教育情報システム 次世代の教育や学習において、どのような目標が 想定されるのか、その実現にどのようなシステム	事前	配布資料(PDF あるいは講義ビデ オ)の視聴(0.5h)	
第1回	やツールが必要とされるのかを学ぶ。デジタルエ コシステム、相互運用性と国際技術標準について 知る。	事後	電子掲示板でのディスカッション と振り返り (0.5h)	
	(講義) 学習管理システム {LMS}学習管理システム (LMS) について理解する。LMS の基本機能および教師 (メンター、コーチ)、学習者、管理者がもつ機能を知り、LMS の		配布資料 (PDF あるいは講義ビデオ) の視聴 (2h)	
第2回	課題を解決するデジタルエコシステムの必要性およびそれを形成するためのインターフェースの標準化を理解する。役割による LMS の操作の相違をビデオで確認し、さらにデモサイトにアクセスして、講師および学生が利用できる機能を体験する。	事後	ハンズオン課題レポートの作成 (2h)	
第3回	(講義) セキュリティと LTI{Learning ToolInteroperability}LMS とツール間のセキュアな通信を実現する方法	事前	配布資料 (PDF あるいは講義ビデオ) の視聴 (2h)	
	について知る。また、LMS からツールを起動する LTI の概要および事例を学ぶ。さらに LTI に関す る理解を深めるために、シミュレータを使用して LTI におけるデータ交換のふるまいを体験する。	事後	ハンズオン課題レポートの作成 (2h)	
第4回	(講義) 試験問題作成管理と教務情報システム 教育評価に不可欠な試験問題作成システム、問題 管理システム (テストバンク)、試験監督システムの概要について知る。その技術標準である	事前	配布資料 (PDF あるいは講義ビデオ) の視聴 (2h)	
	Question & Test Interoperability(QTI)の構成と利用について理解する。教務情報システム(SIS) および評価情報の管理方法(OneRoster および LTIによる連携)についても触れる。	事後	ハンズオン課題レポートの作成 (2h)	
第5回	(講義) カリキュラム標準と CASE リポジトリカリキュラム標準やルーブリック、シラバスなど、学習目標やその評価基準を記述する方法とそ		配布資料 (PDF あるいは講義ビデオ) の視聴 (2h)	
	の技術標準 CASE について知る。CASE 準拠リポ ジトリ管理システムを使って、シラバスの作成を 体験する。	事後	ハンズオン課題レポートの作成 (2h)	

	(-#.) (-) (-) (-)				
学習解析(L 第6回 データの収集 の例としてラ		習解析と LRS Learning Analytics)に必要な学習履歴 集・分析方法について知る。また、そ	事前	配布資料 (PDF あるいは講義ビデオ) の視聴 (2h)	
		デジタル教材配布システムとその分析 ②学習分析システムを体験する。	事後	ハンズオン課題レポートの作成 (2h)	
ム連携		ンタルクレデンシャルを支えるシステ	事前	配布資料 (PDF あるいは講義ビデオ) の視聴 (2h)	
第7回	ンシャルの§ ーンなどの打	電子修了証や電子成績証明書などデジタルクレデーンシャルの実践例とそれを支える、ブロックチェーンなどの技術について知る。デジタルバッジの検証(Validation)を体験する。		ハンズオン課題レポートの作成 (2h)	
	(講義) 展覧 ーソナルチェ まとめに代え	望:生涯学習 e ポートフォリオと AI パ	事前	配布資料 (PDF あるいは講義ビデオ) の視聴 (2h)	
第8回	互利用可能な する。1EdT	な AI 教育支援システムの在り方を考察 ech Consortium などの技術標準が教育 ムのエコシステムにどう利用されてい	事後	最終課題レポートの作成(2h)	
定期試験	¢	定期試験はない			
使用テキ	トスト	なし			
参考文献	犬	開講後に提示			
受講生に対する評価		各回の確認テスト (40%)、オンラインハンズオン (WEB 上での実習)の出力結果 (3回、40%)、最終課題レポート (20%)を総合的に判断して評価する。なお、オンラインハンズオン結果の提出方法など詳細は開講後に指示する。			
授業・課題等に対す る フィードバック		・基本的には、授業の中で行う。			
オフィスアワー (オンライン曜日・ 時間)					
受講生へのメッセー ジ*任意項目					
備考 *任意項目		授業内容から Python および JSON,JS ことが望ましいが、その習得を本科目			

授業用 URL	
*任意項目	
授業用 E-Mail	
*任意項目	

教育テック事例研究(I)

講義名	教育テック事例研究(I)
単位数	2
単位区分(必修・選択・自由)	必修
講義開講時期	1年前期
講義区分(講義・演習・実習)	講義・演習
担当教員名	鈴木健介、織田竜輔、原山青士

	教育界における課題を発見し、背景や関わる要因をグローバル視点で俯瞰し定	
DP1	義することができる。	
	(課題発見・要因定義能力)	
	教育界における課題に情報学の知識・スキルを活用し改善・解決することがで	
DP2-1	きる。	•
	(改善・解決能力)	
	教育界における課題に経営学の知識・スキルを活用し改善・解決することがで	
DP2-2	きる。	•
	(改善・解決能力)	
	科学的知見に基づき実践からデータを取得し仮説を立て検証することができ	
DP3	る。	
	(科学的な検証能力)	
	教育テックによる教育界に関する社会変革を目標に、自らの構想を立てること	
DP4	ができる。	
	(社会変革への構想能力)	

履修条件	該当なし
授業の概要	教育構想は、グローバルかつ教育界に留まらない広く深い視点を
	持った上で、教育のビジョンを掲げ、その実現に向けた具体的な
	計画と実践を伴うものである必要がある。そのためには、既に確
	立された学術・実務の知識体系を学ぶだけでは不十分で、最前線
	で今起きている問題の本質を掴み、その解決に向けて取り組む各
	界の第一線で活躍する実務家や研究者の取組や背景にある考え
	方、哲学等を理解し、気づきを得ていく必要がある。
	本授業では、最前線で活躍するゲスト講師による講義だけでな
	く、質疑応答、議論をすることで、気づきを得て、自身の教育構
	想の研究に役立てる。とりあげる事例を、教育情報・教育経営の
	双方の観点から考察・分析し、議論を深め課題の改善・解決に繋
	げていく。

授業のテーマ 教育テックの最先端で取り組む第一線のキーパーソンを招聘す る。到達目標は、自身の教育構想・課題解決のアイデア、気づき を得るために重要な示唆を得ることである。

授業計画	(授業は1回を90分とし、2限連続で実施する場合がある)	授業	外の学習 (60 時間)
第1講	(第1回)教育テック事例研究の狙い、学内	事前	シラバス・資料の精読 (2h)
	教員による事例研究 (講義)	事後	レポートの提出 (2h)
	(第2回) ゲスト講義① (講義)	事前	ゲスト講師に関する資料の精読
	学校 DX―学校の教育、校務の変革事例―		(4h)
第2講	(第3回)ディスカッション(演習)		
分 4 码	事例の成功・失敗の要因の考察、院生自身が	事後	レポートの提出(4h)
	関与する教育現場や教育構想・経営への応用		
	を検討する		
	(第4回) ゲスト講義② (講義)	事前	ゲスト講師に関する資料の精読
	人生 100 年時代のキャリア教育		(4h)
	―VUCA の時代における教育の変革―		
第3講	(第5回)ディスカッション(演習)		
	事例の成功・失敗の要因の考察、院生生自身	事後	レポートの提出(4h)
	が関与する教育現場や教育構想・経営への応		
	用を検討する		
	(第6回) ゲスト講義③ (講義)	事前	ゲスト講師に関する資料の精読
	探究学習・PBL		(4h)
	一探究学習・PBL は教育テックによりどう変		
第4講	わるのか―		
N1 1 H4	(第7回)ディスカッション(演習)	事後	レポートの提出(4h)
	事例の成功・失敗の要因の考察、院生生自身		
	が関与する教育現場や教育構想・経営への応		
	用を検討する		
	(第8回) ゲスト講義④ (講義)	事前	ゲスト講師に関する資料の精読
	学校組織改革		(4h)
	一改革を成し遂げた学校の成功要因分析一		
第5講	(第9回)ディスカッション(演習)	<i>v</i>	
	事例の成功・失敗の要因の考察、院生生自身	事後	レポートの提出(4h)
	が関与する教育現場や教育構想・経営への応		
	用を検討する		
	(第10回)ゲスト講義⑤(講義)	事前	ゲスト講師に関する資料の精読 (4h)
第6講	教育データ利活用とエビデンスに基づく変革		(+11)
	―データ活用により継続的な改善サイクルの	± //	, , , , , , , , , , , , , , , , , , ,
	仕組みづくり―	事後	レポートの提出(4h)
	(第11回)ディスカッション(演習)		

	事例の成り	カ・失敗の要因の考察、院生生自身			
が関与す		る教育現場や教育構想・経営への応			
	用を検討す	する			
	(第12]	回)ゲスト講義⑥(講義)	事前	ゲスト講師に関する資料の精読	
	オンライ	ン学習サービスによる変革	7, 10,1	(4h)	
	 一新たなオンライン学習サービスを活用した				
tota —tte	教育はど	う変革するか―	事後		
第7講	(第13]	回)ディスカッション(演習)		レポートの提出(4h)	
	事例の成功	カ・失敗の要因の考察、院生生自身		VAN TOOKELL (411)	
	が関与す	る教育現場や教育構想・経営への応			
	用を検討す	する			
	(第14[回)ゲスト講義⑦(講義)	事前	ゲスト講師に関する資料の精読	
	教育政策の	の最前線(文部科学省または政策関	7, 10,1	(4h)	
	係者)一瓦	政策形成のプロセスと最新動向の把			
Arte o the	握の仕方-	_			
第8講	(第15]	回)ディスカッション(演習)	事後	レポートの提出(4h)	
	教育政策の	の社会的背景を理解した上で、院生	予区	ンか しの近田 (411)	
	自身の教	育構想・経営にどのように活かすか			
	考察する。				
定期試験	ı	定期試験は実施しない。	·		
使用テキ	スト	なし。			
参考文献		 別途指示する			
多う人心		が返旧かする			
		ディスカッションレポート(50%)と課題レポート(50%)によ			
	対する評	, ,			
価		って評価する。			
授業・課	題等に対	事前学習において、ゲスト講師に関する資料を精読した上で、質			
する		問を LMS を通じて提出すること。質問に対するフィードバック			
フィードバック		は、個別には行わず、授業内で行う。各自の教育構想研究に生か			
		すこと。			
オフィスアワー		事前にアポイントメントをとること。			
(オンライン曜					
日・時間)					
受講生へのメッセ		1年生の必修科目とするが、2年生以降についても任意で聴講す			
ージ*任意項目		ることができる。積極的な議論による貢献を期待する。			
		LMS のフォーラム掲示板で積極的な	な意見	交換を求める	

備考	小グループに分ける時はビデオ会議システムのブレイクアウトル
*任意項目	ームなどを利用する。
授業用 URL	
*任意項目	
授業用 E-Mail	
*任意項目	

教育テック事例研究 (II)

講義名	教育テック事例研究 (II)
単位数	2
単位区分(必修・選択・自由)	必修
講義開講時期	1年後期
講義区分(講義・演習・実習)	講義・演習
担当教員名	鈴木健介、織田竜輔、原山青士 (共同)

	教育界における課題を発見し、背景や関わる要因をグローバル視点で俯瞰し定	
DP1	義することができる。	
	(課題発見・要因定義能力)	
	教育界における課題に情報学の知識・スキルを活用し改善・解決することがで	
DP2-1	きる。	
	(改善・解決能力)	
	教育界における課題に経営学の知識・スキルを活用し改善・解決することがで	
DP2-2	きる。	
	(改善・解決能力)	
	科学的知見に基づき実践からデータを取得し仮説を立て検証することができ	
DP3	ప 。	
	(科学的な検証能力)	
	教育テックによる教育界に関する社会変革を目標に、自らの構想を立てること	
DP4	ができる。	
	(社会変革への構想能力)	

履修条件	該当なし
授業の概要	教育構想は、グローバルかつ教育界に留まらない広く深い視点を
	持った上で、教育のビジョンを掲げ、その実現に向けた具体的な
	計画と実践を伴うものである必要がある。そのためには、既に確
	立された学術・実務の知識体系を学ぶだけでは不十分で、最前線
	で今起きている問題の本質を掴み、その解決に向けて取り組む各
	界の第一線で活躍する実務家や研究者の取組や背景にある考え
	方、哲学等を理解し、気づきを得ていく必要がある。
	本授業では、最前線で活躍するゲスト講師による講義だけでな
	く、質疑応答、議論をすることで、気づきを得て、自身の教育構
	想の研究に役立てる。とりあげる事例を、教育情報・教育経営の
	双方の観点から考察・分析し、議論を深め課題の改善・解決に繋
	げていく。

授業のテーマ 教育テックの最先端で取り組む第一線のキーパーソンを招聘す る。到達目標は、自身の教育構想・課題解決のアイデア、気づき を得るために重要な示唆を得ることである。

授業計画	(授業は1回を 90 分とし、2 限連続で実施する場合がある)	授業	外の学習 (60 時間)
第1講	(第1回)教育テック事例研究の狙い、学内	事前	シラバス・資料の精読 (2h)
	教員による事例研究 (講義)	事後	レポートの提出(2h)
	(第2回) ゲスト講義① (講義)	事前	ゲスト講師に関する資料の精読
	学校の破壊的イノベーション		(4h)
	今までに無かった新たな学校の実像に学		
笠 0 謎	び、自身の教育への応用を考察する一		
第2講	(第3回)ディスカッション(演習)	事後	レポートの提出(4h)
	事例の成功・失敗の要因の考察、院生生自身		, ,
	が関与する教育現場や教育構想・経営への応		
	用を検討する		
	(第4回) ゲスト講義② (講義)	事前	ゲスト講師に関する資料の精読
	日本式教育の輸出(教育のアウトバウンド)		(4h)
	一海外での日本式教育の需要、それに応える		
答 2 ≇	新たな取組事例―		
第3講	(第5回)ディスカッション(演習)	事後	レポートの提出(4h)
	事例の成功・失敗の要因の考察、院生生自身		, ,
	が関与する教育現場や教育構想・経営への応		
	用を検討する		
	(第6回) ゲスト講義③ (講義)	事前	ゲスト講師に関する資料の精読
	留学生教育(教育のインバウンド)		(4h)
	一留学生のニーズ、課題とそれに応えるイノ		
第4講	ベーション―		
为生曲	(第7回)ディスカッション(演習)	事後	レポートの提出(4h)
	事例の成功・失敗の要因の考察、院生生自身		
	が関与する教育現場や教育構想・経営への応		
	用を検討する		
	(第8回) ゲスト講義④ (講義)	事前	ゲスト講師に関する資料の精読
	生涯教育のイノベーション		(4h)
第5講	一教育テックの登場により、今までにはでき		
	なかった新たな教育―		
	(第9回)ディスカッション(演習)	事後	レポートの提出(4h)
	事例の成功・失敗の要因の考察、院生生自身		
	が関与する教育現場や教育構想・経営への応		
	用を検討する		

				10 1 THER HE 1 A VENIE - WELL	
	, , ,	回)ゲスト講義⑤(講義) 育のイノベーション	事前	ゲスト講師に関する資料の精読 (4h)	
		・高度化する専門職教育ニーズに応			
tota a mili	える教育権				
第6講	(第11[回)ディスカッション(演習)	事後	レポートの提出(4h)	
	事例の成功	カ・失敗の要因の考察、院生生自身	1.12	TO JULIE (M)	
	が関与する	る教育現場や教育構想・経営への応			
	用を検討す	する			
	(第12[回)ゲスト講義⑥(講義)	事前	ゲスト講師に関する資料の精読 (4h)	
	オンライ	ン学習サービスによるイノベーショ		(411)	
	ン				
tota —		コジーの発展による革新的サービス			
第7講		今後の展望一	事後	レポートの提出(4h)	
		回)ディスカッション(演習)	1.12	TO JULIE (M)	
		カ・失敗の要因の考察、院生生自身 る教育現場や教育構想・経営への応			
	用を検討す				
		, 。 回)ゲスト講義⑦(講義)	**	ゲスト講師に関する資料の精読	
	, , ,	の最先端(自治体)	事前	(4h)	
		な政策を次々に生み出し、実行する			
か o =#	組織づく	りと教職員の育成―			
第8講	(第15]	回)ディスカッション(演習)		レポートの提出(4h)	
	教育政策の	の社会的背景を理解した上で、院生			
	自身の教育	育構想・経営にどのように活かすか			
	考察する。				
定期試験		定期試験は実施しない。			
使用テキ	スト	なし。			
参考文献		別途指示する			
受講生に対する評		ディスカッションレポート(50%)と課題レポート(50%)によ			
価		って評価する。			
授業・課題等に対		事前学習において、ゲスト講師に関する資料を精読した上で、質			
する		問を LMS を通じて提出すること。質問に対するフィードバック			
フィードバック		は、個別には行わず、授業内で行	う。各	·自の教育構想研究に生か	
		すこと。			

事前にアポイントメントをとること。
1年生の必修科目とするが、2年生以降についても任意で聴講す
ることができる。積極的な議論による貢献を期待する。
LMS のフォーラム掲示板で積極的な意見交換を求める
小グループに分ける時はビデオ会議システムのブレイクアウトル
ームなどを利用する。

教育学特殊講義

講義名	教育学特殊講義
単位数	2
単位区分(必修・選択・自由)	選択
講義開講時期	1年前期
講義区分(講義・演習・実習)	講義・演習
担当教員名	藤本典裕

	教育界における課題を発見し、背景や関わる要因をグローバル視点で俯瞰し定	
DP1	義することができる。	
	(課題発見・要因定義能力)	
	教育界における課題に情報学の知識・スキルを活用し改善・解決することがで	
DP2-1	きる。	
	(改善・解決能力)	
	教育界における課題に経営学の知識・スキルを活用し改善・解決することがで	
DP2-2	きる。	
	(改善・解決能力)	
	科学的知見に基づき実践からデータを取得し仮説を立て検証することができ	
DP3	る。	
	(科学的な検証能力)	
	教育テックによる教育界に関する社会変革を目標に、自らの構想を立てること	
DP4	ができる。	
	(社会変革への構想能力)	

履修条件	該当なし		
授業の概要	教育学の理論を、教育テック(テクノロジー・サイエンス)を含		
	めた多角的な観点から捉え直し、新た	な教育構想の立案や、教育	
	機関の経営に役立てる知識を身につけ	る。特に、教育学の理論体	
	系の全体像を俯瞰し、自身の構想に必	N要になる知識を適宜、使え	
	るようにする。		
授業のテーマ	教育学の理論について多角的に検討するとともにこれに関する理		
及び到達目標	及び到達目標 解を深め、自身の教育に関する見解を構築することを目的		
	る。		
	到達目標		
	1. 教育に関する諸事象の意味、課題、解決策などについての見		
	解を整理して述べることができる。		
	自身が実現をめざす教育のあり方を具体的に示すことができる。		
授業計画 (授業は1回を90分とし、2限連続で実施する場合がある) 授業外の学習 (60時間)			

	(第1回) 講義		自身の「教育」イメージ
	教育を考える多様な視点	事前	の文章化 (2 h)
笠 1 € 推	2000 - V 2 100 - 2000		
第1講	受講生の教育イメージを確認し、その再構築を図	事後	「教育」イメージの再構
	る。そのため、これまでに提起された多様な教育		築(2h)
	イメージを紹介・検討する。		卢 卢 ② 「 フ い)
	(第2回)講義	事前	自身の「子ども」イメー ジの文章化(4h)
	子どもという存在-子どもの固有性をめぐる思想		
	大人とは異なる固有の存在としての子どもについ		
	ての内外の思想を紹介・検討する。		
第2講	(第3回)演習	事級	子どもという存在の固有
	子どもという存在-子どもの固有性をめぐる思想	事後	性に関する思想を整理する(4h)
	第2回の学習を踏まえ、受講生自身の子どもイメ		S (III)
	ージを再確認して発表し、双方向の学びを深め		
	る。		
	(第4回)講義	事前	教育が成立する条件につ
	社会事象としての教育-教育が成立する条件と		いて検討し文章化(4h)
	「場」の特性		
	教育事象が存在する多様な「場」を確認するとと		
	もに、その成立条件について考察する。		
第3講	(第5回)演習		教育の持つ社会的性格と 現代社会における実態に
	社会事象としての教育-教育が成立する条件と	事後	現れ社会におりる美感に ついての見解を整理・文 章化 (4h)
	「場」の特性		
	第4回の学習を踏まえ、教育現象が成立する条件		
	について考察するとともに、その変容について意		
	見交換を行い考察を深める。		
	(第6回) 講義		学校に期待される役割・
	学校という制度の誕生と発展-近代公教育制度に	事前	機能についてのメモ作成
	関する歴史的検討		(4 h)
	近代公教育制度成立の社会的背景と学校制度に期		
	待された機能について確認・考察する。		
第4講	(第7回)演習		W Hadalete va EE 2 2 2 2 2 2 4 2 4 2 4 2 4 2 4 2 4 2
	学校という制度の誕生と発展-近代公教育制度に	事後	学校制度が果たすべき役 割・機能について野 見
	関する歴史的検討	3.12	解を整理・文章化(4h)
	第6回の学習を踏まえ、学校制度が果たしてきた		
	役割、今後期待される役割などについて意見交換		
	を行い、理解を深める。		
	(第8回)講義		教員が果たすべき職務と
第5講	教員に求められる資質・能力	事前	必要な資質・能力につい
かり曲	教員に求められてきた役割とその養成制度のあり	市沙	てのメモ作成 (4h)
	3人元に小ツラ40くでに区間しての食风間区ののり	事後	これからの教員に求めら

		れる資質・能力について、歴史的視点		れる資質・能力について の見解を文章化(4h)
		<u>を</u> 理・考察する。		
	(第9回) 海	. —		
		っれる資質・能力		
		習を踏まえ、教員に期待される役割、 		
		養成のあり方などについて意見交換		
	を行い、理解	異を深める。		
	(第 10 回)	講義	事前	自身の授業体験から従来 の学習・学習の問題点・
	学習・学修に	こついての理解	₹101	課題を抽出(4h)
	学校における	る授業形態とそこでの学びのあり方、		
	課題・問題性	生などについて、受講者の体験を交え		
第6講	て検討する。			
N1 0 H4	(第11回)	演習		ICT機器などを活用し
	学習・学修に	こついての理解	事後	た学習・学修のあり方を 模索する (4 h)
	ICT 機器の	活用など、今後の学校教育に求められ		
	る学習・学例	8のあり方と、それを実現する教員の		
	役割について	て意見交換を行い、理解を深める。		
	(第12回)	講義	事前	教育機会の不平等事象に
	教育を受ける	5権利と教育費負担		ついてのメモ作成(4 h)
	教育を受け	る権利を保障する法制度について整		
	理・考察す	る。特に義務教育の無償制を取り上		
	げ、実際の教	教育費負担のあり方と教育機会の不平		
第7講	等の問題性を	た検討する。		教育を受ける権利の平等
	(第13回)	演習	事後	保障のあり方を模索する (4h)
	教育を受ける	る権利と教育費負担		
	教育機会のス	下平等に関する意見交換を行い、不平		
	等解消に向い	ナた制度改革の方向性について意見 交		
	換を行う。			
	(第 14 回)	講義	事前	多様な教育機会について
	教育事象の社	上会的性格 – 学校という制度の相対化	3.113	のメモ作成(4h)
	教育を保障で	する多様な制度を検討し、学校教育制		
	度を相対的視	度を相対的視点から再検討する。		
第8講	(第 15 回)	演習		学校という制度を相対化
	教育事象の社会的性格-学校という制度の相対化		事後	し、これからの学びのあ
	第 14 回の学習を踏まえ、学校を含めた教育制度の			り方を構想する(4h)
	あり方につい	って意見交換を行い、求められる学び		
	のあり方について考察する。			
定期試験	·	定期試験は実施せず学期末レポートの	作成を	対める。

使用テキスト	テキストは使用せず必要な資料を LMS にて作成・配布する。
参考文献	授業時に適時紹介する。
受講生に対する評価	各回に作成を求める「小レポート」と学期末レポートを総合的に
	評価する。
	小レポート 30% 学期末レポート 70%
授業・課題等に対す	「小レポート」の内容について次回の授業時にコメントする。必
3	要に応じ授業時に受講生による討論を行う。
フィードバック	
オフィスアワー	開講時に連絡する。
(オンライン曜日・	
時間)	
受講生へのメッセー	LMS のフォーラム掲示板で積極的な意見交換を求める
ジ*任意項目	
備考	小グループに分ける時はビデオ会議システムのブレイクアウトル
*任意項目	ームなどを利用する。
授業用 URL	
*任意項目	
授業用 E-Mail	
*任意項目	

教育国際論

講義名	教育国際論
単位数	1
単位区分(必修・選択・自由)	選択
講義開講時期	1年後期
講義区分(講義・演習・実習)	講義・演習
担当教員名	太田明・村知稔三

	教育界における課題を発見し、背景や関わる要因をグローバル視点で俯瞰し定	
DP1	義することができる。	
	(課題発見・要因定義能力)	
	教育界における課題に情報学の知識・スキルを活用し改善・解決することがで	
DP2-1	きる。	
	(改善・解決能力)	
	教育界における課題に経営学の知識・スキルを活用し改善・解決することがで	
DP2-2	きる。	
	(改善・解決能力)	
	科学的知見に基づき実践からデータを取得し仮説を立て検証することができ	
DP3	ప 。	
	(科学的な検証能力)	
	教育テックによる教育界に関する社会変革を目標に、自らの構想を立てること	
DP4	ができる。	
	(社会変革への構想能力)	

履修条件	履修条件 日本語によるオンライン・オンデマンド講義となる。				
授業の概要 教育という営みの本質について、教育哲学、教育史、子育て、保育 校教育という観点から、多角的に考察する。比較教育の観点から日 教育の成果と課題を検討して、人材育成のノウハウを世界に向けて するための方途を探る。					
授業のテーマ及び到達目標	留学生の受入(インバウンド)、日本 ド)を中心に、日本の教育と世界各地 想的成り立ちについて展望する。教育 ついて理解を深める。	の教育	育について、その歴史的・思		
授業計画 (授業は1回を9	グラウン		外の学習 (29 時間)		
第 1 回	ーション(講義) 基づいて、教育テックをめぐり習得す	事前 資料講読(0.5h) 事後 レポート作成(0.5h)			

	べき学識や	研究スキルへの課題意識を明確化す		
	3.			
		う営みの基本的視座(演習)	事前	資料講読 (2h)
	学びを支える	るテクノロジーについての意見交換を		
第2回	行い、教育	テックに関する仮説的見解を共有す	事後	レポート作成 (2h)
	る。			
	「子ども観」	と「教育観」のパラダイム転換(演	事前	資料講読(2h)
答り同	習)			
第3回	子ども存在に	こ対する意味づけや価値づけ、そこか	事後	レポート作成 (2h)
	ら醸成される	る教育的営為について見識を深める。		
	教育思想と第	『践の諸類型(演習)	事前	資料講読(2h)
第4回	近代教育思想	思の展開を教育テックの視点から検討		
为年凹	して、声・	文字・デジタル文化の変遷を理解す	事後	レポート作成 (2h)
	る。			
	子育てと教育	育をめぐる国際動向(演習)	事前	資料講読(2h)
第5回	グローバルカ	な人口減少(少子社会化)を前に、子	事後	レポート作成(2h)
	育てを支援す	「る教育テックの可能性を探る。		
	日本教育の近	近代化と現代化(講義)	事前	資料講読(2h)
第6回	教育の近代化	ヒ=西洋化を成し遂げた日本の経験を	事後	レポート作成 (2h)
	グローバルた	な教育開発論に繋げる視座を探る。		
	日本型教育の)不易と流行(講義)	事前	資料講読(2h)
第7回		る昨今の教育課題や教育問題を通じ	事後	レポート作成 (2h)
	て、成果と記	果題の因果関係についての理解を深め		
	る。		+	Very list = H = L (Q1)
)海外進出(講義)	事前	資料講読(2h)
第8回		所興財団や JAICA 等の教育活動をヒ	事後	レポート作成 (2h)
+-tin= hm		マ学教育の海外輸出の可能性を探る。	1-	
定期試験		定期試験に代わり、最終レポートを課	す。	
使用テキスト		佐藤哲也他編著『子ども観のグローバルヒストリー』原書房、2018		
		年、その他、資料を PDF 化して LMS にて配付する。		
参考文献		『世界子ども学大事典』原書房、2016 年		
受講生に対する評価		授業レポート 40%(5%×8)、最終レポート 60%。		
> 4M14-114,		, , , , , , , , , , , , , , , , , , ,	-	

授業・課題等に対す	受講生には授業内容に関わるレポートを課す。レポートを採点・コメン
3	ト記載の上、受講生に返却する。
フィードバック	
オフィスアワー	金曜日・18 時 00 分~19 時 00 分
(オンライン曜日・	
時間)	
受講生へのメッセー	LMS のフォーラム掲示板、受講生アンケート等で積極的な意見交換を
ジ*任意項目	求める
備考	小グループに分ける時はビデオ会議システムのブレイクアウトルームな
*任意項目	どを利用する。
授業用 URL	
*任意項目	
授業用 E-Mail	
*任意項目	

教育効果論

講義名	教育効果論
単位数	2
単位区分(必修・選択・自由)	選択
講義開講時期	2年前期
講義区分(講義・演習・実習)	講義・演習
担当教員名	山田礼子 合田隆史

	教育界における課題を発見し、背景や関わる要因をグローバル視点で俯瞰し定	
DP1	義することができる。	
	(課題発見・要因定義能力)	
DP2-1	教育界における課題に情報学の知識・スキルを活用し改善・解決することがで	
	きる。	
	(改善・解決能力)	
DP2-2	教育界における課題に経営学の知識・スキルを活用し改善・解決することがで	
	きる。	
	(改善・解決能力)	
	科学的知見に基づき実践からデータを取得し仮説を立て検証することができ	
DP3	. ప _.	
	(科学的な検証能力)	
	教育テックによる教育界に関する社会変革を目標に、自らの構想を立てること	
DP4	ができる。	
	(社会変革への構想能力)	

履修条件	生徒や学生の成長を教育や教育機関を通じて可能にすることに関心を持
	っていること、理論や実践的な方法について学ぶ意欲があること。
授業の概要	1. 学生の成長を支える教育環境について、大学環境を中心にカレッ・
	インパクトの理論と教育の効果の測定方法について学ぶ。学習のみなら
	ず教育機関全体との関係という枠組みからカレッジ・インパクト理論を
	とらえることができる目や視点を養うことを目標とする。 2. 教育効果
	の測定の実践的についての IR についても、歴史、現在の動向、世界で
	の広がりという比較の視点からアプローチをする。3. マルチ・ステー
	ジ型の人生設計という視点も組み入れ、生涯にわたる学習の効果につい
	ても検討する。予習するテキスト及び参考文献の章については、最初の
	授業で説明する。

授業のテーマ カレッジ・インパクト理論、学生の成長・教育の効果の測定、これらの 実践としての IR、マルチ・ステージ型の生涯にわたる教育及びその効 果と「ウェルビーイング」との関係

- 1 学生の成果と教育機関とのレリバンスを理論的に把握することで、 教育機関の機能について総合的に捉える視点を身につけることがで きる。
- 2 教育の効果の測定の理論、実際について諸手法を学び、実際に学生 調査等を作成し、調査を実施することで方法の効果と課題について 把握することができる。
- 3 教育の効果の実践としての IR の動向を知ることで、IR がどのよう に機能し、教育の場での意味あるいは課題について考えることがで きるようになる。

人生の各段階における教育の持つ意味を理解し、その費用、効果を分析 し、個人と社会全体のウェルビーイングの観点から合理的な選択ができ る。

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・		授業外の学習 (60 時間)	
第1講	(第1回) 講義	事前	教科書等の予習 (4h)
	授業全体の説明と目標の説明と質疑応答	事後	特になし
第2講	(第2回) 講義	事前	教科書・参考文献の予習 (4h)
	カレッジ・インパクトに関する理論と学生の成長		
	(第3回)演習	事後	論点のまとめと課題の整理 (4h)
	論点に基づいた討議と質疑		
	(第4回) 講義	事前	テキストの予習 (4h)
笠 2 蓮	教育効果の測定に関する理論と方法		
第3講	(第5回)演習	事後	論点のまとめと課題の整理 (4h)
	論点に基づいた討議と質疑		
	(第6回)講義	事前	各自発表の準備 (4h)
第4講	教育効果の測定方法と実際		
	(第7回) 演習	事後	課題の整理(4h)
	学生調査についての各自の論点についての発表		
	(第8回) 講義	事前	テキストの予習 (4h)
	生涯学習・リカレント教育の費用対効果、私的リ		
第 5 講	ターン、社会的リターンの測定に関する理論と実		
	践①		
	(第9回) 演習	事後	 論点のまとめと課題の整理(4h)
	生涯学習・リカレント教育の費用対効果、私的リ	7 12	
	ターン、社会的リターンの測定に関する理論と実		
	践①		

(第10回)		講義	事前	テキストの予習 (4h)	
		リカレント教育の費用対効果、私的リ			
		会的リターンの測定に関する理論と実			
	践②				
第6講	(第 11 回) 演習			論点のまとめと課題の整理 (4h)	
	生涯学習・	リカレント教育の費用対効果、私的リ			
		会的リターンの測定に関する理論と実			
	践②				
(第12回)		講義	事前	テキストの予習 (4h)	
第7講	IR についての動向:教学 IR と学生調査				
分 / 讲	(第 13 回) 演習			論点のまとめと課題の整理 (4h)	
	IR と教育効	果の測定についての討議と質疑			
	(第 14 回)	講義	事前	教科書・参考文献・課題の予習と	
	カレッジ・	インパクトと教育効果、実践としての		発表準備(4h)	
第8講	教学 IR のレ	リバンス			
N1 0 H4	(第15回)	演習	事後	レポート作成 (4h)	
	カレッジ・	インパクトと教育効果、実践としての			
	教学 IR のレ	リバンスについて課題発表			
定期試験		授業の全体を通じての課題について記述式のレポートを最終週後に提出			
		することで定期試験とする。			
使用テキスト		・山田礼子『学士課程教育の質保証へ	むけて	- 学生調査と初年次教育か	
		らみえてきたもの-』(東信堂,2012	() , IS	SBN:9784798901121	
		・山田礼子・木村拓也(編著)『学習	成果の	可視化と内部質保証:日本	
		型 IR の課題』(玉川大学出版,2021)	, IS	BN9784472406041	
参考文献		・矢野眞和『今にいける学生時代の学	びとは	は:卒業生調査にみる大学教	
		育の効果』(玉川大学出版部,2023)	, ISB	N9784472406300	
		・山田礼子『2040 年 大学教育の展望―21 世紀型学習成果をベースに			
		- 』(東信堂,2019),ISBN9784798915715-			
受講生に	こ対する評価	・発表内容や討議内容、質問(口頭試問)等 40%			
		・論理的に物事をまとめ、データをエビデンスとして活用できているか			
		を評価する。レポート 60%			
授業・課題等に対す		討議は発表内容については、授業中にフィードバックを行う。			
る		定期試験については、試験後にフィー	ドバッ	クを行う。	
フィードバック					
1					
オフィスアワー <i>(</i> ナンライン閉口 .		月曜日 16 時~17 時			
(オンライン曜日・					
時間)					

受講生へのメッセー	LMS のフォーラム掲示板で積極的な意見交換を求める
ジ*任意項目	
備考	小グループに分ける時はビデオ会議システムのブレイクアウトルームな
*任意項目	どを利用する。
授業用 URL	
*任意項目	
授業用 E-Mail	
*任意項目	

教育国際交流演習

講義名	教育国際交流演習
単位数	1
単位区分(必修・選択・自由)	選択
講義開講時期	1年後期
講義区分(講義・演習・実習)	講義・演習
担当教員名	戸田 有一

	教育界における課題を発見し、背景や関わる要因をグローバル視点で俯瞰し定	
DP1	義することができる。	
	(課題発見・要因定義能力)	
	教育界における課題に情報学の知識・スキルを活用し改善・解決することがで	
DP2-1	きる。	
	(改善・解決能力)	
	教育界における課題に経営学の知識・スキルを活用し改善・解決することがで	
DP2-2	きる。	
	(改善・解決能力)	
	科学的知見に基づき実践からデータを取得し仮説を立て検証することができ	
DP3	ప 。	
	(科学的な検証能力)	
	教育テックによる教育界に関する社会変革を目標に、自らの構想を立てること	
DP4	ができる。	
	(社会変革への構想能力)	

履修条件		「教育国際論」を履修し単位取得済で	あるこ	とが望ましい。	
授業の概要		海外在住の外国人や日本人などをゲス	トに、	諸外国の教育制度や教育方	
		法、そしてその背景にある教育に対する考え方の違いについて、ディス			
		カッションを通じて理解を深めていく。			
授業の	のテーマ	海外の教育やそれを支える教育テッ	クの近	丘年の動向について、海外在	
及び到達目標		住経験のある日本人、海外に在住している日本人、海外在住の外国人な			
		どとの対話を通して、理解を深める。単に国際交流経験を豊かにするだ			
		けではなく、日本の教育のあり方を相対化し、教育制度や方法を改革す			
		る契機となることを目標とする。英語だけではなく、様々な言語や文化			
		への開かれた態度をさらに涵養するこ	とも目	指したい。	
授業計画	町(授業は1回を90	分とする)	授業	外の学習 (29時間)	
笠 1 同	(講義) 授業	美の概要と評価方法の説明。受講者の	事前	シラバスの熟読(0.5h)	
第1回	問題意識の多	で流(特に、教育テックの活用動向に	事後	問題意識の整理(0.5h)	

	関して、意見	見をチャット等でだしあう)。講義者		
	が奈良県教会	を共同開発した、いじめ対策の「気 なと共同開発した、いじめ対策の「気		
	付き見守りて	アプリ」を紹介する。		
	(演習)海ダ	外在住経験のある日本人との対話に向	事前	関連資料の熟読と論点整理(2h)
	けての準備	(主に教育テック 1.0 をめぐって、資		
第2回	料からの論点	点整理)をする。前回紹介のアプリに	事後	追加の資料収集と質問準備(2h)
	関するオンラ	ラインチャット等での議論も行う。		
(演習)海ダ		ト在住経験のある日本人との Zoom 等	事前	質問の受講者間での整理(2h)
the o	による対話	・チャットと振り返り(主に教育テッ		
第3回	ク活用経験や	や多言語活用支援に関する内容)を行	事後	振り返りのまとめ(2h)
	う。			
	(演習)海ダ	外在住日本人との対話に向けての準備	事前	関連資料の熟読と論点整理(2h)
// A 🖂	(海外での教	教育テック活用に関する最新事情の把		
第4回	握や論点整理	里をネット上のホワイトボード等を使	事後	追加の資料収集と質問準備(2h)
	って行う) を	とする。		
	(演習) 海外	ト在住日本人との Zoom 等による対話	事前	質問の受講者間での整理(2h)
学 [同	と振り返り	(フィンランドの学校と保護者をつな		
第5回	ぐ教育テッ	クの最新動向などをめぐって)を行	事後	振り返りのまとめ(2h)
	う。			
	(演習)海外	トに在住している外国人との Zoom 等	事前	関連資料の熟読と論点整理(2h)
第6回	による対話に	こ向けての準備(英語での質問の準備	事後	追加の資料収集と質問準備(2h)
	や翻訳アプリ) 活用の練習も行う)をする。	1	之加了其中的水色其间(m/cm/
第7回	(演習)海ダ	外に在住している外国人との対話と振	事前	質問の受講者間での整理(2h)
为 7 凹	り返り(翻訳	Rアプリや AI 翻訳を活用)を行う。	事後	振り返りのまとめ(2h)
	(講義) 3	つの対話の最終まとめ(AI を活用す	事前	対話の最終まとめの作成(2h)
第8回	る)と今後の	の課題の展望(オンラインのホワイト	事後	展望のまとめ(2h)
ボードなどな		を用いる)を行う。	, , ,	, ,
定期試験		該当なし		
使用テキスト		テキストは使用せず必要な資料を LM:	Sにて	作成・配布する。
		 授業時に適時紹介する。		
> 1/1m		関連する論文を共有する。書籍の紹介	もする) ₀
受護化 2	 C対する評価			
入冊工作	- ベリ プ & 真工川	各自が事前資料から準備した質問内容(20%)、グループ討議(30%)、ま とめの内容(10%×3 回)、最終まとめ(20%)を評価する。ゲストによる		
		こめの内谷(10%へ3 回)、 最終まとめ 評価や相互評価も盛り込む。	(2070)	「『日間ング。 / ハドによる
		可順へ百年計画も置り込む。		

 授業・課題等に対する フィードバック 質問内容と参加度は、対話の振り返りの際に自己評価をしていただき、大きく私の評価とずれる場合にフィードバックを行います。各回のまとめと最終まとめは、ゲストからのフィードバックもいただくように努めます。相互評価もフィードバックの一環です。LMSのフォーラム掲示板で積極的な意見交換を求める オフィスアワー (オンライン曜日・時間) 受講生へのメッセー 英語でのやりとりをしますので、そのための準備も行っていただきたいと思っています。
 フィードバック 質問内容と参加度は、対話の振り返りの際に自己評価をしていただき、大きく私の評価とずれる場合にフィードバックを行います。各回のまとめと最終まとめは、ゲストからのフィードバックもいただくように努めます。相互評価もフィードバックの一環です。LMSのフォーラム掲示板で積極的な意見交換を求める オフィスアワー (オンライン曜日・時間) 受講生へのメッセー 英語でのやりとりをしますので、そのための準備も行っていただきたい。
大きく私の評価とずれる場合にフィードバックを行います。各回のまとめと最終まとめは、ゲストからのフィードバックもいただくように努めます。相互評価もフィードバックの一環です。 LMSのフォーラム掲示板で積極的な意見交換を求める オフィスアワー (オンライン曜日・時間) 受講生へのメッセー 英語でのやりとりをしますので、そのための準備も行っていただきたい
めと最終まとめは、ゲストからのフィードバックもいただくように努めます。相互評価もフィードバックの一環です。 LMSのフォーラム掲示板で積極的な意見交換を求める オフィスアワー 基本はメールでご相談いただき、日時を調整します。 (オンライン曜日・時間) 受講生へのメッセー 英語でのやりとりをしますので、そのための準備も行っていただきたい
ます。相互評価もフィードバックの一環です。 LMS のフォーラム掲示板で積極的な意見交換を求める オフィスアワー (オンライン曜日・ 時間) 受講生へのメッセー 英語でのやりとりをしますので、そのための準備も行っていただきたい
LMS のフォーラム掲示板で積極的な意見交換を求める オフィスアワー 基本はメールでご相談いただき、日時を調整します。 (オンライン曜日・時間) 受講生へのメッセー 英語でのやりとりをしますので、そのための準備も行っていただきたど
オフィスアワー 基本はメールでご相談いただき、日時を調整します。 (オンライン曜日・時間) 受講生へのメッセー 英語でのやりとりをしますので、そのための準備も行っていただきたい
(オンライン曜日・時間) 受講生へのメッセー 英語でのやりとりをしますので、そのための準備も行っていただきたい。
時間) 受講生へのメッセー 英語でのやりとりをしますので、そのための準備も行っていただきたい。
受講生へのメッセー 英語でのやりとりをしますので、そのための準備も行っていただきたい
ジ*任意項目 と思っています。
備考 海外来客を迎える機会をご案内しますので、よろしければご参加くださ
*任意項目 い。
小グループに分ける時はビデオ会議システムのブレイクアウトルームな
どを利用する。
授業用 URL
*任意項目
授業用 E-Mail toda@cc.osaka-kyoiku.ac.jp
*任意項目

持続可能な開発のための教育

講義名	持続可能な開発のための教育
単位数	2
単位区分(必修・選択・自由)	選択
講義開講時期	2年前期
講義区分(講義・演習・実習)	講義・演習
担当教員名	大和田順子

	教育界における課題を発見し、背景や関わる要因をグローバル視点で俯瞰し定	
DP1	義することができる。	
	(課題発見・要因定義能力)	
	教育界における課題に情報学の知識・スキルを活用し改善・解決することがで	
DP2-1	きる。	
	(改善・解決能力)	
	教育界における課題に経営学の知識・スキルを活用し改善・解決することがで	
DP2-2	きる。	
	(改善・解決能力)	
	科学的知見に基づき実践からデータを取得し仮説を立て検証することができ	
DP3	ప 。	
	(科学的な検証能力)	
	教育テックによる教育界に関する社会変革を目標に、自らの構想を立てること	
DP4	ができる。	
	(社会変革への構想能力)	

履修	条	件	SDGs や ESD に関心を持ち、教育課程や教育経営で実践する意欲を有
			すること
授業の概要			現在、世界が直面する課題の解決に向けて推進している「SDGs
			(Sustainable Development Goals「持続可能な開発目標」)は、持続可
			能な社会の創り手の育成が行われなければ実現しない。その人材育成を
			担うのが ESD(Education for Sustainable Development「持続可能な開
			発のための教育」)である。ESD は「身近なところから取り組む
			(think globally, act locally)ことで、問題の解決につながる新たな価値
			観や行動等の変容をもたらし、持続可能な社会を実現していくことを目
			指して行う学習・教育活動」(文部科学省)である。
			近年では、2019 年に「持続可能な開発のための教育:SDGs 実現に向
			けて(ESD for 2030)」が国連総会で承認されている。そのロードマッ
			プでは、5 つの優先行動分野(1. 政策の推進、2. 学習環境の変革、
			3. 教育者の能力構築、4. ユースのエンパワーメントと動員、5. 地域

レベルでの活動の促進)が示されている。

また、SDGs 4「質の高い教育をみんなに」のターゲット 4.7 では、持続可能な開発のための教育及び持続可能なライフスタイルや、グローバル・シチズンシップ、文化多様性と文化の持続可能な開発への貢献の理解の教育などが示されている。

本科目では、SDGs に関連する社会課題や ESD を理解し、具体的に教育課程や教育経営で実践する理論や技法について学ぶ。

授業のテーマ 及び到達目標

SDGs および ESD を理解し、教育課程や教育経営で実践するための理論や技法を学び、自らの現場における実践企画を行い、学期内に試行する。

極業計画		授業外の学習 (60 時間)		
1久未前回	田 (授業は1回を90分とし、2限連続で実施する場合がある)	事前	グトウ子音 (60時間) 授業の予習 (2h)	
第1講	(第1回) 講義 オリエンテーション、問題意識の共有	事後	授業のフィードバック (2h)	
	国内外のSDGsの動向を学ぶ			
第2講	(第2回)講義	事前	授業の予習 (4h)	
	ESDの動向			
	国内外のESDの動向を学ぶ			
	(第3回) 演習	事後	 授業の復習(4h)	
	ESDの動向	1.12	IXX VICE (III)	
	国内外のESDの動向に関する ワークショップ			
	を行う			
	(第4回) 講義	事前	授業の予習 (4h)	
	教育課程における実践			
第3講	SDGs、ESD に関する教育課程における実践事例			
	研究			
	(第5回)演習	事後	授業の復習 (4h)	
	教育課程における実践			
	SDGs、ESD に関する教育課程における実践事例			
	に関する討議			
	(第6回) 講義	事前	授業の予習 (4h)	
	教育経営における実践			
	SDGs、ESD に関する教育経営における実践事例			
第4講	研究			
分生冊	(第7回) 演習		授業の復習 (4h)	
	教育経営における実践			
	SDGs、ESD に関する教育経営における実践事例			
	に関する討議			
答 □ =	(第8回) 講義	事前	授業の準備 (4h)	
第5講	先行研究レビュー	事後	授業のフィードバック (4h)	

	SDGs, ESD	教育に関する先行研究レビュー		
	(第9回) 濱	寅習		
	先行研究レビ	<u></u>		
	SDGs, ESD	教育に関する先行研究レビューに関		
	する討議			
	(第10回)	講義	事前	授業の予習 (4h)
	実践計画の立案			
第6講	SDGs、ESD 教育に関する実践計画の立案			
	(第 11 回) 演習			発表へのフィードバック (4h)
	実践計画の立案			
	SDGs, ESD	教育に関する実践計画の立案に関す		
	る討議			
	(第 12 回)	講義	事前	発表準備(4h)
	実践計画の準	準備・試行		
	SDGs, ESD	教育に関する実践計画の準備		
第7講	(第 13 回)演習			発表準備 (2h) /発表へのフィー ドバック (2h)
	実践計画の準備・試行			
	SDGs、ESD 教育に関する実践計画の準備に関す			
	る討議			
	(第 14 回) 講義			発表準備(4h)
	実践報告			
	SDGs、ESD 教育に関する実践計画の試行結果の			
笠 0 ≇	報告および振り返り(発表)			発表へのフィードバック(2
第8講	(第 15 回) 演習			h) /ワークショップの振り返り (2h)
	実践報告			
	SDGs, ESD) 教育に関する実践計画の試行結果		
	に関するワー	-クショップ		
定期試験		各自の発表(発表資料提出)及び、レ	ポート	とする。
使用テキ	Fスト	開講時に提示する		
ムサナル		『CDC』世界の松春日人本甘のより	D DOI	7. (本医 乾 工工 炒水炉
参考文献 		『SDGs 時代の教育:社会変革のための	O ESI	り』(狄炽 彰・小玉
		著、2022 年、筑波書房)		
		『SDGs を活かす地域づくり』(大和 『	1出順、	ナり編者、2022 年、晃洋書
		房)	=	
		『ソーシャル・イノベーションの理	論とす	長践』(今里滋編者、2022
		年、明石書店)		
		『SDGs と環境教育』(佐藤真久ら編	者、20	川7年、字文社)
受講生に対する評価		・平常点 (小レポート) (50%)		
		・授業内発表(25%)		

	・課題レポート(25%)
授業・課題等に対す	・基本的には、授業の中で行う。
3	・本授業は履修者が積極的、自発的に自身の問題関心に応じて探究して
フィードバック	いくことが必要となる。SDGs や ESD の実践に関する検討など履修者
	各自が行い、授業の場にて発表する。履修者は、他者の発表に対して積
	極的にコメントをすること。
オフィスアワー	随時、個別にアポイントを取り実施
(オンライン曜日・	
時間)	
受講生へのメッセー	LMS のフォーラム掲示板で積極的な意見交換を求める
ジ*任意項目	
備考	小グループに分ける時はビデオ会議システムのブレイクアウトルームな
*任意項目	どを利用する。
授業用 URL	
*任意項目	
授業用 E-Mail	
*任意項目	

教育デジタルエコシステム演習

講義名	教育デジタルエコシステム演習
単位数	1
単位区分(必修・選択・自由)	選択
講義開講時期	2年前期
講義区分(講義・演習・実習)	演習
担当教員名	山田恒夫

	教育界における課題を発見し、背景や関わる要因をグローバル視点で俯瞰し定	
DP1	義することができる。	
	(課題発見・要因定義能力)	
	教育界における課題に情報学の知識・スキルを活用し改善・解決することがで	
DP2-1	きる。	
	(改善・解決能力)	
	教育界における課題に経営学の知識・スキルを活用し改善・解決することがで	
DP2-2	きる。	
	(改善・解決能力)	
	科学的知見に基づき実践からデータを取得し仮説を立て検証することができ	
DP3	る。	
	(科学的な検証能力)	
	教育テックによる教育界に関する社会変革を目標に、自らの構想を立てること	
DP4	ができる。	
	(社会変革への構想能力)	

履修条件	「教育デジタルエコシステム概論」を履修していること
授業の概要	生涯学習を見据えた次世代学習情報基盤の社会実装という観点から、学
	習システムやツールの構成と連携、デジタルエコシステムとしての要件
	とその相互運用性を保証する国際技術標準、学習ログデータの収集と利
	用方法(学習解析)について学ぶ。本演習では、「教育デジタルエコシ
	ステム概論」で学んだ知識を活用して、さまざまな教育情報デジタルエ
	コシステムの事例を分析し、その課題を明らかにするとともに、オンラ
	インでのグループによるプロジェクト学習により、その解決策を検討す
	る。
授業のテーマ	○教育デジタルエコシステムを分析するための知識とスキルを身に着け
及び到達目標	る
	○教育現場における課題を発見し、教育デジタルエコシステムによる解
	決策を導く知識とスキルを身に着ける
	○教育デジタルエコシステムの社会実装に必要な 21 世紀型スキル、社

会変革コンピテンシーとは何か、体験学習により理解する。				
授業計画	町(授業は1回を 90	分とする)	授業	外の学習 (29 時間)
第1回	国内外の教	とざまな教育デジタルエコシステム 数育デジタルエコシステムの典型を知 本科目で用いる協同学習に関する学	事前	配布資料 (PDF あるいは講義ビデオ) の視聴 (0.5h)
	習理論及び打	支法の概観を得る。	事後	電子掲示板でのディスカッション とグループ分け(0.5h)
第2回	グループし	育デジタルエコシステムの事例分析 1 c分かれ、それぞれに与えられた分野 なじた調べ学習を行う。	事前	グループごとにアイスブレーキン グ (2h)
			事後	調べ学習 (2h)
第3回	(2,17, 4,11	育デジタルエコシステムの事例分析 2 ごとに成果をまとめ、1 つのレポート	事前	調ベ学習とディスカッション (2h)
	にまとめる。		事後	グループレポートの作成 (2h)
第4回	グループ	育デジタルエコシステムの事例分析 3 の成果を発表し、ピア評価(相互評	事前	発表用PPTスライドの作成(2h)
	価)を行う。		事後	ピア評価(相互評価) (2h)
<i>h</i> h = □	(演習)教育における課題の発見と教育デジタル エコシステムによる解決 1			教育における諸課題に関するレポート作成 (2h)
第5回		ける諸課題をブレインストーミングに その結果をもとにグループ分けを行	事後	グループごとにアイスブレーキン グ (2h)
第6回	エコシステム	育における課題の発見と教育デジタル ムによる解決 2	事前	調ベ学習とディスカッション (2h)
	グループに分かれ、それぞれに与えられた分野 (役割)に応じた調べ学習を行う。		事後	調べ学習とディスカッション (2h)
第7回	エコシステム	育における課題の発見と教育デジタル なによる解決3	事前	調ベ学習とディスカッション (2h)
	クルーク? にまとめる。	ごとに成果をまとめ、1つのレポート	事後	グループレポートの作成(2h)
第8回	(演習)教育における課題の発見と教育デジタル エコシステムによる解決4		事前	発表用PPTスライドの作成(2h)
	グループの成果を発表し、ピア評価(相互評価)を行う。		事後	ピア評価(相互評価)(2h)
定期試験		定期試験はない		
使用テキスト		なし		
参考文献	状	開講後に提示		
受講生に対する評価 各回の学習活動・小レポート(50%)、ピア評例 判断して評価する。なお、ピア評価の提出方法なする。				

授業・課題等に対す	・基本的には、授業の中で行う。
る	
フィードバック	
オフィスアワー	
(オンライン曜日・	
時間)	
受講生へのメッセー	
ジ*任意項目	
備考	小グループに分ける時はビデオ会議システムのブレイクアウトルームな
*任意項目	どを利用する。
授業用 URL	
*任意項目	
授業用 E-Mail	
*任意項目	

教育テックの倫理的・法的・社会的な課題(ELSI)

講義名	教育テックの倫理的・法的・社会的な課題(ELSI)
単位数	2
単位区分(必修・選択・自由)	選択
講義開講時期	1年後期
講義区分(講義・演習・実習)	講義・演習
担当教員名	林 正幸

	教育界における課題を発見し、背景や関わる要因をグローバル視点で俯瞰し定	
DP1	義することができる。	
	(課題発見・要因定義能力)	
	教育界における課題に情報学の知識・スキルを活用し改善・解決することがで	
DP2-1	きる。	
	(改善・解決能力)	
	教育界における課題に経営学の知識・スキルを活用し改善・解決することがで	
DP2-2	きる。	
	(改善・解決能力)	
	科学的知見に基づき実践からデータを取得し仮説を立て検証することができ	
DP3	ప 。	
	(科学的な検証能力)	
	教育テックによる教育界に関する社会変革を目標に、自らの構想を立てること	
DP4	ができる。	
	(社会変革への構想能力)	

履	修	条	件	該当なし
授業	の概	要		教育テックの中でも、とりわけ技術面を指す EdTech(エドテック)の
				研究開発やその導入にあたって、技術的視点だけではなく ELSI(倫理・
				法的・社会的課題)の観点から考察することが求められる。EdTech 研究
				開発・導入推進のブレーキではなくステアリングとしての ELSI について
				議論を深めていく。
				「教育データ利活用 EdTech(エドテック)の ELSI 対応方策の確立と
			RRI 実践」を研究するチームメンバーらをゲスト講師として招集し議論	
			を深める。	
授業	ぎ の	テー	- マ	EdTech 研究開発者および利用者が教育データを使って「できること」と
及び	到達	目標		「やるべきこと」の相違と線引きについて理解を深める必要がある。本
				講義では、受講生らが ELSI の観点から上記線引きができるようになるこ
				とを目指す。

授業計		授業外の学習 (60 時間)		
	(第1回)なぜ、教育データ利活用 EdTech の	事前	シラバスの精読(0.5h)	
第 1	ELSI が重要なのか(講義)	尹則	授業での質問事項の検討 (0.5h)	
講		事後	コメントペーパーの提出 (1h)	
		予区	指定された文献の精読 (2h)	
	(第2回)教育データ利活用 EdTech の論点や			
	ケースについて議論する(講義)	事前	授業資料の確認 (1.5h)	
第 2			課題への取り組み (2.5h)	
講	(第3回)教育データ利活用 EdTech の論点や			
	ケースについて議論する(演習)	事後	コメントペーパーの提出 (2h)	
		3.12	指定された文献の精読 (2h)	
	(第 4 回)ELSI 観点からみた教育データ利活			
	用 EdTech の分類(講義)	事前	授業資料の確認(1.5h)	
答 0	用Ediecioの分類(語義)	尹刖	課題への取り組み (2.5h)	
第3	/姓 『 □ 〉 PI CI 知 ト 1 ~ 7 ~ 地方 ~ 。 6 和 元			
講	(第 5 回)ELSI 観点からみた教育データ利活		 コメントペーパーの提出(2h)	
	用 EdTech の分類(演習)	事後	指定された文献の精読 (2h)	
	(第6回)倫理の観点からみた教育データ利活		1. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1	
	用 EdTech の論点を深掘りする(講義)	事前	授業資料の確認 (1.5h)	
第4			課題への取り組み(2.5h)	
講	(第7回)倫理の観点からみた教育データ利活			
	用 EdTech の論点を深掘りする(演習)	事後	コメントペーパーの提出 (2h)	
			指定された文献の精読(2h)	
	(第8回) 法の観点からみた教育データ利活用			
	EdTech の論点を深掘りする(講義)	事前	授業資料の確認(1.5h)	
第5			課題への取り組み (2.5h)	
講	(第9回)法の観点からみた教育データ利活用			
	EdTech の論点を深掘りする(演習)	事後	コメントペーパーの提出 (2h)	
		爭区	指定された文献の精読 (2h)	
	(第 10 回)社会的観点からみた教育データ利		 授業資料の確認(1.5h)	
	活用 EdTech の論点を深掘りする(講義)	事前	課題への取り組み (2.5h)	
역 (TID DUTCOI シIII M で M M グ メ る (時 技 /			
第 6 港	(역 11 同) 払入的組上ふと 7.2 地方ご トゴ		 コメントペーパーの提出(2h)	
講	(第 11 回)社会的観点からみた教育データ利	事後	ゴメントペーハーの提出 (2h) 指定された文献の精読 (2h)	
	活用 EdTech の論点を深掘りする(演習)			
	/kk 40 E) Eller the back of the same of th			
	(第 12 回)国際比較の観点からみた教育デー		 授業資料の確認(1.5h)	
第 7	タ利活用 EdTech の論点を深掘りする(講義)	事前	課題への取り組み (2.5h)	
講			· ,	
*	(第 13 回)国際比較の観点からみた教育デー	事後	コメントペーパーの提出 (2h)	
	タ利活用 EdTech の論点を深掘りする(演習)	- 尹仪	指定された文献の精読(2h)	

		教育データ利活用 EdTech の研究 にあたって必要な制度・スキル(講	事前	授業資料の確認(1.5h) 課題への取り組み(2.5h)	
第8 講		教育データ利活用 EdTech の研究 にあたって必要な制度・スキル(演	事後	コメントペーパーの提出 (2h) ディスカッションの復習 (2h)	
定期試	· 験	定期試験は実施しない			
使用テ	キスト	必要に応じて LMS などを活用し PI	DF 資	料などを提供する	
参考文献	献	別途指示する			
受講生	に対する評	1 毎回の授業でのディスカッショ	ンへの)貢献・小レポート	
価		②第2講~第8講で課せられる課題			
		以上, ① (50%), ② (50%) の総合評価により判定する。			
	課題等に対	各講座の担当者とのメールおよび LMS 上ディスカッションボード等にて			
する		行う			
フィードバック					
オフィスアワー					
	クライン曜				
日・時		数ちのひなとず我々のすべての行動は、舞へ的なリーリ・マナーの法			
	へのメッセ 任意項目	教育のみならず我々のすべての行動は、社会的なルール・マナーや法律、企理に関する。まずよの人々に対して公正に人権も完了独対的文票が			
- y * 1	工总块日	律、倫理に則り、すべとの人々に対して公平に人権を守る絶対的必要が ある。			
		める。 本講義では、各分野に精通した講師が、ELSI の様々な事例を示し、どの			
		ように考え対処すべきかをオムニバス形式で学ぶ。科目責任者は、それ			
		らをとりまとめ、学習の要点などをとりまとめ、全体をコーディネート			
		して、ELSI の全体像を理解しやすくするよう努める。			
備考		小グループに分ける時はビデオ会議システムのブレイクアウトルームな			
*任意項目		どを利用する。			
授業用 URL					
*任意項目					
授業用 E-Mail					
*任意功	質目				

教育テックのためのICT基礎

講義名	教育テックのための ICT 基礎
単位数	1
単位区分(必修・選択・自由)	選択
講義開講時期	1年前期
講義区分(講義・演習・実習)	講義
担当教員名	竹村治雄、山田恒夫、河﨑雷太

	教育界における課題を発見し、背景や関わる要因をグローバル視点で俯瞰し定	
DP1	義することができる。	
	(課題発見・要因定義能力)	
	教育界における課題に情報学の知識・スキルを活用し改善・解決することがで	
DP2-1	きる。	
	(改善・解決能力)	
	教育界における課題に経営学の知識・スキルを活用し改善・解決することがで	
DP2-2	きる。	
	(改善・解決能力)	
	科学的知見に基づき実践からデータを取得し仮説を立て検証することができ	
DP3	る。	
	(科学的な検証能力)	
	教育テックによる教育界に関する社会変革を目標に、自らの構想を立てること	
DP4	ができる。	
	(社会変革への構想能力)	

履修条件	該当なし
授業の概要	情報学の基礎から教育現場で ICT 利活用に関する基礎を学ぶ。情報の基礎に関する概要を理解し、教育での ICT 活用に関して、システムの概要、e ラーニングの概要、教育データ分析の概要、体験学習の教育テ
	ック利用などに関して理解を深める。教育情報コース展開科目で改善・解決を目指す科目の前提となる知識を学ぶ。
	本講義はオムニバス方式で行い、第1回〜第4回を河崎、第5回〜第6回を山田、第7回〜第8回を竹村が担当する。
授業のテーマ	○情報学基礎の概論を理解する
及び到達目標	○教育テックの基礎的な利活用を理解する

授業計画 (授業は1回を90分とする)			授業	授業外の学習 (29 時間)		
	(講義) 「情	青報社会の問題解決」概要 {河﨑}		配布資料(PDF あるいは講義ビデ		
第1回	情報メディス	情報メディアの特性、情報社会と情報セキュリテ		が から		
	ィ、情報技術	所の発展による変化などの概要を理解		電子掲示板でのディスカッション		
	する		事後	电丁掲示板 Cの ティスカッション と振り返り (0.5h)		
	(講義) 「	コミュニケーションと情報デザイン」		配布資料(PDF あるいは講義ビデ		
第2回	概要 {河﨑}		事前	武市資料 (FDF めるいは調義と) オ) の視聴 (2h)		
27 Z E	デジタルデ-	- タ表現、通信手段の発展と特徴、情				
		よどの概要を理解する	事後	課題レポートの作成(2h)		
	(11.4.4-4)	コンピュータとプログラミング」概要	市公	 配布資料(PDF あるいは講義ビデ		
第3回	{河崎}		事前	オ) の視聴 (2h)		
		タのしくみ、プログラミング、モデル	市公	 課題レポートの作成(2h)		
		ノーションの概要を理解する	事後	深趣レホートの作成(ZII)		
		情報通信ネットワークとデータの活	事前	配布資料(PDF あるいは講義ビデ		
第4回	用」概要 {河	引畸} クのしくみ、データベースなどの概要	7.110	オ) の視聴 (2h)		
	ホットリー? を理解する	, のしくみ、ナーダベースなどの概要	事後	課題レポートの作成(2h)		
				ボーナンタリ(DDF キャルル・珠ギッ・デ		
第5回	LMS、ビデオ会議システム、教務(校務)システ		事前	配布資料 (PDF あるいは講義ビデ オ) の視聴 (2h)		
)	ムなどの概要を理解する		事後	課題レポートの作成(2h)		
		ーニングの理論と方法 {山田}	712			
第6回	e ラーニンク	e ラーニングの現状を理解し AI など最新技術の導		配布資料 (PDF あるいは講義ビデ オ) の視聴 (2h)		
71, 0 []	入について展望を得る		事 纵			
	(育コンテンツ提供、教育データ利活用	事後	課題レポートの作成(2h)		
	の基礎と今後		事前	配布資料 (PDF あるいは講義ビデオ) の視聴 (2h)		
第7回	教育コンテンツの配信の未来や学習データの分析			オ) の(兄邸 (Zn)		
	などの基礎を理解する		事後	課題レポートの作成(2h)		
	(講義) ハン	ノズオンへの教育テック利用・教育テ		配布資料(PDF あるいは講義ビデ		
笠 0 口	ックによる行動変容{竹村}		事前	オ)の視聴(2h)		
第8回	体験学習への	Dテクノロジー活用の基礎および行動				
	変容に繋がる) 学習を考える	事後	最終課題レポートの作成 (2h)		
定期試験		定期試験はない				
使用テキスト		なし				
次 /17 1 ヘド		· なし				
参考文献	犬	坂村健「高等学校 情報 I 」数研出版				
受講生に対する評価		各回の確認テスト(50%)課題レポー	F (50	0%) で総合的に判断して評		
		価する。				

授業・課題等に対す	・基本的には、授業の中で行う。
	金年前には、1人来も「CITT®
る	
フィードバック	
オフィスアワー	
(オンライン曜日・	
時間)	
受講生へのメッセー	
ジ*任意項目	
*任意項目	
授業用 URL	
*任意項目	
· LWX1	
授業用 E-Mail	
*任意項目	
上海ス日	

プログラミング特論

講義名	プログラミング特論
単位数	2
単位区分(必修・選択・自由)	選択
講義開講時期	1年後期
講義区分(講義・演習・実習)	講義・演習
担当教員名	河崎雷太

	教育界における課題を発見し、背景や関わる要因をグローバル視点で俯瞰し定	
DP1	義することができる。	
	(課題発見・要因定義能力)	
	教育界における課題に情報学の知識・スキルを活用し改善・解決することがで	
DP2-1	きる。	
	(改善・解決能力)	
	教育界における課題に経営学の知識・スキルを活用し改善・解決することがで	
DP2-2	きる。	
	(改善・解決能力)	
	科学的知見に基づき実践からデータを取得し仮説を立て検証することができ	
DP3	る。	
	(科学的な検証能力)	
	教育テックによる教育界に関する社会変革を目標に、自らの構想を立てること	
DP4	ができる。	
	(社会変革への構想能力)	

履修条件	特になし		
授業の概要	学習指導要領の改訂に伴い、学校教育にプログラミング教育が必 修化されている。プログラミングの学びは、どのようにあるべき なのかを考え、見つめ直すために、プログラミングの基礎を知 り、実際に実装体験を行い、今後の論理的思考教育の発展・改善		
授業のテーマ及び到達目標	を議論する。 効果的なプログラミング授業および周辺授業への展開 ○プログラミングの基礎を理解できる		
及び対定日保	○プログラミング教育を学校で活用で		
授業計画 (授業は1回を9	0 分とし、2 限連続で実施する場合がある)	授業	外の学習 (60 時間)
第1講	プログラミング教育の現状 (講義) 領における「情報活用能力」の理解を	事前	LMS 上の資料閲覧(2h)

	深めると共にプログラミング教育の役割を確認する。小学校課程でのプログラミングドリルから大学入試問題までの現状を知り、この授業の目的を理解する。	事後	レポートの作成(2h)
第2講	(第2回) コンピュータの基礎原理 (講義) ハードウェアとソフトウェアの基礎知識を確認する。 (第3回) コンピュータの基礎原理 (演習)	事前	LMS 上の資料閲覧(2h)
	今後のプログラミング環境に関して解説し、オン ラインでの演習環境を整える。	事後	各自環境設定(6h)
第3講	(第4回)プログラミング理解1 (演習)(第5回)プログラミング理解2 (演習)プログラミング言語の基礎を学び実装を演習す	事前	LMS 上の資料閲覧(2h)
	る。変数と関数および文字入力を理解し、順次進 行プログラムを演習し理解する。	事後	宿題レポートプログラム (6h)
第4講	(第6回)プログラミング理解3 (演習)(第7回)プログラミング理解4 (演習)プログラミング言語の分岐進行を学び実装を演習	事前	LMS 上の資料閲覧(2h)
	する。条件分岐と論理演算子を理解し分岐進行プログラムを演習し理解する。	事後	宿題レポートプログラム (6h)
第5講	(第8回)プログラミング理解5 (演習)(第9回)プログラミング理解6 (演習)プログラミング言語の繰り返し進行を学び実装を	事前	LMS 上の資料閲覧(2h)
X1 2 H4	演習する。配列を理解し、配列を有効利用する繰り返し繰り返し進行プログラムを演習し理解する。	事後	宿題レポートプログラム (6h)
foto c 3th	(第 10 回) ライフロングキンダーガーデンとScratch (講義)(第 11 回) ライフロングキンダーガーデンとScratch (演習)	事前	LMS 上の資料閲覧(2h)
第6講	幼児期の積み木の教育効果(The Creative Learning Spiral)を意識して作られた初等向けプログラミングツール Scratch について理解し議論する。	事後	宿題レポートプログラム (6h)
第7講	 (第 12 回)中等・高等での 3DCG を応用したプログラミング教育 1 (演習) (第 13 回)中等・高等での 3 DCG を応用したプログラミング教育 2 (演習) Web 上に 3DCG を安易に表示できる three.js を用 	事前	LMS 上の資料閲覧(2h)
	<u></u>	事後	宿題レポートプログラム

	いたプログ	ラミングについて学び、学習者に分か		(6h)	
		レイフルなプログラミング教育の一手			
	法として体験を通して考察する。				
	(第 14 回)	今後のプログラミング教育(講義)			
	(第 15 回)	今後のプログラミング教育(演習)	事前	LMS 上の資料閲覧(2h)	
第8講	プログラミ:	ノグの基礎から様々な応用を知ったう			
	えで、今後の	D教育にどのような効果が期待できる	事後	まとめレポート(6h)	
	かを考察する	, ,			
定期試験		定期試験はおこなわない。			
使用テキ	 キスト	LMS に資料を掲載する			
参考文献	4		is Z. Iar	wa Script 新版』	
多分人的	V.	社	- S ja	Vascript WIMX 75100	
		Jos Dirksen(2016)『初めての Three	ic笛	り版『オライリージャ ー	
		パン)3 %1		
		文部科学省『幼稚園教育要領』			
		厚生労働省『保育所保育指針』			
		厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』			
		文部科学省『小学校学習指導要領』	3,413	11.14 27 12/2	
		文部科学省『中学校学習指導要領』			
		文部科学省『高等学校学習指導要領』			
受講生に対する評価		平常評価(宿題レポート課題:40%	、確認	以レポート:60%)	
授業・課題等に対す		LMS での小テスト結果等はその都度の)点数2		
る	.,_ , , , ,	い合わせはメール等で受け対応する。			
フィート	ドバック				
オフィス	スアワー	授業前後時間			
(オンライン曜日・					
時間)					
受講生へのメッセー		演習は、ビデオ会議システムの画面共有で個別に、各自のエディ			
ジ*任意	意項目	タを画面を確認し行うワークショップ型演習を行う。			
		各自のソースを受講者同士で共有することで、気づきやディスカ			
		ッションに繋げる。			

備考 *任意項目	プログラミング環境として、特定のエディタ、コンパイラやライブラリ,Web ブラウザの利用を指示する。
授業用 URL *任意項目	
授業用 E-Mail *任意項目	kawasaki@occ.ac.jp

カリキュラム・マネジメント

講義名	カリキュラム・マネジメント
単位数	2
単位区分(必修・選択・自由)	選択
講義開講時期	1年前期
講義区分(講義・演習・実習)	講義・演習
担当教員名	田村 知子

	教育界における課題を発見し、背景や関わる要因をグローバル視点で俯瞰し定	
DP1	義することができる。	
	(課題発見・要因定義能力)	
	教育界における課題に情報学の知識・スキルを活用し改善・解決することがで	
DP2-1	きる。	
	(改善・解決能力)	
	教育界における課題に経営学の知識・スキルを活用し改善・解決することがで	
DP2-2	きる。	
	(改善・解決能力)	
	科学的知見に基づき実践からデータを取得し仮説を立て検証することができ	
DP3	ప 。	
	(科学的な検証能力)	
	教育テックによる教育界に関する社会変革を目標に、自らの構想を立てること	
DP4	ができる。	
	(社会変革への構想能力)	

履修条件	該当なし
授業の概要	教育目標の実現に向けて、子どもや地域の実態を省察し、教育課程(カリキュラム)を編成・実施・評価し、改善を図る一連のサイクルを計画的・組織的に推進し、学校の課題解決に資するカリキュラムを開発するための考え方と知識を身につける。
授業のテーマ	テーマ:今次学習指導要領(幼稚園教育要領を含む)の理念の実現のた
及び到達目標	めの鍵概念である「カリキュラム・マネジメント」の理論と実践方法
	到達目標:カリキュラム・マネジメントの見方・考え方に基づき,実践
	事例や自らが関与する教育現場の実態を分析することできる。その上
	で、適切な理論や方法論(特に ICT の効果的な活用)を選択、開発
	し、実践に生かすことができる。

授業計画	団(授業は1回を 90 分とし、2 限連続で実施する場合がある)	授業	外の学習 (60 時間)
	(第1回) 講義	事前	テキストの序章,第1章
第1講	「カリキュラム」における批判的省察	争刖	を講読(2h)
分 1 再		事後	復習・振り返りの記入
		争仮	(2h)
	(第2回) 講義	事前	テキストの第 2~ 4 章を講
	学校に基礎を置くカリキュラム開発	7, 10,1	読(4h)
	カリキュラムマネジメントの概念		 復習・振り返りの記入(2
第2講	理論モデル図を活用した実態分析		h)
No = 111	(第3回)演習	事後	**^ 課題:理論モデルを活用
	学校に基礎を置くカリキュラム開発	, , ,	した実態分析の見通しを
	カリキュラムマネジメントの概念		立てる(2h)
	理論モデル図を活用した実態分析		
	(第4回)講義	事前	テキストの第 5 章を講読
	学校教育目標と教育課程編成の基本方針		(2 h)
	ウェルビーイングを実現するカリキュラムマネジ		 復習・振り返りの記入(2
第3講	メント		h)
	(第5回)演習	事後	課題:理論モデルを活用
	学校教育目標と教育課程編成の基本方針		した実態分析(授業内容
	ウェルビーイングを実現するカリキュラムマネジ		を反映) (2h)
	メント		ニナフしの笠の辛、笠の
	(第6回)講義 主体的・対話的で深い学び の実現に向けた授業	事前	テキストの第8章, 第9 章, 第10章を講読(5 h)
	主体的・対話的で保い子の」の実現に向りた技業 改善		早, 第 10 早で
	対科等横断的な視点によるカリキュラム編成と実		
	施		復習・振り返りの記入(2
第4講	(第7回)演習		h)
	主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業	事後	課題:理論モデルを活用
	改善		した実態分析(授業内容
	教科等横断的な視点によるカリキュラム編成と実		を反映)(2h)
	施		
	(第8回)講義		テキストの第 6 章, 第 7
	評価を核としたマネジメントサイクル	事前	章を講読(4h)
第5講	カリキュラムマネジメントにおける評価の実践		復習・振り返りの記入(2
	(第9回)演習		h)
	評価を核としたマネジメントサイクル	事後	課題:理論モデルを活用
	カリキュラムマネジメントにおける評価の実践		した実態分析(授業内容
			を反映)(2h)
第6講	(第 10 回) 講義	事前	テキストの第 11 章,第 12

	学校内外の協			章,第13章を講読(5 h)	
	7				
	組織構造と学	学校文化,(11)		復羽・振り返りの制す(2)	
	社会に開かれ	1た教育課程		復習・振り返りの記入(2 h)	
	(第11回)	演習	事後	『グ 課題:理論モデルを活用	
	学校内外の制	協働によるカリキュラム・マネジメン	争仮		
	٢			した実態分析(授業内容 を反映)(2h)	
	組織構造と学	学校文化,(11)		を反映) (ZII)	
	社会に開かれ	1た教育課程			
	(第12回)	講義	事前	テキストの第14章,第15	
	教育課程行政	女による規定と支援	尹刑	章を講読(4h)	
	カリキュラム	ムマネジメントへの子どもの参画		復習・振り返りの記入(2	
第7講	(第 13 回)	演習		h)	
	教育課程行政	女による規定と支援	事後	課題:理論モデルを活用	
	カリキュラム	ムマネジメントへの子どもの参画		した実態分析(授業内容	
				を反映)(2h)	
	(第 14 回)	講義	事前	テキストの第 16 章を講読	
	GIGA スクー	-ル時代のカリキュラムマネジメント	2.110	(2 h)	
	カリキュラム	ム・マネジメントの展望		復習・振り返りの記入(2	
第8講	(第 15 回)	演習		h)	
	GIGA スクー	-ル時代のカリキュラムマネジメント	事後	課題:理論モデルを活用	
	カリキュラム	4・マネジメントの展望		した実態分析を完成させ	
				る(4h)	
定期試験		実施しない。			
使用テジ	<u></u>	田村知子芝『カリキュラムマネジメ	ソトの		
及加力		田村知子著『カリキュラムマネジメントの理論と実践』日本標準, 2022 年, ISBN-13:978-4820807315			
الدرار الملاحق	N.	.,			
参考文献	犬	学習指導要領解説「総則編」,幼稚園教育要領解説			
		田村知子・村川雅弘・吉冨芳正・西岡			
		メント・ハンドブック』ぎょう+	さい ,	2016 年,ISBN-13: 978-	
		4324100837			
		田村知子・村川雅弘・吉冨芳正・西岡加名恵編著『ウェルビーイングを			
		実現するカリキュラム・マネジメント』ぎょうせい,2023年(印刷			
≖##	これより 部位	中)			
文語生	こ対する評価	・最終レポート 50% ・授業中の討議・ディスカッション、グループ発表、ポートフォリオに			
			クルー	-ノ 光衣、ホートノオリオに - -	
		おける振り返り 50%			

授業・課題等に対す	・毎回の授業後に記入する振り返りに対しては、各回の授業時にコメン
3	トすることで応答する。
フィードバック	・最終課題レポートにはコメントを付して各自に返送する。
オフィスアワー	随時、メール等で予約の後、オンラインにて行う。
(オンライン曜日・	
時間)	
受講生へのメッセー	LMS に適宜、関連研究論文や最新の審議会情報等を掲載するので参考
ジ*任意項目	にすること。LMS のフォーラム掲示板で積極的な意見交換を求める
備考	小グループに分ける時はビデオ会議システムのブレイクアウトルームや
*任意項目	ホワイトボード機能などを利用する。
授業用 URL	
*任意項目	
授業用 E-Mail	
*任意項目	

ICT を活用した就学前教育

講義名	ICT を活用した就学前教育
単位数	2
単位区分(必修・選択・自由)	選択
講義開講時期	1年前期
講義区分(講義・演習・実習)	講義・演習
担当教員名	堀田博史

	教育界における課題を発見し、背景や関わる要因をグローバル視点で俯瞰し定	
DP1	義することができる。	
	(課題発見・要因定義能力)	
	教育界における課題に情報学の知識・スキルを活用し改善・解決することがで	
DP2-1	きる。	
	(改善・解決能力)	
	教育界における課題に経営学の知識・スキルを活用し改善・解決することがで	
DP2-2	きる。	
	(改善・解決能力)	
	科学的知見に基づき実践からデータを取得し仮説を立て検証することができ	
DP3	ప .	
	(科学的な検証能力)	
	教育テックによる教育界に関する社会変革を目標に、自らの構想を立てること	-
DP4	ができる。	
	(社会変革への構想能力)	

履修	条	件	授業はオンラインによる2コマ連続で実施する。講義と議論を組み合わ
			せているので、欠席・遅刻のないようにしてすること。
授業の概要	Ę		小学校以降に一人一台の情報端末が整備され、教員には個別最適な学び
			と協働的な学びの一体的な充実、授業改善が求められている。その中
			で、就学前教育(特に、幼児教育)における ICT(Information and
			Communication Technology:情報通信技術)活用は、どのようにある
			べきなのかを考え、見つめ直すために、現状の把握とその課題と解決に
			向けた議論を行う。それにより、幼児教育における ICT に関する指導
			技術の習得と向上を目指す。
授業の	テー	- 7	幼児教育での効果的な ICT 活用
及び到達目	目標		○これからの社会を担う子供たちに必要な ICT 活用法を説明できる
			○園の情報化を推進できる
			○保育で効果的に ICT 活用できる

授業計画		授業	外の学習 (60 時間)
	(第1回)講義 なぜ今、幼児教育でICTを活用するのか(講義)		小学校低学年での ICT 活用事例を Web サイトで調べておくこと (2h)
第1講	コロナ禍で ICT はどのように幼児教育で活用されたのか。学齢期前半までの子供のメディア接触の実態と課題を概観、Society5.0 社会で変化する幼児教育での ICT 活用の現状を共有する。	事後	講義後、クラウドツールで共有した内容をスライド等にまとめ。次講での発表準備をする(2h)
	(第2回)演習 なぜ今、幼児教育で ICT を活用するのか(議論)	事前	前講を振り返り、本講での発表内 容を確認しておくこと(4h)
第 2 講	コロナ禍で活用された ICT は、現在どのように活用されているのか。遠隔・オンライン保育は継続されているのか。幼児のメディア接触での健康被害、などを議論する。 (第3回) 講義 保育システムの導入〜効果と課題〜(講義) 働き方改革として、多くの園に保育システムが導入され、業務改善が進みつつある。何をどこまで進めるとよいのか。園の情報化の現状を共有する。	事後	講義後、クラウドツールで共有した内容をスライド等にまとめ。次 講での発表準備をする(4h)
	(第4回)演習	事前	前講を振り返り、本講での発表内 容を確認しておくこと(4h)
第3講	保育システムの導入で、働き方改革は進んだのか。園の情報化認定チェックリストをもとに、時代とともに変化すべき園の情報化の内容を議論する。 (第5回)講義 保育でのICT活用1(講義) 保育でのICTと言えば、アプリの活用をイメージする。子どもは、どのようなアプリで、どのように遊ぶのか。良質なアプリに触れる体験も含め、現状を共有する。	事後	講義後、クラウドツールで共有した内容をスライド等にまとめ。次 講での発表準備をする(4h)
	(第6回)演習 保育での ICT 活用1(議論)	事前	前講を振り返り、本講での発表内 容を確認しておくこと(4h)
第4講	保育でのICT 活用を進めるために、園にどのようなICT 機器が必要なのか。特別支援が必要な子ども向けアプリには何があるのか、などを議論する。 (第7回)講義	事後	講義後、クラウドツールで共有した内容をスライド等にまとめ。次 講での発表準備をする(4h)

		1	T
	保育でのICT活用2(講義)		
	ICT を問題解決に向けた探究的な学びの過程で活		
	用することができているのか。探究的な遊びを実		
	現する ICT 活用の現状を共有する。		子进之后的写为 上进之《双古山
	(第8回)演習	事前	前講を振り返り、本講での発表内容を確認しておくこと(4h)
	保育での ICT 活用 2 (議論)		
	子どもの遊びを探究的にするために、ICTをどの		
	ように活用すればよいのか考え、議論する。		
hoheth	(第9回)講義		
第5講	幼児教育での ICT 活用にルールは必要なのか(講	事後	講義後、クラウドツールで共有した内容をスライド等にまとめ。次
	義)	尹仮	講での発表準備をする(4h)
	大人は子どもが ICT に触れる時には、一定のルー		
	ルが必要である、と考えている。では、園や保育		
	者、保護者は、どのようなルールを設定している		
	のか、現状を共有する。		*****
	(第10回)演習	事前	前講を振り返り、本講での発表内容を確認しておくこと(4h)
	幼児教育での ICT 活用にルールは必要なのか(議		
	論)		
	子どもだけではなく、保育者や保護者の情報モラル教育、デジタルシチズンシップ教育の重要性、個人情報の取り扱い、などを議論する。 (第11回)講義		講義後、クラウドツールで共有し た内容をスライド等にまとめ。次
第6講			
	保育者の情報活用能力育成(講義)		講での発表準備をする(4h)
	保育での ICT 活用を実現するために、保育者には		
	どのようなスキルが必要となるのか。保育での現		
	状を共有する。		
	(M* 10 E1) \\ \tag{15}		並継なEn En 大港への発表中
	(第 12 回) 演習	事前	前講を振り返り、本講での発表内容を確認しておくこと(4h)
	保育者の情報活用能力育成(議論)		
	保育者の情報活用能力チェックリストをもとに、		
	時代とともに変化する情報活用能力の内容を議論		
第7講	する。		講義後、クラウドツールで共有し
	(第13回) 講義	事後	た内容をスライド等にまとめ。次
	諸外国における ECEC でのデジタル活用(講義)		講での発表準備をする(4h)
	OECD 幼児教育・保育白書第7部の内容を概観し		
	て、保育でのICT活用に関するOECD諸国と日本		
	の状況を共有する。		
第8講	(第 14 回) 演習	事前	前講を振り返り、本講での発表内容を確認しておくこと(4h)
ні 4	諸外国における ECEC でのデジタル活用(議論)	事後	授業を振り返り、「なぜ今、幼児

	OECD 幼児	教育・保育白書第7部の内容より、今		教育で ICT を活用するのか」につ	
	後の幼児の言	デジタルリテラシー育成を考え、いま		いて、自らの意見を持つ(4h)	
	何をすべきた	いを議論する。			
	(第 15 回)	講義・演習			
	授業の振り込	豆りと確認テスト:			
	第1回から第	育14回までを振り返り、保育実践でき			
	る ICT 活用	のイメージを共有する。			
定期試験	倹	定期試験は行わない。			
使用テキ	キスト	特に指定しない。必要に応じて資料を	LMS	に掲載しファイルで共有す	
		る。			
参考文献		http://hotta-lab.info/index2.html			
		文部科学省『幼稚園教育要領』			
		厚生労働省『保育所保育指針』			
		厚生労働省『幼保連携型認定こども園	教育・	保育要領』	
		文部科学省『小学校学習指導要領』			
		秋田喜代美・宮田まり子・野澤祥子編著『ICT を使って保育を豊かに:			
		ワクワクがつながる&広がる 28 の実践』中央法規出版			
		木元有香編著・細萱大祐・添田武彦『事例から理解する 保育施設の個			
		人情報取り扱いガイドブック: ICT 時代に必要な対策』中央法規出版			
		堀田龍也・佐藤和紀編著『情報社会を支える教師になるための教育の方			
		法と技術』三省堂			
		鈴木克明『教材設計マニュアル』北大路書房			
		向後千春『いちばんやさしい教える技術』永岡書店			
		稲垣忠・佐藤和紀編著『ICT 活用の理論と実践~DX 時代の教師をめざ			
		して~』北大路書房			
受講生は	こ対する評価	平常評価(小レポート:20%、議論での発表:70%、確認テスト:			
		10%)			
		【評価の基準】			
		1)子供たちの未来に必要な ICT 活用を理解できているか。			
		2)園の情報化を推進する方法が習得できているか。			
7	م المراجع المساوم والمواد	3)保育のねらいを達成する効果的な ICT 活用法を習得できているか。			
	課題等に対す ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	クラウドツール(Google classroom な	ど)を	·活用予定	
るフィー	ードバック				
備考		小グループに分ける時はビデオ会議シ	ステム	のブレイクアウトルームな	

どを利用する。

*任意項目

ICT を活用した初等中等教育

講義名	ICT を活用した初等中等教育
単位数	2
単位区分(必修・選択・自由)	選択
講義開講時期	1 年後期
講義区分(講義・演習・実習)	講義・演習
担当教員名	松田 孝

	教育界における課題を発見し、背景や関わる要因をグローバル視点で俯瞰し定	
DP1	義することができる。	
	(課題発見・要因定義能力)	
	教育界における課題に情報学の知識・スキルを活用し改善・解決することがで	
DP2-1	きる。	
	(改善・解決能力)	
	教育界における課題に経営学の知識・スキルを活用し改善・解決することがで	
DP2-2	きる。	
	(改善・解決能力)	
	科学的知見に基づき実践からデータを取得し仮説を立て検証することができ	
DP3	ప 。	
	(科学的な検証能力)	
	教育テックによる教育界に関する社会変革を目標に、自らの構想を立てること	
DP4	ができる。	
	(社会変革への構想能力)	

履修条件	該当なし
授業の概要	児童・生徒が Society5.0 の社会をしなやかに生きる資質・能力を育む
	「学び」をめぐって、GIGA スクール構想によって配備された情報端末
	を活用することの意義や価値を教育哲学、教育社会学的に考察し、新し
	い授業の理論と方法を学ぶ。
	まずはGIGAスクール前史として、戦後の昭和・平成時代の「学び」の
	在り方及びフューチャースクールから GIGA スクールへの変遷を振り返
	る。
	次に児童・生徒が生きる Society5.0 の社会と時代を社会学的に考察し、
	情報活用に関わる現状のリテラシーやモラル等について検討する。
	さらに学習指導要領が目指すコンピテンシーベースの学びについて検討
	し、非認知能力の育成と評価について議論する。また Society5.0 の社会

	を構築する核となるコンピュータとの相互理解に向けたプログラミング		
	教育の在り方を議論し、その位置付けを検討し、プログラミングの具体		
	を体験する。		
	加えて、児童・生徒に情報機器の基本操作や情報活用能力(情報モラル		
	を含む)を身に付けさせるための指導方法についても理解していく。		
授業のテーマ	本科目では、教育における初等中等教育における情報通信技術(ICT)活		
及び到達目標	用をテーマに以下の目標達成を目指す。		
	①教育(授業)における ICT 活用の意義と理論、非認知能力を育成する		
	ICT の具体的な活用方法を理解している。		
	②Society5.0 の社会において重要となるコンピュータサイエンスの入り		
	口としてのプログラミング教育について理解し、IchigoJamBASIC を活		
	用したプログラミングによるアニメーションを作成できる。		
	③生成 AI やメタバース等の新しい技術と教育との関わりについての意		
	識を醸成するとともにそれらを含めた情報活用能力の体系表を作成す		

る。さらには、デジタル社会の対極としてのアナログの世界を豊かに生

きる五感を磨く教育の重要性について理解する。			
授業計画 (授業は1回を90分とし、2限連続で実施する場合がある)		授業外の学習 (60 時間)	
	(第1回) 講義	事前	シラバスの精読(1h)
第1講	オリエンテーション・GIGA スクールにおける学		現状の整理と課題の把握
	校現場の現状	事後	(2h) /コメントペーパ
			ーの提出(1h)
	(第2回) 講義		フューチャースクールか
	GIGA スクール前史(1)戦後の昭和・平成にお	事前	ら GIGA スクールの変遷
	ける授業実践と教育観		の予習(4h)
	GIGA スクール前史(2)フューチャースクール		
	から GIGA スクールへの変遷と教育実	事後	
第2講	(第 3 回)演習(ビデオ会議システムを活用した		ディスカッションの復習 (2h) /コメントペーパ ーの提出(2h)
	アクティブラーニング等)		
	GIGA スクール前史(1)戦後の昭和・平成にお		
	ける授業実践と教育観		
	GIGA スクール前史(2)フューチャースクール		
	から GIGA スクールへの変遷と教育実践		
	(第4回) 講義		課題提示した Society5.0
	Society5.0 の社会をめぐる考察	事前	の啓発動画の視聴と内容
	Society5.0 の社会を生きる資質・能力		の整理(4h)
第3講	(第 5 回)演習(ビデオ会議システムを活用した		ディスカッションの復習
	ワークショップ等)	事後	(2h) /コメントペーパ
	Society5.0 の社会をめぐる考察		(2h) / コメンドベーバ 一の提出 (2h)
	Society5.0 の社会を生きる資質・能力		- 91庭山(211)

	(笠 (同) 建美		学羽化道西绍の亦運の数
ΔΔ: Δ =#±	(第6回)講義 Site 50 の社会とは認知学生		学習指導要領の変遷の整理(21)/指索される立
	Society5.0 の社会と非認知能力	事前	理(2h)/指定された文
	非認知能力と個別最適な学び		献の精読(2h)
第4講	(第 7 回) 演習 (ビデオ会議システムを活用した		ディスカッションの復習
	ワークショップ等)	事後	(2h) /コメントペーパ
	Society5.0 の社会と非認知能力	尹仮	
	非認知能力と個別最適な学び		ーの提出 (2h)
	(第8回)講義	事前	WEB-QU についての予習
	ICT を活用した学級経営		(4h)
	ICT を生かした学級集団づくり(WEBQ-U の活		
	用)		
第5講	(第 9 回) 演習 (ビデオ会議システムを活用した		ディスカッションの復習
	模擬体験等)	事後	(2h) /コメントペーパ
	ICT を活用した学級経営		ーの提出(2h)
	ICT を生かした学級集団づくり(WEBQ-U の活		
	用)		
	(第 10 回)講義		プログラミング授業の課
	プログラミング教育の現状と課題		題整理(2h)/「小学校
	初等・中等教育のプログラミングと高等学校「情	事前	プログラミング教育の手
	報」		引き続き」初版と第3版
第6講	(第 11 回)演習(ビデオ会議システムを活用した		の比較検討 (2h)
	ワークショップ等)		ディスカッションの復習
	プログラミング教育の現状と課題	事後	(2h) /コメントペーパ
	初等・中等教育のプログラミングと高等学校「情	712	(2h) / L) /
	報」		• у јуец (211)
	(第 12 回) 講義	事前	プログラミング教育の課
	IchigoJamBASIC によるプログラミング①	2.11.1	題整理 (4h)
	IchigoJamBASIC によるプログラミング②		コメントペーパーの提出
第7講	(第 13 回)演習(ビデオ会議システムを活用した		(2h) / IchigoJam
	体験等)	事後	BASIC を使ったプログラ
	IchigoJamBASIC によるプログラミング①		ミング作品の制作(2h)
	IchigoJamBASIC によるプログラミング②		スクリド曲の向下 (ZII)
	(第 14 回) 講義		Society5.0 の技術革新と生
第8講	生成 AI 等の活用と情報活用能力	事前	活との関わりについての
	初等・中等教育における情報活用能力(体系表)		整理 (3h)
	(第 15 回)演習(ビデオ会議システムを活用した		コマントペーパーの担川
	アクティブラーニング等)	事後	コメントペーパーの提出
	生成 AI 等の活用と情報活用能力		(1h)/情報活用能力
	初等・中等教育における情報活用能力(体系表)		(体系表)の作成(4h)

定期試験	該当なし
, =,,,,,,	
使用テキスト	テキストは使用せず必要な資料を LMS にて作成・配布する。受講生が
	授業外の学習にて視聴した動画(URL)を一覧にして配布し、各々の
	内容理解を深めるための参考資料とする。
参考文献	小学校学習指導要領」「中学校学習指導要領」(文部科学省、各最新
	版)
	「IchigoJam ではじめるテキストプログラミングの授業」(松田孝著、く
	もん出版)
	「小学校プログラミング教育の手引き」(文部科学省)
	「非認知能力: 概念・測定と教育の可能性」(小塩 真司著/編集 北大
	路書房)
受講生に対する評価	① 各回の授業でのディスカッションへの貢献・小レポート② コメント
	 ペーパー及び授業の振り返りと自己評価(Shuffle.活用)の提出 以上,
	①(30%),②(70%)の総合評価により判定する。
授業・課題等に対す	授業の振り返りと自己評価(Shuffle.活用)の提出により行う。
る	
フィードバック	
オフィスアワー	特に設けないが、質問があれば遠慮なく授業時間内及びメール等により
(オンライン曜日・	コンタクトをとって対応する。
時間)	
受講生へのメッセー	Society5.0 の社会をしなやかに生きる真の力を育む授業の事実を創り出
ジ*任意項目	そうとする熱意のある人
	 LMS のフォーラム掲示板で積極的な意見交換を求める。
 備考	小グループに分ける時はビデオ会議システムのブレイクアウトルームな
	どを利用する。動画視聴においては、コンテンツ(Shuffle.)を活用し
	て受講生が各自の視聴履歴とともに視聴内容に対するコメントを振り返
	ることができるようにする。
 授業用 URL	
*任意項目	
授業用 E-Mail	
│ *任意項目 │	

ICT を活用した高等教育

講義名	ICT を活用した高等教育
単位数	2
単位区分(必修・選択・自由)	選択
講義開講時期	2年前期
講義区分(講義・演習・実習)	講義・演習
担当教員名	村上 正行

	教育界における課題を発見し、背景や関わる要因をグローバル視点で俯瞰し定	
DP1	義することができる。	
	(課題発見・要因定義能力)	
	教育界における課題に情報学の知識・スキルを活用し改善・解決することがで	
DP2-1	きる。	
	(改善・解決能力)	
	教育界における課題に経営学の知識・スキルを活用し改善・解決することがで	
DP2-2	きる。	
	(改善・解決能力)	
	科学的知見に基づき実践からデータを取得し仮説を立て検証することができ	
DP3	る。	
	(科学的な検証能力)	
	教育テックによる教育界に関する社会変革を目標に、自らの構想を立てること	
DP4	ができる。	
	(社会変革への構想能力)	

履修条件	該当なし	
授業の概要	高等教育における ICT の活用について、ミクロ・ミドル・マクロの観	
	点から利点や必要性、課題について学ぶ。その上で受講生自身が関わる	
	教育現場などにおいてどのように活用・適用していくのか、設計・実	
	践・評価の方法について学ぶ。	
授業のテーマ	高等教育におけるICTの活用について、下記4点を到達目標として、	
及び到達目標	受講生自身の教育実践に活用できることを目指す。	
	1 高等教育における ICT 活用の利点・課題について説明できる	
	2 高等教育における ICT を活用した授業の設計・実践ができる	
	3 高等教育における ICT を活用したカリキュラムや組織運営の設計・	
	改善ができる	
	4 高等教育における教育データ利活用のポイントを説明できる	
授業計画 (授業は1回を90分とし、2限連続で実施する場合がある) 授業外の学習 (60時間)		

	(第 1 回)ガイダンス・教育における ICT 活用の	事前	シラバス・資料の精読 (2h)
第1講	現状(講義)		
	本授業の概要、授業目標を把握し、教育における		
	ICT 活用の現状について学び、自身が持つ興味・	事 級	2 2 2 2 6 円 川 (01)
	関心について整理する。	事後	ミニレポートの提出(2h)
	学習指導要領における「情報活用能力」の理解を		
	深め高等教育の役割を確認する。		
	(第2回)高等教育における DX・ICT の活用(講		指定文献の精読(3h)
	義)高等教育における DX や ICT の活用に関する	事前	事前課題への取り組み (1h)
	現状について広く学ぶ。		
habe a -the	(第3回)高等教育における DX・ICT の活用(演		
第2講	習)		授業資料の確認(1h)
	高等教育における DX や ICT の活用に関する課題	事後	
	について議論し、今後の授業に向けて、マクロ・		
	ミドル・ミクロなどの観点から整理する。		
	(第4回)高等教育の歴史と現状・課題(講義)	事前	指定文献の精読 (3h)
	高等教育の歴史についてマクロの観点から学ぶと	7	事前課題への取り組み(1h)
笠 0 ≇	ともに、現在の状況や政策動向を把握する。		
第3講	(第5回) 高等教育の歴史と現状・課題 (演習)	事後	授業資料の確認 (1h)
	歴史や現状を知った上で、課題を整理し、今後の	7 12	ミニレポートの提出(3h)
	解決策について議論を通して検討する。		
	(第6回)高等教育の授業における ICT 活用の実		
	際と課題(講義)	事前	指定文献の精読(1h)
	インストラクショナルデザインなどを踏まえた授		事前課題への取り組み (3h)
	業デザインについて学習し、アクティブラーニン		
第4講	グなどを取り入れた授業実践について学ぶ。		
	(第7回)高等教育の授業における ICT 活用の実	±.,,	授業資料の確認(1h)
	際と課題(演習)	事後	ミニレポートの提出 (3h)
	実際に ICT を活用した授業デザインを行い、グル		
	ープに分かれて模擬授業を実践し、改善する		
	(第8回)高等教育のカリキュラムにおける ICT		
第 5 講	活用の実際と課題(講義)	事前	指定文献の精読(1h) 事前課題への取り組み(3h)
	高等教育のカリキュラムについて学んだ上で、		3. B3 B4 (2 2 2 2 7 7 世元 2 7 (2 11)
	ICT 活用の実際について、大学の実践などを通し		
	て理解する。		
	(第9回)高等教育のカリキュラムにおける ICT	事效	授業資料の確認(1h)
	活用の実際と課題(演習)	事後	ミニレポートの提出 (3h)
	実際に大学のカリキュラムにおける ICT 活用の設		
	計を検討し、その内容について議論する。		

	(第10回) 高等教育機関における ICT 活用の実際 と課題(講義)		事前	指定文献の精読 (1h) 事前課題への取り組み (3h)
第6講 び、課題に (第11回 際と課題 高等教育機		別における ICT 活用で優れている事例 トするとともに、改善点について議論	事後	授業資料の確認 (1h) ミニレポートの提出 (3h)
(講義)		個別最適化学習やデータ駆動型教育 やAI などを活用して行う個別最適化学		指定文献の精読(1h) 事前課題への取り組み(3h)
第7講 (第13回) (演習) 個別最適化生		図動型教育の理論について学ぶ。 個別最適化学習やデータ駆動型教育 学習やデータ駆動型教育の事例を調べ とともに、今後の展望について議論す	事後	授業資料の確認(1h) ミニレポートの提出(3h)
	展望(講義)	高等教育における ICT 活用の今後の 対育における ICT 活用の今後の展望に	事前	事前課題への取り組み(4h)
第8講	展望 (演習) これまでの打	高等教育における ICT 活用の今後の 受業を踏まえて、今後の高等教育にお 用の今後の展望をまとめ、グループ内 議論する。	事後	最終レポートの提出(4h)
定期試験		定期試験は実施しない。		
使用テキスト		必要に応じて、LMS などで PDF などの資料を提供する		
参考文献		文部科学省『高等学校学習指導要領』 その他、別途指示する		
受講生に対する評価		下記3点をふまえ、総合評価によって判定する ・授業におけるグループワークの取り組み(7回(第1講を除く))執告レポート ・毎回の授業後のミニレポート(7回)(到達目標①~④に対応) ・最終レポート(1回) 1 2%×7回=14% 2 8%×7回=56%		

	3 30%
授業・課題等に対	LMS の機能、各回の授業の最初の時間を活用してフィードバックを行
する	う
フィードバック	
オフィスアワー	
(オンライン曜日・	
時間)	
受講生へのメッセー	
ジ*任意項目	
備考	小グループに分ける時はビデオ会議システムのブレイクアウトルームな
*任意項目	どを利用する。
授業用 URL	
*任意項目	
授業用 E-Mail	
*任意項目	

ICT を活用した特別支援教育

講義名	ICT を活用した特別支援教育
単位数	2
単位区分(必修・選択・自由)	選択
講義開講時期	2年前期
講義区分(講義・演習・実習)	講義・演習
担当教員名	金森克浩

	教育界における課題を発見し、背景や関わる要因をグローバル視点で俯瞰し定	
DP1	義することができる。	
	(課題発見・要因定義能力)	
	教育界における課題に情報学の知識・スキルを活用し改善・解決することがで	
DP2-1	きる。	
	(改善・解決能力)	
	教育界における課題に経営学の知識・スキルを活用し改善・解決することがで	
DP2-2	きる。	
	(改善・解決能力)	
	科学的知見に基づき実践からデータを取得し仮説を立て検証することができ	
DP3	る。	
	(科学的な検証能力)	
	教育テックによる教育界に関する社会変革を目標に、自らの構想を立てること	
DP4	ができる。	
	(社会変革への構想能力)	

履修条	+ 件	特別支援教育に広く関心を持ち、その中で ICT がどのように活用され
		ているかを学びたい人
授業の概要		障害のある子どもの ICT の活用は 2 つの意味で重要な役割を果たす。1
		つめは、障害による困難さを支援する機能代替的なアプローチとしての
		活用であり、2 つめは、学習環境を整え学びに向かう力を育成するもの
		である。それらについて、具体例を学びながら履修者とディスカッショ
		ンしながら学びを深めていく。
授業のテ	ーマ	(テーマ)特別支援教育について概観し、障害のある子どもの教育に ICT
及び到達目標		がどのような役割を果たすかを理解しその役割について考察する。
		(到達目標)
		・障害のある幼児児童生徒が抱える学習上や生活上の困難を改善克服す
		るための ICT 活用について説明ができる。
		・合理的配慮と基礎的環境整備としての ICT 活用について具体例を挙

げて説明することができる。

・障害者や高齢者にとっての ICT 意義とその活用方法について説明することができる

授業計画 (授業は1回を90分とし、2限連続で実施する場合がある)			授業外の学習 (60 時間)	
第1講	(第1回) 講義 講義の進め方・特別支援教育における ICT 活用の 概要	事前	参考文献を見て特別支援教育における ICT 活用について調べる(3h)	
	本講義において必要とされる基本的な知識と、履修する上での参考資料、等を説明し学び方について解説する。	事後	レポートの作成(1h)	
	(第2回)講義 障害のある子どもの教育制度と基本的な考え方 「学習指導要領」「教育の情報化に関する手引」	事前	特別支援学校学習指導要領につい て調べ、ICT の活用がどのように 書かれているか調べる(6 h)	
第 2 講	「学音指导安領」「教育の情報化に関する子句」 「障害者の権利条約」等を解説しながら特別支援 教育における ICT 活用のポイントを確認する (第3回) 演習 障害のある子どもの教育制度と基本的な考え方 上記内容を押さえつつ、履修者同士でディスカッションする。	事後	レポートの作成(2h)	
第3講	(第4回) 講義 困難さに対応した ICT の活用(発達障害)	事前	発達障害のある子どもの ICT の活 用についてどのような事が必要と されているか調べる(6h)	
	発達障害教育についての基本的事項を理解し、通常学級等における ICT 活用の現状とその活用方法を確認する (第5回) 演習 困難さに対応した ICT の活用(発達障害) 上記内容を押さえつつ、履修者同士でディスカッションする。	事後	レポートの作成(2h)	
第4講	(第6回) 講義 困難さに対応した ICT の活用(視覚障害)	事前	視覚障害のある子どもにどのよう な ICT 活用があるかを調べる(6 h)	
	視覚障害教育についての基本的な事項を押さえつつ、ピンディスプレイ、スクリーンリーダー等の専門的な機器について学ぶ(第7回)演習困難さに対応したICTの活用(視覚障害)上記内容を押さえつつ、履修者同士でディスカッションする。	事後	レポートの作成(2h)	
		事前	聴覚障害のある子どもにどのよう	

	(か 0 口)		な ICT 活用があるかを調べる(6
	(第8回)講義 同機(2) (第8回)講義		は ICI 佰用があるがを調べる(0 h)
	困難さに対応したICTの活用(聴覚障害)		
	聴覚障害教育記についての基本的な事項を押さえ		
tota	一つつ、見える校内放送、聴覚支援機器等について		
第5講	学ぶ	事後	レポートの作成(2h)
	(第9回)演習	ず仮	ν (2 II)
	困難さに対応した ICT の活用(聴覚障害) 		
	上記内容を押さえつつ、履修者同士でディスカッ		
	ションする。		
	(第 10 回)講義	事前	知的障害のある子どもにどのよう な ICT 活用があるかを調べる(6
	困難さに対応した ICT の活用(知的障害)	¥111	h)
	知的障害教育についての基本的な事項を押さえつ		
	一つ、知的障害特別支援学校でのコミュニケーショ		
第6講	ン支援や学習支援機器を学ぶ		
	(第 11 回)演習	事後	レポートの作成(2h)
	困難さに対応した ICT の活用(知的障害)		
	上記内容を押さえつつ、履修者同士でディスカッ		
	ションする。		
	(第 12 回)講義	声盐	肢体不自由や病弱の子どもにどの
	困難さに対応した ICT の活用(肢体不自由・病弱)	事前	ような ICT 活用があるかを調べる (6h)
	肢体不自由教育・病弱教育についての基本的な事		
	項を押さえつつ、さまざまな支援機器や遠隔学習		
第7講	について学ぶ		レポートの作成(2h)
	(第 13 回)演習	事後	
	困難さに対応した ICT の活用(肢体不自由・病弱)		
	上記内容を押さえつつ、履修者同士でディスカッ		
	ションする。		
	(第 14 回)講義	**	障害者や高齢者にとって ICT はど
第8講	社会参加や自立に向けての ICT 活用・本講義のま	事前	のような意義があるかを調べる(5 h)
	とめ		
	本講義全般に通じる、基礎的環境整備と合理的配		
	慮について理解し、障害のある子どもの学習に生		
	かす ICT 活用の重要性について学ぶ		
	(第 15 回) 演習	事後	レポートの作成(3h)
	社会参加や自立に向けての ICT 活用・本講義のま		
	とめ		
	講義全体を振り返り、重点となる事項を再確認し		
	て討議する。		

定期試験	レポート課題
使用テキスト	金森克浩 大杉成喜 苅田知則 編著『支援機器を用いた合理的配慮概論』
	建帛社(税込 2,970 円)
参考文献	教育の情報化に関する手引
	特別支援学校学習指導要領
受講生に対する評価	各回に作成を求める「小レポート」と学期末レポートを総合的に評価す
	る。
	小レポート 70% 学期末レポート 30%
授業・課題等に対す	「小レポート」の内容について次回の授業時にコメントする。必要に応
3	じ授業時に受講生による討論を行う。
フィードバック	各課題について、講義の時間および、次回の講義で解説をする。
オフィスアワー	
(オンライン曜日・	
時間)	
受講生へのメッセー	LMS のフォーラム掲示板で積極的な意見交換を求める
ジ*任意項目	特別支援教育についての基本的な知識について事前に予習して臨んでほ
	しい。
備考	小グループに分ける時はビデオ会議システムのブレイクアウトルームな
*任意項目	どを利用する。
	皆さんが利用する ICT 機器には、すでにアクセシビリティ機能が実装
	されているので、講義中にその使い方についても演習をする
授業用 URL	
*任意項目	
授業用 E-Mail	
*任意項目	

XR の教育応用

講義名	XR の教育応用
単位数	2
単位区分(必修・選択・自由)	選択
講義開講時期	2年前期
講義区分(講義・演習・実習)	講義・演習
担当教員名	竹村治雄

	教育界における課題を発見し、背景や関わる要因をグローバル視点で俯瞰し定	
DP1	義することができる。	
	(課題発見・要因定義能力)	
	教育界における課題に情報学の知識・スキルを活用し改善・解決することがで	
DP2-1	きる。	
	(改善・解決能力)	
	教育界における課題に経営学の知識・スキルを活用し改善・解決することがで	
DP2-2	きる。	
	(改善・解決能力)	
	科学的知見に基づき実践からデータを取得し仮説を立て検証することができ	
DP3	ప 。	
	(科学的な検証能力)	
	教育テックによる教育界に関する社会変革を目標に、自らの構想を立てること	
DP4	ができる。	
	(社会変革への構想能力)	

履修条件	大学レベルの一般情報教育の課程を履修していることが望ましい
授業の概要	XR についての技術的背景、研究開発の歴史、今後の発展に向けての技術的課題を理解し、XR の教育応用について、学習内容と学習レベルに応じた教育応用の手法について概説する。
授業のテーマ	XR,すなわち、バーチャルリアリティ (VR)、拡張現実 (AR)、複合現
及び到達目標	実 (MR) についての基礎的な概念を理解し、教育学的観点からこれらの教育応用について理解し、教育における効果的な XR の利用について、ブルームの分類学における三領域における効果的な XR の利用形態およびそのために必要な XR 教材の構築手法についての解説と実践ができることを目指す。

授業計画	到(授業は1回を 90 分とし、2 限連続で実施する場合がある)	授業	外の学習 (60 時間)
	(第1回)	事前	事前予習ビデオの視聴、関連資料 の精読(2h)
	導入、本授業が取り扱う対象と授業の概要につい		9 有成化(211)
第1講	て概説し、履修方法及び成績評価についても説明		復習および、授業内で説明のあっ
>14 - H13	する。また、授業で用いるソフトウェアツール	事後	たツールが利用できる環境を構築
	(Unity, VRChat 等の導入方法、利用に向けての		すること。(2h)
	自習教材について説明する。		
	(第2回) 講義	事前	事前予習ビデオの視聴と、関連資料の党閥(41)
	VR の技術的背景と要素技術について講義する。		料の学習(4h)
	人工現実感、バーチャルリアリティの技術的発展		
	の歴史を振り返り、VRを構成する要素技術につい		
	て理解する。また、ヒトの認知特性と VR とのか		
	かわりについて理解し、関連する原理ついて理解		
	する。		
第2講	(第3回)演習 VRの技術的背景と要素技術について講義する。 人工現実感、バーチャルリアリティの技術的発展		講義を振り返り、内容を整理しレポート課題を作成し提出する。(4h)
	の歴史を振り返り、VRを構成する要素技術につい		
	て理解する。また、ヒトの認知特性と VR とのか		
	かわりについて理解し、関連する原理ついて理解		
	する。		
	(第4回) 講義	事前	事前予習ビデオの視聴と、関連資料の学習(4h)
	AR における技術機背景と要素技術について講義す		11 C 4 H \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \
	3		
	A Rを実現するために要素技術ならいびに入出力		
	装置の構成方法について理解し、ARの整合性に		
第3講	関する三要素について理解する。		講義を振り返り、内容を整理しレ
	(第5回)演習	事後	ポート課題を作成し提出する。
	AR における技術機背景と要素技術について講義す		(4h)
	ARを実現するために要素技術ならいびに入出力		
	装置の構成方法について理解し、ARの整合性に		
	関する三要素について理解する。	**	국-사 기 기 이 기 이 기 이 기 기 기 기 기 기 기 기 기 기 기 기
		事前	事前予習ビデオの視聴と、関連資

	(第6回)講義		料の学習(4h)
第 4 講	MR における技術的背景と要素技術について講義する。 MRのうち、VR/ARで触れられていないAugmented Virtuality 実現のための要素技術いて理解し、実世界の三次元モデル化の手法の原理について理解する。 (第7回)演習MRにおける技術的背景と要素技術について講義する。 MRのうち、VR/ARで触れられていないAugmented Virtuality 実現のための要素技術いて理解し、実世界の三次元モデル化の手法の原理について理解する。	事後	講義内で説明のあった、三次元モデリング手法を用いて、身近な三次元物体をモデル化する演習を行い、その成果をレポートとして提出する。(4h)
	(第8回) 講義	事前	事前予習ビデオの視聴と、関連資料の学習(4h)
第 5 講	ブルームの学習に関する分類学の概説とそれらの 到達目標ごとの XR 教材の利用の効果について講 義する。 ブルームの分類学による認知領域、情意領域、精 神運動領域における XR 教材の効果的な利用方法 について事例紹介を含めて概説し、XR 教材作成に 関する基本を理解する。 (第9回)演習 ブルームの学習に関する分類学の概説とそれらの 到達目標ごとの XR 教材の利用の効果について講 義する。 ブルームの分類学による認知領域、情意領域、精 神運動領域における XR 教材の効果的な利用方法 について事例紹介を含めて概説し、XR 教材作成に 関する基本を理解する。	事後	講義を受けて、自ら XR を用いた 学習内容を選択し、それを用いた XR 教材の構成方法を考え、教材 の概念設計を行う演習を行い、レ ポートとして提出する。(4h)
	(第 10 回) 講義 メタバースにおける身体性に関する基本について	事前	事前予習ビデオの視聴と、関連資料の学習(4h)
第6講	理解する。アバターを用いたコミュニケーションの特性について理解する。 (第 11 回)演習 メタバースにおける身体性に関する基本について 理解する。アバターを用いたコミュニケーション の特性について理解する。	事後	アバターの身体性を理解したうえでその特徴を活かした、学習者自らのアバターを作成し、メタバース空間に配置する。その内容をレポートとして提出する。(4h)
第7講	(第 12 回) 講義	事前	事前予習ビデオの視聴と、関連資料の学習(4h)

•	_			,
	ついての準備 めに、ゲーカ	用についての事例紹介と授業内演習に		
	解する。 (第 13 回) XR の教育応 ついての準備 めに、ゲーム ース環境を	を用いた教材の作成に必要な基礎を理演習 用についての事例紹介と授業内演習に 請 XRの教育応用の事例を構築するた ムエンジンを用いた VR 教材やメタバ 用いた教材の作成手法について概説 を用いた教材の作成に必要な基礎を理	事後	第 6 週で選択した学習内容を実現する教材を部分的に構築する演習を実施し、次週にその内容を授業内で報告するための準備を行う。(4h)
	(第 14 回)		事前	事前予習ビデオの視聴と、関連資 料の学習(4h)
第8講	XRの教育応用に関する演習成果の発表と授業の振り返り。各自演習内容を事前にビデオ録画し提出することで、グループごとに互いの演習成果を相互評価する。また、全体についての講評を行う。 (第15回)演習 XRの教育応用に関する演習成果の発表と授業の振り返り。各自演習内容を事前にビデオ録画し提出することで、グループごとに互いの演習成果を相互評価する。また、全体についての講評を行う。		事後	授業の振り返り、授業アンケート への回答行う。定期試験に向けた 学習内容の振り返り。(4h)
定期試験	険 ————————————————————————————————————	15 回講義終了後に、オンラインにて記	【験を3	実施する。
使用テ	キスト	教材は、LMS から配布する		
参考文献	猒	雨宮智浩著 メタバースの教科書 オーム社(2023)		(2023)
受講生は	こ対する評価	本講義の評価は、事後学習で提出するレポートの評価 (40%)、期末試験 (30%) および、演習課題の評価(30%)で総合的に行う。		
授業・課題等に対する		課題等に対するフィードバックは LMS の機能を用いて行う。受講生同士の意見交換の場としては LMS 上の掲示板等を用いる。		
フィードバック		原則、オンラインツールを用いた面談	かがけ	でする <i> </i>
オフィスアワー (オンライン曜日・ 時間)		いて事前に対応日時を予約すること。	. C X I / C	ンメる。和主日は LIVIO で用
受講生ペジ*任意	へのメッセー 意項目	後日掲載		

備考	後日掲載
*任意項目	
授業用 URL *任意項目	後日決定
授業用 E-Mail *任意項目	後日決定

教育政策論

講義名	教育政策論
単位数	2
単位区分(必修・選択・自由)	選択
講義開講時期	2年前期
講義区分(講義・演習・実習)	講義・演習
担当教員名	木岡 一明

	教育界における課題を発見し、背景や関わる要因をグローバル視点で俯瞰し定	
DP1	義することができる。	
	(課題発見・要因定義能力)	
	教育界における課題に情報学の知識・スキルを活用し改善・解決することがで	
DP2-1	きる。	
	(改善・解決能力)	
	教育界における課題に経営学の知識・スキルを活用し改善・解決することがで	
DP2-2	きる。	•
	(改善・解決能力)	
	科学的知見に基づき実践からデータを取得し仮説を立て検証することができ	
DP3	ప .	
	(科学的な検証能力)	
	教育テックによる教育界に関する社会変革を目標に、自らの構想を立てること	
DP4	ができる。	
	(社会変革への構想能力)	

履修条件	教育界の改革に意欲的であること。	
授業の概要	今日日本の教育政策動向を踏まえ、明 変遷と制度改革の動向、それらに伴う つつ、学校をはじめとした教育経営体 り方を探究する。	教育行財政の特質と問題を概説し
授業のテーマ テーマ;日本における教育政策の近未来を展望する 及び到達目標:教育政策、教育制度、教育行財政、教育経営の関係を連続と 非連続の両面から説明できる。		
授業計画 (授業は1回を90) 分とし、2 限連続で実施する場合がある)	授業外の学習 (60 時間)

	(第1回) 講義	事前	本シラバスの熟読と感想の整理。 (2h)
第1講	オリエンテーション;講義概要、基本用語、基礎 概念について理解し、今後の学修を見通す。	事後	学修計画の作成(2h)
第2講	(第2回)講義 近代公教育の成立過程;宗教改革、市民革命、産 業革命が果たした役割について公教育制度成立の 視点から説明できる。		1. 宗教改革、市民革命、産業革命について、その経緯、結果の整理。(2h) 2. 明治期の教育政策についての年表作成。(2h)
	(第3回)講義 明治維新と公教育政策の展開;ヨーロッパ諸国に 遅れて近代国家の確立を目指すことになった明治 政府が、当初、いかなる教育政策を展開し、制度 基盤を整備していったのかの経緯を理解する。	事後	 プロイセン改革における教育 改革の整理。(2h) 森有礼が構想した教育プラン の要約。(2h)
	(第4回)講義 殖産興業政策による公教育の拡充;産業革命を機 に殖産興業政策に乗り出した政府が、いかなる意 図でいかに公教育制度を整備していったのかの経	事前	1. 明治中期以降大正期の間に新設・改組された学校のリスト化。 (2h) 2. 第一次米国教育使節団報告書の熟読と要約。(2h)
第 3 講	緯を理解し、戦後日本の教育政策に繋がる視点を 獲得する。 (第5回)講義 戦後教育改革による公教育政策の転換;敗戦を機 に民主化政策に転じた政府が、いかなる意図でい かに公教育制度を整備していったのかの経緯を理 解し、今日の教育政策に繋がる視点を獲得する。	事後	1. 井上毅文相が公教育制度確立 に果たした役割の整理。 (2 h) 2. 改正前の教育基本法の各条項 の熟読と立法趣旨の要約。 (2 h)
	(第6回)講義 「地方教育行政法」体制への転換;中央集権体制 に転換した政府が、いかなる意図でいかに公教育 制度を整備していったのかの経緯を理解し、分権	事前	 教育委員の公選制と任命制についての自己の考えの整理。(2h) 教育投資論についての自己の考えの整理。(2h)
第4講	化政策に繋がる視点を獲得する。 (第7回)講義 高度経済成長下における教育政策;高度経済成長 が公教育政策にどのような影響を及ぼし、いかな る公教育現実を生み出すことになったかを理解 し、今日に連なる教育改革課題を析出できる。	事後	1. 「地方教育行政法」成立によって変わった学校の位置づけの整理。(2h) 2. 講義中に提示する中央教育審議会四六答申の熟読と要約。(2h)
第5講	(第8回)講義 分権化政策の展開と公教育制度;構造改革の展開 によって生み出された分権化政策が、いかなる公	事前	1. 分権化政策の背景の整理。 (2 h) 2. 学校教育法の熟読と要約。 (2 h)
24 0 時	教育体制を導き、いかに公教育を進めようとしているのかを理解し、教育改革課題を析出できる。 (第9回)講義	事後	 総合教育会議のメリットの整理。(2h) 教育振興基本計画の意義についての整理。(2h)

	校の視点から	こおける公教育の構造(1);国公立学 お、憲法、教育基本法、学校教育法等 法制を理解し、教育行財政改革の可能		
	性を探る。			
		講義 ニおける公教育の構造(2);私立学校 ン、憲法、教育基本法、学校教育法等	事前	 私立学校に関する法令のリスト化。(2h) 子ども家庭庁発足の背景の整理。(2h)
第6講	性を探る。 (第 11 回) 中央教育行則	材政体制の機能と構造;今日の中央教制について、果たしうる機能を理解		 私学助成金制度を巡る議論の整理。(2h) 「令和の日本型学校教育」が目指す近未来の学校教育像の整理。(2h)
	(第12回) 地方教育行則 育行財政体		事前	1. 学校運営協議会制度の趣旨と体制の整理。(2h) 2. 「学校の自主性・自律性」確立の可能性についての自己の考えの整理。(2h)
第7講	学校経営のF 財政体制下	(第13回)講義 学校経営の自主性と自律性;中央-地方の教育行 対政体制下にある学校経営について、自主性・自 学性のアリーナを理解し、学校経営改革の可能性 学探る。		 今後の教育委員会制度改革の展望についての自己の考えの整理。(2h) 現行法制下における「学校の自律性」の範囲について整理。(2h)
	グループ協調で、数名のク	第 14 回)演習 ループ協議(1);日本の教育政策の展望につい 、数名のグループで自由に議論する。 第 15 回)演習		1. 日本の教育政策の展望についての自己の考えの整理。(2h) 2. 国際社会において活躍できる人材像についての自己の考えの整理。(2h)
第8講	グループ協議(2);グローバル化する国際社会において活躍できる人材を育成するには、国、地方、教育経営体の各レベルごとにどのような施策が必要なのかについて、数名のグループで自由に議論する。		事後	修了レポートの作成。(4 h)
定期試験	 食	実施しない。ただし、評価は「受講生	に対す	る評価」欄を参照のこと。
使用テキスト		特になし。		
参考文献		堀内孜編『公教育経営の展開』東京書村上祐介・橋野晶寛『教育政策・行政 その他は授業中に紹介する。	の考え	方』有斐閣、2020年。
受講生に対する評価		毎回の事前・事後学修課題レポート(評価観点;内容の適切性、独自性、		

	be
	修了レポート;「国際社会に活躍できる人材育成プラン」をテーマにレ
	ポート(3600 字程度)をまとめて提出する。(配点;44%)
	評価観点;内容の説得性、独自性、論理的妥当性、一貫性、文章表現
	詳細は講義中に提示する。
授業・課題等に対す	応答レポートについては、各回の講義開始時にコメントすることで応え
る	る。修了レポートについては、コメントを付けて各自に返送する。
フィードバック	
オフィスアワー	毎週水曜日・18:00~20:00
(オンライン曜日・	希望する人は事前予約してください。
時間)	
受講生へのメッセー	LMS のフォーラム掲示板で積極的な意見交換を求める
ジ*任意項目	
備考	小グループに分ける時はビデオ会議システムのブレイクアウトルームな
*任意項目	どを利用する。
授業用 URL	
*任意項目	
授業用 E-Mail	
*任意項目	

ソーシャル・アントレプレナーシップ論

講義名	ソーシャル・アントレプレナーシップ論
単位数	2
単位区分(必修・選択・自由)	選択
講義開講時期	1年前期
講義区分(講義・演習・実習)	講義・演習
担当教員名	大和田順子

	教育界における課題を発見し、背景や関わる要因をグローバル視点で俯瞰し定	
DP1	義することができる。	
	(課題発見・要因定義能力)	
	教育界における課題に情報学の知識・スキルを活用し改善・解決することがで	
DP2-1	きる。	
	(改善・解決能力)	
	教育界における課題に経営学の知識・スキルを活用し改善・解決することがで	
DP2-2	きる。	
	(改善・解決能力)	
	科学的知見に基づき実践からデータを取得し仮説を立て検証することができ	
DP3	ప .	
	(科学的な検証能力)	
	教育テックによる教育界に関する社会変革を目標に、自らの構想を立てること	
DP4	ができる。	
	(社会変革への構想能力)	

履修条件	国内外の社会課題の解決に関し、熱意と実践意欲を有すること
授業の概要	ソーシャル・アントレプレナーシップ(社会起業)やソーシャル・イノ
	ベーションについて学び、社会性の高い教育事業を起こすための研究を
	行う。また、ソーシャル・アントレプレナーシップに欠かせないプロジ
	ェクト&プログラムマネジメントや、対話・協働の技法についても学
	杀。
授業のテーマ	本授業では、SDGs の推進に欠かせないソーシャル・アントレプレナ
及び到達目標	ーシップやソーシャル・イノベーションについて学び、社会性の高い教
	育事業を起こすための研究を行う。また、ソーシャル・イノベーション
	の主体となる社会起業家や社会的企業などを SDGs の 17 目標と関連づ
	け、国内外の実践事例から学ぶ。特に、自然資本関連や農林漁業・農山
	漁村における教育プログラムや教育事業について取り上げる。
	また、プロジェクトのマネジメント手法として、プロジェクト&プログ
	ラムマネジメント(P2M)や、対話・協働などワークショップの技法に

	ついても学び、学生自ら企画・実践できるようにする。		
授業計画] (授業は1回を 90 分とし、2 限連続で実施する場合がある)	授業外の学習 (60 時間)	
	(第1回) 講義	事前	授業の予習 (2h)
第1講	ソーシャル・アントレプレナーシップ 1		
	ソーシャル・アントレプレナーシップおよび、ソ	事後	ソーシャル・アントレプレナーに ついて調べる (2h)
	ーシャル・イノベーションについて学ぶ		2 (Ling - 3 (Lin)
	(第2回) 講義	事前	授業の予習 (4h)
	ソーシャル・アントレプレナーシップ 2		
	各自が調べた実践例について報告するとともに、		
答 0 /国	社会課題の解決に関し、討議を行う		
第2週	(第3回)演習	事後	授業のフィードバック (2 h) ワークショップの振り返り (2h)
	ソーシャル・アントレプレナーシップ 2		, , , , , , , , , , , , , , , , , , , ,
	各自が調べた実践例について報告するとともに、		
	社会課題の解決に関し、 ワークショップを行う		
	(第4回) 講義	事前	授業の予習 (4h)
	教育分野におけるソーシャル・アントレプレナー		
	教育分野におけるソーシャル・アントレプレナー		
然 0 N田	について学ぶ(ゲストスピーカーを招請)		
第3週	(第5回)演習	事後	授業のフィードバック (4h)
	教育分野におけるソーシャル・アントレプレナー		
	教育分野におけるソーシャル・アントレプレナー		
	のお話しについて討議を行う		
	(第6回) 講義	事前	授業の予習 (4h)
	対話・協働の進め方		
	ソーシャル・アントレプレナーに欠かせない、対		
	話・協働の進め方、ワークショップの理論と技法		
第4週	について学ぶ		
男 4 旭	(第7回) 演習	事後	ワークショップの振り返り (4h)
	対話・協働の進め方		
	ソーシャル・アントレプレナーに欠かせない、対		
	話・協働の進め方、ワークショップの理論と技法		
	について学ぶ		
	(第8回) 講義	事前	ワークショップの準備(4h)
公 [`田	ワークショップ		
	ワークショップをオンラインで実践する		
第5週	(第9回) 演習	事後	ワークショップの振り返り (4h)
	ワークショップ		
	ワークショップをオンラインで実践する		
		事前	授業の予習 (4h)

・&プログラムマネジメント (P2 ルや SWOT 分析をはじめ、P2 Mの 資ぶ ・&プログラムマネジメント (P2 ルや SWOT 分析をはじめ、P2 Mの 学ぶ 構義 ・&プログラムマネジメント (P2 P2 Mを適用し、ロジックモデルを る
学ぶ 事後 ロジックモデルの作成、SWOT 分析を行う(4h) 小や SWOT 分析をはじめ、P 2 Mの学ぶ 事前 発表準備(4h) 株養 事前 発表準備(4h) P 2 Mを適用し、ロジックモデルをる る
学ぶ 事後 ロジックモデルの作成、SWOT 分析を行う(4h) ・&プログラムマネジメント (P2 ルや SWOT 分析をはじめ、P2 Mの学ぶ 講義 事前 発表準備(4h) ・&プログラムマネジメント (P2 P2 Mを適用し、ロジックモデルをる
事後 事後 分析を行う (4h) ルや SWOT 分析をはじめ、P 2 Mの 学ぶ 講義 事前 発表準備 (4h) ・&プログラムマネジメント (P 2 P 2 Mを適用し、ロジックモデルを る
演習 ・ & プログラムマネジメント(P 2 ルや SWOT 分析をはじめ、P 2 Mの 学ぶ 構義 ・ & プログラムマネジメント(P 2 P 2 Mを適用し、ロジックモデルを る
ルや SWOT 分析をはじめ、 P 2 Mの 学ぶ 講義 ・&プログラムマネジメント (P 2 P 2 Mを適用し、ロジックモデルを る
学ぶ 事前 発表準備 (4h) * & プログラムマネジメント (P2) P2Mを適用し、ロジックモデルを る
学ぶ 事前 発表準備 (4h) * & プログラムマネジメント (P2) P2Mを適用し、ロジックモデルを る
事前 発表準備 (4h) ・&プログラムマネジメント (P2 P2Mを適用し、ロジックモデルを る
P 2 Mを適用し、ロジックモデルを る
P 2 Mを適用し、ロジックモデルを る
3
3
寅習 事後 発表へのフィードバック (4h)
・&プログラムマネジメント(P2
171%
レポート作成(2 h) / 発表への
フィードバック (2h)
ける新規事業について各目検討し、
について発表を行う
について発表を行う 各自の発表(発表資料提出)及び、レポートとする。
各自の発表(発表資料提出)及び、レポートとする。 開講時に提示する
各自の発表(発表資料提出)及び、レポートとする。
各自の発表(発表資料提出)及び、レポートとする。 開講時に提示する SSIR Japan 『これからの「社会の変え方」を,探しにいこう。 - スタ
各自の発表(発表資料提出)及び、レポートとする。 開講時に提示する SSIR Japan 『これからの「社会の変え方」を、探しにいこう。-スタ ンフォード・ソーシャルイノベーション・レビュー ベストセレクショ
各自の発表(発表資料提出)及び、レポートとする。 開講時に提示する SSIR Japan 『これからの「社会の変え方」を、探しにいこう。 - スタ ンフォード・ソーシャルイノベーション・レビュー ベストセレクショ ン 10 - 』 (2021 年、英知出版)
各自の発表(発表資料提出)及び、レポートとする。 開講時に提示する SSIR Japan 『これからの「社会の変え方」を、探しにいこう。-スタンフォード・ソーシャルイノベーション・レビュー ベストセレクション 10-』(2021 年、英知出版) SSIR Japan 『スタンフォード・ソーシャルイノベーション・レビュー
各自の発表(発表資料提出)及び、レポートとする。 開講時に提示する SSIR Japan 『これからの「社会の変え方」を、探しにいこう。-スタンフォード・ソーシャルイノベーション・レビュー ベストセレクション 10-』(2021 年、英知出版) SSIR Japan 『スタンフォード・ソーシャルイノベーション・レビュー日本版 VOL.2-社会を元気にする循環-』(2022 年、英知出版)
P 2 Mを適用し、ロジックモデルを 事前 発表準備 (4h) 講義 事前 発表準備 (4h) ける新規事業 2 ける新規事業について各自検討し、 について発表を行う ロボート作成 (2h) /発表への

	VOL.4 -コレクティブ・インパクト』(2023 年、英知出版)
	SSIR Japan 『スタンフォード・ソーシャルイノベーション・レビュー
	VOL. 5 -コミュニティの声を聞く』(2023 年、英知出版)
	ライアン・ハニーマン, ティファニー・ジャナ (著),鳥居 希,矢代 真
	也,若林 恵 (監修,編集), B Corp ハンドブック翻訳ゼミ (訳) 『B Corp
	ハンドブック-よいビジネスの計測・実践・改善-』(2020 年、バリュ
	ーブックス・パブリッシング)
	『SDGs を活かす地域づくり』(大和田順子ら編著、2022 年、晃洋書
	房)
	『ソーシャル・イノベーションの理論と実践』(今里滋編著、2022
	年、明石書店)
受講生に対する評価	・平常点 (50%)
	・授業内発表(25%)
	・レポート (25%)
授業・課題等に対す	・基本的には、授業の中で行う。
3	・本授業は履修者が積極的、自発的に自身の問題関心に応じて探究して
フィードバック	いくことが必要となる。ワークショップや新規事業の検討など各自が行
	い、授業の場にて発表する。履修者は、他者の発表に対して積極的にコ
	メントをすること。
オフィスアワー	随時、個別にアポイントを取り実施
(オンライン曜日・	
時間)	
受講生へのメッセー	LMS のフォーラム掲示板で積極的な意見交換を求める
ジ*任意項目	
備考	小グループに分ける時はビデオ会議システムのブレイクアウトルームな
*任意項目	どを利用する。
授業用 URL	
*任意項目	
*任意項目	

教育マーケティング・広報ブランディング

講義名	教育マーケティング・広報ブランディング
単位数	2
単位区分(必修・選択・自由)	選択
講義開講時期	1年前期
講義区分(講義・演習・実習)	講義・演習
担当教員名	柴山慎一

	教育界における課題を発見し、背景や関わる要因をグローバル視点で俯瞰し定	
DP1	義することができる。	
	(課題発見・要因定義能力)	
	教育界における課題に情報学の知識・スキルを活用し改善・解決することがで	
DP2-1	きる。	
	(改善・解決能力)	
	教育界における課題に経営学の知識・スキルを活用し改善・解決することがで	
DP2-2	きる。	
	(改善・解決能力)	
	科学的知見に基づき実践からデータを取得し仮説を立て検証することができ	
DP3	ప 。	
	(科学的な検証能力)	
	教育テックによる教育界に関する社会変革を目標に、自らの構想を立てること	
DP4	ができる。	
	(社会変革への構想能力)	

履	修	条	件	教育機関の経営、教育事業の拡大・成長に関する問題意識を持っている
				こと
授業	の概要	Ę		入試広報といった入学志願者・入学者数だけに注目したコミュニケーシ
				ョンではなく、教育機関の経営そのものの中にコミュニケーションを位
				置づけ、その内容を広く学ぶ。
				教育機関の経営のため、教育事業の拡大・成長のために必要なコミュニ
				ケーション領域の二大テーマ(マーケティング、広報ブランディング)
				について、経営管理大学院(MBA コース)で学ぶような一般的な内容
				はもちろんのこと、特に教育業界に求められている内容を探求し、組織
				や事業の形態が異なるものであっても、広く教育機関に求められている
				普遍的な知識を獲得する。
				教育機関とは、それが何をしているかも大切だが、それ以上に何をして
				いると見られているかはより大切で、さらには何をしてほしいと期待さ

れているかを意識したマネジメントを推進することが肝要である。本科
目では、企業や教育機関の先進的な事例と対比しながら、受講生自身の
所属、あるいは関係する教育機関への実装を検討していく。

授業のテーマ 及び到達目標

- 1 履修者が、現在、そして未来の所属組織におけるマーケティングや 広報ブランディングを中心にしたコミュニケーションに関する課題 を見極め、その解決施策を提示できるようになる。
- 2 履修者が、授業内で紹介される様々な理論を通じ、現実の事象を一般化して理念的、普遍的な問題として捉える知見を身に着けられるようになる。
- 3 履修者が、授業内で紹介される様々な事例を通じ、それらの疑似体 験を積み上げ、今後の実務や研究に生かす知見を身に着けられるよ うになる。

履修者が、所属組織の経営者との間で、マーケティングや広報ブランディングを中心にしたコミュニケーションを切り口にした課題とその解決施策について、有効な対話ができるようになる。

授業計画	団(授業は1回を 90 分とし、2 限連続で実施する場合がある)	授業外の学習 (60 時間)		
第1講	(第1回)講義 オリエンテーション:授業の全体像とゴールイメ ージ、受講生の問題意識、授業の進め方などの共		マーケティング、広報・ブランディングを中心にしたコミュニケーション領域に関する各自既有の基礎知識について棚卸(2h)	
	有	事後	自身の問題意識と他の受講生の問題意識、授業計画との差異などの振り返り(2h)	
	(第2回) 講義 マーケティングの基礎その1:マーケティングの	事前	次回授業で触れられるテーマにつ いて参考文献等で事前学習(4h)	
第 2 講	考え方 マーケティングの基礎その2:消費者行動理論などの理論と実務 (第3回)演習 マーケティングの基礎その1:マーケティングの考え方 マーケティングの基礎その2:消費者行動理論などの理論と実務	事後	授業内で理解しきれなかった内容 について参考文献等で再度自身の 理解を確認 (3h)	
第3講	(第4回)講義 マーケティングの基礎その3:競争戦略などの理	事前	次回授業で触れられるテーマについて参考文献等で事前学習(4h)	
	論と実務 マーケティングの基礎その4:意思決定につなが る理論と実務	事後	授業内で理解しきれなかった内容 について参考文献等で再度自身の 理解を確認 (3h)	

	(本『同) 浡羽		!
	(第5回)演習		
	マーケティングの基礎その3:競争戦略などの理		
	論と実務		
	マーケティングの基礎その4:意思決定につなが		
	る理論と実務		
	(第6回)講義	事前	次回授業で触れられるテーマについて参考文献等で事前学習(3h)
	マーケティングの応用その1:教育機関、教育事		(VC多名人版书C事刊于自 (SII)
	業における基礎理論の適用		
	マーケティングの応用その2:教育機関、教育事		
	業における具体的なマーケティング施策(事例紹		
笠 4 ≢	介:ゲスト講師も検討)		授業内で理解しきれなかった内容
第4講	(第7回) 演習	事後	について参考文献等で再度自身の
	マーケティングの応用その1:教育機関、教育事	, ,	理解を確認(2h)
	業における基礎理論の適用		中間レポートの作成(8h)
	マーケティングの応用その2:教育機関、教育事		
	業における具体的なマーケティング施策(事例紹		
	介:ゲスト講師も検討)		
	(第8回)講義	市兴	次回授業で触れられるテーマにつ
	広報・ブランディングの基礎その1:広報・ブラ	事前	いて参考文献等で事前学習(3h)
	ンディングの考え方		
	広報・ブランディングの基礎その2:エクスター		
	ナル広報の理論と実務		
第5講	(第9回)演習		授業内で理解しきれなかった内容
	広報・ブランディングの基礎その1:広報・ブラ	事後	について参考文献等で再度自身の 理解を確認(2h)
	ンディングの考え方		生が を 11年 PC (211)
	広報・ブランディングの基礎その2:エクスター		
	ナル広報の理論と実務		次回授業で触れられるテーマにつ
	(第10回)講義	事前	いて参考文献等で事前学習(3h)
	広報・ブランディングの基礎その3:インターナ		
	ル広報の理論と実務		
	広報・ブランディングの基礎その4:ブランディ		
第6講	ングの理論と実務		│ │ 授業内で理解しきれなかった内容
N3 0 III3	(第 11 回) 演習	事後	について参考文献等で再度自身の
	広報・ブランディングの基礎その3:インターナ		理解を確認 (2h)
	ル広報の理論と実務		
	広報・ブランディングの基礎その4:ブランディ		
	ングの理論と実務		
<i>拉</i> 左 写 二	(第 12 回) 講義	事前	次回授業で触れられるテーマにつ
第7講	広報・ブランディングの応用その1:教育機関、		いて参考文献等で事前学習(3h) 授業内で理解しきれなかった内容
		事後	スポート生肝しされなかりた門台

		There are the same	1		
		おける基礎理論の適用		について参考文献等で再度自身の 理解を確認(2h)	
	広報・ブラ:	ノディングの応用その 2 :教育機関、		TIT CHERU (DII)	
	教育事業に	おける具体的な広報・ブランディング			
	施策(事例系	27介:ゲスト講師も検討)			
	(第 13 回)	演習			
	広報・ブラ:	/ディングの応用その1:教育機関、			
	教育事業にお	おける基礎理論の適用			
	広報・ブラン	ノディングの応用その2:教育機関、			
	教育事業にあ	おける具体的な広報・ブランディング			
	施策(事例約	召介:ゲスト講師も検討)			
	(第 14 回)	講義	事前	次回授業で触れられるテーマにつ	
	まとめその	1:マーケティングと広報・ブランデ	1 17 [1]	いて参考文献等で事前学習 (3h)	
	 ィングの関係	Ŕ			
	まとめその:	2:受講生の施策・企画案の発表と全			
	体の振り返り			授業内で理解しきれなかった内容	
第8講	(第 15 回)		-t-1/4	について参考文献等で再度自身の 理解を確認(2h)	
		1 :マーケティングと広報・ブランデ	事後		
	イングの関係			最終レポートの作成 (9h)	
	まとめその 2 :受講生の施策・企画案の発表と全				
	体の振り返り				
定期試験		試験ではなく、中間時および終了時を	メドに	し ポート提出を求める 内	
VC361 H5/497	~	容は、適宜指示するが、既存の所属教育機関、教育事業あるいは新規の			
		仮想教育機関、教育事業におけるマーケティング、広報ブランディング			
		施策の企画書に当たるものの提出を求			
 使用テキ	<u> </u>	テキストは使用せず必要な資料を LMS にて作成・配布する。			
及加力。		7 TO THE BLOOM OF			
to to t					
参考文献	伏	フィリップ・コトラー、K.L.ケラー、A.チェルネフ(2022)『マーケ			
		ティングマネジメント』丸善出版			
		谷ノ内識(2021)『大学広報を知りたくなったら読む本』大学教育出版			
		柴山慎一(2011)『コーポレートコミュニケーション経営』東洋経済			
		新報社			
		清水正道、柴山慎一ほか(2019)『インターナル・コミュニケーショ			
		ン経営』経団連出版			
受講生に	こ対する評価	授業の進め方は、講義とディス	カッ	ションを中心とする。	
		授業中の参加姿勢や授業への貢献、デ	ィスカ	リッションへの関与などの平	
		常点と適宜(中間時と最終時)求める	るレポ	ートの内容をもとに評価す	
		る。			
		各回に作成を求める「小レポート] (4	40%) と学期末レポート	

	(6004) な数今的に証価する
	(60%)を総合的に評価する。
授業・課題等に対す	「小レポート」の内容について次回の授業時にコメントする。必要に応
3	じ授業時に受講生による討論を行う。
フィードバック	
オフィスアワー	社会人院生が中心になることから受講生の余裕のある時間帯を確保す
(オンライン曜日・	る。主に平日夜間と土曜日など(要予約)。
時間)	
受講生へのメッセー	教育機関の経営ならびに教育事業の成長のためには、様々なステークホ
ジ*任意項目	ルダーとの間に的確なコミュニケーションが成立していることが大前提
	 です。良い教育コンテンツや教育環境だけでは良い教育は提供できませ
	ん。いかにして供給側の自己満足に終わらない需要側の期待に応える教
	育を提供できるか、主にコミュニケーション周辺の理論をもとに学んで
	いきましょう。
	LMS のフォーラム掲示板で積極的な意見交換を求める
備考	演習などでは、小グループに分ける時はビデオ会議システムのブレイク
*任意項目	アウトルームなどを利用して「アクティブラーニング」「ワークショッ
	プ」などを行う。
授業用 URL	
*任意項目	
授業用 E-Mail	
*任意項目	

教育機関と経営戦略論

講義名	教育機関と経営戦略論
単位数	2
単位区分(必修・選択・自由)	選択
講義開講時期	2年前期
講義区分(講義・演習・実習)	講義・演習
担当教員名	根岸正州・木岡一明

	教育界における課題を発見し、背景や関わる要因をグローバル視点で俯瞰し定義する	
DP1	ことができる。	
	(課題発見・要因定義能力)	
DP2-1	教育界における課題に情報学の知識・スキルを活用し改善・解決することができる。	
DP2-1	(改善・解決能力)	
DP2-2	教育界における課題に経営学の知識・スキルを活用し改善・解決することができる。	
DF2-2	(改善・解決能力)	
DP3	科学的知見に基づき実践からデータを取得し仮説を立て検証することができる。	
Drs	(科学的な検証能力)	
	教育テックによる教育界に関する社会変革を目標に、自らの構想を立てることができ	
DP4	る。	
	(社会変革への構想能力)	

履修条件	学校や人材養成機関などの教育機関の経営に関心を持っていること			
授業の概要	企業経営の分野で蓄積された経営学の知見を、教育機関の経営に応用できるようになるために、講義とともに、ケーススタディ等の演習を行いながら、理解を深めていく。			
授業のテーマ	経営戦略論の基本を習得し、教育機関	の経営に応用できる深い理解を身		
及び到達目標	につける。			
授業計画 (授業は1回を9	0 分とし、2 限連続で実施する場合がある)	授業外の学習 (60 時間)		

第1書	(第1回) 講義 教育機関の経営危機と機会創出 ・教育機関の経営状態を俯瞰する。	事前	自身が所属もしくは関係する教育 機関の経営状態について把握する (3h)
第1講	・一方で、教育を広く見渡し教育機関の経営にど のような新たな機会をもたらすことができるか、 検討する。	事後	レポートの作成 (1h)
第2講	(第2回)講義 教育機関におけるリーダーシップ論 (第3回)演習 教育機関おけるリーダーシップ論 ・自身の置かれている現状を踏まえ下記を検討 し、議論する。	事前	今後必要とされるリーダーシップ にと、自身が発揮すべきリーダー シップについて、自身の考えが述 べられるようにまとめておくこ と。(4 h)
第 2 	・自身に期待されるリーダーシップとは、どのようなものか?・自身の特性は、どのように活かせるか?・どのような行動を改め、どのような行動を始めることが有益だろうか?	事後	自身の所属もしくは関係する教育 機関において今後必要となるリー ダーシップをその根拠とともにレ ポートにまとめる。(4 h)
tric o att	(第4回)講義 世界を見据えた教育機関の経営 (第5回)演習 世界を見据えた教育機関の経営	事前	日本発で海外で展開する教育機 関、海外で注目され日本にはない 教育機関、日本に進出する教育機 関について、自身の関心分野を中 心に調べておく。(4 h)
第3講	・インバウンド、アウトバウンドの双方において、学校経営にどのような機会を見出すか検討する。 ・一方で、リスクや脅威についても検討する。	事後	自身が所属または関係する教育機関で、具体的にどのようなグローバルな事業ができるか検討し、レポートにまとめる。(4 h)
第4講	(第6回)講義デジタル時代の知識創造と教育機関のナレッジマネジメント(第7回)演習デジタル時代の知識創造と	事前	自身の所属または関係する教育機関のナレッジマネジメントの現状について調べておく。(4 h)
210 - 111	教育機関のナレッジマネジメント ・知識創造理論の深い理解をする。 ・知識創造経営を教育機関で実践するナレッジマ ネジメントについて討議をしながら学ぶ。	事後	自身の所属または関係する教育機関のナレッジマネジメントの現状を提示した上で、今後どのように変革していくべきかレポートにまとめる。(4 h)
第 5 講	(第8回)講義 教育機関における新事業創出・第二創業・第三創 業 (第9回)演習		自身の所属または関係する教育機関において、これまでの歴史を振り返りどのような新事業創出があったか、紹介できるようにまとめておく。(4 h)
		事後	今後、自身の所属または関係する 教育機関において、どのような新

教育機関にお		sける新事業創出・第二創業・第三創		事業創出が必要なのか、その基本
業				的なアイデアをレポートにまとめ
	・自身が所属	属もしくは関係する教育機関において		る。(4 h)
		f事業創出・第二創業・第三創業がで		
		· 発表・討議する。		
	(第 10 回)			自身の所属または関係する教育機
	教育機関の意	 意思決定	事前	関において、どのような意思決定
	(第 11 回)			がなされているのか、調査してお く。(4 h)
	教育機関の意			\ ₀ (\flat II)
第6講	・外部環境(国内外における社会情勢や国内政			白色の配見よとは眼がより数玄極
	策、国際機関	園の動向、新たな科学的知見等)と内	事後	自身の所属または関係する教育機 関における、意思決定の改善提案
		哉マネジメント)の両側面から、教育		をレポートにまとめる。(4 h)
	機関の意思決	定定について議論する。		
	(第 12 回)			国内外における教育機関の危機管
	教育機関のコ	コンプライアンスと危機管理	事前	理の失敗事例について参照し、関
	(第 13 回)	演習		係資料を読み、自身の意見をまとめておく。(4 h)
第7講	教育機関のコ	コンプライアンスと危機管理		
	・具体的なグ	アースを想定し、自身が教育機関の経	事後	演習で扱ったケースについて、自 身であればどのように危機管理を
	営者であればどのような対応をとるか、議論す			するか検討し、レポートにまとめ
	る。			る。(4 h)
	(第 14 回)	演習		最終プレゼンテーションの発表資
	教育における	る事業モデル研究①	事前	料を作成する。(4 h)
	・受講生が発	6見した新たな教育事業をこれまでに		
	得た知識を係	もって多角的に分析を加え、その特徴 しょうしゅん		・発表した全学生に対して、コメ ントをフィードバックする。(2 h)
笠o誰	を発表する。			
第8講	(第15回)	演習		
	教育における	5事業モデル研究②	事後	・他者の発表に対し、自身が応
	・受講生が発	6見した新たな教育事業をこれまでに		用、活用できることをレポートに
	得た知識を使	もって多角的に分析を加え、その特徴		まとめる。(2 h)
	を発表する。			
定期試験	奂	毎回のレポート提出。		
使用テキスト		なし。		
参考文献				
- 7 Am	,	2005 1 1-4HVI V 0		
≖#4.	・サナッ部に	松华,《名加(学》、《红料花丛》		/) 1、目幼 号, 12、 12 中京
受講生に対する評価 		授業への参加(議論への積極的な参加:30%) と最終プレゼンの内容 (35%)、毎回のレポート(35%) に基づいて評価する。		
		(33%)、	盛つい	に計11119 る。

極楽、細胞体に分子	極業の中で行う
授業・課題等に対す	授業の中で行う。
る	
フィードバック	
ユ コ , コマロ	(田川)ママ-13 イント 大阪ファト
オフィスアワー	個別にアポイントを取ること。
(オンライン曜日・	
時間)	
受講生へのメッセー	
ジ*任意項目	
備考	小グループに分ける時はビデオ会議システムのブレイクアウトルームな
*任意項目	どを利用する。
授業用 URL	
*任意項目	
12.0.71	
授業用 E-Mail	
*任意項目	

教育マネジメント論

講義名	教育マネジメント論
単位数	2
単位区分(必修・選択・自由)	選択
講義開講時期	1年後期
講義区分(講義・演習・実習)	講義・演習
担当教員名	木岡一明、妹尾昌俊、合田隆史

	教育界における課題を発見し、背景や関わる要因をグローバル視点で俯瞰し定	
DP1	義することができる。	
	(課題発見・要因定義能力)	
	教育界における課題に情報学の知識・スキルを活用し改善・解決することがで	
DP2-1	きる。	
	(改善・解決能力)	
	教育界における課題に経営学の知識・スキルを活用し改善・解決することがで	
DP2-2	きる。	
	(改善・解決能力)	
	科学的知見に基づき実践からデータを取得し仮説を立て検証することができ	
DP3	ప 。	
	(科学的な検証能力)	
	教育テックによる教育界に関する社会変革を目標に、自らの構想を立てること	
DP4	ができる。	
	(社会変革への構想能力)	

履修	条	件	学校教育の現状に問題意識があり、よりよくしたいと考えていること			
			(学校管理職に限らない)。			
授業の概	授業の概要 学校経営(幼保、小中高、特別支援学校を含む)、組織マネジメン			む)、組織マネジメントの		
			現状と課題、解決に向けた方策につい	て学ぶ		
授業	のテー	4	テーマ:授業概要を参照。			
及び到達	達目標		到達目標:今日的な教育問題について問題発見や課題分析ができるよう			
			になり、さまざま理論や先行研究の成果を応用、活用できるようにな			
			る。			
授業計画	町(授業は1	回を 90	分とし、2 限連続で実施する場合がある)	授業外	外の学習 (60 時間)	
	(第1	回)請	觜義・演習	事前	自身の問題関心事について直近の	
イントロダ		ロダク	ウション:教育問題はなぜまちがって		状況を調べ、考える(2h)	
第1講	語られ	るのか	77	事後	参考文献を参照しつつ、授業の感	
	・今日	的な教	枚育問題について、その背景・原因、	• • • •	想をまとめる(2h)	

	対策としてどのような議論があるか概観する。		
	・教育論の語られ方や分析の問題やバイアスにつ		
	いて考察する(オンラインでのワークショップ、		
	討議)。		参考文献を読み、自分なりに疑問
	(第2回)講義	事前	点や質問を考えておく(4h)
	学校組織マネジメント論の展開(背景、到達点、		
	課題)		
	・2000 年代に学校組織マネジメントが必要とされ		
	た背景、マネジメント研修など取組の概要と成果		
	について学ぶ。		
	・学校組織の特性、経営資源など、学校マネジメ		
	ントの実情と課題について考察する。		
	・組織学習の理論と実践の観点から、学校組織の		
	実情と課題について考察する。		
第2講	(第3回) 演習		授業で学んだことを自分なりに整
20 2 m3	学校組織マネジメント論の展開(背景、到達点、	事後	理し、活用・応用できることを考え、振り返りシートにまとめる(4h)
	課題)		
	・2000 年代に学校組織マネジメントが必要とされ		
	た背景、マネジメント研修など取組の概要と成果		
	について学ぶ(討議)。		
	・学校組織の特性、経営資源など、学校マネジメ		
	ントの実情と課題について考察する(実例をもと		
	にしたケーススタディ、討議)。		
	・組織学習の理論と実践の観点から、学校組織の		
	実情と課題について考察する(組織学習を診断す		
	る方法等に関するワークショップ、討議)。		
	(第4回) 講義	事前	参考文献を読み、自分なりに疑問
	学力向上と学校経営	7 177	点や質問を考えておく(4h)
	・学校無力論、効果のある学校論など主要な先行		
	研究について学ぶ。		
	・学校評価システムの理念と実際について学ぶ。		
第3講	(第5回)演習		授業で学んだことを自分なりに整理し、活用・応用できることを表
	学力向上と学校経営	事後	理し、活用・応用できることを考 え、振り返りシートにまとめる
	・学校無力論、効果のある学校論など主要な先行		(4h)
	研究について学ぶ(討議)。		
	・学校評価システムの理念と実際について学ぶ		
	(実例をもとにしたケーススタディ、討議)。		
第4講	(第6回)講義		行政計画や学校ビジョンの実例に
	ビジョン、カリキュラム・マネジメント、DX	事前	ついて探し、疑問点や改善点につ
			いてリストアップする。(4h)

	・国・自治体の教育振興基本計画等や各学校のビジョン、グランドデザインの実例をもとに、よさと問題点について考察する(グループワーク等)。 ・ビジョンを具体化するカリキュラムの編成と運用について、主要な理論と実際について学ぶ。 ・校務 DX をはじめ ICT の活用に関する課題と今後の方向性について学ぶ。		
	(第7回)演習 ビジョン、カリキュラム・マネジメント、DX・国・自治体の教育振興基本計画等や各学校のビジョン、グランドデザインの実例をもとに、よさと問題点について考察する(グループワーク等)。 ・ビジョンを具体化するカリキュラムの編成と運用について、主要な理論と実際について学ぶ(オンラインでのワークショップ形式によるカリキュラムの骨格づくり)。 ・校務 DX をはじめ ICT の活用に関する課題と今	事後	授業で学んだことを自分なりに整理し、活用・応用できることを考え、振り返りシートにまとめる(4h)
	後の方向性について学ぶ(実例をもとにしたケーススタディ、討議)。		参考文献を読み、自分なりに疑問
	(第8回) 講義	事前	参考人厭を読み、日分なりに疑問 点や質問を考えておく(4h)
第 5 講	リーダーシップとチーム学校 ・学校の組織論的特性及び学校組織のリーダーシップをめぐる主要な理論を概観した上で、その活用と限界について考察する。 ・チーム学校論の背景と現状について学ぶ。 (第9回)演習 リーダーシップとチーム学校 ・学校の組織論的特性及び学校組織のリーダーシップをめぐる主要な理論を概観した上で、その活用と限界について考察する(討議)。 ・チーム学校論の背景と現状について学ぶ(実例をもとにしたケーススタディ、討議)。	事後	授業で学んだことを自分なりに整理し、活用・応用できることを考え、振り返りシートにまとめる(4h)
	(第10回) 講義	事前	参考文献を読み、自分なりに疑問 点や質問を考えておく(4h)
第6講	教育財務マネジメント ・公立、私立学校、行政における財務管理の概要 (制度、仕組み)と今日的な課題について学ぶ。 (第11回)演習	事後	授業で学んだことを自分なりに整理し、活用・応用できることを考え、振り返りシートにまとめる(4h)

	477-1-1-24	2		
	教育財務マネ			
		立学校、行政における財務管理の概要		
		組み)と今日的な課題について学ぶ		
	(討議)。			
	(the	244.37.		△ */ → */ > → // >
	(第12回)		事前	参考文献を読み、自分なりに疑問 点や質問を考えておく(4h)
		或との連携・協働と危機管理		
		学校づくりの現状や功罪について考察		
	する。			
	・学校安全、	危機管理の実態を把握し、必要な対		
第7講	策について着	考察する。		授業で学んだことを自分なりに整
21 1 HH	(第13回)	演習	事後	理し、活用・応用できることを考
	保護者・地域	或との連携・協働と危機管理		え、振り返りシートにまとめる (4h)
	・開かれた	学校づくりの現状や功罪について考察		(111)
	する(学校道	軍営協議会の模擬開催)。		
	・学校安全、	危機管理の実態を把握し、必要な対		
	策について着	考察する(討議)。		
	(第 14 回) 講義			自分の探究したい、深堀りしたい
	 教育マネジメントの今日的課題の診断と処方箋			教育問題について考察し、プレゼンテージョンの進機をオス(4)
	・受講者の	関心の高いテーマについて、これまで		ンテーションの準備をする(4 h)
	の授業等で学んだことを活用しながら、問題の背			
	景や処方箋に	こついて考察する。		
	・ICT をは	じめとするテクノロジーで解決しやす		
	いことと、菓	推しいことの両方について扱う予定。		
		各自 7 分程度のプレゼンにまとめ発表		
		後、ディスカッションする。		
第8講	する。その後、ティスカランヨンする。 (第 15 回)演習			ディスカッションや他の受講生の
		メントの今日的課題の診断と処方箋	事後	発表を参考にしつつ、プレゼンテ
	・受講者の関心の高いテーマについて、これまで			ーション資料をブラッシュアップ
		学んだことを活用しながら、問題の背		する。(4h)
		こついて考察する。		
		じめとするテクノロジーで解決しやす		
		推しいことの両方について扱う予定。		
	• *	§自 7 分程度のプレゼンにまとめ発表		
		り アイスカッションする。		
定期試験		実施しない。		
使用テキ	トスト	特になし。		
参考文献		 勝野正章・村上祐介(2020)『新訂	教育	 行政と学校経営』NHK出
		版		

	美田様女短菜 (2010) 『夢様奴夢』こう。考し書百					
	浜田博文編著(2019)『学校経営』ミネルヴァ書房					
	広田照幸・伊藤茂樹(2010)『教育問題はなぜまちがって語られるの					
	か?』日本図書センター					
	妹尾昌俊(2019)『思いのない学校、思いだけの学校、思いを実現す					
	る学校』学事出版 (ほか授業中に案内する)					
受講生に対する評価	授業でのディスカッション等への貢献/小レポート 30%					
	振り返りシートの記入(内容の妥当性、独自性等)30%					
	最終回後のプレゼンテーション資料(内容の妥当性、独自性等)40%					
授業・課題等に対す	振り返りシートに寄せられた疑問点などは次回等の授業中に補足する。					
3	最終回後のプレゼンテーション資料についてのコメントは、事後にフィ					
フィードバック	ードバックの機会を設ける予定(ウェブ会議等)。					
オフィスアワー	木岡:毎週水曜日・18:00~20:00 希望する人は事前予約してくださ					
(オンライン曜日・	γ ₂ °					
時間)	妹尾:事前にメール等で予約してください。					
受講生へのメッセー	上記のとおり、幅広いテーマ、教育問題について扱う予定であるが、関					
ジ*任意項目	連の深い教育制度やその歴史的経緯については「教育政策論」で、働き					
	方改革や人的資源管理については「教育人材マネジメント論」にて詳し					
	く扱う予定なので、関心ある方はそちらの受講も勧める。					
	LMS のフォーラム掲示板で積極的な意見交換を求める					
備考	小グループに分ける時はビデオ会議システムのブレイクアウトルームな					
*任意項目	どを利用する。					
授業用 URL						
*任意項目						
授業用 E-Mail						
*任意項目						

教育人材マネジメント論

講義名	教育人材マネジメント論
単位数	2
単位区分(必修・選択・自由)	選択
講義開講時期	1年前期
講義区分(講義・演習・実習)	講義・演習
担当教員名	妹尾昌俊

	教育界における課題を発見し、背景や関わる要因をグローバル視点で俯瞰し定	
DP1	義することができる。	
	(課題発見・要因定義能力)	
	教育界における課題に情報学の知識・スキルを活用し改善・解決することがで	
DP2-1	きる。	
	(改善・解決能力)	
	教育界における課題に経営学の知識・スキルを活用し改善・解決することがで	
DP2-2	きる。	
	(改善・解決能力)	
	科学的知見に基づき実践からデータを取得し仮説を立て検証することができ	
DP3	ప 。	
	(科学的な検証能力)	
	教育テックによる教育界に関する社会変革を目標に、自らの構想を立てること	
DP4	ができる。	
	(社会変革への構想能力)	

履修条件	教員やスタッフ職(行政職員、学校法人職員等)のウェルビーイングの 現状に問題意識があり、よりよくしたいと考えていること (学校管理職に限らない)。			
授業の概要	経営資源の中でも「人」に焦点をあてながら、学校や行政組織、学校法 人等で働く人々のウェルビーイングとパフォーマンスが高まるために、 どのようなことが必要なのかについて議論する。			
授業のテーマ テーマ:授業概要を参照。 及び到達目標 到達目標:教育人材に関わる、今日的な問題について問題発見や課題分				
ができるようになり、さまざまな理論や先行研究の成果を応用、できるようになる。				
授業計画 (授業は1回を90分とし、2限連続で実施する場合がある)		授業外の学習 (60 時間)		
第1講 (第1回) 講義		事前	自身の問題関心事について直近の 状況を調べ、考える (2h)	

		1	
第 2 講	教育における人材マネジメントの重要性 ・小中学校教員の1日、1週間の勤務実態等をもと に人材マネジメント上の課題について考察する (グループワーク等)。 ・教員をめぐるさまざまな問題(働き方、教員不 足、資質・能力の向上、離職など)をもとに、人 材マネジメントの必要性について学ぶ。 (第2回)講義 人生百年時代の人材像、キャリアと採用戦略 ・人生百年、あるいは75歳現役社会における教員 やスタッフ職のあり方について考察する。 ・これまでの中教審答申などを素材に、求められる教師像や教育ビジョンの変遷、現状をレビューするとともに、課題や問題点を分析する(グループワーク等)。 ・教職員の養成ならびに採用の現状と課題について考察する。 (第3回)演習 人生百年、あるいは75歳現役社会における教員やスタッフ職のあり方について考察する。 ・これまでの中教審答申などを素材に、求められる教師像や教育ビジョンの変遷、現状をレビューするとともに、課題や問題点を分析する(グループログタ)	事後	授業で学んだことを自分なりに整理し、活用・応用できることを考え、振り返りシートにまとめる (2h) 参考文献、資料等を参照し、求められる教師像の特徴や課題について考える (4h) 授業で学んだことを自分なりに整理し、活用・応用できることを考え、振り返りシートにまとめる (4h)
	プワーク等)。 ・教職員の養成ならびに採用の現状と課題について考察する。 (第4回)講義	事前	参考文献を読み、自分なりに疑問
	モチベーション・マネジメントとリーダーシップ	, ,,,	点や質問を考えておく (4h)
第3講	・モチベーションやワーク・エンゲージメントに 関する主要な先行研究を学び、それを踏まえなが ら、今日の学校組織の課題を考察する。 ・校長等のリーダーシップの功罪について考察す る(グループワーク等)。 (第5回)演習 モチベーション・マネジメントとリーダーシップ ・モチベーションやワーク・エンゲージメントに 関する主要な先行研究を学び、それを踏まえなが ら、今日の学校組織の課題を考察する。	事後	授業で学んだことを自分なりに整理し、活用・応用できることを考え、振り返りシートにまとめる(4h)

	・校長等のリーダーシップの功罪について考察す		
	る(グループワーク等)。		4 + 1 + 1 + 1 + 2 + 4 + 4 + 1 + 1 + 1 + 1 + 1 + 1 + 1 + 1
	(第6回)講義	事前	参考文献を読み、自分なりに疑問 点や質問を考えておく(4h)
	国際比較等から見た日本の教員の職務特性、研		M M M M M M M M M M M M M M M M M M M
	修・人材育成		
	・OECD 調査等を素材に、日本の教員の仕事上の		
	特性や研修(職能開発)の実情、課題について考		
	察する。		
	・OJT やフィードバックについて企業等の先行例		
第4講	からのヒントを考察する。		授業で学んだことを自分なりに整
>12 T III 1	(第7回)演習	事後	理し、活用・応用できることを考
	国際比較等から見た日本の教員の職務特性、研		え、振り返りシートにまとめる (4h)
	修・人材育成		()
	・OECD 調査等を素材に、日本の教員の仕事上の		
	特性や研修(職能開発)の実情、課題について考		
	察する。		
	・OJT やフィードバックについて企業等の先行例		
	からのヒントを考察する。		
	(第8回) 講義	事前	参考文献を読み、自分なりに疑問
	人事評価システムと処遇		点や質問を考えておく (4h)
	・人事評価の制度の概要と課題について学び、今		
	後のあり方を考える。		授業で学んだことを自分なりに整
	・賃金制度をはじめとする教職員の処遇の概要と		
∽ □ = #	課題について学ぶ。		
舟 3 舑	(第9回) 演習	事後	理し、活用・応用できることを考
	人事評価システムと処遇		
	・人事評価の制度の概要と課題について学び、今		(411)
	後のあり方を考える。		
	・賃金制度をはじめとする教職員の処遇の概要と		
	課題について学ぶ。		
	(第 10 回) 講義	事前	参考文献を読み、自分なりに疑問
	多様性のマネジメント		点や質問を考えておく (4h)
第6講	・組織運営において、人材の多様性を高める重要		
	性について学ぶ。		
	・子どもの貧困や教育格差の問題と学校教育の役		
	割・機能についても考察する。		建し、活用・心用できることを考 え、振り返りシートにまとめる
	・人材の多様性を高めることと、質を高めること		(4h)
	の両立を図るための視点、課題について、「チーム		
	学校」など最近の政策動向に注目しつつ考察す		
第 5 講	からのヒントを考察する。 (第8回)講義 人事評価システムと処遇 ・人事評価の制度の概要と課題について学び、今後のあり方を考える。 ・賃金制度をはじめとする教職員の処遇の概要と課題について学ぶ。 (第9回)演習 人事評価システムと処遇 ・人事評価の制度の概要と課題について学び、今後のあり方を考える。 ・賃金制度をはじめとする教職員の処遇の概要と課題について学ぶ。 (第10回)講義 多様性のマネジメント ・組織運営において、人材の多様性を高める重要性について学ぶ。 ・子どもの貧困や教育格差の問題と学校教育の役割・機能についても考察する。 ・人材の多様性を高めることと、質を高めることの両立を図るための視点、課題について、「チーム	事後	点や質問を考えておく(4h) 授業で学んだことを自分なりに整理し、活用・応用できることを考え、振り返りシートにまとめる(4h) 参考文献を読み、自分なりに疑問点や質問を考えておく(4h) 授業で学んだことを自分なりに整理し、活用・応用できることを考え、振り返りシートにまとめる

	る。 (第 11 回)演習 多様性のマネジメント ・組織運営において、人材の多様性を高める重要 性について学ぶ。 ・子どもの貧困や教育格差の問題と学校教育の役割・機能についても考察する。 ・人材の多様性を高めることと、質を高めること の両立を図るための視点、課題について、「チーム		
	学校」など最近の政策動向に注目しつつ考察する。		
	(第 12 回) 講義 働き方改革と労働安全衛生、リテンション(離職	事前	参考文献を読み、自分なりに疑問 点や質問を考えておく(4h)
第7講	防止) ・育児や介護等があっても働き続けやすい職場にしていくために、学校や行政等における働き方改革、労働安全衛生について学ぶ。 ・調査結果や先行事例などから実態と解決に向けた方向性について考察する(グループワーク等)(第13回)演習働き方改革と労働安全衛生、リテンション(離職防止) ・育児や介護等があっても働き続けやすい職場にしていくために、学校や行政等における働き方改革、労働安全衛生について学ぶ。 ・調査結果や先行事例などから実態と解決に向けた方向性について考察する(グループワーク等)	事後	授業で学んだことを自分なりに整理し、活用・応用できることを考え、振り返りシートにまとめる(4h)
	(第 14 回) 講義	事前	参考文献を読み、自分なりに疑問 点や質問を考えておく(4h)
第8講	ウェルビーイングを高める学校づくり、組織開発、チームワーキング ・「同僚性」「プロフェショナル・ラーニング・コミュニティ」など、学校組織のチームワーキングを高める観点から、先行研究を概観したうえで、今日的な課題について考察する(グループワーク等)。 ・授業全体を振り返り、まとめる。 (第15回)演習ウェルビーイングを高める学校づくり、組織開	事後	授業全体を振り返ったうえで、レポートにまとめる (4h)

	発、チームワ	フーキング			
	・「同僚性」	「プロフェショナル・ラーニング・コ			
	ミュニティ	など、学校組織のチームワーキング			
	を高める観り	点から、先行研究を概観したうえで、			
	今日的な課題	題について考察する (グループワーク			
	等)。				
	・授業全体を	と振り返り、まとめる。			
定期試験	负	実施しない			
使用テキ	キスト	特になし			
参考文献	伏	授業中に案内するが、下記の文献も参照。			
		原田順子・平野光俊(2022)『人的資源管理』放送大学教育振興会			
		川上泰彦(2013)『公立学校の教員人事システム』学術出版会			
		妹尾昌俊(2020)『教師崩壊』PHP 研究所			
		妹尾昌俊(2018)『先生がつぶれる学校、先生がいきる学校』学事出版			
受講生は	に対する評価	授業でのディスカッション等への貢献/討議内容レポート 30%			
		振り返りシートの記入(内容の妥当性、独自性等)30%			
		最終回後のレポート(内容の妥当性、独自性等)40%			
授業・記	果題等に対す				
る		最終回後のレポートについてはコメントを付けてフィードバックする。			
フィー					
	スアワー	特定の時間は定めません。事前にメール等で予約してください。			
,	ライン曜日・				
時間)					
7 7 7	へのメッセー				
ジ*任意	思垻日	心となりますが、教員ではない方や私立学校関係者にとっても参考にな			
		る講座にしたいと思っています。			
		 LMS のフォーラム掲示板で積極的な意見交換を求める			
備考		小グループに分ける時はビデオ会議システムのブレイクアウトルームな			
w つ *任意項	百日	がクルークに分りる時間にケカ芸蔵シスケムのクレインケットルームはしどを利用する。			
· ITV8	RH	C = 13/11 / 0 0			
授業用	URL				
*任意功					
14 MA TO 1					

授業用 E-Mail *任意項目

教育ファイナンス論

講義名	教育ファイナンス論				
単位数	2				
単位区分(必修・選択・自由)	選択				
講義開講時期	1年後期				
講義区分(講義・演習・実習)	講義・演習				
担当教員名	植草 茂樹・合田 隆史				

	教育界における課題を発見し、背景や関わる要因をグローバル視点で俯瞰し定	
DP1	義することができる。	
	(課題発見・要因定義能力)	
	教育界における課題に情報学の知識・スキルを活用し改善・解決することがで	
DP2-1	きる。	
	(改善・解決能力)	
	教育界における課題に経営学の知識・スキルを活用し改善・解決することがで	
DP2-2	きる。	
	(改善・解決能力)	
	科学的知見に基づき実践からデータを取得し仮説を立て検証することができ	
DP3	ప .	
	(科学的な検証能力)	
	教育テックによる教育界に関する社会変革を目標に、自らの構想を立てること	
DP4	ができる。	
	(社会変革への構想能力)	

履修条件	該当なし			
授業の概要	教育機関に関わる様々な政策について財政の視点から考察を行うほか、			
	財務会計の知識をもとに、公立・私立学校のそれぞれの会計構造の特徴			
	を踏まえ、諸外国との比較分析なども行う。実際の教育機関の財務諸表			
	等をもとに、財政上の課題を抽出し、課題解決の方法を演習する。			
	また、学校法人において中長期計画の策定が求められている中、管理			
	計の視点をもとにインプット・アウトプット・アウトカムなどの指標と			
	の関連性を演習する。			
	また外部資金や補助金・寄付金の獲得のため、必要となる情報・プロセ			
	スなどを考察し、実際の演習を行う。			

及び到達目標

授業のテーマ 教育機関・教育テックにまつわるファイナンスについての予算・財務会 計・管理会計面の基礎的な情報から、中長期計画の策定、外部資金や補 助金の獲得、寄付マーケティングなど、様々な事例をもとに体系的に学 ぶとともに受講生同士のディスカッションを行う。また、受講生自身に 関係する教育機関における財務上の課題を整理し、その解決策について 受講生自身で検討するとともに、受講生同士でディスカッションを行 う。

授業計画 (授業は1回を90分とし、2限連続で実施する場合がある)			授業外の学習 (60 時間)		
	(第1回) 講義 植草	事前	資料集め(2h)		
第1講	オリエンテーション	本 級	学習内容予習 (2h)		
	本授業のオリエンテーションを行う。	事後			
	(第2回) 講義 植草・合田		自身の関心のあるファイ		
	教育機関の財政・予算構造	事前	ナンスのテーマを抽出す		
	教育機関の財政の構造を理解し、受講生でディス		る (4h)		
笠2葉	カッションを行う。		講義・演習内容復習 (4h)		
第2講	(第3回)演習 植草・合田				
	教育機関の財政・予算構造	事後			
	教育機関の財政の構造を理解し、受講生でディス				
	カッションを行う。				
	(第4回) 講義 植草	事前	講義・演習内容予習 (4h)		
	教育機関の会計制度の概要		講義・演習内容復習 (4h)		
	教育機関の会計制度の構造を理解し、財務諸表を				
笠 2	もとに分析を行う演習を行う。				
第3講	(第5回)演習 植草	事後			
	教育機関の会計制度の概要				
	教育機関の会計制度の構造を理解し、財務諸表を				
	もとに分析を行う演習を行う。				
	(第6回)講義 植草	事前	講義・演習内容予習 (4h)		
	教育機関等に対するファンディング		講義・演習内容復習 (4h)		
	教育テックや教育機関等への政府・自治体等のフ				
	ァンディングを理解し、受講生でディスカッショ				
第4講	ンを行う。				
分生冊	(第7回)演習 植草	事後			
	教育機関等に対するファンディング				
	教育テックや教育機関等への政府・自治体等のフ				
	ァンディングを理解し、受講生でディスカッショ				
	ンを行う。				
笠 [逹	(第8回)講義 植草	事前	講義・演習内容予習 (4h)		
第5講	教育機関に対する寄付マーケティング	事後	講義・演習内容復習 (4h)		

	歩 安 ニ … カ ョ	なども活用した教育機関等の寄付募集		
	について、	事例をもとに分析し、受講生でディス		
	ガッションで (第9回)泡			
		^{映白 他早} 対する寄付マーケティング		
		なども活用した教育機関等の寄付募集		
		よとも石用した教育機関等の司刊券集 事例をもとに分析し、受講生でディス		
	カッションを			
		だれり。 講義 植草・合田		講義用に自身の関わる教
		神我 恒早・百田 才務上の課題分析①	事前	育機関での課題を考える
			7.110	
		心ある教育機関について、財務上の課 受講生同士でディスカッションを行		受講生のテーマとする財
	越 を登埋し、 う。	文調生円工 ごフィスカッションを1]		務上の課題整理 (4h)
第6講		演習 植草・合田		1)/11 - 11/0511 1 ()
		オ務上の課題分析①	事後	
		765年の課題が何① 心ある教育機関について、財務上の課	子区	
	· • • • • • • • • • • • • • • • • • • •	じめる教育機関に ラいて、別切工の試 受講生同士でディスカッションを行		
	題を登垤し、 う。	文語主向上でディヘルッションを1]		
		講義 植草・合田		講義用に教育機関の課題
		構装 恒早 日田	事前	解決策を考える (4h)
		も財務上の課題についての解決策を検		財務上の課題解決策の整
		と		理 (4h)
第7講		演習 植草・合田		生 (411)
N1 1 HH		オ務上の課題分析②	事後	
		た財務上の課題についての解決策を検		
		上同士でディスカッションを行う ・		
	11 O V WH4			
	(第 14 回)	講義 植草		 講義用の発表資料の作成
		オ務上の最新トピック・方向性	事前	(4h)
		る教育機関の M&A や連携法人、子会		講義全体のレポート (4h)
		様々な財務上の最新情報を共有し、		
第8講		る財務上の課題解決策の発表を行う。		
	(第15回)演習 植草			
	教育機関の財務上の最新トピック・方向性			
	今後、起こる教育機関の M&A や連携法人、子会			
	社設立など、様々な財務上の最新情報を共有し、			
		3財務上の課題解決策の発表を行う。		
定期試験		レポート		<u> </u>
使用テキ	使用テキスト 講師が講義用に用意するテキスト			
M11 1 2 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1				

参考文献	授業時に適時紹介する。
受講生に対する評価	通常の授業の参加意欲、レポートによる
	各回に作成を求める「小レポート」と学期末レポートを総合的に評価す
	る。
	小レポート 40% 学期末レポート 60%
授業・課題等に対す	講義中のディスカッション時でのフィードバック
る	レポート作成時や提出後のフィードバック
フィードバック	「小レポート」の内容について次回の授業時にコメントする。必要に応
	じ授業時に受講生による討論を行う。
オフィスアワー	随時メールでの問い合わせ
(オンライン曜日・	または随時アポイントによる面談形式
時間)	
受講生へのメッセー	今後の教育機関の経営を考える際に、ファイナンスや CFO(チーフ・
ジ*任意項目	ファイナンシャル・オフィサー)などの知識が不可欠です。一緒に教育
	テック・教育機関の経営・財務を考えていきましょう。
	LMS のフォーラム掲示板で積極的な意見交換を求める
備考	小グループに分ける時はビデオ会議システムのブレイクアウトルームな
*任意項目	どを利用する。
授業用 URL	
*任意項目	
授業用 E-Mail	
*任意項目	

教育経済学

講義名	教育経済学
単位数	2
単位区分(必修・選択・自由)	選択
講義開講時期	2年前期
講義区分(講義・演習・実習)	講義・演習
担当教員名	北條雅一

	教育界における課題を発見し、背景や関わる要因をグローバル視点で俯瞰し定	
DP1	義することができる。	
	(課題発見・要因定義能力)	
	教育界における課題に情報学の知識・スキルを活用し改善・解決することがで	
DP2-1	きる。	
	(改善・解決能力)	
	教育界における課題に経営学の知識・スキルを活用し改善・解決することがで	
DP2-2	きる。	
	(改善・解決能力)	
	科学的知見に基づき実践からデータを取得し仮説を立て検証することができ	
DP3	ప .	
	(科学的な検証能力)	
	教育テックによる教育界に関する社会変革を目標に、自らの構想を立てること	
DP4	ができる。	
	(社会変革への構想能力)	

	tr /		<i>[</i> /4-	党切1間」 ジェのこカロ奴汶党1.目爪	阳小约	マ文料学の進出されている	
履り	7	R R	件	学部入門レベルのミクロ経済学と最低限の経済数学の準備があることが			
				望ましいが必須ではない。			
授業の	既要			教育経済学とは,経済学で用いられる	概念や	『理論を教育という営みに応	
				用して,教育現場における課題の解決や教育の質の向上,教育政策の有			
				効性などを理論的・実証的に研究する	学問で	である。実証的な研究では,	
				計量経済学の手法を用いた厳密な統計	分析カ	ゞ重視される。	
				下記の2冊の教科書に沿って、教育経	済学の)主要課題を概観しつつ,経	
	済学的な観点から教育政策の効果検証について学ぶ。				って学ぶ。		
授業	のテ	1	マ	教育経済学の理論と分析手法を理解し	、教育	育課程や教育経営に反映させ	
及び到	達目標	į		られるようになること			
授業計画 (授業は1回を90分とし、2限連続で実施する場合がある) 授業外の学習 (60時間)				外の学習 (60 時間)			
公1 3 ±	(第	51回)	荐 義	事前	シラバス・教材予習 (2h)	
第1講	イン	トロ	ダク	ン ション	事後	学習内容の復習・確認 (2h)	

	建業概要の説明 授業の日的、達成日標・成績認			
	講義概要の説明,授業の目的・達成目標・成績評価方法等の確認			
	(第2回)講義	事前	教材予習(4h)	
	(第2回)神教 経済学における教育の位置づけ	3-133	JA11 7 11 (***)	
	経済学において教育が研究対象となった経緯を学			
	世		学習内容の復習・確認 (4h)	
答 0 = #				
第2講	(第3回)演習	事後		
	経済学における教育の位置づけ			
	隣接する他分野や、受講生が学んできた学問分野			
	との違いに関する議論を通して、教育経済学の特			
	徴を明確化する。	事前	数材予習(4h)	
	(第4回)講義	尹刖	教物 广首(411)	
	人的資本論			
	教育経済学の代表的な理論である人的資本論およ			
第3講	び関連する経済理論について解説する。	市公	農羽中央の復羽 佐辺 (41.)	
	(第5回)演習	事後	学習内容の復習・確認(4h)	
	人的資本論			
	人的資本論の考え方や妥当性について、多様な観			
	点から議論する。	市兴	#6++ > 19 (41)	
	(第6回)講義	事前	教材予習(4h)	
	教育費負担			
taka aitta	教育費の負担について、教育経済学および関連す			
第4講	る分野の考え方を整理する。	事後	学習内容の復習・確認 (4h)	
	(第7回)演習			
	日本における教育費負担構造の現状と課題につい			
	て議論する。	**	#J. J. L. Z 33 (41)	
	(第8回)講義	事前	教材予習(4h)	
	少人数学級(1-1)			
	少人数学級について,教育経済学および他分野に おける先行研究の知見を概観する。 (第9回)演習			
			学習内容の復習・確認(4h)	
第5講				
	少人数学級(1-2)			
	少人数学級についての幅広い議論を通して、期待			
	される効果や課題等,受講者の認識を明確にす			
	ప .			
	(第 10 回) 講義	事前	教材予習(4h)	
第6講	少人数学級(2-1)			
N1 0 H4	日本における学級規模の位置づけ,近年の少人数	事後	学習内容の復習・確認 (4h)	
	学級政策について解説する。			

	(第 11 回)	演習			
	少人数学級 (2-2)				
	小学校 35 人	学級化の効果について、幅広い視点か			
	ら議論する。				
	(第 12 回)	講義	事前	教材予習 (4h)	
	教員採用と教員不足				
	教員採用試験や教員不足について, 日本の現状と				
第7講	課題を解説す	ける。			
为 / 時	(第13回)	演習	事後	学習内容の復習・確認 (4h)	
	教員採用と教員不足				
	教員採用試験	倹や教員不足について,今後の課題や			
	問題解決に向	可けた議論をおこなう。			
	(第 14 回)	講義	事前	教材予習(4h)	
	幼児教育				
		ける幼児教育の効果検証について解説			
第8講	する。		± 1/2	Water to the state of the state	
	(第 15 回)	演習	事後	学習内容の復習・確認(4h)	
	幼児教育				
	幼児教育の重要性および期待される効果について				
#4€##±>	議論する。 ^	₽ 1			
定期試験		なし			
使用テキ	Fスト	北條雅一『少人数学級の経済学』慶應義塾大学出版会,2023年			
		松塚ゆかり『概説教育経済学』日本評論社, 2022 年			
参考文献	犬	小塩隆士『教育の経済分析』日本評論社, 2002 年			
		濱中淳子『検証・学歴の効用』勁草書房, 2013 年			
		中西啓喜『教育政策をめぐるエビデンス』勁草書房、2023 年			
		中室牧子『「学力」の経済学』ディスカヴァー・トゥエンティワン,			
		2015年			
		松岡亮二『教育格差』ちくま新書, 2019 年 ジェームズ・ヘックマン『幼児教育の経済学』東洋経済新報社, 2015			
		タェームス・ペックマン『幼児教育の経済子』 東洋経済利報任, 2015 年			
受講生に対する評価		最終授業後に提出するタームペーパーにより評価する。(100%)			
之間工(2/1) on im		取代及来後に提出する方とは、	(C &)	日 Щ 9 3 (100/0)	
極光。細胞体とから		7. 五 上 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1			
		必要に応じて適宜実施する。			
る フィードバック					
		以冊に付ける マゆう ことがいだい	. 1. «	(ニュ) (元仁)	
オフィスアワー (オンライン曜日・		必要に応じて、予約メールを受け付け、オンラインで行う。			
(オン)	/ 1 ン唯口・				

教科書の該当部分を予習し授業内容と併せて復習すること LMS のフォーラム掲示板で積極的な意見交換を求める
小グループに分ける時はビデオ会議システムのブレイクアウトルームな どを利用する。

教育構想演習(I)

講義名	教育構想演習 (I)
単位数	2 単位
単位区分(必修・選択・自由)	必修
講義開講時期	1年前期
講義区分(講義・演習・実習)	演習
担当教員名	竹村治雄

	教育界における課題を発見し、背景や関わる要因をグローバル視点で俯瞰し定義する	
DP1	ことができる。	
	(課題発見・要因定義能力)	
DP2-1	教育界における課題に情報学の知識・スキルを活用し改善・解決することができる。	
D1 2-1	(改善・解決能力)	
DP2-2	教育界における課題に経営学の知識・スキルを活用し改善・解決することができる。	
D1 2-2	(改善・解決能力)	
DP3	科学的知見に基づき実践からデータを取得し仮説を立て検証することができる。	
Drs	(科学的な検証能力)	
	教育テックによる教育界に関する社会変革を目標に、自らの構想を立てることができ	
DP4	る。	
	(社会変革への構想能力)	

履修条件	入学時に学生が設定した「自らの教育実務もしくは現在の教育に関して
	の課題」に近い専門領域の指導教員を割り振る。
授業の概要	研究指導科目群では、教育情報・経営リーダーシップ研究科が最終的
	な成果物とする「教育構想実践書」の完成に向けた一連の指導を行う。
	【教育構想演習(I)】では、各自の興味関心に沿った課題を設定
	し、研究に必要とされる考え方、研究法・調査法、プレゼンテーション
	やアカデミックライティングの技法、研究倫理の理解を身につけること
	で、特に課題の分析や改善に向けた調査手法を学ぶ。
授業のテーマ	教育的課題や社会課題を発見し背景や関わる要因を整理する。研究に必
及び到達目標	要とされる考え方、研究法・調査法、プレゼンテーションやアカデミッ
	クライティングの技法、研究倫理を学ぶ。
	○論理的な文章を書くことができる
	○関連する先行論文を検索しその内容をレビューできる
	○学習内容を適切な方法でプレゼンテーションできる

授業計画	町(授業は1回を90	分とし、2 限連続で実施する場合がある)	授業	授業外の学習 (60 時間)		
	(第1回)/	イントロダクション(講義)	事前	シラバス内容閲覧		
第1講		および関心を各履修者間で共有し、この -マを確認・設定する。		コメントペーパーの提出 (1h) 指定された文献の精読 (3h)		
第2講		全理的思考 1 (演習) 全理的思考 2 (演習)	事前	授業資料の確認(1.5h) 課題への取り組み(2.5h)		
>1. H13	論理的・客観	見的な文章レポートの書き方	事後	コメントペーパーの提出 (1h) 指定された文献の精読 (3h)		
第3講	(第4回)文献調査の技法1 (演習) (第5回)文献調査の技法2 (演習)			授業資料の確認(1.5h) 課題への取り組み(2.5h)		
	国内論文の持	だし方	事後	コメントペーパーの提出 (1h) 指定された文献の精読 (3h)		
第4講	(第6回) 学術プレゼンテーション作成1 (演習) (第7回) 学術プレゼンテーション発表1 (演習) 国内サーベイ論文の内容報告			授業資料の確認(1.5h) 課題への取り組み(2.5h)		
77 T HP				コメントペーパーの提出 (1h) 指定された文献の精読 (3h)		
第5講	(第8回)文献調査の技法3 (演習) (第9回)文献調査の技法4 (演習)		事前	授業資料の確認(1.5h) 課題への取り組み(2.5h)		
37 J 時	海外論文の探し方			コメントペーパーの提出 (1h) 指定された文献の精読 (3h)		
	(第 10 回) 学術プレゼンテーション作成 2 (演習)			授業資料の確認(1.5h) 課題への取り組み(2.5h)		
第6講	(第 11 回) 学術プレゼンテーション発表 2 (演習) 海外サーベイ論文の内容報告			コメントペーパーの提出 (1h) 指定された文献の精読 (3h)		
	(第 12 回) 習)	アカデミックライティング基礎 1(演	事前	授業資料の確認 (1.5h) 課題への取り組み (2.5h)		
第7講	(第 13 回) アカデミックライティング基礎 2 (演習) 学術論文の書き方の基礎指導			コメントペーパーの提出 (1h) 指定された文献の精読 (3h)		
第8講	(第 14 回)研究倫理基礎(講義) (第 15 回)研究倫理基礎(演習)		事前	授業資料の確認 (1.5h) 課題への取り組み (2.5h)		
71 V V	実験・調査の倫理的配慮を知る		事後	コメントペーパーの提出 (1h) 指定された文献の精読 (3h)		
定期試験 各自の発表(発表資料提出)及び、レポートとする。			とする。			
使用テキ	トスト	必要な教材は LMS から配布する。				

参考文献	必要な参考情報へのリンクは LMS 上て提示する。
受講生に対する評価	・発表内容(50%)
	・レポート (25%)
	・討議およびコメントペーパー(25%)
課題等に対する	・基本的には、授業の中で行う。
フィードバック	・本授業は、履修者の関心にあわせた指導が主となる。個別指導時はビ
	デオ会議システムのブレイクアウトルームなどを利用する。他者の指導
	の間に、与えられた課題に対する調査などを行う。
	そのため、履修者が積極的、自発的に自身の問題関心に応じて探究し
	ていくことが必要となる。毎回の授業ごとにレポート作成をするだけで
	なく、自身の研究報告の発表を行う。その上で、各履修者に対して助
	言・指導をする。 また、履修者は、他者の発表に対してコメントをす
	ること。
オフィスアワー	授業の前後
(オンライン曜日・	
時間)	
受講生へのメッセー	
ジ*任意項目	
備考	
*任意項目	
授業用 URL	
*任意項目	
授業用 E-Mail	
*任意項目	

講義名	教育構想演習 (I)
単位数	2 単位
単位区分(必修・選択・自由)	必修
講義開講時期	1年前期
講義区分(講義・演習・実習)	演習
担当教員名	秋田 次郎

	教育界における課題を発見し、背景や関わる要因をグローバル視点で俯瞰し定義する	
DP1	ことができる。	
	(課題発見・要因定義能力)	
DP2-1	教育界における課題に情報学の知識・スキルを活用し改善・解決することができる。	
D1 2-1	(改善・解決能力)	
DP2-2	教育界における課題に経営学の知識・スキルを活用し改善・解決することができる。	
D1 2-2	(改善・解決能力)	
DP3	科学的知見に基づき実践からデータを取得し仮説を立て検証することができる。	
DF3	(科学的な検証能力)	
	教育テックによる教育界に関する社会変革を目標に、自らの構想を立てることができ	
DP4	る。	
	(社会変革への構想能力)	

履化	条	件	入学時に学生が設定した「自らの教育実務もしくは現在の教育に関して
			の課題」に近い専門領域の指導教員を割り振る。
極業の	11K THE		四次化道利日形へは 数方柱切 奴受り が x プログ科 お目めめ
授業の	死安		研究指導科目群では、教育情報・経営リーダーシップ研究科が最終的
			な成果物とする「教育構想実践書」の完成に向けた一連の指導を行う。
			【教育構想演習(I)】では、各自の興味関心に沿った課題を設定し、
			研究に必要とされる考え方、研究法・調査法、プレゼンテーションやア
			カデミックライティングの技法、研究倫理の理解を身につけることで、
			特に課題の分析や改善に向けた調査手法を学ぶ。
授 業	のテ	ー マ	教育的課題や社会課題を発見し背景や関わる要因を整理する。研究に必
及び到達	達目標		要とされる考え方、研究法・調査法、プレゼンテーションやアカデミッ
			クライティングの技法、研究倫理を学ぶ。
			○論理的な文章を書くことができる
			○関連する先行論文を検索しその内容をレビューできる
			○学習内容を適切な方法でプレゼンテーションできる
			○研究を進めるための倫理の基礎を理解できる。

授業計画		分とし、2 限連続で実施する場合がある)	授業外の学習 (60 時間)		
	(第1回) /	(ントロダクション(講義)	事前	シラバス内容閲覧	
第1講		および関心を各履修者間で共有し、この-マを確認・設定する。	事後	コメントベーパーの提出 (1h) 指定された文献の精読 (3h)	
第2講	(第2回) 論理的思考1 (演習) (第3回) 論理的思考2 (演習)			授業資料の確認 (1.5h) 課題への取り組み (2.5h)	
N1 12 III3	論理的・客観	見的な文章レポートの書き方	事後	コメントベーパーの提出 (1h) 指定された文献の精読 (3h)	
第3講		文献調査の技法1(演習) 文献調査の技法2(演習)	事前	授業資料の確認 (1.5h) 課題への取り組み (2.5h)	
> 4 C III 1	国内論文の抄	だし方	事後	コメントベーパーの提出 (1h) 指定された文献の精読 (3h)	
第4講		学術プレゼンテーション作成 1 (演習) 学術プレゼンテーション発表 1 (演習)	事前	授業資料の確認 (1.5h) 課題への取り組み (2.5h)	
71 T III	国内サーベイ	[・] 論文の内容報告	事後	コメントペーパーの提出 (1h) 指定された文献の精読 (3h)	
第5講		Z献調査の技法3(演習) Z献調査の技法4(演習)	事前	授業資料の確認(1.5h) 課題への取り組み(2.5h)	
>1: - HI4	海外論文の控	だし方	事後	コメントペーパーの提出 (1h) 指定された文献の精読 (3h)	
	(第 10 回) 習)	学術プレゼンテーション作成 2 (演	事前	授業資料の確認 (1.5h) 課題への取り組み (2.5h)	
第6講	習)	学術プレゼンテーション発表 2 (演) 論文の内容報告	事後	コメントペーパーの提出 (1h) 指定された文献の精読 (3h)	
	(第 12 回) 習)	アカデミックライティング基礎 1 (演	事前	授業資料の確認(1.5h) 課題への取り組み(2.5h)	
第7講	習)	アカデミックライティング基礎 2 (演 書き方の基礎指導	事後	コメントペーパーの提出 (1h) 指定された文献の精読 (3h)	
第8講		研究倫理基礎(講義) 研究倫理基礎(演習)	事前	授業資料の確認 (1.5h) 課題への取り組み (2.5h)	
		D倫理的配慮を知る		コメントペーパーの提出 (1h) 指定された文献の精読 (3h)	
定期試験		各自の発表(発表資料提出)及び、レポートとする。			
使用テキスト		別途、指示する			
参考文献		別途指示する			
受講生に対する評価		・発表内容(50%) ・レポート(25%) ・討議およびコメントペーパー(25%)			

課題等に対する	・基本的には、授業の中で行う。
フィードバック	— , , , , , , , , , , , , , , , , , , ,
ノイートハック	・本授業は、履修者の関心にあわせた指導が主となる。個別指導時はビ
	デオ会議システムのブレイクアウトルームなどを利用する。他者の指導
	の間に、与えられた課題に対する調査などを行う。
	そのため、履修者が積極的、自発的に自身の問題関心に応じて探究し
	ていくことが必要となる。毎回の授業ごとにレポート作成をするだけで
	なく、自身の研究報告の発表を行う。その上で、各履修者に対して助
	言・指導をする。 また、履修者は、他者の発表に対してコメントをす
	ること。
オフィスアワー	授業の前後
(オンライン曜日・	
時間)	
受講生へのメッセー	
ジ*任意項目	
備考	
*任意項目	
授業用 URL	
*任意項目	
授業用 E-Mail	
*任意項目	

講義名	教育構想演習(I)
単位数	2 単位
単位区分(必修・選択・自由)	必修
講義開講時期	1年前期
講義区分(講義・演習・実習)	演習
担当教員名	河崎 雷太

	教育界における課題を発見し、背景や関わる要因をグローバル視点で俯瞰し定義する	
DP1	ことができる。	
	(課題発見・要因定義能力)	
DP2-1	教育界における課題に情報学の知識・スキルを活用し改善・解決することができる。	
D1 2-1	(改善・解決能力)	
DP2-2	教育界における課題に経営学の知識・スキルを活用し改善・解決することができる。	
D1 2-2	(改善・解決能力)	
DP3	科学的知見に基づき実践からデータを取得し仮説を立て検証することができる。	
DF3	(科学的な検証能力)	
	教育テックによる教育界に関する社会変革を目標に、自らの構想を立てることができ	
DP4	る。	
	(社会変革への構想能力)	

履	修	条	件	入学時に学生が設定した「自らの教育実務もしくは現在の教育に関して			
				の課題」に近い専門領域の指導教員を割り振る。			
2 - 2 > 22 / 2		-					
授業の	り概要	1		研究指導科目群では、教育情報・経営リーダーシップ研究科が最終的な			
				成果物とする「教育構想実践書」の完成に向けた一連の指導を行う。			
				【教育構想演習(I)】では、各自の興味関心に沿った課題を設定し、			
				研究に必要とされる考え方、研究法・調査法、プレゼンテーションやア			
				カデミックライティングの技法、研究倫理の理解を身につけることで、			
				特に課題の分析や改善に向けた調査手法を学ぶ。			
授業	の	テー	- マ	教育的課題や社会課題を発見し背景や関わる要因を整理する。研究に必			
及び致	引達 目	標		要とされる考え方、研究法・調査法、プレゼンテーションやアカデミッ			
				クライティングの技法、研究倫理を学ぶ。			
				○論理的な文章を書くことができる			
				○関連する先行論文を検索しその内容をレビューできる			
				○学習内容を適切な方法でプレゼンテーションできる			
				○研究を進めるための倫理の基礎を理解できる。			

授業計画	国(授業 は1回を 90	分とし、2 限連続で実施する場合がある)	授業	外の学習 (60 時間)
	(第1回) /	イントロダクション(講義)	事前	シラバス内容閲覧
第1講		および関心を各履修者間で共有し、この一マを確認・設定する。	事後	コメントペーパーの提出 (1h) 指定された文献の精読 (3h)
第2講		全量的思考 1 (演習) 全理的思考 2 (演習)	事前	授業資料の確認 (1.5h) 課題への取り組み (2.5h)
N1 7 III	論理的・客観	見的な文章レポートの書き方	事後	コメントペーパーの提出(1h) 指定された文献の精読(3h)
第3講		文献調査の技法1(演習) 文献調査の技法2(演習)	事前	授業資料の確認(1.5h) 課題への取り組み(2.5h)
	国内論文の担	ドレ方	事後	コメントペーパーの提出 (1h) 指定された文献の精読 (3h)
第4講		学術プレゼンテーション作成 1 (演習) 学術プレゼンテーション発表 1 (演習)	事前	授業資料の確認(1.5h) 課題への取り組み(2.5h)
>14 - HI1	国内サーベイ	イ論文の内容報告	事後	コメントペーパーの提出 (1h) 指定された文献の精読 (3h)
第5講		文献調査の技法3(演習) 文献調査の技法4(演習)	事前	授業資料の確認(1.5h) 課題への取り組み(2.5h)
カリ時	海外論文の担		事後	コメントペーパーの提出 (1h) 指定された文献の精読 (3h)
	(第 10 回) 習))学術プレゼンテーション作成2(演	事前	授業資料の確認(1.5h) 課題への取り組み(2.5h)
第6講	習))学術プレゼンテーション発表 2 (演 「論文の内容報告	事後	コメントペーパーの提出 (1h) 指定された文献の精読 (3h)
	(第 12 回) 習)	アカデミックライティング基礎 1(演	事前	授業資料の確認(1.5h) 課題への取り組み(2.5h)
第7講	習)	アカデミックライティング基礎 2 (演 書き方の基礎指導	事後	コメントペーパーの提出 (1h) 指定された文献の精読 (3h)
第8講	(第 14 回)研究倫理基礎(講義) (第 15 回)研究倫理基礎(演習)		事前	授業資料の確認(1.5h) 課題への取り組み(2.5h)
分〇	実験・調査の倫理的配慮を知る		事後	コメントペーパーの提出 (1h) 指定された文献の精読 (3h)
定期試験		各自の発表(発表資料提出)及び、レオ	ポートで	とする。
使用テキスト		別途、指示する		
参考文献		別途指示する		
受講生に対する評価		・発表内容(50%)・レポート(25%)・討議およびコメントペーパー(25%)		

課題等に対する	・基本的には、授業の中で行う。			
フィードバック	・本授業は、履修者の関心にあわせた指導が主となる。個別指導時はビ			
	デオ会議システムのブレイクアウトルームなどを利用する。他者の指導			
	の間に、与えられた課題に対する調査などを行う。			
	そのため、履修者が積極的、自発的に自身の問題関心に応じて探究し			
	ていくことが必要となる。毎回の授業ごとにレポート作成をするだけで			
	なく、自身の研究報告の発表を行う。その上で、各履修者に対して助			
	言・指導をする。 また、履修者は、他者の発表に対してコメントをす			
	ること。			
オフィスアワー	授業の前後			
(オンライン曜日・				
時間)				
受講生へのメッセー				
ジ*任意項目				
備考				
*任意項目				
授業用 URL				
*任意項目				
授業用 E-Mail				
*任意項目				

講義名	教育構想演習 (I)
単位数	2 単位
単位区分(必修・選択・自由)	必修
講義開講時期	1年前期
講義区分(講義・演習・実習)	演習
担当教員名	木岡一明

	教育界における課題を発見し、背景や関わる要因をグローバル視点で俯瞰し定義する	
DP1	ことができる。	
	(課題発見・要因定義能力)	
DP2-1	教育界における課題に情報学の知識・スキルを活用し改善・解決することができる。	
D1 2-1	(改善・解決能力)	
DP2-2	教育界における課題に経営学の知識・スキルを活用し改善・解決することができる。	
D1 2-2	(改善・解決能力)	
DP3	科学的知見に基づき実践からデータを取得し仮説を立て検証することができる。	
DF3	(科学的な検証能力)	
	教育テックによる教育界に関する社会変革を目標に、自らの構想を立てることができ	
DP4	る。	
	(社会変革への構想能力)	

履	修	条	件	入学時に学生が設定した「自らの教育実務もしくは現在の教育に関して			
			の課題」に近い専門領域の指導教員を割り振る。				
1-0 1110	l trans	_					
授業	の概要			研究指導科目群では、教育情報・経営リーダーシップ研究科が最終的			
				な成果物とする「教育構想実践書」の完成に向けた一連の指導を行う。			
				【教育構想演習(I)】では、各自の興味関心に沿った課題を設定			
				し、研究に必要とされる考え方、研究法・調査法、プレゼンテーション			
				やアカデミックライティングの技法、研究倫理の理解を身につけること			
				で、特に課題の分析や改善に向けた調査手法を学ぶ。			
授	業の	テー	· マ	教育的課題や社会課題を発見し背景や関わる要因を整理する。研究に必			
及び	到達目	標		要とされる考え方、研究法・調査法、プレゼンテーションやアカデミッ			
				クライティングの技法、研究倫理を学ぶ。			
				○論理的な文章を書くことができる			
				○関連する先行論文を検索しその内容をレビューできる			
				○学習内容を適切な方法でプレゼンテーションできる			
			○研究を進めるための倫理の基礎を理解できる。				

授業計画	国 (授業は1回を 90 分とし、2 限連続で実施する場合がある)	授業	外の学習 (60 時間)
	(第1回) 前期イントロダクション (講義) 講義概要、テキストの概要について理解し、担	事前	シラバス内容を確認した上で、テ キストの緒言を熟読して、疑問点 や感想をまとめる(1h)
第1講	当箇所を確定して今後の学修を見通す。 そのため、現在の課題および関心を各履修者間で共有し、この講座でのテーマを確認・設定する。 また文献調査の技法を理解し、自ら国内文献を探索できるようになる。	事後	学修計画を立てる (2h) コメントペーパーの作成と提出 (1h)
	(第 2·3 回)教育経営の研究動向を知る(講義と 演習) テキストの第 1 章を通読し、基本概念、対象領	事前	テキスト第 1 章を熟読し、自己の 研究関心と関連する先行研究を 10 点以上、リスト化する (4h)
第2講	域、研究方法を理解し、これらの面から自己の研究の見通しを構想する。これらを通じて、論理的 思考を鍛え、論理的・客観的な文章作成法を修得する。	事後	コメントペーパーの作成と提出 (1h) 研究の見通しをレポートにまとめる (3 h)
	(第 4·5 回)教育経営に関わる政策動向を知る (講義と演習)) 研究見通しレポートを発表し、全体でその論理		テキスト第 2 章を熟読し、自己の 研究関心と関連する政策動向につ いて調べて、レポートにまとめる (4h)
第3講	的妥当性や客観性を討議した上で、テキストの第 2 章を通読し、昨今の学校経営改革、教育委員会 制度改革、教育制度改革、教員制度改革の動向を 把握し、自己の研究対象を定め、関係する文献検 索を行う。	事後	コメントペーパーの作成と提出 (1h) これまでリスト化した先行研究の 中から 1 点を選び、内容を要約する。(3h)
	(第 6·7 回)教育経営をめぐる実践的課題を知る (講義と演習) 先行研究要約レポートをプレゼンテーション	事前	テキスト第 3 章を熟読し、自己の研究関心と関連する実践的課題について調べて、レポートにまとめる(4h)
第4講	し、全体でその適切性を討議した上で、テキストの第3章を通読し、子ども、学校、教育課程、教員、地域をめぐる教育経営課題を把握し、自己の研究課題を定め、関係する文献検索を行う。	事後	コメントペーパーの作成と提出 (1h) 先行研究リストの中から新たに 1 点を選び、内容を要約する。 (3 h)
	(第 8·9 回)教育マネジメントの仕組みと方法を 知る(講義と演習) 新たに作成した先行研究要約レポートをプレゼ	事前	テキスト第 4 章を熟読し、教育マネジメントの仕組みと方法を整理する (4h)
第5講	ンテーションし、全体でその適切性を討議した上で、テキストの第 4 章を通読し、教育マネジメントの仕組みと方法を理解した上で、自己の研究の問題領域を定め、関係する文献検索を行う。	事後	コメントペーパーの作成と提出 (1h) これまでリスト化した先行研究の 中から新たに 1 点を選び、内容を 要約する。(3h)
第6講	(第 10 回) アカデミックライティング基礎 1 (講	事前	自らの研究テーマに基づいた論文 を試論的にまとめる。(4 h)

	去/					
	義) 学術論文の	の書き方について、基礎的な問題を理				
		きでの自己のレポート振り返る。		コメントペーパーの作成と提出		
	(第11回)	アカデミックライティング基礎2(演	事後	(1h) 自ら作成した試論を、修正する		
	習)			目の作成した訊冊を、修正する (3h)		
	各自の試記	龠をプレゼンテーションし、その適切				
	性を討議した	と上で、修正すべき点を確認する。				
	(第 12 回)	研究倫理基礎(講義)	事前	これまでの学修を元に研究計画書		
	実験・調査	査の倫理的配慮を理解し、自らの研究		案を作成する(4h)		
	計画書で踏る	とえるべき点を確認する。		コメントペーパーの作成と提出		
第7講	(第13回)	研究倫理基礎(演習)		(1h)		
	これまでの	の学修を基に研究計画書案を作成し、	事後	討議を元に研究計画書案を修正す		
		能性や適切性について全体で討議す		る (3h)		
	る。					
	,	回)研究計画書の立案	事前	修正した研究計画書案を精査する (4h)		
第8講		義を受けて修正した研究計画書を、効		コメントペーパーの作成と提出		
知の時	果性の視点な	から全体で討議する。	事後	(1h)		
				討議を元に研究計画書案を修正す る(3h)		
定期試験	· 矣	実施しない。ただし、評価は「受講生に対する評価」欄を参照のこと。				
使用テキ	 キスト	│ │教科書は、日本教育経営学会編『教育経営ハンドブック(講座 現代の │				
		教育経営 5)』学文社、2018 年。				
参考文献	扰	都度、講義中に紹介する。				
受講生は	こ対する評価	・事前・事後学修課題 (25%)				
		・担当箇所レポート (25%)				
		・最終的な研究計画書案(25%)				
		・討議 (25%)				
課題等は	こ対する	・基本的には、授業の中で行う。				
フィー1	ドバック	・本授業は、履修者の関心にあわせた研究指導が主となる。そのため、				
		履修者が積極的、自発的に自身の問題関心に応じて探究していくことが				
		必要となる。個別指導時はビデオ会議システムのブレイクアウトルーム				
		などを利用する。他者の指導の間に、	与えら	れた課題に対する調査など		
		を行う。				
		・毎回の授業ごとに単発のレポート作成をするのではなく、自身の研究				
		に関連づけて作成し発表を行う。その上で、各履修者に対して助言・指				
		導をする。また、履修者は、他者の発				
		・最終的な研究計画書案については、	コメン	/トを付して返却する。		

オフィスアワー	原則として毎週水曜日・18:00~20:00
(オンライン曜日・	希望する人は事前予約してください。
時間)	
受講生へのメッセー	第1週から毎週、事前・事後学修課題の提出を求めます。したがって、
ジ*任意項目	第1講時にも事前学修課題レポートを忘れずに用意して臨むこと。
備考	
*任意項目	
授業用 URL	
*任意項目	
授業用 E-Mail	
*任意項目	

講義名	教育構想演習 (I)
単位数	2 単位
単位区分(必修・選択・自由)	必修
講義開講時期	1年前期
講義区分(講義・演習・実習)	演習
担当教員名	柴山 慎一

	教育界における課題を発見し、背景や関わる要因をグローバル視点で俯瞰し定義する	
DP1	ことができる。	
	(課題発見・要因定義能力)	
DP2-1	教育界における課題に情報学の知識・スキルを活用し改善・解決することができる。	
D1 2-1	(改善・解決能力)	
DP2-2	教育界における課題に経営学の知識・スキルを活用し改善・解決することができる。	
D1 2-2	(改善・解決能力)	
DP3	科学的知見に基づき実践からデータを取得し仮説を立て検証することができる。	
DF3	(科学的な検証能力)	
	教育テックによる教育界に関する社会変革を目標に、自らの構想を立てることができ	
DP4	る。	
	(社会変革への構想能力)	

履修条件	入学時に学生が設定した「自らの教育実務もしくは現在の教育に関して
	の課題」に近い専門領域の指導教員を割り振る。
 授業の概要	研究指導科目群では、教育情報・経営リーダーシップ研究科が最終的な
以来が例女	
	成果物とする「教育構想実践書」の完成に向けた一連の指導を行う。
	【教育構想演習(I)】では、各自の興味関心に沿った課題を設定し、
	研究に必要とされる考え方、研究法・調査法、プレゼンテーションやア
	カデミックライティングの技法、研究倫理の理解を身につけることで、
	特に課題の分析や改善に向けた調査手法を学ぶ。
授業のテーマ	教育的課題や社会課題を発見し背景や関わる要因を整理する。研究に必
及び到達目標	要とされる考え方、研究法・調査法、プレゼンテーションやアカデミッ
	クライティングの技法、研究倫理を学ぶ。
	○論理的な文章を書くことができる
	○関連する先行論文を検索しその内容をレビューできる
	○学習内容を適切な方法でプレゼンテーションできる
	○研究を進めるための倫理の基礎を理解できる。

授業計画		授業	外の学習 (60 時間)
	(第1回)オリエンテーション(講義)	事前	各自の教育構想計画書につなが
第1講	演習の全体像とゴールイメージ、受講生の問題意		るような問題意識を整理(3h) 他のゼミ生の問題意識との差異
	識、進め方などの共有	事後	を振り返り(1h)
	(第2回) 専門書読破とゼミ内共有① (演習)		自身の関心テーマの参考になる
	(第3回) 専門書読破とゼミ内共有② (演習)	事前	ようなバイブル専門書を選定し
答○	各自の関心テーマ、研究テーマの中核に位置付けら		概要発表のために資料化(7h)
第2講	れるバイブルになるような一人各一冊の専門書の内		自身の発表に対するコメント等
	容報告と議論。この課題を通じて論理的・客観的な	事後	の振り返りと他のゼミ生の発表
	文章・レポートの書き方を学ぶ。		を受けての振り返り(1h)
	(第4回)専門書読破とゼミ内共有③(演習)		自身の関心テーマの参考になる
	(第5回)専門書読破とゼミ内共有④(演習)	事前	ようなバイブル専門書を選定し 概要発表のために資料化(7h)
答 2	各自の関心テーマ、研究テーマの中核に位置付けら		
第3講	れるバイブルになるような一人各一冊の専門書の内		自身の発表に対するコメント等
	容報告と議論。この課題を通じて文献調査の技法を		の振り返りと他のゼミ生の発表 を受けての振り返り(1h)
	学ぶ。		を文がでの版り返り(III)
	(第6回)教育構想計画書の素案発表① (演習)	事前	自身の教育構想計画書の素案作
	(第7回)教育構想計画書の素案発表②(演習)		成と発表準備(7h)
第4講	教育機関、教育事業における新たな構想を提言する		自身の発表に対するコメント等
	ための素案について発表し議論する。この課題を通	事後	の振り返りと他のゼミ生の発表
	じてプレゼンテーション資料の作成法を学ぶ。		を受けての振り返り(1h)
	(第8回)教育構想計画書の素案発表③ (演習)		自身の関心テーマの参考になる
	(第9回) 教育構想計画書の素案発表④ (演習)	事前	ようなバイブル専門書を選定し 概要発表のために資料化(7h)
第5講	教育機関、教育事業における新たな構想を提言する		自身の発表に対するコメント等
	ための素案について発表し議論する。この課題を通	事後	の振り返りと他のゼミ生の発表
	じてプレゼンテーション資料の作成法を学ぶ。		を受けての振り返り(1h)
	(第 10 回)教育構想計画書の改善案発表① (演	事前	自身の教育構想計画書の素案作
	習)	尹刖	成と発表準備(7h)
	(第 11 回)教育構想計画書の改善案発表② (演		
第6講	習)		自身の発表に対するコメント等
	素案に対する改善案を反映したものを発表し議論す	事後	の振り返りと他のゼミ生の発表
	る。この課題を通じてアカデミックライティングの		を受けての振り返り(1h)
	手法を学ぶ。		
	(第 12 回)教育構想計画書の改善案発表③ (演	事前	自身の教育構想計画書の素案作
	習)	3.133	成と発表準備(7h)
第7講	(第 13 回)教育構想計画書の改善案発表④ (演		点点。双针。a. 44 1. 20 2. 2. 2. 44
NA , MLL	習)	事後	自身の発表に対するコメント等 の振り返りと他のゼミ生の発表
	素案に対する改善案を反映したものを発表し議論す	5 K	を受けての振り返り(1h)
	る。この課題を通じてアカデミックライティングの		

	手法を学ぶ。			
		研究倫理の基礎①(講義)		自身の教育構想計画書の中間報
		研究倫理の基礎② (演習)	事前	音身の教育構想計画音の中間報 告案の作成と発表準備 (7h)
第8講	(, , , , , , , , , , , , , , , , , , ,	服告用に取り纏めた教育構想計画書を発 の表示を表示している。		4 4 5 W + 1 1 1 W 1 1 1 M
Na O tha		る。この課題を通じて研究倫理の基礎を	事後	自身の発表に対するコメント等 の振り返りと他のゼミ生の発表
	学ぶ。		, 12	を受けての振り返り(1h)
定期試験		試験ではなく、前後期を通じて教育構想	計画	書の提出を求める。
使用テキ	トスト	教科書は指定しないが、必要に応じて参考書は推奨する。		
参考文献	₹	柴山慎一(2011)『コーポレートコミニ	ュニケ	ーション経営』東洋経済
		新報社		
		清水正道、柴山慎一ほか(2019)『イン	/ター	ナル・コミュニケーショ
		ン経営』経団連出版		
		ほか研究テーマに応じて		
受講生に	対する評価	授業の進め方は、ゼミ生各自の発表とセ	ミ生生	全員参加のディスカッショ
		ンを中心とする。ゼミ活動中の参加姿勢	や他和	皆への貢献、ディスカッシ
		ョンへの関与などの平常点と最終報告される教育構想計画書をもとに評		
		価する。平常点 70%、教育構想計画書(リサーチペーパー)30%		
課題等に	対する	フィードバックは受講生毎に都度、授業の中で行うが、必要に応じて		
フィート	゙ バック	個別に行う。		
		本授業は、履修者の関心にあわせた指導が主となる。個別指導時はビ		
		デオ会議システムのブレイクアウトルームなどを利用する。他者の指導		
		の間に、与えられた課題に対する調査が	などを	行う。 そのため、履修者
		が積極的、自発的に自身の問題関心に応じて探究していくことが必要と		
		なる。毎回の授業ごとにレポート作成をするだけでなく、自身の研究報		
		告の発表を行う。その上で、各履修者に対して助言・指導をする。 ま		
		た、履修者は、他者の発表に対してコメ		
オフィス		社会人院生が中心になることから受講	生の余	※裕のある時間帯を確保す
(オンラ 時間)	テイン曜日・	る。主に平日夜間と土曜日など(要予約	J) 。	
		教育機関の経営、教育事業の拡大・	成長に	
ジャ任意		欲を持っていること	,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,	pq > 0 14)
		教育構想計画書は個人制作するものです	-が、 -	ゼミでの発表の準備や、ゼ
		ミ内での議論などのゼミ活動そのものは		
		なります。お互いに切磋琢磨し合いな	•	
		す。		
備考				
*任意項	目			

講義名	教育構想演習 (I)
単位数	2 単位
単位区分(必修・選択・自由)	必修
講義開講時期	1年前期
講義区分(講義・演習・実習)	演習
担当教員名	藤本典裕

	教育界における課題を発見し、背景や関わる要因をグローバル視点で俯瞰し定義する	
DP1	ことができる。	
	(課題発見・要因定義能力)	
DP2-1	教育界における課題に情報学の知識・スキルを活用し改善・解決することができる。	
D1 2-1	(改善・解決能力)	
DP2-2	教育界における課題に経営学の知識・スキルを活用し改善・解決することができる。	
D1 2-2	(改善・解決能力)	
DP3	科学的知見に基づき実践からデータを取得し仮説を立て検証することができる。	
DF3	(科学的な検証能力)	
	教育テックによる教育界に関する社会変革を目標に、自らの構想を立てることができ	
DP4	る。	
	(社会変革への構想能力)	

履	修	条	件	入学時に学生が設定した「自らの教育実務もしくは現在の教育に関して			
				の課題」に近い専門領域の指導教員を割り振る。			
授業	の概要	į		研究指導科目群では、教育情報・経営リーダーシップ研究科が最終的			
				な成果物とする「教育構想実践書」の完成に向けた一連の指導を行う。			
				【教育構想演習(I)】では、各自の興味関心に沿った課題を設定し、			
				研究に必要とされる考え方、研究法・調査法、プレゼンテーションやア			
				カデミックライティングの技法、研究倫理の理解を身につけることで、			
				特に課題の分析や改善に向けた調査手法を学ぶ。			
授美	後 の	テー	· マ	教育的課題や社会課題を発見し背景や関わる要因を整理する。研究に必			
及び	到達目	標		要とされる考え方、研究法・調査法、プレゼンテーションやアカデミッ			
				クライティングの技法、研究倫理を学ぶ。			
				○論理的な文章を書くことができる			
				○関連する先行論文を検索しその内容をレビューできる			
				○学習内容を適切な方法でプレゼンテーションできる			
				○研究を進めるための倫理の基礎を理解できる。			

授業計画	団(授業 は1回を 90	分とし、2 限連続で実施する場合がある)	授業	外の学習 (60 時間)
	(第1回) /	イントロダクション(講義)	事前	シラバス内容閲覧
第1講		の課題および関心を各履修者間で共有し、この でのテーマを確認・設定する。		コメントペーパーの提出 (1h) 指定された文献の精読 (3h)
the or the		文献調査の技法1(演習) 文献調査の技法2(演習)	事前	授業資料の確認(1.5h) 課題への取り組み(2.5h)
第2講	国内論文の	の検索方法と実践	事後	コメントペーパーの提出 (1h) 指定された文献の精読 (3h)
第3講		文献調査の技法3(演習) 文献調査の技法4(演習)	事前	授業資料の確認(1.5h) 課題への取り組み(2.5h)
N1 O III	海外論文の	D検索方法と実践	事後	コメントペーパーの提出 (1h) 指定された文献の精読 (3h)
第4講		★理的思考 1 (演習)★理的思考 2 (演習)	事前	授業資料の確認(1.5h) 課題への取り組み(2.5h)
勿生舑		客観的な文章レポートの作成と検討	事後	コメントペーパーの提出 (1h) 指定された文献の精読 (3h)
第5講	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	学術プレゼンテーション作成 1 (演習) 学術プレゼンテーション発表 1 (演習)	事前	授業資料の確認(1.5h) 課題への取り組み(2.5h)
分り 神		べイ論文の内容報告	事後	コメントペーパーの提出 (1h) 指定された文献の精読 (3h)
	(第 10 回)習))学術プレゼンテーション作成2(演	事前	授業資料の確認(1.5h) 課題への取り組み(2.5h)
第6講	(第 11 回) 学術プレゼンテーション発表 2 (演習) 海外サーベイ論文の内容報告			コメントペーパーの提出 (1h) 指定された文献の精読 (3h)
	(第 12 回) 習)	アカデミックライティング基礎 1(演	事前	授業資料の確認(1.5h) 課題への取り組み(2.5h)
第7講	習)	アカデミックライティング基礎 2 (演)書き方の基礎指導	事後	コメントペーパーの提出 (1h) 指定された文献の精読 (3h)
第8講	(第 14 回)研究倫理基礎(講義) (第 15 回)研究倫理基礎(演習)			授業資料の確認 (1.5h) 課題への取り組み (2.5h)
わり冊		を の倫理的配慮を知る	事後	コメントペーパーの提出 (1h) 指定された文献の精読 (3h)
定期試験		各自の発表(発表資料提出)及び、レオ	ポートで	とする。
使用テキスト		別途、指示する		
参考文献		別途指示する		
受講生に対する評価		・発表内容(50%)・レポート(25%)・討議およびコメントペーパー(25%)		

課題等に対する	・基本的には、授業の中で行う。
フィードバック	・本授業は、履修者の関心にあわせた指導が主となる。個別指導時はビ
	デオ会議システムのブレイクアウトルームなどを利用する。他者の指導
	の間に、与えられた課題に対する調査などを行う。
	そのため、履修者が積極的、自発的に自身の問題関心に応じて探究し
	ていくことが必要となる。毎回の授業ごとにレポート作成をするだけで
	なく、自身の研究報告の発表を行う。その上で、各履修者に対して助
	言・指導をする。 また、履修者は、他者の発表に対してコメントをす
	ること。
オフィスアワー	授業の前後
(オンライン曜日・	
時間)	
受講生へのメッセー	
ジ*任意項目	
備考	
*任意項目	
授業用 URL	
*任意項目	
授業用 E-Mail	
*任意項目	

講義名	教育構想演習 (I)
単位数	2 単位
単位区分(必修・選択・自由)	必修
講義開講時期	1年前期
講義区分(講義・演習・実習)	演習
担当教員名	山田 恒夫

	教育界における課題を発見し、背景や関わる要因をグローバル視点で俯瞰し定	
DP1	義することができる。	
	(課題発見・要因定義能力)	
	教育界における課題に情報学の知識・スキルを活用し改善・解決することがで	
DP2-1	きる。	
	(改善・解決能力)	
	教育界における課題に経営学の知識・スキルを活用し改善・解決することがで	
DP2-2	きる。	
	(改善・解決能力)	
	科学的知見に基づき実践からデータを取得し仮説を立て検証することができ	
DP3	ప .	
	(科学的な検証能力)	
	教育テックによる教育界に関する社会変革を目標に、自らの構想を立てること	
DP4	ができる。	
	(社会変革への構想能力)	

履	修	条	件	入学時に学生が 設定した「自らの教育実務もしくは現在の教育に関		
				しての課題」 に近い 専門領域の指導教員を割り振る。		
授業	の概要	į.		研究指導科目群では、教育情報・経営リーダーシップ研究科 が最		
				終的な成果物と する「教育構想実践書」の完成に向けた一連の 指		
				導を行う。		
				【教育構想演習(I)】では、 各自の興味関心に沿った課題を 設		
				定し、研究に必要とされる考え方 、研究法・調査 法 、プレゼン		
				テーション やアカデミックライティングの技法 、研究倫理の理解		
				を身につけることで、特に課題 の分析や改善に向けた調査手法を学		
				హ్య		

及び到達目標

授業のテーマ 教育的課題や社会課題を発見し背景や関わる要因を整理する。研究 に必要とされる考え方、研究法・調査法、プレゼンテーションやアカデ ミックライティングの技法、研究倫理 を学ぶ。

- ○論理的な文章を書くことができる
- ○関連する 先行論文を検索しその内容をレビュー できる
- 学習内容を適切な方法でプレゼンテーションできる
- ○研究を進めるための倫理の基礎を理解できる。

授業計画	- 引(授業は1回を 90 分とし、2 限連続で実施する場合がある)	授業外の学習 (60 時間)		
	(第1回) イントロダクション (講義)	事前	シラバス内容閲覧	
第1講	現在の課題および関心を各履修者間で共有し、この 講座でのテーマを確認・設定する。	事後	コメントペーパーの提出 (1h) 指定された文献の精読 (3h)	
totath	(第2回) 論理的思考1 (演習) (第3回) 論理的思考2 (演習)	事前	授業資料の確認(1.5h) 課題への取り組み(2.5h)	
第2講	論理的・客観的な文章レポートの書き方 について 学ぶ	事後	コメントペーパーの提出 (1h) 指定された文献の精読 (3h)	
第3講	(第4回) 文献調査の技法1 (演習) (第5回) 文献調査の技法2 (演習)	事前	授業資料の確認(1.5h) 課題への取り組み(2.5h)	
NI O III	国内論文の 検索方法について学ぶ。	事後	コメントペーパーの提出 (1h) 指定された文献の精読 (3h)	
// A =#	(第6回)学術プレゼンテーション作成1(演習)(第7回)学術プレゼンテーション発表1(演習)	事前	授業資料の確認 (1.5h) 課題への取り組み (2.5h)	
第4講	学術プレゼンテーション資料の作成について学び、 前講までに調査した国内 論文の内容を報告する。	事後	コメントペーパーの提出 (1h) 指定された文献の精読 (3h)	
第5講	(第8回)文献調査の技法3 (演習) (第9回)文献調査の技法4 (演習)	事前	授業資料の確認(1.5h) 課題への取り組み(2.5h)	
No a Hi	海外国論文の検索方法について学ぶ。	事後	コメントペーパーの提出 (1h) 指定された文献の精読 (3h)	
	(第 10 回) 学術プレゼンテーション作成 2 (演習)	事前	授業資料の確認(1.5h) 課題への取り組み(2.5h)	
第6講	(第 11 回)学術プレゼンテーション発表 2 (演習) 英語プレゼンテーション資料の作成について学び、 前講までに調査した海外論文の内容を報告する。	事後	コメントベーパーの提出 (1h) 指定された文献の精読 (3h)	
	(第 12 回) アカデミックライティング基礎 1 (演習)	事前	授業資料の確認 (1.5h) 課題への取り組み (2.5h)	
第7講	(第 13 回) アカデミックライティング基礎 2 (演習) 学術論文の書き方の基礎 を学ぶ。	事後	コメントペーパーの提出 (1h) 指定された文献の精読 (3h)	
第8講	(第 14 回)研究倫理基礎(講義)	事前	授業資料の確認(1.5h) 課題への取り組み(2.5h)	

	(第 15 回)	研究倫理基礎(演習)	-1-11	コメントペーパーの提出 (1h)	
実験・調査		における研究倫理的配慮を知る。	事後	指定された文献の精読(3h)	
定期	試験	期末の定期試験は実施しない。			
使用テキ	キスト	別途、指示する			
参考文献	伏	別途指示する			
受講生は	に対する評価	・各回授業への出席およびコメントペーパーの提出(30%)			
		・各自の発表(40%、発表資料提出)			
		・最終レポート(30%)			
		から総合的に評価する。			
課題等は	こ対する	・基本的には、授業の中で行う。			
フィー	ドバック	・本授業は、履修者の関心にあわせた指	i 導が3	主となる。個別指導 は	
		ビデオ会議システムのブレイクアウトル	ノームブ	などを利用 して、時間	
		内に順次実施する。			
		・他者の指導の間に、与えられた課題に対する調査などを行う。そのた			
		め、履修者が積極的、自発的に自身の問題関心に応じて探究していくこ			
		とが必要となる。毎回の授業ごとにレポート作成をするだけでなく、自			
		身の研究報告の発表を行う。その上で、各履修者に対して助言・指導を			
		する。 また、履修者は、他者の発表に対してコメントをすること。			
オフィス	スアワー	授業の前後			
(オン)	ライン曜日・				
時間)					
受講生~	〜 のメッセー				
ジ*任意	意項目				
備考					
*任意功	頁目				
授業用 URL					
*任意項目					
授業用〕	E-Mail				
*任意功	頁目				

講義名	教育構想演習 (I)
単位数	2 単位
単位区分(必修・選択・自由)	必修
講義開講時期	1年前期
講義区分(講義・演習・実習)	演習
担当教員名	山本 淳子

	教育界における課題を発見し、背景や関わる要因をグローバル視点で俯瞰し定義する	
DP1	ことができる。	
	(課題発見・要因定義能力)	
DP2-1	教育界における課題に情報学の知識・スキルを活用し改善・解決することができる。	
D1 2-1	(改善・解決能力)	
DP2-2	教育界における課題に経営学の知識・スキルを活用し改善・解決することができる。	
D1 2-2	(改善・解決能力)	
DP3	科学的知見に基づき実践からデータを取得し仮説を立て検証することができる。	
DF3	(科学的な検証能力)	
	教育テックによる教育界に関する社会変革を目標に、自らの構想を立てることができ	
DP4	ప .	•
	(社会変革への構想能力)	

履修	条	件	入学時に学生が設定した「自らの教育実務もしくは現在の教育に関して		
			の課題」に近い専門領域の指導教員を割り振る。		
極業の	W 1116		四次化道利日形へは 数方柱切 奴受り が x プログ科 お目めめ		
授業の	死安		研究指導科目群では、教育情報・経営リーダーシップ研究科が最終的		
			な成果物とする「教育構想実践書」の完成に向けた一連の指導を行う。		
			【教育構想演習(I)】では、各自の興味関心に沿った課題を設定し、		
			研究に必要とされる考え方、研究法・調査法、プレゼンテーションやア		
			カデミックライティングの技法、研究倫理の理解を身につけることで、		
			特に課題の分析や改善に向けた調査手法を学ぶ。		
授 業	のテ	ー マ	教育的課題や社会課題を発見し背景や関わる要因を整理する。研究に必		
及び到達	達目標		要とされる考え方、研究法・調査法、プレゼンテーションやアカデミッ		
			クライティングの技法、研究倫理を学ぶ。		
			○論理的な文章を書くことができる		
			○関連する先行論文を検索しその内容をレビューできる		
			○学習内容を適切な方法でプレゼンテーションできる		
			○研究を進めるための倫理の基礎を理解できる。		

授業計画		分とし、2 限連続で実施する場合がある)	授業外の学習 (60 時間)		
	(第1回) /	(ントロダクション(講義)	事前	シラバス内容閲覧	
第1講		および関心を各履修者間で共有し、この-マを確認・設定する。	事後	コメントペーパーの提出 (1h) 指定された文献の精読 (3h)	
第2講		命理的思考 1 (演習) 命理的思考 2 (演習)	事前	授業資料の確認 (1.5h) 課題への取り組み (2.5h)	
20 20 時	論理的・客観	観的な文章レポートの書き方		コメントベーパーの提出 (1h) 指定された文献の精読 (3h)	
第3講		文献調査の技法 1 (演習) 文献調査の技法 2 (演習)		授業資料の確認 (1.5h) 課題への取り組み (2.5h)	
>14 0 HI 1	国内論文の招	だし方	事後	コメントベーパーの提出 (1h) 指定された文献の精読 (3h)	
第4講		学術プレゼンテーション作成 1 (演習) 学術プレゼンテーション発表 1 (演習)	事前	授業資料の確認(1.5h) 課題への取り組み(2.5h)	
>14 - HI 1	国内サーベイ	イ論文の内容報告		コメントベーパーの提出 (1h) 指定された文献の精読 (3h)	
第5講		Z献調査の技法3(演習) Z献調査の技法4(演習)	事前	授業資料の確認 (1.5h) 課題への取り組み (2.5h)	
	海外論文の挖	だし方	事後	コメントペーパーの提出 (1h) 指定された文献の精読 (3h)	
	(第 10 回) 習)	学術プレゼンテーション作成 2 (演	事前	授業資料の確認 (1.5h) 課題への取り組み (2.5h)	
第6講	習)	学術プレゼンテーション発表 2 (演) 論文の内容報告	事後	コメントペーパーの提出 (1h) 指定された文献の精読 (3h)	
	(第 12 回) 習)	アカデミックライティング基礎 1 (演	事前	授業資料の確認 (1.5h) 課題への取り組み (2.5h)	
第7講	習)	アカデミックライティング基礎 2 (演 書き方の基礎指導	事後	コメントペーパーの提出 (1h) 指定された文献の精読 (3h)	
第8講		研究倫理基礎(講義) 研究倫理基礎(演習)	事前	授業資料の確認(1.5h) 課題への取り組み(2.5h)	
		の倫理的配慮を知る		コメントペーパーの提出 (1h) 指定された文献の精読 (3h)	
定期試験	各自の発表(発表資料提出)及び、レオ	ポート i	上する。 とする。		
使用テキスト		別途、指示する			
参考文献		別途指示する			
受講生に対する評価		・発表内容(50%) ・レポート(25%) ・討議およびコメントペーパー(25%)			

課題等に対する	・基本的には、授業の中で行う。
フィードバック	・本授業は、履修者の関心にあわせた指導が主となる。個別指導時はビ
	デオ会議システムのブレイクアウトルームなどを利用する。他者の指導
	の間に、与えられた課題に対する調査などを行う。
	そのため、履修者が積極的、自発的に自身の問題関心に応じて探究し
	ていくことが必要となる。毎回の授業ごとにレポート作成をするだけで
	なく、自身の研究報告の発表を行う。その上で、各履修者に対して助
	言・指導をする。 また、履修者は、他者の発表に対してコメントをす
	ること。
オフィスアワー	授業の前後
(オンライン曜日・	
時間)	
受講生へのメッセー	
ジ*任意項目	
備考	
*任意項目	
授業用 URL	
*任意項目	
授業用 E-Mail	
*任意項目	

講義名	教育構想演習(I)
単位数	2 単位
単位区分(必修・選択・自由)	必修
講義開講時期	1年前期
講義区分(講義・演習・実習)	演習
担当教員名	大和田順子

	教育界における課題を発見し、背景や関わる要因をグローバル視点で俯瞰し定義する	
DP1	ことができる。	
	(課題発見・要因定義能力)	
DP2-1	教育界における課題に情報学の知識・スキルを活用し改善・解決することができる。	
DF2-1	(改善・解決能力)	
DP2-2	教育界における課題に経営学の知識・スキルを活用し改善・解決することができる。	
DP2-2	(改善・解決能力)	
DP3	科学的知見に基づき実践からデータを取得し仮説を立て検証することができる。	
Drs	(科学的な検証能力)	
	教育テックによる教育界に関する社会変革を目標に、自らの構想を立てることができ	
DP4	る。	
	(社会変革への構想能力)	

履修条件	入学時に学生が設定した「自らの教育実務もしくは現在の教育に関して
	の課題」に近い専門領域の指導教員を割り振る。
授業の概要	研究指導科目群では、教育情報・経営リーダーシップ研究科が最終的
	な成果物とする「教育構想実践書」の完成に向けた一連の指導を行う。
	【教育構想演習(I)】では、各自の興味関心に沿った課題を設定し、
	研究に必要とされる考え方、研究法・調査法、プレゼンテーションやア
カデミックライティングの技法、研究倫理の理解を身につけるこ	
	特に課題の分析や改善に向けた調査手法を学ぶ。
授業のテーマ	教育的課題や社会課題を発見し背景や関わる要因を整理する。研究に必
及び到達目標	要とされる考え方、研究法・調査法、プレゼンテーションやアカデミッ
	クライティングの技法、研究倫理を学ぶ。
	○論理的な文章を書くことができる
	○関連する先行論文を検索しその内容をレビューできる
	○学習内容を適切な方法でプレゼンテーションできる
	○研究を進めるための倫理の基礎を理解できる

授業計画 (授業は1回を90分とし、2限連続で実施する場合がある)			授業外の学習 (60 時間)	
	(第1回)イントロダクション(講義)		事前	シラバス内容閲覧
第1講	講 現在の課題および関心を各履修者間で共有し、この 講座でのテーマを確認・設定する。		事後	コメントペーパーの提出 (1h) 指定された文献の精読 (3h)
第2講		倫理的思考 1 (演習) 倫理的思考 2 (演習)	事前	授業資料の確認(1.5h) 課題への取り組み(2.5h)
	論理的・客観	見的な文章レポートの書き方	事後	コメントベーパーの提出 (1h) 指定された文献の精読 (3h)
第3講		文献調査の技法 1 (演習) 文献調査の技法 2 (演習)	事前	授業資料の確認(1.5h) 課題への取り組み(2.5h)
	国内論文の招	栄し方	事後	コメントペーパーの提出 (1h) 指定された文献の精読 (3h)
第4講		学術プレゼンテーション作成 1 (演習) 学術プレゼンテーション発表 1 (演習)	事前	授業資料の確認(1.5h) 課題への取り組み(2.5h)
	国内サーベイ	(論文の内容報告	事後	コメントペーパーの提出 (1h) 指定された文献の精読 (3h)
第5講	(第8回)文献調査の技法3(演習) 第5講 (第9回)文献調査の技法4(演習)		事前	授業資料の確認(1.5h) 課題への取り組み(2.5h)
	海外論文の掲	ド し方	事後	コメントペーパーの提出 (1h) 指定された文献の精読 (3h)
	(第 10 回) 習))学術プレゼンテーション作成 2 (演	事前	授業資料の確認(1.5h) 課題への取り組み(2.5h)
第6講	講 (第 11 回)学術プレゼンテーション発表 2 (演習) 海外サーベイ論文の内容報告		事後	コメントペーパーの提出 (1h) 指定された文献の精読 (3h)
	(第 12 回) アカデミックライティング基礎 1 (演 習)		事前	授業資料の確認(1.5h) 課題への取り組み(2.5h)
第7講			事後	コメントペーパーの提出(1h) 指定された文献の精読(3h)
第8講		研究倫理基礎(講義) 研究倫理基礎(演習)	事前	授業資料の確認(1.5h) 課題への取り組み(2.5h)
		つ倫理的配慮を知る	事後	コメントペーパーの提出 (1h) 指定された文献の精読 (3h)
定期試験		各自の発表(発表資料提出)及び、レオ	ポート (
使用テキスト		別途、指示する		
参考文献		別途指示する		
受講生に対する評価		・発表内容(50%)・レポート(25%)・討議およびコメントペーパー(25%)		

課題等に対する	・基本的には、授業の中で行う。
フィードバック	
ノイートハック	・本授業は、履修者の関心にあわせた指導が主となる。個別指導時はビ
	デオ会議システムのブレイクアウトルームなどを利用する。他者の指導
	の間に、与えられた課題に対する調査などを行う。
	そのため、履修者が積極的、自発的に自身の問題関心に応じて探究し
	ていくことが必要となる。毎回の授業ごとにレポート作成をするだけで
	なく、自身の研究報告の発表を行う。その上で、各履修者に対して助
	言・指導をする。また、履修者は、他者の発表に対してコメントをする
	こと。
オフィスアワー	授業の前後
(オンライン曜日・	
時間)	
受講生へのメッセー	
ジ*任意項目	
備考	
*任意項目	
授業用 URL	
*任意項目	
授業用 E-Mail	
*任意項目	

講義名	教育構想演習 (I)
単位数	2 単位
単位区分(必修・選択・自由)	必修
講義開講時期	1年前期
講義区分(講義・演習・実習)	演習
担当教員名	妹尾昌俊

	教育界における課題を発見し、背景や関わる要因をグローバル視点で俯瞰し定義する	
DP1	ことができる。	
	(課題発見・要因定義能力)	
DD0 1	教育界における課題に情報学の知識・スキルを活用し改善・解決することができる。	
DP2-1	(改善・解決能力)	
DP2-2	教育界における課題に経営学の知識・スキルを活用し改善・解決することができる。	
DPZ-Z	(改善・解決能力)	
DP3	科学的知見に基づき実践からデータを取得し仮説を立て検証することができる。	
DP3	(科学的な検証能力)	
	教育テックによる教育界に関する社会変革を目標に、自らの構想を立てることができ	
DP4	る。	
	(社会変革への構想能力)	

履修条	件	入学時に学生が設定した「自らの教育実務もしくは現在の教育に関して
		の課題」に近い専門領域の指導教員を割り振る。
授業の概要		研究指導科目群では、教育情報・経営リーダーシップ研究科が最終的
		な成果物とする「教育構想実践書」の完成に向けた一連の指導を行う。
		【教育構想演習(I)】では、各自の興味関心に沿った課題を設定し、
		研究に必要とされる考え方、研究法・調査法、プレゼンテーションやア
		カデミックライティングの技法、研究倫理の理解を身につけることで、
		特に課題の分析や改善に向けた調査手法を学ぶ。
授業のテー	マ	教育的課題や社会課題を発見し背景や関わる要因を整理する。研究に必
及び到達目標		要とされる考え方、研究法・調査法、プレゼンテーションやアカデミッ
		クライティングの技法、研究倫理を学ぶ。
		○論理的な文章を書くことができる
		○関連する先行論文を検索しその内容をレビューできる
		○学習内容を適切な方法でプレゼンテーションできる
		○研究を進めるための倫理の基礎を理解できる。

授業計画	町(授業は1回を 90 分とし、2 限連続で実施する場合がある)	授業	外の学習 (60 時間)
	(第1回)イントロダクション(講義)	事前	シラバス内容閲覧
第1講	現在の課題および関心を各履修者間で共有し、この 講座でのテーマを確認・設定する。	事後	コメントペーパーの提出 (1h) 指定された文献の精読 (3h)
	(第2回) 論理的思考1 (演習) (第3回) 論理的思考2 (演習)	事前	授業資料の確認 (1.5h) 課題への取り組み (2.5h)
第2講	実際の教育問題に関する論文、記事等をもとに、論理的、批判的に思考することの意義、方法、留意点などについて、解説するとともに、討議する。 論理的・客観的な文章レポートの書き方についても 学ぶ。	事後	コメントペーパーの提出 (1h) 指定された文献の精読 (3h)
	(第4回)文献調査の技法1 (演習) (第5回)文献調査の技法2 (演習)	事前	授業資料の確認 (1.5h) 課題への取り組み (2.5h)
第3講	先行研究レビューについての考え方、方法(国内外の論文の探し方を含む)について学ぶ。実際の研究 論文や実践報告論文も素材にしながら討議する。	事後	コメントペーパーの提出 (1h) 指定された文献の精読 (3h)
	(第6回)文献調査の報告1 (演習) (第7回)文献調査の報告2 (演習)	事前	主要な先行研究のリストをつく る(この時点ではすべてを読み 込む必要はない)(4h)
第4講	履修者の関心テーマに応じて、国内外の論文等の先 行研究をサーベイレ、その概要、克服したい点など の報告を行う。	事後	演習を踏まえて、研究アイデア や先行研究の一覧をブラッシュ アップする(4h)
	(第8回)文献調査の報告3(演習) (第9回)文献調査の報告4(演習)	事前	課題への取り組み(4h)
第5講	第4講での討議や指導を踏まえて、主要な先行研究 の概要(精読したもの)等を持ち寄り、ディスカッ ションする。	事後	コメントペーパーの提出 (1h) 演習を踏まえて、研究アイデア や先行研究レビューをブラッシ ュアップする (3h)
	(第 10 回) 学術プレゼンテーション作成(演習) (第 11 回) 学術プレゼンテーション発表(演習)	事前	課題への取り組み(4h)
第6講	先行研究レビュー等を踏まえて、研究アイデア(テーマ、問題意識、リサーチクエスチョン、検証したい仮説)や実証方法等について、概要をプレゼンテーションとしてまとめる。	事後	他の受講者のプレゼンへのフィードバックを含むコメントペーパーの提出 (2h)プレゼン資料の修正 (2h)
	(第 12 回) アカデミックライティング基礎 1 (演習)	事前	授業資料の確認(1.5h) 課題への取り組み(2.5h)
第7講	(第 13 回) アカデミックライティング基礎 2 (演習)学術論文の書き方の基礎指導を行う。	事後	コメントペーパーの提出 (1h) 指定された文献の精読 (3h)
第8講	(第 14 回)研究倫理基礎(講義)	事前	授業資料の確認(1.5h) 課題への取り組み(2.5h)

(第 15 回)	研究倫理基礎 (演習)		コメントペーパーの提出(1h)
実験・調査	の倫理的配慮を知る。	事後	指定された文献の精読(3h)
定期試験 各自の発表(発表資料提出)及び、レポートとする。			とする。
使用テキスト別途、指示する			
参考文献	別途指示する		
受講生に対する評価	・発表内容(50%)		
	・レポート (25%)		
	・討議およびコメントペーパー (25%)		
課題等に対する	・基本的には、授業の中で行う。		
フィードバック	・本授業は、履修者の関心にあわせた指	道導が.	主となる。個別指導時はビ
	デオ会議システムのブレイクアウトルー	-ムなる	どを利用する。他者の指導
	の間に、与えられた課題に対する調査な	よどを行	亍 う。
そのため、履修者が積極的、自発的に自身の問題関心に応じて探			の問題関心に応じて探究し
ていくことが必要となる。毎回の授業ごとにレポート作成をするだけ			ンポート作成をするだけで
	なく、自身の研究報告の発表を行う。その上で、各履修者に対して助		
	言・指導をする。 また、履修者は、他者の発表に対してコメントをで		
ること。			
オフィスアワー 特定の時間は定めません。事前にメール等で予約してください。		予約してください。	
(オンライン曜日・			
時間)			
受講生へのメッセー			
ジ*任意項目			
備考			
*任意項目			
授業用 URL			
*任意項目			
授業用 E-Mail			
授業用 E-Mail			

講義名	教育構想演習 (I)
単位数	2 単位
単位区分(必修・選択・自由)	必修
講義開講時期	1年前期
講義区分(講義・演習・実習)	演習
担当教員名	松田 孝

	教育界における課題を発見し、背景や関わる要因をグローバル視点で俯瞰し定義する	
DP1	ことができる。	
	(課題発見・要因定義能力)	
DP2-1	教育界における課題に情報学の知識・スキルを活用し改善・解決することができる。	
D1 2-1	(改善・解決能力)	
DP2-2	教育界における課題に経営学の知識・スキルを活用し改善・解決することができる。	
D1 2-2	(改善・解決能力)	
DP3	科学的知見に基づき実践からデータを取得し仮説を立て検証することができる。	
DF3	(科学的な検証能力)	
	教育テックによる教育界に関する社会変革を目標に、自らの構想を立てることができ	
DP4	る。	
	(社会変革への構想能力)	

履修条件	入学時に学生が設定した「自らの教育実務もしくは現在の教育に関して			
	の課題」に近い専門領域の指導教員を割り振る。			
	■ 研究指導科目群では、教育情報・経営リーダーシップ研究科が最終的			
1又未り帆女				
	な成果物とする「教育構想実践書」の完成に向けた一連の指導を行う。			
	【教育構想演習(I)】では、各自の興味関心に沿った課題を設定し、			
	研究に必要とされる考え方、研究法・調査法、プレゼンテーションやア			
	カデミックライティングの技法、研究倫理の理解を身につけることで、			
	特に課題の分析や改善に向けた調査手法を学ぶ。			
授業のテーマ	教育的課題や社会課題を発見し背景や関わる要因を整理する。研究に必			
及び到達目標	要とされる考え方、研究法・調査法、プレゼンテーションやアカデミッ			
	クライティングの技法、研究倫理を学ぶ。			
	○論理的な文章を書くことができる			
	○関連する先行論文を検索しその内容をレビューできる			
	○学習内容を適切な方法でプレゼンテーションできる			
	○研究を進めるための倫理の基礎を理解できる。			

授業計画	田 (授業は1回を 90 分とし、2 限連続で実施する場合がある)	授業	授業外の学習 (60 時間)		
	(第1回) イントロダクション (講義)	事前	シラバス内容閲覧		
第1講	現在の課題および関心を各履修者間で共有し、この 講座でのテーマを確認・設定する。	事後	コメントペーパーの提出 (1h) 指定された文献の精読 (3h)		
	(第2回) 論理的思考1 (演習) (第3回) 論理的思考2 (演習)	事前	授業資料の確認 (1.5h) 課題への取り組み (2.5h)		
第2講	現状における「研究構想実践書」の SUMMRY の作成 各自の SUMMRY をもとにした論理的・客観的な文章レポートの書き方	事後	コメントペーパーの提出 (1h) 指定された文献の精読 (3h)		
	(第4回) 文献調査の技法1 (演習) (第5回) 文献調査の技法2 (演習)	事前	授業資料の確認(1.5h) 課題への取り組み(2.5h)		
第3講	「研究構想実践書」に関連する学会及び学術雑誌の 洗い出し 国内論文の探し方 学術論文における査読について	事後	コメントペーパーの提出 (1h) 指定された文献の精読 (3h)		
	(第6回) 学術プレゼンテーション作成1 (演習) (第7回) 学術プレゼンテーション発表1 (演習)		授業資料の確認 (1.5h) 課題への取り組み (2.5h)		
第4講	先行研究の把握とその重要性 国内サーベイ論文の内容報告 発表の構成と作成方法	事後	コメントペーパーの提出 (1h) 指定された文献の精読 (3h)		
公 □誰	(第8回)文献調査の技法3 (演習) (第9回)文献調査の技法4 (演習)		授業資料の確認 (1.5h) 課題への取り組み (2.5h)		
第5講	海外論文の探し方 学術検索エンジン及び論文検索サイトの活用	事後	コメントペーパーの提出 (1h) 指定された文献の精読 (3h)		
	(第 10 回)学術プレゼンテーション作成 2 (演習)	事前	授業資料の確認 (1.5h) 課題への取り組み (2.5h)		
第6講	(第 11 回)学術プレゼンテーション発表 2 (演習)海外サーベイ論文の内容報告	事後	コメントペーパーの提出 (1h) 指定された文献の精読 (3h)		
	(第 12 回) アカデミックライティング基礎 1 (演習)	事前	授業資料の確認 (1.5h) 課題への取り組み (2.5h)		
第7講	(第 13 回) アカデミックライティング基礎 2 (演習) 学術論文の書き方の基礎指導 アカデミックライティングのルールと文章構造 文献研究、実証研究の一連の流れとテーマ設定から 論文の評価 (オリジナリティ)	事後	コメントペーパーの提出 (1h) 指定された文献の精読 (3h)		

第8講		研究倫理基礎(講義) 研究倫理基礎(演習)	事前	授業資料の確認(1.5h) 課題への取り組み(2.5h)		
		D倫理的配慮を知る が実証研究における倫理規定	事後	コメントベーパーの提出 (1h) 指定された文献の精読 (3h)		
-L-H DF						
定期試験	英	各自の発表(発表資料提出)及び、レオ	ドート (とする。		
使用テキ	Fスト	別途、指示する				
参考文献	犬	別途指示する				
受講生に	二対する評価	・発表内容(50%)				
		・レポート (25%)				
		・討議およびコメントペーパー(25%)				
課題等に	こ対する	・基本的には、授業の中で行う。				
フィート	ヾ バック	・本授業は、履修者の関心にあわせた指	導が	主となる。個別指導時はビ		
		デオ会議システムのブレイクアウトルームなどを利用する。他者の指導				
		の間に、与えられた課題に対する調査などを行う。				
		そのため、履修者が積極的、自発的に自身の問題関心に応じて探究し				
		ていくことが必要となる。毎回の授業ごとにレポート作成をするだけで				
		なく、自身の研究報告の発表を行う。その上で、各履修者に対して助				
		言・指導をする。 また、履修者は、他者の発表に対してコメントをす				
		ること。				
オフィス	スアワー	授業の前後				
(オンラ	ライン曜日・					
時間)						
受講生~	、 のメッセー					
ジ*任意	意項目					
備考						
*任意項目						
授業用「	JRL					
*任意項	目					
授業用]	E-Mail					
*任意項目						

講義名	教育構想演習 (I)
単位数	2 単位
単位区分(必修・選択・自由)	必修
講義開講時期	1年前期
講義区分(講義・演習・実習)	演習
担当教員名	大和田 茂

	教育界における課題を発見し、背景や関わる要因をグローバル視点で俯瞰し定義する	
DP1	ことができる。	
	(課題発見・要因定義能力)	
DP2-1	教育界における課題に情報学の知識・スキルを活用し改善・解決することができる。	
DF2-1	(改善・解決能力)	
DP2-2	教育界における課題に経営学の知識・スキルを活用し改善・解決することができる。	
DF2-2	(改善・解決能力)	
DP3	科学的知見に基づき実践からデータを取得し仮説を立て検証することができる。	
DF3	(科学的な検証能力)	
	教育テックによる教育界に関する社会変革を目標に、自らの構想を立てることができ	
DP4	る。	•
	(社会変革への構想能力)	

履修	条 件	入学時に学生が設定した「自らの教育実務もしくは現在の教育に関して			
		の課題」に近い専門領域の指導教員を割り振る。			
授業の概要		研究指導科目群では、教育情報・経営リーダーシップ研究科が最終的			
		な成果物とする「教育構想実践書」の完成に向けた一連の指導を行う。			
		【教育構想演習(I)】では、各自の興味関心に沿った課題を設定し、			
		研究に必要とされる考え方、研究法・調査法、プレゼンテーションやア			
		カデミックライティングの技法、研究倫理の理解を身につけることで、			
		特に課題の分析や改善に向けた調査手法を学ぶ。			
授業のテ	ーマ	教育的課題や社会課題を発見し背景や関わる要因を整理する。研究に必			
及び到達目標	Ę	要とされる考え方、研究法・調査法、プレゼンテーションやアカデミッ			
		クライティングの技法、研究倫理を学ぶ。			
		○論理的な文章を書くことができる			
		○関連する先行論文を検索しその内容をレビューできる			
		○学習内容を適切な方法でプレゼンテーションできる			
		○研究を進めるための倫理の基礎を理解できる。			

授業計画	∃(授業は1回を 90 分とし、2 限連続で実施する場合がある)	授業外の学習 (60 時間)		
	(第1回) イントロダクション (講義)	事前	自己紹介シートの作成(書式自	
第1講	現在の課題および関心を各履修者間で共有し、この		由)	
	講座でのテーマを確認・設定する。	事後	抱負レポート提出(6h)	
	(第2回) 論理的思考1 (演習)	事前		
第2講	(第3回)論理的思考2(演習)			
	論文の構成を知る	事後	指定の論文を読み、レポート (7h)	
	(第4回) 文献調査の技法1 (演習)	事前		
	(第5回) 文献調査の技法2 (演習)	7,111		
第3講	論文の探し方と、文献管理ソフトの利用		文献管理ソフトのインストール (6h)	
		事後	指定分野の論文を探し、レポー	
			ト (6h)	
	(第6回) 文献調査の技法3 (演習)	事前		
第4講	(第7回)文献調査の技法4(演習)		気になる分野のサーベイ論文を	
N1 1 1113	サーベイ論文とは	事後	探し、そこから参照されている	
			論文をできるだけ管理ソフトに 入れる(7h)	
	(第8回)研究倫理基礎(講義)	事前		
第5講	(第9回)研究倫理基礎(演習)	7,111		
	実験・調査の倫理的配慮を知る	事後	サーベイ論文のレポート (7h)	
	(第 10 回)アカデミックライティング基礎1(演			
	習)	事前		
第6講	(第 11 回) アカデミックライティング基礎2(演			
277 O HH3	꿤)	事後	論文フォーマットの最終レポー	
	学術論文の書き方の基礎指導	爭仮	トドラフト作成・提出(7h)	
	(第 12 回) 学術プレゼンテーション作成 1 (講	事前		
<i>kh</i> : = =#	義) (第 12 回) 磁铁型,以及三、			
第7講	(第 13 回) 学術プレゼンテーション発表 1 (演		プレゼンテーション資料の作	
	習) アイデアが伝わるプレゼンテーションの指導	事後	成・提出 (7h)	
	(第 14 回) 学術プレゼンテーション作成 2 (演			
	習)	事前		
第8講	(第 15 回)学術プレゼンテーション発表 2 (演			
ні -	習)	事後	最終レポートとプレゼン資料の 改善・提出 (7h)	
	アイデアが伝わるプレゼンテーションの指導		, ,	
定期試験	しポートとプレゼンテーション	<u> </u>	I	
 使用テキ				

参考文献	別途指示する
受講生に対する評価	・発表内容(25%)
	・レポート (50%)
	・プレゼンテーション(25%)
課題等に対する	・基本的には、授業の中で行う。
フィードバック	・本授業は、履修者の関心にあわせた指導が主となる。個別指導時はビ
	デオ会議システムのブレイクアウトルームなどを利用する。他者の指導
	の間に、与えられた課題に対する調査などを行う。
	そのため、履修者が積極的、自発的に自身の問題関心に応じて探究し
	ていくことが必要となる。毎回の授業ごとにレポート作成をするだけで
	なく、自身の研究報告の発表を行う。その上で、各履修者に対して助
	言・指導をする。 また、履修者は、他者の発表に対してコメントをす
	ること。
オフィスアワー	授業の前後
(オンライン曜日・	
時間)	
受講生へのメッセー	
ジ*任意項目	
備考	
*任意項目	
授業用 URL	
*任意項目	
授業用 E-Mail	
*任意項目	

教育構想演習 (II)

講義名	教育構想演習 (II)
単位数	2 単位
単位区分(必修・選択・自由)	必修
講義開講時期	1年後期
講義区分(講義・演習・実習)	演習
担当教員名	竹村治雄

	教育界における課題を発見し、背景や関わる要因をグローバル視点で俯瞰し定義する	
DP1	ことができる。	
	(課題発見・要因定義能力)	
DP2-1	教育界における課題に情報学の知識・スキルを活用し改善・解決することができる。	
D1 2-1	(改善・解決能力)	
DP2-2	教育界における課題に経営学の知識・スキルを活用し改善・解決することができる。	
D1 2-2	(改善・解決能力)	
DP3	科学的知見に基づき実践からデータを取得し仮説を立て検証することができる。	
DP3	(科学的な検証能力)	
	教育テックによる教育界に関する社会変革を目標に、自らの構想を立てることができ	
DP4	る。	
	(社会変革への構想能力)	

履		 条	件	教育構想演習(I)を履修し単位取得して	ている	テレ
旭	19	*	Т			
				教育テック総論を踏まえ興味関心に近いる	テーマ	の指導教員を選択する。
				(教育構想演習(I)と異なる教員も認る	められ	3)
授業	の概要	į		研究指導科目群では、教育情報・経営リー	ーダー	シップ研究科が最終的な
				成果物とする「教育構想実践書」の完成は	こ向け	た一連の指導を行う。
				【教育構想演習(Ⅱ)】では、教育構想活	寅習(I)で学んだアカデミッ
				クスキルをさらに伸ばす目的で、各自の関心に基づく課題に対しての先		
	行研究レビューをまとめた「リサーチペーパー」を作成する。				」を作成する。	
授業のテーマ ICTの教育応用に関する教育界の課題や社会課題を発見し、現状の			題を発見し、現状の研究			
及び	到達目	標		を纏め客観的な情報に基づくリサーチペー	ーパー	を書く。
	○リサーチペーパーの書き方を理解できる					
授業	授業計画 (授業は1回を90分とし、2限連続で実施する場合がある)			授業	外の学習 (60時間)	
第 1	講	(第1	回) /	イントロダクション(講義)	事前	シラバス内容閲覧

	育応用に関する現状や教育利用に関して理解	事後	コメントペーパーの提出 (1h)
する。		710	指定された文献の精読 (3h)
(第3回	(第2回) 問題意識の明確化(演習) (第3回) 問題意識の明確化(演習) ICTの教育応用に関する技術領域から興味関心のある テーマを定める		授業資料の確認(1.5h) 課題への取り組み(2.5h)
			コメントペーパーの提出 (1h) 指定された文献の精読(3h)
(第5回)先行研究レビュー1(演習))先行研究レビュー2(演習)	事前	授業資料の確認(1.5h) 課題への取り組み(2.5h)
	の関心に対応した文献(1 編の論文または文 を調査する。	事後	コメントペーパーの提出 (1h) 指定された文献の精読(3h)
習)	回)先行研究プレゼンテーション作成1(演	事前	授業資料の確認 (1.5h) 課題への取り組み (2.5h)
習)	回)先行研究プレゼンテーション発表1(演 内容を報告し履修者間で共有する。	事後	コメントペーパーの提出 (1h) 指定された文献の精読(3h)
(第7回)先行研究レビュー3(演習))先行研究レビュー4(演習)	事前	授業資料の確認(1.5h) 課題への取り組み(2.5h)
	の関心に対応した文献(1 編の論文または文 を調査する。	事後	コメントペーパーの提出 (1h) 指定された文献の精読(3h)
習)	回)先行研究プレゼンテーション作成 2 (演	事前	授業資料の確認 (1.5h) 課題への取り組み (2.5h)
習)	回)先行研究プレゼンテーション発表 2 (演 内容を報告し履修者間で共有する。	事後	コメントペーパーの提出 (1h) 指定された文献の精読(3h)
(第13]	回)リサーチペーパー指導 1 (演習) 回)リサーチペーパー指導 2 (演習)	事前	授業資料の確認 (1.5h) 課題への取り組み (2.5h)
	各履修者の問題および関心に対応した1年間の調査結果をレポートに纏める。		コメントペーパーの提出 (1h) 指定された文献の精読 (3h)
(第 15	回)リサーチペーパー指導 3 (演習) 回)リサーチペーパー指導 4 (演習)	事前	授業資料の確認(1.5h) 課題への取り組み(2.5h)
	の問題および関心に対応した1年間の調査結 ートに纏める。	事後	コメントペーパーの提出 (1h) 指定された文献の精読(3h)
定期試験 各自の発表(発表資料提出)及び、		ートと	 する。
使用テキスト	必要な教材は LMS から配布する。		
参考文献	必要な参考情報へのリンクは LMS 上て提	是示する	3 ·

受講生に対する評価	・発表内容(25%)
	・レポート(25%)
	・討議(25%)
	・最終課題としてのリサーチペーパー (25%)
課題等に対する	・基本的には、授業の中で行う。
フィードバック	・本授業は、履修者の関心にあわせた指導が主となる。個別指導時はビ
	デオ会議システムのブレイクアウトルームなどを利用する。他者の指導
	の間に、与えられた課題に対する調査などを行う。
	そのため、履修者が積極的、自発的に自身の問題関心に応じて探究し
	ていくことが必要となる。毎回の授業ごとにレポート作成をするだけで
	なく、自身の研究報告の発表を行う。その上で、各履修者に対して助
	言・指導をする。また、履修者は、他者の発表に対してコメントをする
	こと。
オフィスアワー	授業の前後
(オンライン曜日・	
時間)	
受講生へのメッセー	
ジ*任意項目	
備考	
*任意項目	
授業用 URL	
*任意項目	
授業用 E-Mail	
*任意項目	

講義名	教育構想演習(II)
単位数	2 単位
単位区分(必修・選択・自由)	必修
講義開講時期	1年後期
講義区分(講義・演習・実習)	演習
担当教員名	秋田 次郎

	教育界における課題を発見し、背景や関わる要因をグローバル視点で俯瞰し定義する	
DP1	ことができる。	
	(課題発見・要因定義能力)	
DP2-1	教育界における課題に情報学の知識・スキルを活用し改善・解決することができる。	
D1 2-1	(改善・解決能力)	
DP2-2	教育界における課題に経営学の知識・スキルを活用し改善・解決することができる。	
D1 2 2	(改善・解決能力)	
DP3	科学的知見に基づき実践からデータを取得し仮説を立て検証することができる。	
DIS	(科学的な検証能力)	
	教育テックによる教育界に関する社会変革を目標に、自らの構想を立てることができ	
DP4	る。	•
	(社会変革への構想能力)	

	-		
履 修 条 件 教育構想演習(Ⅰ)を履修し単位取得していること。			
教育テック総論を踏まえ興味関心に近いテーマの指導教員を選抜	尺する。		
(教育構想演習 (I) と異なる教員も認められる)			
授業の概要 研究指導科目群では、教育情報・経営リーダーシップ研究科が長	曼終的な		
成果物とする「教育構想実践書」の完成に向けた一連の指導を行	亍う。		
【教育構想演習(II)】では、教育構想演習(I)で学んだアス	カデミッ		
クスキルをさらに伸ばす目的で、各自の関心に基づく課題に対し	~ての先		
行研究レビューをまとめた「リサーチペーパー」を作成する。			
授業のテーマ 近代経済学・計量経済学を背景とする教育テックの視点から教育	近代経済学・計量経済学を背景とする教育テックの視点から教育界の課		
及び到達目標 題や社会課題を発見し、現状の研究を纏め客観的な情報に基づく	題や社会課題を発見し、現状の研究を纏め客観的な情報に基づくリサー		
チペーパーを書く。			
○リサーチペーパーの書き方を理解できる			
授業計画 (授業は1回を90分とし、2限連続で実施する場合がある) 授業外の学習 (60時間)			
(第1回) イントロダクション (講義) 事前 シラバス内容閲覧			
第1講 近代経済学・計量経済学を背景とする教育テックの			
視点から現状や教育利用に関して理解する。 事後 コメントペーパ	ーの提出		

				(1h)
		問題意識の明確化(演習)	事前	指定された文献の精読(3h) 授業資料の確認(1.5h) 課題への取り組み(2.5h)
第2講	近代経済学	第3回)問題意識の明確化(演習) 代経済学・計量経済学を背景とする教育テックの 域から興味関心のあるテーマを定める	事後	コメントペーパーの提出 (1h)
	(第4回)分	た行研究レビュー1(演習) た行研究レビュー2(演習)	事前	指定された文献の精読 (3h) 授業資料の確認 (1.5h) 課題への取り組み (2.5h)
第3講	各履修者の 献の章)を訓	関心に対応した文献(1 編の論文または文 関査する。	事後	コメントペーパーの提出 (1h) 指定された文献の精読(3h)
hohe a title	習)	先行研究プレゼンテーション作成1(演	事前	授業資料の確認(1.5h) 課題への取り組み(2.5h)
第4講	習)	先行研究プレゼンテーション発表 1 (演 学を報告し履修者間で共有する。	事後	コメントペーパーの提出 (1h) 指定された文献の精読(3h)
<i>/</i> / <i>x</i>	(第8回) 先行研究レビュー3 (演習) (第9回) 先行研究レビュー4 (演習)		事前	授業資料の確認 (1.5h) 課題への取り組み (2.5h)
第5講	各履修者の別 献の章)を訓	関心に対応した文献(1 編の論文または文 関査する。	事後	コメントペーパーの提出 (1h) 指定された文献の精読(3h)
holes a title	習)	先行研究プレゼンテーション作成2(演	事前	授業資料の確認(1.5h) 課題への取り組み(2.5h)
第6講	(第 11 回) 先行研究プレゼンテーション発表 2 (演習) 調査した内容を報告し履修者間で共有する。			コメントペーパーの提出 (1h) 指定された文献の精読(3h)
学 7		リサーチペーパー指導 1 (演習) リサーチペーパー指導 2 (演習)	事前	授業資料の確認(1.5h) 課題への取り組み(2.5h)
第7講		ト履修者の問題および関心に対応した1年間の調査結 早をレポートに纏める。		コメントペーパーの提出 (1h) 指定された文献の精読(3h)
tota o -th	(,,	リサーチペーパー指導 3 (演習) リサーチペーパー指導 4 (演習)	事前	授業資料の確認(1.5h) 課題への取り組み(2.5h)
第8講 各履修者の問果をレポープ		問題および関心に対応した1年間の調査結 、に纏める。	事後	コメントペーパーの提出 (1h) 指定された文献の精読(3h)
定期試験		各自の発表(発表資料提出)及び、レポ	ートと	する。
使用テキスト		別途指示する		
参考文献		別途指示する		
受講生に対する評価		・発表内容(25%) ・レポート(25%)		

	・討議 (25%)
	・最終課題としてのリサーチペーパー(25%)
課題等に対する	・基本的には、授業の中で行う。
フィードバック	・本授業は、履修者の関心にあわせた指導が主となる。個別指導時はビ
	デオ会議システムのブレイクアウトルームなどを利用する。他者の指導
	の間に、与えられた課題に対する調査などを行う。
	そのため、履修者が積極的、自発的に自身の問題関心に応じて探究し
	ていくことが必要となる。毎回の授業ごとにレポート作成をするだけで
	なく、自身の研究報告の発表を行う。その上で、各履修者に対して助
	言・指導をする。また、履修者は、他者の発表に対してコメントをする
	こと。
オフィスアワー	授業の前後
(オンライン曜日・	
時間)	
受講生へのメッセー	
ジ*任意項目	
備考	
*任意項目	
授業用 URL	
*任意項目	
授業用 E-Mail	
*任意項目	

講義名	教育構想演習(II)
単位数	2 単位
単位区分(必修・選択・自由)	必修
講義開講時期	1年後期
講義区分(講義・演習・実習)	演習
担当教員名	河崎 雷太

	教育界における課題を発見し、背景や関わる要因をグローバル視点で俯瞰し定義する	
DP1	ことができる。	
	(課題発見・要因定義能力)	
DP2-1	教育界における課題に情報学の知識・スキルを活用し改善・解決することができる。	
D1 2-1	(改善・解決能力)	
DP2-2	教育界における課題に経営学の知識・スキルを活用し改善・解決することができる。	
D1 2 2	(改善・解決能力)	
DP3	科学的知見に基づき実践からデータを取得し仮説を立て検証することができる。	
DIS	(科学的な検証能力)	
	教育テックによる教育界に関する社会変革を目標に、自らの構想を立てることができ	
DP4	る。	•
	(社会変革への構想能力)	

履修	 多	件	教育構想演習(Ⅰ)を履修し単位取得して	ている	7 V
	*	П			
			教育テック総論を踏まえ興味関心に近いる	テーマ	の指導教員を選択する。
			(教育構想演習 (I) と異なる教員も認る	められ	る)
授業の構	既要		研究指導科目群では、教育情報・経営リー	-ダー	シップ研究科が最終的な
			成果物とする「教育構想実践書」の完成は	こ向け	た一連の指導を行う。
			【教育構想演習(II)】では、教育構想活	寅習(I)で学んだアカデミッ
			クスキルをさらに伸ばす目的で、各自の		
			行研究レビューをまとめた「リサーチペー		
1-0 NIA					
授業	のテー	- V	コンピュータグラフィックス関連の教育応用をベースに、教育界の課		
及び到達目標			題や社会課題を発見し、現状の研究を纏め客観的な情報に基づくリサー		
			チペーパーを書く。		
			○リサーチペーパーの書き方を理解できる	3	
授業計画 (授業は1回を90			分とし、2 限連続で実施する場合がある)	授業	外の学習 (60 時間)
	(第1	回) /	(ントロダクション(講義)	事前	シラバス内容閲覧
第1講	WebCo	Gプロ	グラミングや VR の現状や教育利用に関	尹則	マフィ・ハド1台 周見
	して理	解する	Do	事後	コメントペーパーの提出

				(1h)
		問題意識の明確化(演習) 問題意識の明確化(演習)	事前	指定された文献の精読 (3h) 授業資料の確認 (1.5h) 課題への取り組み (2.5h)
第2講	WebCG プロ	WebCG プログラミングや VR の技術領域から興味関 心のあるテーマを定める		コメントペーパーの提出 (1h) 指定された文献の精読(3h)
次 2 5 #		た行研究レビュー1(演習) た行研究レビュー2(演習)	事前	授業資料の確認 (1.5h) 課題への取り組み (2.5h)
第3講	各履修者の 献の章)を訓	掲心に対応した文献(1 編の論文または文 問査する。	事後	コメントペーパーの提出 (1h) 指定された文献の精読(3h)
/*/* 4 ==##	習)	先行研究プレゼンテーション作成 1 (演	事前	授業資料の確認(1.5h) 課題への取り組み(2.5h)
第4講	習)	先行研究プレゼンテーション発表 1 (演 学を報告し履修者間で共有する。	事後	コメントペーパーの提出 (1h) 指定された文献の精読(3h)
holes	(第6回) 分	た行研究レビュー 3 (演習) た行研究レビュー 4 (演習)	事前	授業資料の確認(1.5h) 課題への取り組み(2.5h)
第5講	各履修者の関心に対応した文献(1 編の論文または文献の章)を調査する。			コメントペーパーの提出 (1h) 指定された文献の精読(3h)
	習)	先行研究プレゼンテーション作成 2 (演	事前	授業資料の確認(1.5h) 課題への取り組み(2.5h)
第6講	(第7回) 先行研究プレゼンテーション発表2(演習) 調査した内容を報告し履修者間で共有する。			コメントペーパーの提出 (1h) 指定された文献の精読(3h)
hy p =#	(第12回)	12回)リサーチペーパー指導 1 (演習) 13回)リサーチペーパー指導 2 (演習)	事前	授業資料の確認 (1.5h) 課題への取り組み (2.5h)
第7講	各履修者の問題および関心に対応した1年間の調査結 果をレポートに纏める。		事後	コメントペーパーの提出 (1h) 指定された文献の精読(3h)
	(7.	リサーチペーパー指導 3 (演習) リサーチペーパー指導 4 (演習)	事前	授業資料の確認(1.5h) 課題への取り組み(2.5h)
第8講	各履修者の問 果をレポート	問題および関心に対応した1年間の調査結 、に纏める。	事後	コメントペーパーの提出 (1h) 指定された文献の精読(3h)
定期試験		各自の発表(発表資料提出)及び、レポ	ートと	する。
使用テキスト		別途指示する		
参考文献		別途指示する		
受講生に対する評価		・発表内容(25%) ・レポート(25%)		

	・討議 (25%)
	・最終課題としてのリサーチペーパー(25%)
課題等に対する	・基本的には、授業の中で行う。
フィードバック	・本授業は、履修者の関心にあわせた指導が主となる。個別指導時はビ
	デオ会議システムのブレイクアウトルームなどを利用する。他者の指導
	の間に、与えられた課題に対する調査などを行う。
	そのため、履修者が積極的、自発的に自身の問題関心に応じて探究し
	ていくことが必要となる。毎回の授業ごとにレポート作成をするだけで
	なく、自身の研究報告の発表を行う。その上で、各履修者に対して助
	言・指導をする。また、履修者は、他者の発表に対してコメントをする
	こと。
オフィスアワー	授業の前後
(オンライン曜日・	
時間)	
受講生へのメッセー	
ジ*任意項目	
備考	
*任意項目	
授業用 URL	
*任意項目	
授業用 E-Mail	
*任意項目	

講義名	教育構想演習(II)
単位数	2 単位
単位区分(必修・選択・自由)	必修
講義開講時期	1年後期
講義区分(講義・演習・実習)	演習
担当教員名	木岡一明

	教育界における課題を発見し、背景や関わる要因をグローバル視点で俯瞰し定義する	
DP1	ことができる。	
	(課題発見・要因定義能力)	
DP2-1	教育界における課題に情報学の知識・スキルを活用し改善・解決することができる。	
D1 2-1	(改善・解決能力)	
DP2-2	教育界における課題に経営学の知識・スキルを活用し改善・解決することができる。	
D1 2-2	(改善・解決能力)	
DP3	科学的知見に基づき実践からデータを取得し仮説を立て検証することができる。	
DF3	(科学的な検証能力)	
	教育テックによる教育界に関する社会変革を目標に、自らの構想を立てることができ	
DP4	る。	
	(社会変革への構想能力)	

	机去堆积冷泵 / 1)。 足板 2 ※八节/4		
履修条件	教育構想演習(Ⅰ)を履修し単位取得していること。		
	教育テック総論を踏まえ興味関心に近いテーマの指導教員を選択する。		
	(教育構想演習 (I) と異なる教員も認められる)		
授業の概要	研究指導科目群では、教育情報・経	営リーダーシップ研究科が最終的	
	な成果物とする「教育構想実践書」の質	完成に向けた一連の指導を行う。	
	【教育構想演習(II)】では、教育構:	想演習(I)で学んだアカデミッ	
	クスキルをさらに伸ばす目的で、各自の関心に基づく課題に対しての先		
	行研究レビューをまとめた「リサーチペーパー」を作成する。		
授業のテーマ	テーマ;公教育経営をめぐる課題や社会課題を発見し、現状の研究を纏		
及び到達目標	め客観的な情報に基づくリサーチペーパーを書く。		
	○リサーチペーパーの書き方を理解できる。		
授業計画 (授業は1回を90	分とし、2限連続で実施する場合がある)	授業外の学習 (60 時間)	
第 謹 〈ガエロ/ 及/バー・・・/ / ・ コ・ (旧秋/ 事前		事前 シラバスを閲覧した上で、今後の 学修についてのイメージを持つ	

	講義概要について理解し、今後の学修を見通		(3h)
	す。 また、公教育経営の現状や教育利用に関して理解 する。	事後	コメントペーパーの作成と提出 (1h) 学修計画を立て、提出する(2h)
	(第2回) 問題意識の明確化(演習) 自己の研究計画書の中から、何のために	事前	研究計画書の中でも問題意識に関する部分を精査する (3h)
第2講	(Why) 何を(What)いかに(How)問題とするのかをプレゼンテーション、その適切性を全体で討議する。 (第3回)問題意識の明確化(演習) 討議をもとに自己の研究計画書を見直し、適切なものに修正する。	事後	コメントペーパーの作成と提出 (1h) 学修と討議をもとに研究計画書の 適切性を精査し、必要に応じて修 正し、提出する(3h)
	(第4回) 先行研究レビュー1 (演習) 自己の研究テーマに関する先行研究を検索し、	事前	文献検索の方法を復習し、自己の 関心に沿って試しに検索する(3 h)
第3講	先行研究リストを作成する。 (第5回) 先行研究レビュー2 (演習) 作成した先行研究リストの中から、1 編につい てレビューレポートを作成する。	事後	コメントペーパーの作成と提出 (1h) 先行研究レビューレポートを完成 させ、プレゼンテーションに備え る (3 h)
	(第6回) 先行研究プレゼンテーション作成1(演習)	事前	先行研究レビューを重ね、レポートにまとめていく(4h)
第4講	プレゼンテーション用に先行研究レポートを加工する。 (第7回) 先行研究プレゼンテーション発表1(演習) 先行研究プレゼンテーションを行い、全体で内容を共有する。	事後	コメントペーパーの作成と提出 (1h) 先行研究レビューを続け、レポー トにまとめていく(3 h)
	(第8回) 先行研究レビュー3 (演習) 先行研究リストに追加すべき文献を探索する。	事前	先行研究レビューを重ね、レポートにまとめていく(4h)
第5講	(第9回) 先行研究レビュー4 (演習) 作成した先行研究リストの中から、新たに 1 編 についてレビューレポートを作成する。	事後	コメントペーパーの作成と提出 (1h) 先行研究レビューレポートを完成 させ、プレゼンテーションに備え る (3h)
	(第 10 回) 先行研究プレゼンテーション作成 2 (演習)	事前	先行研究に照らして自己の研究の 意義と課題を整理する(4h)
第6講	プレゼンテーション用に先行研究レポートを加工する。 (第 11 回) 先行研究プレゼンテーション発表 2 (演習) 先行研究プレゼンテーションを行い、全体で内	事後	コメントペーパーの作成と提出 (1h)。 学修と討議をもとに研究進捗の適 切性を精査し、リサーチペーパー 案を作成する(3h)

	容を共有する	, , ,		
	(第 12 回)	リサーチペーパー指導1 (演習)	事前	リサーチペーパー案を精査する
	これまでタ	進めてきた研究をレポートにまとめ、	4. Un	(4 h)
	プレゼンテー	-ションし、全体で討議する。		
第7講	(第 13 回)	リサーチペーパー指導2 (演習)		コメントペーパーの作成と提出
	全体討議	をもとに、自己のリサーチペーパーを	事後	(1h) リサーチペーパーを完成させる
	修正する。			(3 h)
	(第 14 回)	研究計画書のバージョンアップ 1(演	事前	今後の研究計画案を作成する(4
	習)			h)
	これまでの	D学修と討議をもとに、「研究構想実		
	践書」作成に	こ向け、自己の今後の研究計画におい		
	て見直すべる	き点を洗い出し、いかに修正していく		コメントペーパーの作成と提出
第8講	かを発表する	5 °		(1h)
	(第 15 回)	研究計画書のバージョンアップ 2(演	事後	学修と討議をもとに研究計画書の 適切性を精査し、必要に応じて修
	習)			正する(3h)
	履修者各[自の発表をもとに、公教育経営研究に		
	おいていかた	なる研究計画が適切かを全体で討議す		
	る。			
定期試験		各自の発表(発表資料提出)及び、レ	ポート	・とする。
使用テキスト		履修者のテーマに合わせて別途指示す	る。	
参考文献	 状	履修者のテーマに合わせて別途指示す	る。	
受講生に	 C対する評価	 ・発表内容(25%)		
<u> </u>	->·1> @ H III	・レポート (25%)		
		・討議 (25%)		
		・最終課題としてのリサーチペーパー(25%)		
課題等に対する		・基本的には、授業の中で行う。		
フィードバック		・本授業は、履修者の関心にあわせた指導が主となる。個別指導時はビ		
		デオ会議システムのブレイクアウトルームなどを利用する。他者の指導		
		の間に、与えられた課題に対する調査	などを	:行う。
		そのため、履修者が積極的、自発的に自身の問題関心に応じて探究して		
		いくことが必要となる。毎回の授業ごとにレポート作成をするだけでな		
		く、自身の研究報告の発表を行う。その上で、各履修者に対して助言・		
		指導をする。また、履修者は、他者の	り発表	に対してコメントをするこ
		と。・		

オフィスアワー	原則として毎週水曜日・18:00~20:00
(オンライン曜日・	希望する人は事前予約してください。
時間)	
受講生へのメッセー	
ジ*任意項目	
備考	
*任意項目	
授業用 URL	
*任意項目	
授業用 E-Mail	
*任意項目	

講義名	教育構想演習(II)
単位数	2 単位
単位区分(必修・選択・自由)	必修
講義開講時期	1年後期
講義区分(講義・演習・実習)	演習
担当教員名	柴山 慎一

	教育界における課題を発見し、背景や関わる要因をグローバル視点で俯瞰し定義する	
DP1	ことができる。	
	(課題発見・要因定義能力)	
DP2-1	教育界における課題に情報学の知識・スキルを活用し改善・解決することができる。	
D1 2-1	(改善・解決能力)	
DP2-2	教育界における課題に経営学の知識・スキルを活用し改善・解決することができる。	
D1 2 2	(改善・解決能力)	
DP3	科学的知見に基づき実践からデータを取得し仮説を立て検証することができる。	
DIS	(科学的な検証能力)	
	教育テックによる教育界に関する社会変革を目標に、自らの構想を立てることができ	
DP4	る。	•
	(社会変革への構想能力)	

条 	件			こと。		
		教育テック総論を踏まえ興味関心に近いる	_	教育構想演習(I)を履修し単位取得していること。		
			教育テック総論を踏まえ興味関心に近いテーマの指導教員を選			
E		(教育構想演習 (I) と異なる教員も認められる)				
E		研究指導科目群では、教育情報・経営リーダーシップ研究科が最終的な				
		成果物とする「教育構想実践書」の完成は	に向け	た一連の指導を行う。		
		【数本株和冷耶(Ⅱ)】~)1、数本株和	후 333 <i>(</i>	1) 一番/ ショムーン		
		クスキルをさらに伸ばす目的で、各自の	関心に	基づく課題に対しての先		
行研究レビューをまとめた「リサーチペーパー」を作成する。				」を作成する。		
テー	· マ	教育機関経営や経営に資するコミュニ	ケーシ	ョンに関わる研究テーマ		
及び到達目標 に対する教育界の課題や社会課題を発見し、現状の研究を纏め客観			状の研究を纏め客観的な			
		情報に基づくリサーチペーパーを書く。				
○リサーチペーパーの書き方を理解できる						
授業計画 (授業は1回を90		分とし、2 限連続で実施する場合がある)	授業	外の学習 (60 時間)		
(第1回)オ		ナリエンテーション(講義)		各自の教育構想計画書につな		
寅習の	全体	像とゴールイメージ、受講生の問題意	事前	がるような問題意識を整理 (3h)		
哉、進	め方	などについての中間地点としての再共	事後	(3h) 他のゼミ生の問題意識との差		
	授業 は1 (第1 属習の	授業は1回を90 (第1回) z 寅習の全体	クスキルをさらに伸ばす目的で、各自の間行研究レビューをまとめた「リサーチペーテーマ 教育機関経営や経営に資するコミュニタ に対する教育界の課題や社会課題を発見し情報に基づくリサーチペーパーを書く。	テーマ 教育機関経営や経営に資するコミュニケーシに対する教育界の課題や社会課題を発見し、現情報に基づくリサーチペーパーを書く。		

	1. 			田 - 4 に b) に b (11)
		教育機関経営と経営に資するコミュニケ		異を振り返り(1h)
	ーションのあり方について理解する。			
		牧育構想計画書の改善案発表①(演習)	事前	自身の教育構想計画書の改善 案作成と発表準備(7h)
total or title		教育構想計画書の改善案発表②(演習)		来下,风 C 光 双 平 畑 (7 II)
第2講	•	する改善案を反映したものを発表し議論	-t-1/4	自身の発表に対するコメント
		教育機関経営と経営に資するコミュニケ	事後	等の振り返りと他のゼミ生の 発表を受けての振り返り(1h)
		ちり方について深堀りする。 ***たば##31		
		教育構想計画書の改善案発表③(演習)	事前	自身の教育構想計画書の改善
tota o -th		教育構想計画書の改善案発表④(演習) - 1717年 -		案作成と発表準備(7h)
第3講	•	する改善案を反映したものを発表し議論		自身の発表に対するコメント
		教育機関経営と経営に資するコミュニケ	事後	等の振り返りと他のゼミ生の 発表を受けての振り返り(1h)
		うり方について深堀りする。 ***たば##31		元表を支げての振り返り(III)
		牧育構想計画書の改善案発表⑤(演習)	事前	自身の教育構想計画書の改善
第4講		教育構想計画書の改善案発表⑥(演習) ************************************	3-133	案作成と発表準備(7h)
分生冊	則凹条に別り する。	する改善案を反映したものを発表し議論		自身の発表に対するコメント
	90.		事後	等の振り返りと他のゼミ生の 発表を受けての振り返り(1h)
	(第8回) 差	牧育構想計画書の改善案発表(7)(演習)		
		教育構想計画書の改善案発表⑧(演習)	事前	自身の教育構想計画書の改善 案作成と発表準備(7h)
第5講		する改善案を反映したものを発表し議論		自身の発表に対するコメント
	する。		事後	等の振り返りと他のゼミ生の
	-			発表を受けての振り返り(1h)
		教育構想計画書の改善案発表⑨(演習)	市公	自身の教育構想計画書の改善
	(第 11 回)教育構想計画書の改善案発表⑩(演習)		事前	案作成と発表準備(7h)
第6講		に対する改善案を反映したものを発表し議論 —		自身の発表に対するコメント
		リサーチペーパー(教育構想計画書)	事後	等の振り返りと他のゼミ生の
		可けた指導を行う。		発表を受けての振り返り(1h)
		教育構想計画書の改善案発表⑪(演習)	事前	自身の教育構想計画書の改善 案作成と発表準備(7h)
かって		教育構想計画書の改善案発表⑫(演習)	, —	条件成と光衣毕開(7II)
第7講	•	する改善案を反映したものを発表し議論	市ル	自身の発表に対するコメント
		リサーチペーパー(教育構想計画書)	事後	等の振り返りと他のゼミ生の 発表を受けての振り返り(1h)
		同けた指導を行う。 リル・エ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・		
	(第 14 回) リサーチペーパー指導 1 (演習)		事前	自身の教育構想計画書の最終 報告案の作成と発表準備(7h)
第8講	(第15回)リサーチペーパー指導2(演習) 各自の最終報告用に取り纏めた教育構想計画書を発		事後	自身の発表に対するコメント
	各日の取終報音用に取り纏めた教育構想計画書を発 表し議論する。			等の振り返りと他のゼミ生の
				発表を受けての振り返り(1h)
定期試験 試験ではなく、前後期を通じて教育構想計画書の提出を求る		の提出を求める。		
使用テキスト 教科書は指定しないが、必要に応じて参考書は推奨する。		推奨する。		
参考文献 柴山慎一(2011)『コーポレートコミュニケーション経営』東洋経済			ション経営』東洋経済	

	新報社
	清水正道、柴山慎一ほか(2019)『インターナル・コミュニケーショ
	ン経営』経団連出版
	ほか研究テーマに応じて
受講生に対する評価	授業の進め方は、ゼミ生各自の発表とゼミ生全員参加のディスカッショ
	ンを中心とする。ゼミ活動中の参加姿勢や他者への貢献、ディスカッシ
	ョンへの関与などの平常点と最終報告される教育構想計画書をもとに評
	価する。平常点 50%、教育構想計画書(リサーチペーパー)50%
課題等に対する	フィードバックは受講生毎に都度、授業の中で行うが、必要に応じて
フィードバック	個別に行う。
	本授業は、履修者の関心にあわせた指導が主となる。個別指導時はビデ
	オ会議システムのブレイクアウトルームなどを利用する。他者の指導の
	間に、与えられた課題に対する調査などを行う。 そのため、履修者が
	積極的、自発的に自身の問題関心に応じて探究していくことが必要とな
	る。毎回の授業ごとにレポート作成をするだけでなく、自身の研究報告
	の発表を行う。その上で、各履修者に対して助言・指導をする。 ま
	た、履修者は、他者の発表に対してコメントをすること。
オフィスアワー	社会人院生が中心になることから受講生の余裕のある時間帯を確保す
(オンライン曜日・	る。主に平日夜間と土曜日など(要予約)。
時間)	
受講生へのメッセー	教育機関の経営そのものの中にコミュニケーションを位置づけ、その内
ジ*任意項目	容を広く学ぶことを通じて教育構想計画書を作成する。演習(ゼミ)活
	動は個人戦ではなく団体戦と位置付け、他のゼミ生への貢献を相互に意
	識しながら知見の充実と経験値の向上に努めるものとする。
備考	
*任意項目	
授業用 URL	
*任意項目	
授業用 E-Mail	
*任意項目	

講義名	教育構想演習(II)
単位数	2 単位
単位区分(必修・選択・自由)	必修
講義開講時期	1年後期
講義区分(講義・演習・実習)	演習
担当教員名	藤本典裕

	教育界における課題を発見し、背景や関わる要因をグローバル視点で俯瞰し定義する	
DP1	ことができる。	
	(課題発見・要因定義能力)	
DP2-1	教育界における課題に情報学の知識・スキルを活用し改善・解決することができる。	
D1 2-1	(改善・解決能力)	
DP2-2	教育界における課題に経営学の知識・スキルを活用し改善・解決することができる。	
D1 2-2	(改善・解決能力)	
DP3	科学的知見に基づき実践からデータを取得し仮説を立て検証することができる。	
DF3	(科学的な検証能力)	
	教育テックによる教育界に関する社会変革を目標に、自らの構想を立てることができ	
DP4	る。	
	(社会変革への構想能力)	

	htr		bt.	机克塔根块切 (工) 医尿(皮) 以几项(用) (1) (1)
履	修	条	件	教育構想演習(I)を履修し単位取得していること。
				教育テック総論を踏まえ興味関心に近いテーマの指導教員を選択する。
				(教育構想演習 (I) と異なる教員も認められる)
授業の概要				研究指導科目群では、教育情報・経営リーダーシップ研究科が最終的な
				成果物とする「教育構想実践書」の完成に向けた一連の指導を行う。
				【教育構想演習(II)】では、教育構想演習(I)で学んだアカデミッ
				クスキルをさらに伸ばす目的で、各自の関心に基づく課題に対しての先
				行研究レビューをまとめた「リサーチペーパー」を作成する。
授業	業 の	テー	- マ	現代の学校教育制度をめぐる諸課題について、特に学校教職員の役割と
及び	到達目	標		その変化などに着目しながら検討する。「チームとしての学校」が求め
				られる背景と現状など、児童・生徒の学びを保障するための条件を念頭
				に置いて考察する。これらを踏まえ、受講者各自が教育界の課題や社会
				課題を発見し、現状の研究を纏め客観的な情報に基づくリサーチペーパ
				ーを書く。
				○リサーチペーパーの書き方を理解できる
授業	計画(授業は 1	し回を 90	分とし、2 限連続で実施する場合がある) 授業外の学習 (60 時間)

		イントロダクション(講義) 度と教職員の現状や教育利用に関して理	事前	シラバス内容閲覧
第1講	解する。		事後	コメントペーパーの提出 (1h) 指定された文献の精読(3h)
<i>t</i> -t	(第2回) 問題意識の明確化(演習) (第3回) 問題意識の明確化(演習)		事前	授業資料の確認 (1.5h) 課題への取り組み (2.5h)
第2講	学校教育制成のあるテー	度と教職員に関する技術領域から興味関 -マを定める	事後	コメントペーパーの提出 (1h) 指定された文献の精読(3h)
have a sitt		た行研究レビュー1(演習) た行研究レビュー2(演習)	事前	授業資料の確認 (1.5h) 課題への取り組み (2.5h)
第3講	各履修者の別 献の章)を訓	掲心に対応した文献(1 編の論文または文 間査する。	事後	コメントペーパーの提出 (1h) 指定された文献の精読(3h)
	習)	先行研究プレゼンテーション作成 1 (演	事前	授業資料の確認(1.5h) 課題への取り組み(2.5h)
第4講	(第 7 回) 先行研究プレゼンテーション発表 1 (演 B) 調査した内容を報告し履修者間で共有する。		事後	コメントペーパーの提出 (1h) 指定された文献の精読(3h)
		た行研究レビュー3(演習) た行研究レビュー4(演習)	事前	授業資料の確認 (1.5h) 課題への取り組み (2.5h)
第5講	各履修者の関 献の章)を訓	掲心に対応した文献(1 編の論文または文 間査する。	事後	コメントペーパーの提出 (1h) 指定された文献の精読(3h)
	習)	先行研究プレゼンテーション作成 2 (演	事前	授業資料の確認(1.5h) 課題への取り組み(2.5h)
第6講	習)	先行研究プレゼンテーション発表 2 (演 字を報告し履修者間で共有する。	事後	コメントペーパーの提出 (1h) 指定された文献の精読(3h)
<i>tst</i>		リサーチペーパー指導 1 (演習) リサーチペーパー指導 2 (演習)	事前	授業資料の確認 (1.5h) 課題への取り組み (2.5h)
第7講 各履修者の 果をレポー		問題および関心に対応した1年間の調査結 トに纏める。	事後	コメントペーパーの提出 (1h) 指定された文献の精読(3h)
☆ 0 =#	(第 14 回) リサーチペーパー指導 3 (演習) (第 15 回) リサーチペーパー指導 4 (演習)		事前	授業資料の確認(1.5h) 課題への取り組み(2.5h)
第8講 各履修者の問 果をレポー		問題および関心に対応した1年間の調査結 トに纏める。	事後	コメントペーパーの提出 (1h) 指定された文献の精読(3h)
定期試驗		各自の発表(発表資料提出)及び、レポ・	ートと	する。
使用テキ	テスト	別途指示する		
参考文献	犬	別途指示する		

受講生に対する評価	・発表内容(25%)
文冊生に対する計画	
	・レポート (25%)
	・討議(25%)
	・最終課題としてのリサーチペーパー (25%)
課題等に対する	・基本的には、授業の中で行う。
フィードバック	・本授業は、履修者の関心にあわせた指導が主となる。個別指導時はビ
	デオ会議システムのブレイクアウトルームなどを利用する。他者の指導
	の間に、与えられた課題に対する調査などを行う。
	そのため、履修者が積極的、自発的に自身の問題関心に応じて探究し
	ていくことが必要となる。毎回の授業ごとにレポート作成をするだけで
	なく、自身の研究報告の発表を行う。その上で、各履修者に対して助
	言・指導をする。また、履修者は、他者の発表に対してコメントをする
	こと。
オフィスアワー	授業の前後
(オンライン曜日・	
時間)	
受講生へのメッセー	
ジ*任意項目	
備考	
*任意項目	
授業用 URL	
*任意項目	
授業用 E-Mail	
*任意項目	

講義名	教育構想演習(II)
単位数	2 単位
単位区分(必修・選択・自由)	必修
講義開講時期	1年後期
講義区分(講義・演習・実習)	演習
担当教員名	山田 恒夫

	教育界における課題を発見し、背景や関わる要因をグローバル視点で俯瞰し定義する	
DP1	ことができる。	
	(課題発見・要因定義能力)	
DP2-1	教育界における課題に情報学の知識・スキルを活用し改善・解決することができる。	
D1 2-1	(改善・解決能力)	
DP2-2	教育界における課題に経営学の知識・スキルを活用し改善・解決することができる。	
D1 2 2	(改善・解決能力)	
DP3	科学的知見に基づき実践からデータを取得し仮説を立て検証することができる。	
DIS	(科学的な検証能力)	
	教育テックによる教育界に関する社会変革を目標に、自らの構想を立てることができ	
DP4	る。	•
	(社会変革への構想能力)	

屋 	. 4	<i>[1</i>]	- 数本推组类型 (I) A. 层板 1 光压的组 1 ~	T), 7	× 1.
履 修 	愛 修 条 件 教育構想演習(I)を履修し単位取得していること。				
			教育テック総論を踏まえ興味関心に近いる	テーマ	の指導教員を選択する。
			(教育構想演習(I)と異なる教員も認め	められ	る)
授業の概要 研究指導科目群では、教育情報・経営リーダーシップ研究科が最終				シップ研究科が最終的な	
			成果物とする「教育構想実践書」の完成に	に向け	た一連の指導を行う。
			【教育構想演習(Ⅱ)】では、教育構想法	寅習(I) で学んだアカデミッ
			クスキルをさらに伸ばす目的で、各自の関	関心に	基づく課題に対しての先
			行研究レビューをまとめた「リサーチペー	ーパー	」を作成する。
授業。	授業のテーマ 指導教員の専門分野における研究の最新動向を知り、自らの視点で			知り、自らの視点で 教	
及び到達目標 育界の課題や社会課題を発見			育界の課題や社会課題を発見分析し、さら	うに関	連 研究の最新動向を
			まとめ、客観的な情報に基づくリサーチィ	ペーパ	ーを書く。
			○リサーチペーパーの書き方を理解できる	3	
授業計画 (授業は1回を90分とし、2限連続で実施する場合がある)			分とし、2 限連続で実施する場合がある)	授業	外の学習 (60時間)
(第1回) イ:		1回)	イントロダクション(講義)	事前	シラバス内容閲覧
// 1 =#:	誰		教育工学における研究の最新動向や 関	4. U.I	マラン 小口口間
第1講			育利用に関して理解する。	本 纵	コメントペーパーの提出
				事後	(1h)
					指定された文献の精読(3h)

		問題意識の明確化(演習) 問題意識の明確化(演習)	事前	授業資料の確認(1.5h) 課題への取り組み(2.5h)
第2講 技術領域		から興味関心のあるテーマを定める		コメントペーパーの提出 (1h) 指定された文献の精読(3h)
//r 0 ==#		4 回)先行研究レビュー 1 (演習) 5 回)先行研究レビュー 2 (演習)	事前	授業資料の確認 (1.5h) 課題への取り組み (2.5h)
第3講	各履修者の財献の章)を訓	掲心に対応した文献(1 編の論文または文 問査する。	事後	コメントペーパーの提出 (1h) 指定された文献の精読(3h)
	習)	先行研究プレゼンテーション作成 1 (演	事前	授業資料の確認 (1.5h) 課題への取り組み (2.5h)
第4講	習)	先行研究プレゼンテーション発表 1 (演 学を報告し履修者間で共有する。	事後	コメントペーパーの提出 (1h) 指定された文献の精読(3h)
第5講	(第7回) 分	た行研究レビュー3(演習) た行研究レビュー4(演習)	事前	授業資料の確認 (1.5h) 課題への取り組み (2.5h)
第 3 	各履修者の関献の章)を訓	関心に対応した文献(1 編の論文または文 関査する。	事後	コメントペーパーの提出 (1h) 指定された文献の精読(3h)
halo c ==tta	(第6回) 先行研究プレゼンテーション作成2(演習)		事前	授業資料の確認 (1.5h) 課題への取り組み (2.5h)
第6講	習)	先行研究プレゼンテーション発表 2 (演 学を報告し履修者間で共有する。	事後	コメントペーパーの提出 (1h) 指定された文献の精読(3h)
// p ==#	(第12回)	リサーチペーパー指導 1 (演習) リサーチペーパー指導 2 (演習)	事前	授業資料の確認 (1.5h) 課題への取り組み (2.5h)
第7講	各履修者の問 果をレポート	問題および関心に対応した1年間の調査結 、に纏める。	事後	コメントペーパーの提出 (1h) 指定された文献の精読(3h)
数 の謙		リサーチペーパー指導 3 (演習) リサーチペーパー指導 4 (演習)	事前	授業資料の確認(1.5h) 課題への取り組み(2.5h)
		優修者の問題および関心に対応した1年間 €レポートに纏める。	事後	コメントペーパーの提出 (1h) 指定された文献の精読(3h)
定期試験		期末の定期試験は実施しない。		
使用テキスト		別途指示する		
参考文献		別途指示する		
受講生に対する評価		・各回授業への出席およびコメントペー・各自の発表(40%、発表資料提出) ・最終課題としてのリサーチペーパー(から総合的に評価する。		提出(30%)

課題等に対する	・基本的には、授業の中で行う。
フィードバック	・本授業は、履修者の関心にあわせた指導が主となる。個別指導時はビ
	デオ会議システムのブレイクアウトルームなどを利用する。他者の指導
	の間に、与えられた課題に対する調査などを行う。
	そのため、履修者が積極的、自発的に自身の問題関心に応じて探究し
	ていくことが必要となる。毎回の授業ごとにレポート作成をするだけで
	なく、自身の研究報告の発表を行う。その上で、各履修者に対して助
	言・指導をする。また、履修者は、他者の発表に対してコメントをする
	こと。
オフィスアワー	授業の前後
(オンライン曜日・	
時間)	
受講生へのメッセー	
ジ*任意項目	
備考	
*任意項目	
授業用 URL	
*任意項目	
授業用 E-Mail	
*任意項目	

講義名	教育構想演習(II)
単位数	2 単位
単位区分(必修・選択・自由)	必修
講義開講時期	1年後期
講義区分(講義・演習・実習)	演習
担当教員名	山本 淳子

	教育界における課題を発見し、背景や関わる要因をグローバル視点で俯瞰し定義する	
DP1	ことができる。	
	(課題発見・要因定義能力)	
DP2-1	教育界における課題に情報学の知識・スキルを活用し改善・解決することができる。	
D1 2-1	(改善・解決能力)	
	教育界における課題に経済/経営学の知識・スキルを活用し改善・解決することがで	
DP2-2	きる。	
	(改善・解決能力)	
DP3	科学的知見に基づき実践からデータを取得し仮説を立て検証することができる。	
D1 3	(科学的な検証能力)	
	教育テックによる教育界に関する社会変革を目標に、自らの構想を立てることができ	
DP4	る。	
	(社会変革への構想能力)	

履	<u></u> 修	条	件	教育構想演習(Ⅰ)を履修し単位取得して	ている	ァ ン
12	9	*	"	教育テック総論を踏まえ興味関心に近い		-
				(教育構想演習 (I) と異なる教員も認る	かられ	る)
授業の	概要			研究指導科目群では、教育情報・経営リー	ーダー	シップ研究科が最終的な
				成果物とする「教育構想実践書」の完成は	こ向け	た一連の指導を行う。
				【教育構想演習(II)】では、教育構想派	寅習(I) で学んだアカデミッ
				クスキルをさらに伸ばす目的で、各自の関心に基づく課題に対しての先		
	行研究レビューをまとめた「リサーチペーパー」を作成する。				」を作成する。	
授業	授業のテーマ保育・幼児教育に関する教育界の課題や社会課題を発見し、現状の			題を発見し、現状の研究		
及び到	達目	標		を纏め客観的な情報に基づくリサーチペー	ーパー	を書く。
				○リサーチペーパーの書き方を理解できる	3	
授業計画 (授業は1回を90分とし、2限連続で			回を 90	分とし、2 限連続で実施する場合がある)	授業	外の学習 (60 時間)
第1講	(第1	回)/	イントロダクション(講義)	事前	シラバス内容閲覧

	保育・幼児	教育の現状や教育利用に関して理解す	-1-11	コメントペーパーの提出
	る。		事後	(1h) 指定された文献の精読(3h)
lake a -th		(第2回) 問題意識の明確化(演習) (第3回) 問題意識の明確化(演習)		授業資料の確認(1.5h) 課題への取り組み(2.5h)
第2講	保育・幼児 マを定める	教育の技術領域から興味関心のあるテー	事後	コメントペーパーの提出 (1h) 指定された文献の精読(3h)
		た行研究レビュー1(演習) た行研究レビュー2(演習)	事前	授業資料の確認(1.5h) 課題への取り組み(2.5h)
第3講	各履修者の関献の章)を調	掲心に対応した文献(1 編の論文または文 問査する。	事後	コメントペーパーの提出 (1h) 指定された文献の精読(3h)
<i>toto ,</i> −	習)	先行研究プレゼンテーション作成 1 (演	事前	授業資料の確認(1.5h) 課題への取り組み(2.5h)
第4講	習)	先行研究プレゼンテーション発表 1 (演 字を報告し履修者間で共有する。	事後	コメントペーパーの提出 (1h) 指定された文献の精読(3h)
		た行研究レビュー3(演習) た行研究レビュー4(演習)	事前	授業資料の確認 (1.5h) 課題への取り組み (2.5h)
第5講	各履修者の関 献の章)を訓	掲心に対応した文献(1 編の論文または文 間査する。	事後	コメントペーパーの提出 (1h) 指定された文献の精読(3h)
hh c =#	習)	先行研究プレゼンテーション作成2(演	事前	授業資料の確認(1.5h) 課題への取り組み(2.5h)
第6講	習)	先行研究プレゼンテーション発表 2 (演 客を報告し履修者間で共有する。	事後	コメントペーパーの提出 (1h) 指定された文献の精読(3h)
folio — Title		リサーチペーパー指導 1 (演習) リサーチペーパー指導 2 (演習)	事前	授業資料の確認(1.5h) 課題への取り組み(2.5h)
第7講	各履修者の問 果をレポート	問題および関心に対応した1年間の調査結 トに纏める。	事後	コメントペーパーの提出 (1h) 指定された文献の精読(3h)
		リサーチペーパー指導 3 (演習) リサーチペーパー指導 4 (演習)	事前	授業資料の確認(1.5h) 課題への取り組み(2.5h)
第8講	各履修者の問題および関心に対応した1年間の調査結 果をレポートに纏める。		事後	コメントペーパーの提出 (1h) 指定された文献の精読(3h)
定期試験	美	各自の発表(発表資料提出)及び、レポ	ートと	する。
使用テキスト		別途指示する		
参考文献		別途指示する		

受講生に対する評価	・発表内容(25%)
	・レポート(25%)
	・討議(25%)
	・最終課題としてのリサーチペーパー (25%)
課題等に対する	・基本的には、授業の中で行う。
フィードバック	・本授業は、履修者の関心にあわせた指導が主となる。個別指導時はビ
	デオ会議システムのブレイクアウトルームなどを利用する。他者の指導
	の間に、与えられた課題に対する調査などを行う。
	そのため、履修者が積極的、自発的に自身の問題関心に応じて探究し
	ていくことが必要となる。毎回の授業ごとにレポート作成をするだけで
	なく、自身の研究報告の発表を行う。その上で、各履修者に対して助
	言・指導をする。また、履修者は、他者の発表に対してコメントをする
	こと。
オフィスアワー	授業の前後
(オンライン曜日・	
時間)	
受講生へのメッセー	
ジ*任意項目	
備考	
*任意項目	
授業用 URL	
*任意項目	
授業用 E-Mail	
*任意項目	

講義名	教育構想演習(II)
単位数	2 単位
単位区分(必修・選択・自由)	必修
講義開講時期	1年後期
講義区分(講義・演習・実習)	演習
担当教員名	大和田順子

	教育界における課題を発見し、背景や関わる要因をグローバル視点で俯瞰し定義する	
DP1	ことができる。	
	(課題発見・要因定義能力)	
DP2-1	教育界における課題に情報学の知識・スキルを活用し改善・解決することができる。	
DF2-1	(改善・解決能力)	
DP2-2	教育界における課題に経営学の知識・スキルを活用し改善・解決することができる。	
DF2-2	(改善・解決能力)	
DP3	科学的知見に基づき実践からデータを取得し仮説を立て検証することができる。	
DF3	(科学的な検証能力)	
	教育テックによる教育界に関する社会変革を目標に、自らの構想を立てることができ	
DP4	る。	
	(社会変革への構想能力)	

履修	条	件	教育構想演習(I)を履修し単位取得して	ている	こと。
			教育テック総論を踏まえ興味関心に近いっ	テーマ	の指導教員を選択する。
			(教育構想演習(I)と異なる教員も認め	められ	る)
授業の概	既要		研究指導科目群では、教育情報・経営リー	ーダー	シップ研究科が最終的な
			成果物とする「教育構想実践書」の完成は	こ向け	た一連の指導を行う。
			【教育構想演習(II)】では、教育構想活	寅習(I)で学んだアカデミッ
			クスキルをさらに伸ばす目的で、各自の関心に基づく課題に対しての先		
			行研究レビューをまとめた「リサーチペーパー」を作成する。		
授業の	のテー	- v	関心のある SDGs 目標・ターゲットや社会課題、ESD について、教育		
及び到達	達目標		界におけるそのテーマに関する取り組み及び課題を発見し、現状の研究		
			を纏め客観的な情報に基づくリサーチペーパーを書く。		
			○リサーチペーパーの書き方を理解できる	3	
授業計画 (授業は1回を90			分とし、2 限連続で実施する場合がある)	授業	外の学習 (60 時間)
	(第1	回) /	イントロダクション(講義)	事前	シラバス内容閲覧
第1講	SDGs	や社会	課題、ESDの現状や教育利用に関して理	3.103	1711733
	解する	0		事後	コメントペーパーの提出 (1h)

				指定された文献の精読 (3h)
		問題意識の明確化(演習) 問題意識の明確化(演習)	事前	授業資料の確認 (1.5h) 課題への取り組み (2.5h)
第2講		≷課題、ESDに関する技術領域から興味関	事後	コメントペーパーの提出 (1h) 指定された文献の精読(3h)
ゲ ケ の 二柱		(第4回) 先行研究レビュー1 (演習) (第5回) 先行研究レビュー2 (演習)		授業資料の確認(1.5h) 課題への取り組み(2.5h)
第3講	各履修者の関 献の章)を調	関心に対応した文献(1 編の論文または文 関査する。	事後	コメントペーパーの提出 (1h) 指定された文献の精読(3h)
<i>γ</i> γγ 4 ⊒#±	習)	先行研究プレゼンテーション作成 1 (演	事前	授業資料の確認 (1.5h) 課題への取り組み (2.5h)
第4講	習)	先行研究プレゼンテーション発表 1 (演 客を報告し履修者間で共有する。	事後	コメントペーパーの提出 (1h) 指定された文献の精読(3h)
第5講	(第7回) 5	(第6回) 先行研究レビュー3 (演習) (第7回) 先行研究レビュー4 (演習) 各履修者の関心に対応した文献(1 編の論文または文 状の章)を調査する。	事前	授業資料の確認 (1.5h) 課題への取り組み (2.5h)
分り時			事後	コメントペーパーの提出 (1h) 指定された文献の精読(3h)
fototh	習)	先行研究プレゼンテーション作成 2 (演	事前	授業資料の確認(1.5h) 課題への取り組み(2.5h)
第6講	習)	先行研究プレゼンテーション発表 2 (演 字を報告し履修者間で共有する。	事後	コメントペーパーの提出 (1h) 指定された文献の精読(3h)
公 7 註		リサーチペーパー指導 1 (演習) リサーチペーパー指導 2 (演習)	事前	授業資料の確認(1.5h) 課題への取り組み(2.5h)
第7講		を者の問題および関心に対応した1年間の調査結 ・ポートに纏める。		コメントペーパーの提出 (1h) 指定された文献の精読 (3h)
第8講		リサーチペーパー指導 3 (演習) リサーチペーパー指導 4 (演習)	事前	授業資料の確認(1.5h) 課題への取り組み(2.5h)
37 0 時	各履修者の問 果をレポー l	問題および関心に対応した1年間の調査結 トに纏める。	事後	コメントペーパーの提出 (1h) 指定された文献の精読(3h)
定期試験		各自の発表(発表資料提出)及び、レポ	ートと	<u></u> する。
使用テキスト		別途指示する		
参考文献		別途指示する		
受講生に対する評価		・発表内容 (25%)		
		・レポート (25%)		
		・討議 (25%)	·\	
		・最終課題としてのリサーチペーパー(2	25%)	

課題等に対する	・基本的には、授業の中で行う。
フィードバック	
ノイートハック	・本授業は、履修者の関心にあわせた指導が主となる。個別指導時はビ
	デオ会議システムのブレイクアウトルームなどを利用する。他者の指導
	の間に、与えられた課題に対する調査などを行う。
	そのため、履修者が積極的、自発的に自身の問題関心に応じて探究し
	ていくことが必要となる。毎回の授業ごとにレポート作成をするだけで
	なく、自身の研究報告の発表を行う。その上で、各履修者に対して助
	言・指導をする。また、履修者は、他者の発表に対してコメントをする
	こと。
オフィスアワー	授業の前後
(オンライン曜日・	
時間)	
受講生へのメッセー	
ジ*任意項目	
備考	
*任意項目	
授業用 URL	
*任意項目	
授業用 E-Mail	
*任意項目	

講義名	教育構想演習(II)
単位数	2 単位
単位区分(必修・選択・自由)	必修
講義開講時期	1年後期
講義区分(講義・演習・実習)	演習
担当教員名	妹尾昌俊

	教育界における課題を発見し、背景や関わる要因をグローバル視点で俯瞰し定義する	
DP1	ことができる。	
	(課題発見・要因定義能力)	
DP2-1	教育界における課題に情報学の知識・スキルを活用し改善・解決することができる。	
DP2-1	(改善・解決能力)	
DP2-2	教育界における課題に経営学の知識・スキルを活用し改善・解決することができる。	
DF2-2	(改善・解決能力)	
DP3	科学的知見に基づき実践からデータを取得し仮説を立て検証することができる。	
DF3	(科学的な検証能力)	
	教育テックによる教育界に関する社会変革を目標に、自らの構想を立てることができ	
DP4	る。	•
	(社会変革への構想能力)	

履修	条	件	教育構想演習(I)を履修し単位取得して	ている	こと。
			教育テック総論を踏まえ興味関心に近いる	テーマ	の指導教員を選択する。
			(教育構想演習(I)と異なる教員も認め	められ	る)
授業の概	既要		研究指導科目群では、教育情報・経営リーダーシップ研究科が最終的な		
			成果物とする「教育構想実践書」の完成は	こ向け	た一連の指導を行う。
			【教育構想演習(II)】では、教育構想法	寅習(I) で学んだアカデミッ
			クスキルをさらに伸ばす目的で、各自の関心に基づく課題に対しての先		
			行研究レビューをまとめた「リサーチペーパー」を作成する。		
授業	のテ	ーマ	教職員のウェルビーイング、教職員政策、人材マネジメントに関する教		
及び到達	宦目標		育界の課題や社会課題を発見し、現状の研究を纏め客観的な情報に基づ		
			くリサーチペーパーを書く。		
			○リサーチペーパーの書き方を理解できる	3	
授業計画 (授業は1回を90		:1回を90	①分とし、2限連続で実施する場合がある) 授業外の学習 (60 時間)		外の学習 (60 時間)
	(第]	1回)/	イントロダクション(講義)	事前	シラバス内容閲覧
第1講	講 今日的な教	L講 今日的な教育課題に関する現状を概観すると	育課題に関する現状を概観するととも		
に、課題解決		果題解決	やの方向性について討議する。	事後	コメントペーパーの提出 (1h)

	とりわけ、教職員のウェルビーイングや教職員政		指定された文献の精読(3h)
	策、学校等における人材マネジメントに注目し、受		
	講者の関心を踏まえながらテーマ設定する。テーマ		
	例としては、教職員の長時間労働の問題(働き方改		
	革、業務改善)、メンタルヘルス、専門職としての		
	教職のあり方、採用戦略、リテンション(離職防		
	止)、人材育成など。		
	(第2回)問題意識の明確化、チームビルディング1	市兴	388 5
	(演習)	事前	課題への取り組み(4h)
	(第3回)問題意識の明確化、チームビルディング2		
	(演習)		
答○	教職員の健康・福祉、ウェルビーイングに関する領		
第2講	域から、各履修者が探究したいテーマ、現時点の課	古公	コメントペーパーの提出
	題仮説、解決アイデアについて、発表したあと、デ	事後	(1h) 指定された文献の精読(3h)
	ィスカッションする。		
	関心が近い者やバックグランドが異なる者同士が集		
	まり、チームを作る。		
	(第4回)先行研究レビュー1(演習)	声盐	授業資料の確認(1.5h)
	(第5回)先行研究レビュー2(演習)	事前	課題への取り組み (2.5h)
第3講	各履修者の関心に対応した文献を調査する。前期の		コメントペーパーの提出
	教育構想演習(I)で調査したことをベースに、チ	事後	(1h)
	ームごとにさらに検討や調査を加える。		指定された文献の精読 (3h)
	(第 6 回)先行研究プレゼンテーション作成1(演		授業資料の確認(1.5h)
	習)	事前	課題への取り組み (2.5h)
第4講	(第 7 回)先行研究プレゼンテーション発表2(演		コメントペーパーの提出
	習)	事後	(1h)
	調査した内容を報告し履修者間で共有する。		指定された文献の精読(3h)
	(第8回) インタビュー調査の方法1 (演習)	事前	授業資料の確認(1.5h)
	(第9回) インタビュー調査の方法2 (演習)	3.113	課題への取り組み(2.5h)
第5講	文献調査のみでは不十分な情報や深堀りしたい内容		コメントペーパーの提出
	について、インタビュー調査を行う場合の方法や留	事後	(1h) 指定された文献の精読 (3h)
	意点について、模擬をしながら学ぶ。		相比された文献の相流(SII)
	(第 10 回) 調査結果の報告 1	事前	授業資料の確認(1.5h)
	(第11回)調査結果の報告2 生存研究も専服しないことについて、インなど	事削	課題への取り組み(2.5h)
第6講	先行研究を克服したいことについて、インタビュー など、屋体表がチールでもに調本した内容も起生		コメントペーパーの提出
	など、履修者がチームごとに調査した内容を報告	事後	(2h) 調査結果のまとめのブラッシ
	し、履修者間で共有する。		ュアップ (2h)
第7講	(第 12 回) リサーチペーパー指導 1 (演習)	事前	課題への取り組み(4h)
71 HT		J. 111	IPA/KS マック・IA ソ /ILI・ア (*HI.)

				T		
		リサーチペーパー指導 2 (演習) 引題および関心に対応した 1 年間の調査結 、に纏める。	事後	コメントペーパーの提出 (1h) リサーチペーパーの加筆修正 (3h)		
(第 15 回)		リサーチペーパー指導3(演習) リサーチペーパー指導4(演習) 問題および関心に対応した1年間の調査結	事前	課題への取り組み (4h)		
	果をレポート	、に纏める。	事後	(2h) リサーチペーパーの加筆修正 (2h)		
定期試験		各自の発表(発表資料提出)及び、レポー	ートと	する。		
使用テキ	トスト	別途指示する				
参考文献	狀	別途指示する				
受講生は	に対する評価	・発表内容 (25%)				
		・討議(25%)				
		・最終課題としてのリサーチペーパー(50%)				
課題等は	•	・基本的には、授業の中で行う。				
フィー	ヾバック	・本授業は、履修者の関心にあわせた指導が主となる。個別指導時はビ				
		デオ会議システムのブレイクアウトルームなどを利用する。他者の指導				
		の間に、与えられた課題に対する調査などを行う。 そのため、履修者が積極的、自発的に自身の問題関心に応じて探究し				
		ていくことが必要となる。毎回の授業ごとにレポート作成をするだけで なく、自身の研究報告の発表を行う。その上で、各履修者に対して助				
		なく、自身の研究報音の発表を行う。その上で、合履修者に対して助				
		日田寺とうる。また、版画名は、個名。こと。	7 TC 3X			
オフィス	スアワー	。 特定の時間は定めません。事前にメール令	等で予	 約してください。		
(オン)	ライン曜日・					
時間)						
受講生~	、 のメッセー					
ジ*任意	意項目					
備考						
*任意項目						
授業用	URL					
*任意項目						
授業用〕	E-Mail					
*任意项	頁目					

講義名	教育構想演習(II)
単位数	2 単位
単位区分(必修・選択・自由)	必修
講義開講時期	1年後期
講義区分(講義・演習・実習)	演習
担当教員名	松田 孝

	教育界における課題を発見し、背景や関わる要因をグローバル視点で俯瞰し定義する	
DP1	ことができる。	
	(課題発見・要因定義能力)	
DP2-1	教育界における課題に情報学の知識・スキルを活用し改善・解決することができる。	
D1 2-1	(改善・解決能力)	
DP2-2	教育界における課題に経営学の知識・スキルを活用し改善・解決することができる。	
D1 2 2	(改善・解決能力)	
DP3	科学的知見に基づき実践からデータを取得し仮説を立て検証することができる。	
DIS	(科学的な検証能力)	
	教育テックによる教育界に関する社会変革を目標に、自らの構想を立てることができ	
DP4	る。	•
	(社会変革への構想能力)	

履修	条	件	教育構想演習(I)を履修し単位取得して	ている	こと。
	教育テック総論を踏まえ興味関心に近いテーマの指導教員を選択する。				の指導教員を選択する。
			(教育構想演習(I)と異なる教員も認め	められ	る)
授業の概	要		研究指導科目群では、教育情報・経営リー	ーダー	シップ研究科が最終的な
			成果物とする「教育構想実践書」の完成に	こ向け	た一連の指導を行う。
			【教育構想演習(Ⅱ)】では、教育構想法	寅習(I)で学んだアカデミッ
			クスキルをさらに伸ばす目的で、各自の	関心に	基づく課題に対しての先
			行研究レビューをまとめた「リサーチペー	ーパー	」を作成する。
授業のテーマ 教育 Tech と①非認知能力、②プログラミング教育、③学校経営等			教育、③学校経営等との		
及び到達目標			関わりをめぐって教育界の課題や社会課題	題を発	見し、現状の研究を纏め
			客観的な情報に基づくリサーチペーパーな	を書く	0
	○リサーチペーパーの書き方を理解できる				
授業計画 (授業は1回を90分とし、2限連続で実施する場合がある)			授業	外の学習 (60 時間)	
	(第1	回) /	(ントロダクション (講義)	事前	シラバス内容閲覧
第1講 教育 Tech と		ech &	:①非認知能力、②プログラミング教育、	3.113	- / - 1 4 11 14 78
	③学校	経営	等との関わりをめぐって現状や教育利用	事後	コメントペーパーの提出

	に関して理解する。		(1h) 指定された文献の精読 (3h)
	(第2回) 問題意識の明確化(演習) (第3回) 問題意識の明確化(演習)	事前	授業資料の確認 (1.5h) 課題への取り組み (2.5h)
第2講	教育 Tech と①非認知能力、②プログラミング教育、 ③学校経営等との関わりをめぐって技術領域から興 味関心のあるテーマを定める 現状の問題意識に基づく「教育構想実践書」の序章 の作成	事後	コメントペーパーの提出 (1h) 指定された文献の精読(3h)
	(第4回) 先行研究レビュー1 (演習) (第5回) 先行研究レビュー2 (演習)	事前	授業資料の確認 (1.5h) 課題への取り組み (2.5h)
第3講	各履修者の関心に対応した文献(1編の論文または文献の章)を調査する。 ツールとしてのレビュー論文の活用と作成	事後	コメントペーパーの提出 (1h) 指定された文献の精読(3h)
	(第 6 回) 先行研究プレゼンテーション作成 1 (演習)(第 7 回) 生行研究プレゼンテーション作成 1 (済)	事前	授業資料の確認(1.5h) 課題への取り組み(2.5h)
第4講	(第7回) 先行研究プレゼンテーション発表1(演習) 調査した内容を報告し履修者間で共有する。 レビュー論文の活用と作成	事後	コメントペーパーの提出 (1h) 指定された文献の精読(3h)
AY = att	(第8回) 先行研究レビュー3 (演習) (第9回) 先行研究レビュー4 (演習)	事前	授業資料の確認 (1.5h) 課題への取り組み (2.5h)
第5講	各履修者の関心に対応した文献(1 編の論文または文献の章)を調査する。	事後	コメントペーパーの提出 (1h) 指定された文献の精読(3h)
to the second	(第 10 回) 先行研究プレゼンテーション作成 2 (演習)	事前	授業資料の確認(1.5h) 課題への取り組み(2.5h)
第6講	(第 11 回) 先行研究プレゼンテーション発表 2 (演習) 調査した内容を報告し履修者間で共有する。	事後	コメントペーパーの提出 (1h) 指定された文献の精読(3h)
	(第 12 回) リサーチペーパー指導 1 (演習) (第 13 回) リサーチペーパー指導 2 (演習)	事前	授業資料の確認 (1.5h) 課題への取り組み (2.5h)
第7講	各履修者の問題および関心に対応した1年間の調査結果をレポートに纏める。 学術論文としてのリサーチペーパー リサーチペーパーと修士論文	事後	コメントペーパーの提出 (1h) 指定された文献の精読(3h)
第8講	(第 14 回) リサーチペーパー指導 3 (演習) (第 15 回) リサーチペーパー指導 4 (演習)	事前	授業資料の確認(1.5h) 課題への取り組み(2.5h)
分の神	各履修者の問題および関心に対応した1年間の調査結果をレポートに纏める。	事後	コメントペーパーの提出 (1h) 指定された文献の精読(3h)

	リサーチペ	ーパーの作成と「研究構想実践書」の		
	SUMMRY	11774 = 47175 11712 1		
定期試験		各自の発表(発表資料提出)及び、レポートとする。		
使用テキ	キスト	別途指示する		
参考文献	状	別途指示する		
受講生は	こ対する評価	・発表内容 (20%)		
		・レポート (20%)		
		・討議(10%)		
		・最終課題としてのリサーチペーパー(50%)		
課題等に	こ対する	・基本的には、授業の中で行う。		
フィー	ドバック	・本授業は、履修者の関心にあわせた指導が主となる。個別指導時はビ		
		デオ会議システムのブレイクアウトルームなどを利用する。他者の指導		
		の間に、与えられた課題に対する調査などを行う。		
		そのため、履修者が積極的、自発的に自身の問題関心に応じて探究し		
		ていくことが必要となる。毎回の授業ごとにレポート作成をするだけで		
		なく、自身の研究報告の発表を行う。その上で、各履修者に対して助		
		言・指導をする。また、履修者は、他者の発表に対してコメントをする		
		こと。		
オフィス	スアワー	授業の前後		
(オン)	ライン曜日・			
時間)				
7 77	〜のメッセー			
ジ*任意	意項目			
備考				
*任意項目				
授業用 URL				
*任意項目				
授業用	E-Mail			
*任意功	頁目			

講義名	教育構想演習(II)
単位数	2 単位
単位区分(必修・選択・自由)	必修
講義開講時期	1年後期
講義区分(講義・演習・実習)	演習
担当教員名	大和田 茂

	教育界における課題を発見し、背景や関わる要因をグローバル視点で俯瞰し定義する	
DP1	ことができる。	
	(課題発見・要因定義能力)	
DP2-1	教育界における課題に情報学の知識・スキルを活用し改善・解決することができる。	
DPZ-1	(改善・解決能力)	
DP2-2	教育界における課題に経営学の知識・スキルを活用し改善・解決することができる。	
DF 2-2	(改善・解決能力)	
DP3	科学的知見に基づき実践からデータを取得し仮説を立て検証することができる。	
DIS	(科学的な検証能力)	
	教育テックによる教育界に関する社会変革を目標に、自らの構想を立てることができ	
DP4	る。	
	(社会変革への構想能力)	

	, /tL	业大排和方面 / I \ → 国版 : 当从取得 :	- · · · · ·	- 1	
履修条	件	教育構想演習(I)を履修し単位取得し [*]	くいる	こと。	
		教育テック総論を踏まえ興味関心に近いる	テーマ	の指導教員を選択する。	
		(教育構想演習(I)と異なる教員も認め	められ	る)	
授業の概要		研究指導科目群では、教育情報・経営リー	ーダー	シップ研究科が最終的な	
		成果物とする「教育構想実践書」の完成は	こ向け	た一連の指導を行う。	
		【教育構想演習(Ⅱ)】では、教育構想》	寅習(I)で学んだアカデミッ	
		クスキルをさらに伸ばす目的で、各自の	関心に	基づく課題に対しての先	
	行研究レビューをまとめた「サーベイレポート(リサーチペーパー)			(リサーチペーパー) 」	
		を作成する。			
授業のテ	授業のテーマ 技術的な面から教育界の課題や社会課題を発見し、現状の研究を纏め		し、現状の研究を纏め客		
及び到達目標 観的な情報に基づくサーベイレポート(リサーチペーパー)を書く。			チペーパー)を書く。		
	○リサーチペーパーの書き方を理解できる				
授業計画 (授業は1回を90分とし、2月		分とし、2 限連続で実施する場合がある)	授業	外の学習 (60 時間)	
第1講 (第	1回) /	イントロダクション(講義)	事前	自己紹介シートの作成(書式 自由)	

			1	T
	乳幼児の育り て理解する。	成に関わる技術の現状や教育利用に関し	事後	抱負レポート提出(4h)
		問題意識の明確化(演習) 問題意識の明確化(演習)	事前	
第2講		成に関わる技術技術領域から興味関心の	事後	関心領域の調査と設定を行い、レポートにまとめる。参考文献付きで(8h)
第3講		た行研究レビュー1(演習) た行研究レビュー2(演習)	事前	
労り語	各履修者の る。	関心に対応したサーベイ文献を発見す	事後	発見したサーベイ論文を読め るとこまで読む (8h)
	(第 6 回) 習)	先行研究プレゼンテーション作成 1 (演	事前	
第4講	習)	先行研究プレゼンテーション発表 1 (演 を履修者間で共有する方法を学ぶ。	事後	サーベイ論文精読と、プレゼ ン作成を進める(8h)
	(第8回)習)	先行研究プレゼンテーション発表2(演	事前	
第5講	調査した内容	ナーベイレポート指導1(演習) 客を報告し履修者間で共有する。 論文形式で執筆できるようにする。	事後	サーベイ論文精読と、プレゼ ン作成・サーベイレポート作 成を進める (8h)
Mr. c =##	習)	先行研究プレゼンテーション発表3(演	事前	
第6講	調査した内容	先行研究レビュー3(演習) 学を報告し履修者間で共有する。 論文形式で執筆する。	事後	サーベイ論文精読と、プレゼ ン作成・サーベイレポート作 成を進める (8h)
	(第 12 回) 習)	先行研究プレゼンテーション発表 4 (演	事前	
第7講	各履修者の問	先行研究レビュー4(演習) 問題および関心に対応した1年間の調査結 イレポートに纏める。	事後	他の履修者の書類を読み、コメントペーパー作成(8h)
		まとめと次年度の抱負発表(演習) 先行研究レビュー4(演習)	事前	
第8講	2年次スター	間査結果の発表と来年度の計画を発表。 - トまでに読むサーベイ論文を見つける	事後	サーベイレポートの提出 (2h) プレゼンテーション資料の提 出(3h) 来年度の抱負レポートの提出 (3h)
定期試験	矣	サーベイレポート		
使用テキ	Fスト	別途指示する		

参考文献	別途指示する
受講生に対する評価	・普段のレポート(10%)
	・プレゼンテーション資料(30%)
	・最終課題としてのサーベイレポート(60%)
課題等に対する	・基本的には、授業の中で行う。
フィードバック	・本授業は、履修者の関心にあわせた指導が主となる。個別指導時はビ
	デオ会議システムのブレイクアウトルームなどを利用する。他者の指導
	の間に、与えられた課題に対する調査などを行う。
	そのため、履修者が積極的、自発的に自身の問題関心に応じて探究し
	ていくことが必要となる。毎回の授業ごとにレポート作成をするだけで
	なく、自身の研究報告の発表を行う。その上で、各履修者に対して助
	言・指導をする。また、履修者は、他者の発表に対してコメントをする
	こと。
オフィスアワー	授業の前後
(オンライン曜日・	
時間)	
受講生へのメッセー	
ジ*任意項目	
備考	
*任意項目	
授業用 URL	
*任意項目	
授業用 E-Mail	
*任意項目	

教育構想研究(I)

講義名	教育構想研究 (I)
単位数	2 単位
単位区分(必修・選択・自由)	必修
講義開講時期	2年前期
講義区分(講義・演習・実習)	演習
担当教員名	竹村治雄

	教育界における課題を発見し、背景や関わる要因をグローバル視点で俯瞰し定義する	
DP1	ことができる。	
	(課題発見・要因定義能力)	
DP2-1	教育界における課題に情報学の知識・スキルを活用し改善・解決することができる。	
D1 2-1	(改善・解決能力)	
DP2-2	教育界における課題に経営学の知識・スキルを活用し改善・解決することができる。	
D1 2-2	(改善・解決能力)	
DP3	科学的知見に基づき実践からデータを取得し仮説を立て検証することができる。	
DF3	(科学的な検証能力)	
	教育テックによる教育界に関する社会変革を目標に、自らの構想を立てることができ	
DP4	る。	
	(社会変革への構想能力)	

履修条件	教育構想演習(I)(II)を履修し単位	互取得していること。	
	学期前(3月)に希望する指導教員を選	選択する。1 年次で作成したリサ	
	ーチペーパーをもとに、学生の設定した	テーマと指導教員の専門性が合	
	致しているかを指導教員が確認し、場合	たよっては面談を行って決定す	
	る。		
授業の概要	研究指導科目群では、教育情報・経営リ	ーダーシップ研究科が最終的な	
	成果物とする「教育構想実践書」の完成	(に向けた一連の指導を行う。	
	【教育構想研究(Ⅰ)】では、履修者が	ぶ「教育構想実践書」を執筆する	
	にあたり、教育的課題や社会課題に対し	て、基本構想を基に具体的な改	
	善・解決計画の仮説をたて、データを取得し科学的な検証を行う。		
授業のテーマ	ICT の教育応用に関して、各自の問題意	意識を解決すべく研究計画を立て	
及び到達目標	及び到達目標る。		
	○問題解決に向けての仮説を設定し、私	4学的分析により検証できる	
授業計画 (授業は1回を90分とし、2限連続で実施する場合がある) 授業外の学習 (60時間)			

第1講 (第1回) イントロダクション (演習) 現在の問題および関心を各履修者間で共有し、研究 構想を確認する。また、リサーチペーパーから研究 進捗状況の共有や年間のスケジュールを確認する。 (第2回) 問題意識の明確化と研究テーマの設定 1 (演習) (第3回) 問題意識の明確化と研究テーマの設定 2 (演習) 各履修者の研究計画をレビューし、今後の研究の方向性について討議する。 (第4回) 先行研究レビュー1 (演習) (第5回) 先行研究レビュー2 (演習) 事前 前回レポートの執筆 (2h) 第3講 各履修者のテーマに応じて、論文または報告書(そ	*
## 構想を確認する。また、リサーチペーパーから研究 進捗状況の共有や年間のスケジュールを確認する。 (第 2 回) 問題意識の明確化と研究テーマの設定 1 (演習) (第 3 回) 問題意識の明確化と研究テーマの設定 2 (演習) 各履修者の研究計画をレビューし、今後の研究の方向性について討議する。 (第 4 回) 先行研究レビュー 1 (演習) (第 5 回) 先行研究レビュー 2 (演習) 事前 前回レポートの執筆 (2h)	* 2 -
(第 2 回) 問題意識の明確化と研究テーマの設定 1 (演習) (第 3 回) 問題意識の明確化と研究テーマの設定 2 (演習) 各履修者の研究計画をレビューし、今後の研究の方 向性について討議する。 (第 4 回) 先行研究レビュー 1 (演習) (第 5 回) 先行研究レビュー 2 (演習)	
(演習) 各履修者の研究計画をレビューし、今後の研究の方 事後 履修者同士の相互レビ (1h) リサーチワーク (5 (1h) リナーチワーク (5 (1h) リナーク (5 (1h) リナ	
(第 5 回) 先行研究レビュー 2 (演習) 事前 前回レポートの執筆 (2h)	
, , mmz. +	
れに相当する書籍の 1 章分相当)を読み、発表す る。 履修者同士の相互レビ (1h) リサーチワーク (5	
(第6回)研究計画書の骨子1(演習) (第7回)研究計画書の骨子2(演習) 第4講 第4講 第1	
各履修者の研究の骨子を発表し、研究の構造を具体 化するために討議する。 事後 履修者同士の相互レビ (1h) リサーチワーク (5	
(第8回) データ収集・分析計画 1 (演習) (第9回) データ収集・分析計画 2 (演習)	
研究データの収集計画、および科学的分析の計画を 立てる。 事後 データ収集(6h)	
(第 10 回)研究計画書の骨子 3 (演習) 第 6 講 (第 11 回)研究計画書の骨子 4 (演習) 事前 データ分析 (2h)	
調査結果を基に、研究の骨子を再構築する。 事後 履修者同士の相互レビ (1h) リサーチワーク(5)	
(第 12 回) データ収集・分析計画 3 (演習) (第 13 回) データ収集・分析計画 4 (演習) 第 7 講	
新たな研究計画に対して、研究データの収集計画、 および科学的分析の計画を立てる。 事後 データ収集 (6h)	
(第 14 回) 仮説の検討 1 (演習) (第 15 回) 仮説の検討 2 (演習) 事前 データ分析 (2h)	
第6語 主要な仮説を整理し、その妥当性について議論する。 事後 履修者同士の相互レビ(1h) リサーチワーク(5)	
定期試験 各自の発表(発表資料提出)及び、レポートとする。	
使用テキスト 必要な資料は LMS 上に用意する。	
参考文献 参考資料のリンクは LMS 上で提供する。	

本業生に対より部体	炎主山穴 (500/)
受講生に対する評価	・発表内容(50%)
	・レポート(25%)
	・討議 (25%)
課題等に対する	・基本的には、授業の中で行う。
フィードバック	・本授業は、履修者の関心にあわせた指導が主となる。個別指導時はビ
	デオ会議システムのブレイクアウトルームなどを利用する。他者の指導
	の間に、与えられた課題に対する調査などを行う。
	そのため、履修者が積極的、自発的に自身の問題関心に応じて探究し
	ていくことが必要となる。毎回の授業ごとにレポート作成をするだけで
	なく、自身の研究報告の発表を行う。その上で、各履修者に対して助
	言・指導をする。また、履修者は、他者の発表に対してコメントをする
	こと。
オフィスアワー	授業の前後
(オンライン曜日・	
時間)	
受講生へのメッセー	
ジ*任意項目	
備考	
*任意項目	
授業用 URL	
*任意項目	
授業用 E-Mail	
*任意項目	

講義名	教育構想研究 (I)
単位数	2 単位
単位区分(必修・選択・自由)	必修
講義開講時期	2年前期
講義区分(講義・演習・実習)	演習
担当教員名	秋田 次郎

	教育界における課題を発見し、背景や関わる要因をグローバル視点で俯瞰し定義する	
DP1	ことができる。	
	(課題発見・要因定義能力)	
DP2-1	教育界における課題に情報学の知識・スキルを活用し改善・解決することができる。	
D1 2-1	(改善・解決能力)	
DP2-2	教育界における課題に経営学の知識・スキルを活用し改善・解決することができる。	
D1 2 2	(改善・解決能力)	
DP3	科学的知見に基づき実践からデータを取得し仮説を立て検証することができる。	
DIS	(科学的な検証能力)	
	教育テックによる教育界に関する社会変革を目標に、自らの構想を立てることができ	
DP4	ప .	
	(社会変革への構想能力)	

履修条件	教育構想演習(I)(II)を履修し単位		
	学期前(3月)に希望する指導教員を選	選択する。1 年次で作成したリサ	
	ーチペーパーをもとに、学生の設定した	テーマと指導教員の専門性が合	
	致しているかを指導教員が確認し、場合	たよっては面談を行って決定す	
	る。		
授業の概要	研究指導科目群では、教育情報・経営リ	ーダーシップ研究科が最終的な	
	成果物とする「教育構想実践書」の完成	(に向けた一連の指導を行う。	
	【教育構想研究(I)】では、履修者か	ぶ「教育構想実践書」を執筆する	
	にあたり、教育的課題や社会課題に対して、基本構想を基に具体的な改		
	善・解決計画の仮説をたて、データを取	X得し科学的な検証を行う。	
授業のテーマ	近代経済学・計量経済学を背景とする教	な育テックの視点から、各自の問	
及び到達目標	及び到達目標 題意識を解決すべく研究計画を立てる。		
	○問題解決に向けての仮説を設定し、科	学的分析により検証できる	
授業計画 (授業は1回を90分とし、2限連続で実施する場合がある) 授業外の学習 (60時間)			

第1講	•	イントロダクション(演習) および関心を各履修者間で共有し、研究	事前	シラバス内容閲覧 リサーチペーパーをもとにした 前期研究計画の執筆(3h)
N) 1 H4		する。また、リサーチペーパーから研究 共有や年間のスケジュールを確認する。	事後	履修生同士の相互レビュー (1h)
∕∕× α =#	(演習)	問題意識の明確化と研究テーマの設定 1 問題意識の明確化と研究テーマの設定 2	事前	前回レポートの執筆(2h)
第2講	(演習) 各履修者の値 向性について	研究計画をレビューし、今後の研究の方 C討議する。	事後	履修者同士の相互レビュー (1h) リサーチワーク (5h)
第3講	(第5回)分	た行研究レビュー1(演習) た行研究レビュー2(演習) テーマに応じて、論文または報告書(そ	事前	前回レポートの執筆(2h)
	れに相当する。	る書籍の1章分相当)を読み、発表す	事後	履修者同士の相互レビュー (1h) リサーチワーク (5h)
第4講	(第7回)面	研究計画書の骨子 1 (演習) 研究計画書の骨子 2 (演習)	事前	前回レポートの執筆(2h)
	各履修者の他 化するために	研究の骨子を発表し、研究の構造を具体 こ討議する。	事後	履修者同士の相互レビュー (1h) リサーチワーク (5h)
第5講		データ収集・分析計画 1 (演習) データ収集・分析計画 2 (演習)	事前	前回レポートの執筆(2h)
初り時	研究データ <i>0</i> 立てる。	研究データの収集計画、および科学的分析の計画を 立てる。		データ収集(6h)
第6講	(第 10 回)研究計画書の骨子 3 (演習) (第 11 回)研究計画書の骨子 4 (演習)			データ分析(2h)
	調査結果を基	調査結果を基に、研究の骨子を再構築する。		履修者同士の相互レビュー (1h) リサーチワーク (5h)
第7 ≇		データ収集・分析計画 3 (演習) データ収集・分析計画 4 (演習)	事前	前回レポートの執筆 (2h)
第7講	新たな研究計画に対して、研究データの収集計画、 および科学的分析の計画を立てる。		事後	データ収集(6h)
	(第 14 回)仮説の検討 1 (演習) (第 15 回)仮説の検討 2 (演習)		事前	データ分析(2h)
第8講	主要な仮説 る。	を整理し、その妥当性について議論す	事後	履修者同士の相互レビュー (1h) リサーチワーク (5h)
定期試験	 矣	各自の発表(発表資料提出)及び、レオ	ポートで	とする。
使用テキ	ドスト	別途指示する		
参考文献	状	別途指示する		
L				

受講生に対する評価	・発表内容(50%)
文冊生に対する計画	
	・レポート (25%)
	・討議(25%)
課題等に対する	・基本的には、授業の中で行う。
フィードバック	・本授業は、履修者の関心にあわせた指導が主となる。個別指導時はビ
	デオ会議システムのブレイクアウトルームなどを利用する。他者の指導
	の間に、与えられた課題に対する調査などを行う。
	そのため、履修者が積極的、自発的に自身の問題関心に応じて探究し
	ていくことが必要となる。毎回の授業ごとにレポート作成をするだけで
	なく、自身の研究報告の発表を行う。その上で、各履修者に対して助
	言・指導をする。また、履修者は、他者の発表に対してコメントをする
	こと。
オフィスアワー	授業の前後
(オンライン曜日・	
時間)	
受講生へのメッセー	
ジ*任意項目	
備考	
*任意項目	
授業用 URL	
*任意項目	
授業用 E-Mail	
*任意項目	

講義名	教育構想研究 (I)
単位数	2 単位
単位区分(必修・選択・自由)	必修
講義開講時期	2年前期
講義区分(講義・演習・実習)	演習
担当教員名	河崎 雷太

	教育界における課題を発見し、背景や関わる要因をグローバル視点で俯瞰し定義する	
DP1	ことができる。	
	(課題発見・要因定義能力)	
DP2-1	教育界における課題に情報学の知識・スキルを活用し改善・解決することができる。	
D1 2-1	(改善・解決能力)	
DP2-2	教育界における課題に経営学の知識・スキルを活用し改善・解決することができる。	
D1 2 2	(改善・解決能力)	
DP3	科学的知見に基づき実践からデータを取得し仮説を立て検証することができる。	
DIS	(科学的な検証能力)	
	教育テックによる教育界に関する社会変革を目標に、自らの構想を立てることができ	
DP4	る。	
	(社会変革への構想能力)	

履	修	条	件	教育構想演習 (I) (II) を履修し単位取得していること。
				学期前(3月)に希望する指導教員を選択する。1年次で作成したリサ
				ーチペーパーをもとに、学生の設定したテーマと指導教員の専門性が合
				致しているかを指導教員が確認し、場合によっては面談を行って決定す
				る。
授業	の概要	į		研究指導科目群では、教育情報・経営リーダーシップ研究科が最終的な
				成果物とする「教育構想実践書」の完成に向けた一連の指導を行う。
				【教育構想研究(I)】では、履修者が「教育構想実践書」を執筆する
				にあたり、教育的課題や社会課題に対して、基本構想を基に具体的な改
				善・解決計画の仮説をたて、データを取得し科学的な検証を行う。
授美	美 の	テー	マ	本講座では、ゲームライクな教育を構想する。その手法としてコンピ
及び	到達目	標		ュータグラフィックスや VR などの活用を学ぶ。例えば、近年、楽器の
				演奏スキルを向上させるゲームライクな教育アプリがある。そのような
				考え方を様々な教育への適用を研究する。
				飽きてしまいがちなスキル教育には、学びたい気持ちを起こさせる行
				動変容が必要である。ゲームはやりたい気持ちを作る仕組みの宝庫であ
				り、行動変容を起こさせる「寄り添い(コーチ)」とタイミングよい

「インセンティブ」を実装していると考える。

今後、ウェアラブルデバイスでの24時間コーチングや、VRによる疑似体験で行動変容した後(あるいは変容しなかった)の将来をリアルに体験するなど、ゲーム的な要素をより深く与えることができるようになる。そのような未来に向けての新しい教育をベースに、各自の問題意識を解決すべく研究計画を立てる。

○問題解決に向けての仮説を設定し、科学的分析により検証できる

授業計画	〕(授業は1回を 90 分とし、2 限連続で実施する場合がある)	授業外の学習 (60 時間)		
第1講	(第1回)イントロダクション(演習)		シラバス内容閲覧	
	現在の問題および関心を各履修者間で共有し、研究	事前	リサーチペーパーをもとにした 前期研究計画の執筆(3h)	
	構想を確認する。また、リサーチペーパーから研究		履修生同士の相互レビュー	
	進捗状況の共有や年間のスケジュールを確認する。	事後	(1h)	
	(第 2 回)問題意識の明確化と研究テーマの設定 1			
	(演習)	事前	前回レポートの執筆(2h)	
答○	(第 3 回)問題意識の明確化と研究テーマの設定 2			
第2講	(演習)			
	各履修者の研究計画をレビューし、今後の研究の方	事後	履修者同士の相互レビュー (1h) リサーチワーク (5h)	
	向性について討議する。			
	(第4回)先行研究レビュー1(演習)			
	(第5回)先行研究レビュー2(演習)	事前	前回レポートの執筆(2h)	
第3講	各履修者のテーマに応じて、論文または報告書(そ			
	れに相当する書籍の 1 章分相当)を読み、発表す	事後	履修者同士の相互レビュー	
	る。	爭反	(1h) リサーチワーク (5h)	
	(第6回) 研究計画書の骨子1 (演習)			
第4講	(第7回) 研究計画書の骨子2 (演習)	事前	前回レポートの執筆(2h)	
分 4 神	各履修者の研究の骨子を発表し、研究の構造を具体		履修者同士の相互レビュー	
	化するために討議する。	事後	(1h) リサーチワーク (5h)	
	(第8回) データ収集・分析計画1 (演習)	事前	前回レポートの執筆 (2h)	
第5講	(第9回) データ収集・分析計画2(演習)	3-133	13111 4 1 3 1/1	
かり時	研究データの収集計画、および科学的分析の計画を	事後	 データ収集(6h)	
	立てる。	1.12	, , , , , , (dil)	
	(第 10 回)研究計画書の骨子3(演習)	事前	データ分析 (2h)	
第6講	(第 11 回)研究計画書の骨子 4 (演習)	尹則) 一 タ 分 物 (Zh)	
	調査結果を基に、研究の骨子を再構築する。	事後	履修者同士の相互レビュー	
	(英 10 回) ゼーカ 旧住 - ハゼコ エ・ロー (25 可)		(1h) リサーチワーク (5h)	
第7講	(第12回) データ収集・分析計画3(演習) (第12回) データ収集・分析計画3(演習)	事前	前回レポートの執筆 (2h)	
	(第 13 回)データ収集・分析計画 4 (演習)		データ収集(6h)	
		事後	ノーグ収条(011)	

	がよって エ クラ	十画に対して、研究データの収集計画、			
		り分析の計画を立てる。 /トラデス トムテネサ 1 / シテテアタ)			
		仮説の検討1(演習)	事前	データ分析(2h)	
第8講		仮説の検討2(演習)			
		を整理し、その妥当性について議論す	事後	履修者同士の相互レビュー (1h) リサーチワーク (5h)	
#4####################################	る。 ^		0 7	` '	
定期試験	更 	各自の発表(発表資料提出)及び、レホ	ニート	とする。	
使用テキ	Fスト	別途指示する			
参考文献	犬	別途指示する			
受講生に	二対する評価	・発表内容(50%)			
		・レポート (25%)			
		・討議 (25%)			
課題等に	こ対する	・基本的には、授業の中で行う。			
フィート	ヾ バック	・本授業は、履修者の関心にあわせた指導が主となる。個別指導時はビ			
		デオ会議システムのブレイクアウトルームなどを利用する。他者の指導			
		の間に、与えられた課題に対する調査などを行う。			
		そのため、履修者が積極的、自発的に自身の問題関心に応じて探究し			
		ていくことが必要となる。毎回の授業ごとにレポート作成をするだけで			
		なく、自身の研究報告の発表を行う。その上で、各履修者に対して助			
		言・指導をする。また、履修者は、他者の発表に対してコメントをする			
		こと。			
オフィス	スアワー	授業の前後			
(オンラ	ライン曜日・				
時間)					
受講生~	、 のメッセー				
ジ*任意項目					
備考					
*任意項目					
授業用 URL					
*任意項目					
授業用 E-Mail					
*任意項目					

講義名	教育構想研究(I)
単位数	2 単位
単位区分(必修・選択・自由)	必修
講義開講時期	2年前期
講義区分(講義・演習・実習)	演習
担当教員名	木岡一明

	教育界における課題を発見し、背景や関わる要因をグローバル視点で俯瞰し定義する	
DP1	ことができる。	•
	(課題発見・要因定義能力)	
DP2-1	教育界における課題に情報学の知識・スキルを活用し改善・解決することができる。	
D1 2-1	(改善・解決能力)	
DP2-2	教育界における課題に経営学の知識・スキルを活用し改善・解決することができる。	
D1 2-2	(改善・解決能力)	
DP3	科学的知見に基づき実践からデータを取得し仮説を立て検証することができる。	
DF3	(科学的な検証能力)	
	教育テックによる教育界に関する社会変革を目標に、自らの構想を立てることができ	
DP4	ప .	•
	(社会変革への構想能力)	

	, A C U、2 内之机(大胆)で有日がので)	事前	シラバスを熟読し内容を理解する		
授業計画 (授業は 1 回を 90	 分とし、2限連続で実施する場合がある)	授業			
	│○問題解決に向けての仮説を設定し、	科学的]分析により検訨できる		
及び到達目標	る。				
授業のテーマ	学校組織開発の視点から、各自の問題意識を解決すべく研究計画を立て				
	善・解決計画の仮説をたて、データを取得し科学的な検証を行う。				
	にあたり、教育的課題や社会課題に対して、基本構想を基に具体的な改				
	【教育構想研究(Ⅰ)】では、履修者が「教育構想実践書」を執筆する				
	な成果物とする「教育構想実践書」の 	元风に	.问りた一連の指导を行う。		
収未の帆女			,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,		
	る。 研究指導科目群では、教育情報・経	台 11 二	ガーシップ研究利が具效的		
	致しているかを指導教員が確認し、場合によっては面談を行って決定す -				
		ーチペーパーをもとに、学生の設定したテーマと指導教員の専門性が合			
	学期前(3月)に希望する指導教員を選択する。1年次で作成したリサ				
及巴木口					
	教育構想演習(I)(II)を履修し単	位 取得	していること		

	(笠1回) 益田 (ハトロ がカン・ハ (空辺)		(1 h)
第1講	(第1回) 前期イントロダクション (演習) 講美脚悪な珊瑚! み然の常悠な見るよった		すでに作成してある研究計画書を
	講義概要を理解し、今後の学修を見通す。ま		精査する (1h)
	た、これまでに作成・精査した研究計画書を発表		
	し、全体で適切性を討議する。また、教育ビジョ	事後	討議をもとに、必要に応じて研究
	ン、コア・バリューの探索のための留意点を理解		計画書を修正する(2h)
	する。 (*** 0 日) *******************************		教育ビジョンとコア・バリューの
	(第2回)教育ビジョンの探索(演習)		探索のため、フィールド調査を行
	フィールド調査に基づいて描いた教育ビジョン	事前	い発表のための資料を作成する
	を発表し、全体で適切性を討議する。		(6 h)
第2講	(第3回) コア・バリューの探索(演習)		
	フィールド調査に基づいて引き出したコア・バ		討議をもとに、必要に応じて教育
	リューを発表し、全体で適切性を討議する。	事後	ビジョン、コア・バリューを修正 する(2 h)
	また、ミッション探索と KPI 設定のための留意		9 S (2 H)
	点を理解する。		
	(第4回)ミッションの探索(演習)		ミッションを定め収集可能な KPI を設定するためのフィールド調査
	フィールド調査に基づいて探索したミッション	事前	を行い、発表のための資料を作成
	を発表し、全体で適切性を討議する。		する (6 h)
第3講	(第5回)KPI の設定(演習)		
>14 0 HI1	ミッション完遂を証明する KPI を発表し、全体		討議をもとに、必要に応じてミッ
	で適切性を討議する。	事後	ション、KPIを修正する(2
	また、戦略ドメイン、中期目標の設定のための		h)
	留意点を理解する。		
	(第6回) 戦略ドメインの設定 (演習)	市公	戦略ドメインと中期目標設定のた
	フィールド調査に基づいて設定した戦略ドメイ	事前	めのフィールド調査を行い、発表 のための資料を作成する(6 h)
	ンを発表し、全体で適切性を討議する。		2111 = 11,711 = 1
第4講	(第7回)中期目標の設定(演習)		
为五册	フィールド調査に基づいて設定した中期目標を	±.,,	討議をもとに、必要に応じて戦略
	発表し、全体で適切性を討議する。	事後	ドメイン、中期目標を修正する (2h)
	研究テーマ、研究仮説の設定のための留意点を		(211)
	理解する。		
	(第8回) 研究テーマの吟味 (演習)	事前	研究テーマと研究仮説についての
第 5 講	フィールド調査をもとに、中期目標達成のため		発表準備を行う(6h)
	に、何をテーマとして何に取り組むのか、それに		
	よっていかなる成果を導くと考えているかを発表		
	し、全体で適切性を討議する。		討議をもとに、必要に応じて研究
	(第9回) 研究仮説の吟味(演習)	事後	
	研究テーマに応じた主要な仮説を整理し、その		
	妥当性について議論する		
	また、行動計画と評価指標を作成するための留		

	意点を理解す	- a.			
	(第 10 回)	行動計画の作成(演習)		戦略ドメインごとの行動計画と評	
	これまでの	D学修と研究仮説をもとに、戦略ドメ	事前	価指標を作成し、発表資料を準備 する(6h)	
	インごとの行	行動計画を発表し、全体で適切性を討		9 \$ (011)	
第6講	議する。				
 	(第11回)	評価指標の設定(演習)	事後	討議をもとに、必要に応じて行動	
	これまでの	ŧでのフィールド調査を元に、得られたデ │ [▫]		計画、評価指標を修正する(2 h)	
	ータを整理	・分析し、行動計画の成果を捉えるた			
	めの評価指標	票を設定する。			
	(第12回)	研究方法の吟味(演習)	事前	自己が採用する、実行可能な研究 方法についての発表資料を準備す	
		D学修をもとに研究方法を確定させ、	争削	る(6h)	
第7講		、全体で適切性を討議する。			
		データ収集・分析計画1(演習)	事後	討議をもとに、必要に応じて研究	
		タの収集計画、および科学的分析の計	1112	方法を修正する(2 h)	
	画を立てる。	77 本当玉井の見フ(安切)		これまでの検討をもとに、「研究	
		研究計画書の骨子(演習)	事前	計画書」案を見直し、被験者に対	
	調査和未 [*] を再構築する	調査結果やこれまでの検討を基に、研究の骨子		して説得力のあるプレゼンテーシ	
第8講	(第15回) データ収集・分析計画 2 (演習)			ョンを準備する(6 h)	
	新たな研究計画に対して、研究データの収集計		事後	討議をもとに、データ収集・データ分析を含めた「研究計画書」案を修正する(2h)	
	画、および科学的分析の計画を立てる。				
定期試験	 免	各自の発表(発表資料提出)及び、レポートとする。		・とする。	
使用テキ		 各自の研究計画に応じ、別途指示する。			
		HH - MIZONI EN - 100 C / MIZONIA - 20			
参考文献		各自の研究計画に応じ、別途指示する。			
377 Am	, ,	日日の明元田圏に帰じ、別返旧がする	0		
≖##.)	かみっ刻圧	※主中京 (500/)			
文碑生の	こ対する評価	・発表内容(50%)			
		・レポート (25%)			
課題等に対する		・討議 (25%) ・基本的には、授業の中で行う。			
		・本授業は、履修者の関心にあわせた	指道ヵ	『主となる。個別指道時はビ	
		デオ会議システムのブレイクアウトル			
		の間に、与えられた課題に対する調査	_	= 11,111 = 0 10 11 11 11	
		そのため、履修者が積極的、自発的に	自身の)問題関心に応じて探究して	
		いくことが必要となる。毎回の授業ごとにレポート作成をするだけでな			
		く、自身の研究報告の発表を行う。その上で、各履修者に対して助言・			
		指導をする。また、履修者は、他者の	の発表	に対してコメントをするこ	

	と。
オフィスアワー	原則として毎週水曜日・18:00~20:00
(オンライン曜日・	希望する人は事前予約してください。
時間)	
受講生へのメッセー	フィールド調査を行うには、被験者に対して調査目的、匿名性の担保、
ジ*任意項目	調査結果の使用法など研究倫理に沿った説明が必須です。必ず事前に了
	解を得ること。また、フィールド調査は、限られた時間、場所など制約
	が大きいので、事前に綿密に調査計画を作成すること。
備考	
*任意項目	
授業用 URL	
*任意項目	
授業用 E-Mail	
*任意項目	

講義名	教育構想研究(I)
単位数	2 単位
単位区分(必修・選択・自由)	必修
講義開講時期	2年前期
講義区分(講義・演習・実習)	演習
担当教員名	柴山 慎一

	教育界における課題を発見し、背景や関わる要因をグローバル視点で俯瞰し定義する	
DP1	ことができる。	
	(課題発見・要因定義能力)	
DP2-1	教育界における課題に情報学の知識・スキルを活用し改善・解決することができる。	
D1 2-1	(改善・解決能力)	
DP2-2	教育界における課題に経営学の知識・スキルを活用し改善・解決することができる。	
D1 2-2	(改善・解決能力)	
DP3	科学的知見に基づき実践からデータを取得し仮説を立て検証することができる。	
DP3	(科学的な検証能力)	
	教育テックによる教育界に関する社会変革を目標に、自らの構想を立てることができ	
DP4	る。	
	(社会変革への構想能力)	

履修条件	教育構想演習 (I) (II) を履修し単位取得していること。
	学期前(3月)に希望する指導教員を選択する。1年次で作成したリサ
	ーチペーパーをもとに、学生の設定したテーマと指導教員の専門性が合
	致しているかを指導教員が確認し、場合によっては面談を行って決定す
	る。
授業の概要	研究指導科目群では、教育情報・経営リーダーシップ研究科が最終的な
	成果物とする「教育構想実践書」の完成に向けた一連の指導を行う。
	【教育構想研究(I)】では、履修者が「教育構想実践書」を執筆する
	にあたり、教育的課題や社会課題に対して、基本構想を基に具体的な改
	善・解決計画の仮説をたて、データを取得し科学的な検証を行う。
授業のテーマ	教育機関経営について、そのベースになる組織論を通じて組織のあり
及び到達目標	方やマネジメントの理論を学び、マーケティングや広報・ブランディン
	グの理論を通じて、教育機関の成長に向けた戦略・施策の考え方をベー
	スに、各自の問題意識を解決すべく研究計画を立てる。
	○問題解決に向けての仮説を設定し、科学的分析により検証できる

授業計画	道(授業は1回を 90 分とし、2 限連続で実施する場合がある)	授業	授業外の学習 (60 時間)		
	(第1回)オリエンテーション(演習)	事前	各自の教育構想実践書につなが		
第1講	研究の全体像とゴールイメージ、受講生の問題意	2.112	るような問題意識を整理(3h)		
N1 1 111-2	識、進め方などの共有、リサーチペーパーから研究	事後	他のゼミ生の問題意識との差異		
	進捗状況の共有や年間のスケジュールを確認する。	3.12	を振り返り(1h)		
	(第2回) 専門書読破とゼミ内共有① (演習)		自身の関心テーマの参考になる		
	(第3回) 専門書読破とゼミ内共有② (演習)	事前	ようなバイブル専門書を選定し		
第2講	各自の関心テーマ、研究テーマの中核に位置付けら		概要発表のために資料化(7h)		
	れるバイブルになるような一人各一冊の専門書の内	事後	自身の発表に対するコメント等 の振り返りと他のゼミ生の発表		
	容報告と議論	予 及	を受けての振り返り (1h)		
	(第4回)専門書読破とゼミ内共有③(演習)		自身の関心テーマの参考になる		
	(第5回) 専門書読破とゼミ内共有④ (演習)	事前	ようなバイブル専門書を選定し		
第3講	各自の関心テーマ、研究テーマの中核に位置付けら		概要発表のために資料化(7h)		
	れるバイブルになるような一人各一冊の専門書の内	事後	自身の発表に対するコメント等 の振り返りと他のゼミ生の発表		
	容報告と議論	予及	を受けての振り返り (1h)		
	(第6回)教育構想実践書の素案発表① (演習)		自身の教育構想実践書の素案作		
	(第7回)教育構想実践書の素案発表② (演習)	事前	成と発表準備 (7h)		
第4講	教育機関、教育事業における新たな構想を提言する		自身の発表に対するコメント等		
	ための素案について発表し議論する。この課題を通	事後	の振り返りと他のゼミ生の発表		
	じて、データ収集、分析について計画を立てる。		を受けての振り返り (1h)		
	(第8回)教育構想実践書の素案発表③ (演習)	事前	自身の教育構想実践書の素案作		
	(第9回) 教育構想実践書の素案発表④ (演習)	, ,,,,	成と発表準備 (7h)		
第5講	教育機関、教育事業における新たな構想を提言する		自身の発表に対するコメント等		
	ための素案について発表し議論する。この課題を通	事後	の振り返りと他のゼミ生の発表		
	じて、データ収集、分析について計画を立てる。		を受けての振り返り (1h)		
	(第 10 回)教育構想実践書の改善案発表① (演	事前	自身の教育構想実践書の改善案		
	習)	4.00	作成と発表準備 (7h)		
第6講	(第 11 回)教育構想実践書の改善案発表② (演				
N4 0 III1	習)	事後	自身の発表に対するコメント等の振り返りと他のゼミ生の発表		
	素案に対する改善案を反映したものを発表し議論す	3.12	を受けての振り返り (1h)		
	る。				
	(第 12 回)教育構想実践書の改善案発表③ (演	事前	自身の教育構想実践書の改善案		
	習)		作成と発表準備 (7h)		
第7講	(第 13 回)教育構想実践書の改善案発表④ (演		白白の数末に対すフーリンに気		
	習)	事後	自身の発表に対するコメント等 の振り返りと他のゼミ生の発表		
	素案に対する改善案を反映したものを発表し議論す		を受けての振り返り (1h)		
	る。				
第8講	(第 14 回)中間報告 1 (演習)	事前	自身の教育構想実践書の中間報		
おり時			告案の作成と発表準備(7h)		

	1				
	(第 15 回)	中間報告2(演習)		自身の発表に対するコメント等	
	各自の中間幸	服告用に取り纏めた教育構想実践書を発	事後	の振り返りと他のゼミ生の発表	
表し議論する		ó.		を受けての振り返り (1h)	
定期試験	 倹	試験ではなく、前後期を通じて教育構想	実践	- 書の提出を求める。	
使用テキ	キスト	教科書は指定しないが、必要に応じて参	考書に	は推奨する。	
参考文献	狀	柴山慎一(2011)『コーポレートコミュニケーション経営』東洋経済			
		新報社			
		清水正道、柴山慎一ほか(2019)『イン	ノター・	ナル・コミュニケーショ	
		ン経営』経団連出版			
		ほか研究テーマに応じて			
受講生は	こ対する評価	授業の進め方は、ゼミ生各自の発表とも	ぎミ生生	全員参加のディスカッショ	
		ンを中心とする。ゼミ活動中の参加姿勢	や他を	者への貢献、ディスカッシ	
		ョンへの関与などの平常点と最終報告さ	れる葬	教育構想実践書をもとに評	
		 価する。平常点 70%、教育構想実践書:	30%		
課題等は	<u></u> こ対する	フィードバックは受講生毎に都度、授業の中で行うが、必要に応じて個			
フィー	ドバック	別に行う。			
		 本授業は、履修者の関心にあわせた指導が主となる。個別指導時はビデ			
		オ会議システムのブレイクアウトルームなどを利用する。他者の指導の			
		間に、与えられた課題に対する調査などを行う。 そのため、履修者が			
		積極的、自発的に自身の問題関心に応じて探究していくことが必要とな			
		る。毎回の授業ごとにレポート作成をするだけでなく、自身の研究報告			
		の発表を行う。その上で、各履修者に対して助言・指導をする。ま			
		た、履修者は、他者の発表に対してコメントをすること。			
オフィス	スアワー	社会人院生が中心になることから受講生の余裕のある時間帯を確保す			
(オンラ	ライン曜日・	る。主に平日夜間と土曜日など(要予約)。			
時間)					
受講生~	へのメッセー	教育構想実践書は個人制作するものです	⁻ が、-	ゼミでの発表の準備や、ゼ	
ジ*任意	意項目	ミ内での議論などのゼミ活動そのものは、ゼミ生一体となった団体戦に			
		なります。お互いに切磋琢磨し合いな	がら、	貢献し合う姿勢を求めま	
		す。			
備考	備考				
*任意功	*任意項目				
授業用 URL					
*任意功	頁目				
授業用〕	E-Mail				
*任意項目					

講義名	教育構想研究 (I)
単位数	2 単位
単位区分(必修・選択・自由)	必修
講義開講時期	2年前期
講義区分(講義・演習・実習)	演習
担当教員名	藤本典裕

	教育界における課題を発見し、背景や関わる要因をグローバル視点で俯瞰し定義する	
DP1	ことができる。	
	(課題発見・要因定義能力)	
DP2-1	教育界における課題に情報学の知識・スキルを活用し改善・解決することができる。	
D1 2-1	(改善・解決能力)	
DP2-2	教育界における課題に経営学の知識・スキルを活用し改善・解決することができる。	
D1 2-2	(改善・解決能力)	
DP3	科学的知見に基づき実践からデータを取得し仮説を立て検証することができる。	
DF3	(科学的な検証能力)	
	教育テックによる教育界に関する社会変革を目標に、自らの構想を立てることができ	
DP4	る。	
	(社会変革への構想能力)	

履	修	条	件	教育構想演習 (I) (II) を履修し単位取得していること。
				学期前(3月)に希望する指導教員を選択する。1年次で作成したリサ
				ーチペーパーをもとに、学生の設定したテーマと指導教員の専門性が合
				致しているかを指導教員が確認し、場合によっては面談を行って決定す
				る。
授業	の概要	į		研究指導科目群では、教育情報・経営リーダーシップ研究科が最終的な
				成果物とする「教育構想実践書」の完成に向けた一連の指導を行う。
				【教育構想研究(I)】では、履修者が「教育構想実践書」を執筆する
				にあたり、教育的課題や社会課題に対して、基本構想を基に具体的な改
				善・解決計画の仮説をたて、データを取得し科学的な検証を行う。
授美	巣の	テー	・マ	現代の学校教育制度をめぐる諸課題について、特に学校教職員の役割と
及び	到達目	標		その変化などに着目しながら検討する。「チームとしての学校」が求め
				られる背景と現状など、児童・生徒の学びを保障するための条件を念頭
				に置いて考察する。これらを踏まえ、受講者各自の問題意識を解決すべ
				く研究計画を立てる。
				○問題解決に向けての仮説を設定し、科学的分析により検証できる

授業計画		分とし、2 限連続で実施する場合がある)	授業	授業外の学習 (60 時間)	
(第1回)		イントロダクション(演習)	事兴	シラバス内容閲覧 リサーチペーパーをもとにした	
第1講	現在の問題は	および関心を各履修者間で共有し、研究	事前	前期研究計画の執筆(3h)	
		する。また、リサーチペーパーから研究	事後	履修生同士の相互レビュー	
		共有や年間のスケジュールを確認する。	3.16	(1h)	
		問題意識の明確化と研究テーマの設定 1	事前	 前回レポートの執筆(2h)	
	(演習)	明昭辛謹の田佐ルト四ケニ →の乳ウ?	尹則	同回レホートの料率 (Zn)	
第2講	(第 3 凹 <i>)</i> (演習)	問題意識の明確化と研究テーマの設定 2			
	(,	研究計画をレビューし、今後の研究の方	事後	履修者同士の相互レビュー	
	 			(1h) リサーチワーク (5h)	
		た行研究レビュー1(演習)			
		た行研究レビュー2(演習)	事前	前回レポートの執筆(2h)	
第3講	各履修者のう	テーマに応じて、論文または報告書(そ			
	れに相当する	る書籍の1章分相当)を読み、発表す	事後	履修者同士の相互レビュー	
	る。		予区	(1h) リサーチワーク (5h)	
	(第6回)研	研究計画書の骨子1(演習)	事前	*ロ、1 0 1 の 4 第(01)	
第4講	(第7回)研究計画書の骨子2(演習) 各履修者の研究の骨子を発表し、研究の構造を具体 化するために討議する。			前回レポートの執筆 (2h)	
) i = m·3				履修者同士の相互レビュー	
				(1h) リサーチワーク (5h)	
		データ収集・分析計画 1 (演習)	事前	前回レポートの執筆 (2h)	
第5講		データ収集・分析計画 2 (演習) D 収集計画、および科学的分析の計画を	事後		
	立てる。	の状態に関いるより行う自分がらい固と		データ収集 (6h)	
	(第 10 回) 研究計画書の骨子 3 (演習)				
第6講	(第11回)	研究計画書の骨子4 (演習)	事前	データ分析 (2h)	
分り冊	調査結果を基	基に、研究の骨子を再構築する。	事後	履修者同士の相互レビュー	
	(http://www.		尹(友	(1h) リサーチワーク (5h)	
		データ収集・分析計画3(演習)	事前	前回レポートの執筆(2h)	
第7講		データ収集・分析計画 4 (演習) 計画に対して、研究データの収集計画、			
	p,., =	T画に対して、研究テータの収集計画、 り分析の計画を立てる。	事後	データ収集 (6h)	
第8講	(第15回) 仮説の検討2 (演習)			データ分析 (2h)	
	主要な仮説を整理し、その妥当性について議論す			履修者同士の相互レビュー	
る。			事後	(1h) リサーチワーク (5h)	
定期試験	 検	各自の発表(発表資料提出)及び、レオ	ポート。	とする。	
使用テキ	トスト	別途指示する			
参考文献		別途指示する			

受講生に対する評価	・発表内容(50%)
文冊生に対する計画	
	・レポート (25%)
	・討議(25%)
課題等に対する	・基本的には、授業の中で行う。
フィードバック	・本授業は、履修者の関心にあわせた指導が主となる。個別指導時はビ
	デオ会議システムのブレイクアウトルームなどを利用する。他者の指導
	の間に、与えられた課題に対する調査などを行う。
	そのため、履修者が積極的、自発的に自身の問題関心に応じて探究し
	ていくことが必要となる。毎回の授業ごとにレポート作成をするだけで
	なく、自身の研究報告の発表を行う。その上で、各履修者に対して助
	言・指導をする。また、履修者は、他者の発表に対してコメントをする
	こと。
オフィスアワー	授業の前後
(オンライン曜日・	
時間)	
受講生へのメッセー	
ジ*任意項目	
備考	
*任意項目	
授業用 URL	
*任意項目	
授業用 E-Mail	
*任意項目	

講義名	教育構想研究 (I)
単位数	2 単位
単位区分(必修・選択・自由)	必修
講義開講時期	2年前期
講義区分(講義・演習・実習)	演習
担当教員名	山田 恒夫

	教育界における課題を発見し、背景や関わる要因をグローバル視点で俯瞰し定義する	
DP1	ことができる。	
	(課題発見・要因定義能力)	
DP2-1	教育界における課題に情報学の知識・スキルを活用し改善・解決することができる。	
D1 2-1	(改善・解決能力)	
DP2-2	教育界における課題に経営学の知識・スキルを活用し改善・解決することができる。	
D1 2 2	(改善・解決能力)	
DP3	科学的知見に基づき実践からデータを取得し仮説を立て検証することができる。	
DF3	(科学的な検証能力)	
	教育テックによる教育界に関する社会変革を目標に、自らの構想を立てることができ	
DP4	る。	
	(社会変革への構想能力)	

履修	条	件	教育構想演習(I)(II)を履修し単位	取得し	していること。
			学期前(3 月)に希望する指導教員を選	選択する	る。1 年次で作成したリサ
			ーチペーパーをもとに、学生の設定した	テーマ	マと指導教員の専門性が合
			致しているかを指導教員が確認し、場合	によっ	っては面談を行って決定す
			る。		
授業の概	要		研究指導科目群では、教育情報・経営リ	ーダー	ーシップ研究科が最終的な
			成果物とする「教育構想実践書」の完成	えに向り	ナた一連の指導を行う。
			【教育構想研究(I)】では、履修者か	5 「教育	育構想実践書」を執筆する
			にあたり、教育的課題や社会課題に対し	て、基	基本構想を基に具体的な改
			善・解決計画の仮説をたて、データを取	収得し 利	科学的な検証を行う。
授業のテーマ		- マ	各教員の専門から各自の問題意識を解決	マすべく	く研究計画を立てる。
及び到達	及び到達目標				
			○問題解決に向けての仮説を設定し、科	学的名	分析により検証できる
授業計画	1 (授業は1	1回を90	分とし、2限連続で実施する場合がある)	授業	外の学習 (60 時間)
fate:	(第1	回) /	イントロダクション(演習)		シラバス内容閲覧
第1講	現在の問題は		および関心を各履修者間で共有し、研究	事前	リサーチペーパーをもとにした 前期研究計画の執筆(3h)
					門別明九日門の刊手(311)

		する。また、リサーチペーパーから研究 共有や年間のスケジュールを確認する。	事後	履修生同士の相互レビュー (1h)
第2講	(第2回)	問題意識の明確化と研究テーマの設定 1 問題意識の明確化と研究テーマの設定 2	事前	前回レポートの執筆(2h)
	(演習)	肝究計画をレビューし、今後の研究の方	事後	履修者同士の相互レビュー (1h) リサーチワーク (5h)
第3講	(第5回) 分	た行研究レビュー1(演習) た行研究レビュー2(演習) テーマに応じて、論文または報告書(そ	事前	前回レポートの執筆(2h)
21. 2 HI		る書籍の1章分相当)を読み、発表す	事後	履修者同士の相互レビュー (1h) リサーチワーク (5h)
第4講	(第7回) 面	研究計画書の骨子1(演習) 研究計画書の骨子2(演習)	事前	前回レポートの執筆(2h)
∑ 4	各履修者の研 化するために	研究の骨子を発表し、研究の構造を具体 こ討議する。	事後	履修者同士の相互レビュー (1h) リサーチワーク (5h)
第5講		データ収集・分析計画 1 (演習) データ収集・分析計画 2 (演習)	事前	前回レポートの執筆(2h)
労り神	研究データの 立てる。	D収集計画、および科学的分析の計画を	事後	データ収集(6h)
第6講		研究計画書の骨子3(演習) 研究計画書の骨子4(演習)	事前	データ分析(2h)
	調査結果を基	基に、研究計画書の骨子を再構築する。	事後	履修者同士の相互レビュー (1h) リサーチワーク (5h)
第7講		データ収集・分析計画 3 (演習) データ収集・分析計画 4 (演習)	事前	前回レポートの執筆(2h)
77 7 	新たな研究計画に対して、研究データの収集計画、 および科学的分析の計画を立てる。			データ収集(6h)
⁄ ○ □ = #		仮説の検討1(演習) 仮説の検討2(演習)	事前	データ分析(2h)
第8講	主要な仮説を整理し、その妥当性について議論する。			履修者同士の相互レビュー (1h) リサーチワーク (5h)
定期試験		期末の定期試験は実施しない。		
使用テキスト		別途指示する		
参考文献		別途指示する		
受講生に対する評価		・発表内容(50%)・レポート(25%)・討議(25%)		

	から総合的に評価する。
課題等に対する	・基本的には、授業の中で行う。
フィードバック	・本授業は、履修者の関心にあわせた指導が主となる。個別指導時はビ
	デオ会議システムのブレイクアウトルームなどを利用する。他者の指導
	の間に、与えられた課題に対する調査などを行う。
	そのため、履修者が積極的、自発的に自身の問題関心に応じて探究し
	ていくことが必要となる。毎回の授業ごとにレポート作成をするだけで
	なく、自身の研究報告の発表を行う。その上で、各履修者に対して助
	言・指導をする。また、履修者は、他者の発表に対してコメントをする
	こと。
オフィスアワー	授業の前後
(オンライン曜日・	
時間)	
受講生へのメッセー	
ジ*任意項目	
備考	
*任意項目	
授業用 URL	
*任意項目	
授業用 E-Mail	
*任意項目	

講義名	教育構想研究(I)
単位数	2 単位
単位区分(必修・選択・自由)	必修
講義開講時期	2年前期
講義区分(講義・演習・実習)	演習
担当教員名	山本 淳子

	教育界における課題を発見し、背景や関わる要因をグローバル視点で俯瞰し定義する	
DP1	ことができる。	
	(課題発見・要因定義能力)	
DP2-1	教育界における課題に情報学の知識・スキルを活用し改善・解決することができる。	
D1 2-1	(改善・解決能力)	
DP2-2	教育界における課題に経営学の知識・スキルを活用し改善・解決することができる。	
D1 2-2	(改善・解決能力)	
DP3	科学的知見に基づき実践からデータを取得し仮説を立て検証することができる。	
DF3	(科学的な検証能力)	
	教育テックによる教育界に関する社会変革を目標に、自らの構想を立てることができ	
DP4	る。	
	(社会変革への構想能力)	

履修条件	教育構想演習(I)(II)を履修し単位	取得していること。
	学期前(3月)に希望する指導教員を選	
	ーチペーパーをもとに、学生の設定した	テーマと指導教員の専門性が合
	致しているかを指導教員が確認し、場合	によっては面談を行って決定す
	る。	
授業の概要	研究指導科目群では、教育情報・経営リ	ーダーシップ研究科が最終的な
	成果物とする「教育構想実践書」の完成	に向けた一連の指導を行う。
	【教育構想研究(I)】では、履修者か	ぶ「教育構想実践書」を執筆する
	にあたり、教育的課題や社会課題に対し	て、基本構想を基に具体的な改
	善・解決計画の仮説をたて、データを取	7得し科学的な検証を行う。
授業のテーマ	保育・幼児教育について各自の問題意	識を解決すべく研究計画を立て
及び到達目標	る。	
	○問題解決に向けての仮説を設定し、科	学的分析により検証できる
授業計画 (授業は1回を90	分とし、2限連続で実施する場合がある)	授業外の学習 (60 時間)

			1	
第1講		等1回)イントロダクション(演習) Eの問題および関心を各履修者間で共有し、研究		シラバス内容閲覧 リサーチペーパーをもとにした 前期研究計画の執筆(3h)
N4 1 m1		する。また、リサーチペーパーから研究 共有や年間のスケジュールを確認する。	事後	履修生同士の相互レビュー (1h)
∕ Υ Υ Ω ∓#	(演習)	問題意識の明確化と研究テーマの設定 1 問題意識の明確化と研究テーマの設定 2	事前	前回レポートの執筆(2h)
第2講	(演習) 各履修者の研 向性について	研究計画をレビューし、今後の研究の方 ご討議する。	事後	履修者同士の相互レビュー (1h) リサーチワーク (5h)
第3講	(第5回) 5	た行研究レビュー 1 (演習) た行研究レビュー 2 (演習) テーマに応じて、論文または報告書(そ	事前	前回レポートの執筆 (2h)
	れに相当する。	る書籍の 1 章分相当)を読み、発表す	事後	履修者同士の相互レビュー(1h)リサーチワーク(5h)
第4講	(第7回) 硕	研究計画書の骨子 1 (演習) 研究計画書の骨子 2 (演習)	事前	前回レポートの執筆(2h)
	各履修者の他 化するために	研究の骨子を発表し、研究の構造を具体 に討議する。	事後	履修者同士の相互レビュー (1h) リサーチワーク (5h)
第5講		データ収集・分析計画 1 (演習) データ収集・分析計画 2 (演習)	事前	前回レポートの執筆(2h)
かり時	研究データの 立てる。	D収集計画、および科学的分析の計画を	事後	データ収集(6h)
第6講		研究計画書の骨子3(演習) 研究計画書の骨子4(演習)	事前	データ分析 (2h)
	調査結果を基	基に、研究の骨子を再構築する。	事後	履修者同士の相互レビュー (1h) リサーチワーク (5h)
第7講	(7)	データ収集・分析計画 3 (演習) データ収集・分析計画 4 (演習)	事前	前回レポートの執筆 (2h)
夘 / 램	<i>v</i> - <i>,</i> , , , = , ,	十画に対して、研究データの収集計画、 内分析の計画を立てる。	事後	データ収集(6h)
公 0 誰		仮説の検討1(演習) 仮説の検討2(演習)	事前	データ分析(2h)
第8講	主要な仮説る。	を整理し、その妥当性について議論す	事後	履修者同士の相互レビュー (1h) リサーチワーク (5h)
定期試験		各自の発表(発表資料提出)及び、レオ	ポート	とする。
使用テキスト 別途指示する				
参考文献	犬	別途指示する		

本業生に対より部体	炎主山穴 (500/)
受講生に対する評価	・発表内容(50%)
	・レポート(25%)
	・討議 (25%)
課題等に対する	・基本的には、授業の中で行う。
フィードバック	・本授業は、履修者の関心にあわせた指導が主となる。個別指導時はビ
	デオ会議システムのブレイクアウトルームなどを利用する。他者の指導
	の間に、与えられた課題に対する調査などを行う。
	そのため、履修者が積極的、自発的に自身の問題関心に応じて探究し
	ていくことが必要となる。毎回の授業ごとにレポート作成をするだけで
	なく、自身の研究報告の発表を行う。その上で、各履修者に対して助
	言・指導をする。また、履修者は、他者の発表に対してコメントをする
	こと。
オフィスアワー	授業の前後
(オンライン曜日・	
時間)	
受講生へのメッセー	
ジ*任意項目	
備考	
*任意項目	
授業用 URL	
*任意項目	
授業用 E-Mail	
*任意項目	

講義名	教育構想研究(I)
単位数	2 単位
単位区分(必修・選択・自由)	必修
講義開講時期	2年前期
講義区分(講義・演習・実習)	演習
担当教員名	大和田順子

	教育界における課題を発見し、背景や関わる要因をグローバル視点で俯瞰し定義する	
DP1	ことができる。	
	(課題発見・要因定義能力)	
DD0 1	教育界における課題に情報学の知識・スキルを活用し改善・解決することができる。	
DP2-1	(改善・解決能力)	
DD2 2	教育界における課題に経営学の知識・スキルを活用し改善・解決することができる。	
DP2-2	(改善・解決能力)	
DP3	科学的知見に基づき実践からデータを取得し仮説を立て検証することができる。	
DF3	(科学的な検証能力)	
	教育テックによる教育界に関する社会変革を目標に、自らの構想を立てることができ	
DP4	ప 。	
	(社会変革への構想能力)	

履修条件	教育構想演習(I)(II)を履修し単位	7取得していること。
	学期前(3月)に希望する指導教員を選	
	ーチペーパーをもとに、学生の設定した	テーマと指導教員の専門性が合
	 致しているかを指導教員が確認し、場合	たよっては面談を行って決定す
	۵.	
授業の概要	研究指導科目群では、教育情報・経営リ	ーダーシップ研究科が最終的な
	成果物とする「教育構想実践書」の完成	なに向けた一連の指導を行う。
	【教育構想研究(I)】では、履修者が	5「教育構想実践書」を執筆する
	にあたり、教育的課題や社会課題に対し	て、基本構想を基に具体的な改
	善・解決計画の仮説をたて、データを取	双得し科学的な検証を行う。
授業のテーマ	SDGs、ESD とソーシャルイノベーションに関するテーマから各自の問	
及び到達目標	題意識を解決すべく研究計画を立てる。	
	○問題解決に向けての仮説を設定し、科	学的分析により検証できる
授業計画 (授業は1回を90	分とし、2 限連続で実施する場合がある)	授業外の学習 (60 時間)

hoke a -ste		イントロダクション(演習) および関心を各履修者間で共有し、研究	事前	シラバス内容閲覧 リサーチペーパーをもとにした
第1講		する。また、リサーチペーパーから研究 は有や年間のスケジュールを確認する。	事後	前期研究計画の執筆(3h) 履修生同士の相互レビュー (1h)
htt: 0 -44	(第2回) [(演習)	問題意識の明確化と研究テーマの設定 1 問題意識の明確化と研究テーマの設定 2	事前	前回レポートの執筆 (2h)
第2講	(演習) 各履修者の研 向性について	研究計画をレビューし、今後の研究の方 ご討議する。	事後	履修者同士の相互レビュー (1h) リサーチワーク (5h)
第3講	(第5回) 分	た行研究レビュー1(演習) た行研究レビュー2(演習) テーマに応じて、論文または報告書(そ	事前	前回レポートの執筆 (2h)
	れに相当する。	る書籍の 1 章分相当)を読み、発表す	事後	履修者同士の相互レビュー(1h)リサーチワーク(5h)
第4講	(第7回)矿	研究計画書の骨子 1 (演習) 研究計画書の骨子 2 (演習)	事前	前回レポートの執筆 (2h)
	各履修者の研 化するために	研究の骨子を発表し、研究の構造を具体 に討議する。	事後	履修者同士の相互レビュー (1h) リサーチワーク (5h)
第5講		データ収集・分析計画 1 (演習) データ収集・分析計画 2 (演習)	事前	前回レポートの執筆 (2h)
かり語 	研究データ <i>0</i> 立てる。	D収集計画、および科学的分析の計画を	事後	データ収集(6h)
第6講		研究計画書の骨子3(演習) 研究計画書の骨子4(演習)	事前	データ分析(2h)
817		基に、研究の骨子を再構築する。	事後	履修者同士の相互レビュー (1h) リサーチワーク (5h)
第7講		データ収集・分析計画 3 (演習) データ収集・分析計画 4 (演習)	事前	前回レポートの執筆(2h)
<i>知</i> (十画に対して、研究データの収集計画、 内分析の計画を立てる。	事後	データ収集(6h)
第8講		仮説の検討1(演習) 仮説の検討2(演習)	事前	データ分析(2h)
牙 0 舑	主要な仮説 る。	を整理し、その妥当性について議論す	事後	履修者同士の相互レビュー (1h) リサーチワーク (5h)
定期試験 各自		各自の発表(発表資料提出)及び、レオ	ピート	とする。
使用テキスト 別途指示する				
参考文献		別途指示する		

受講生に対する評価	・発表内容(50%)
文冊生に対する計画	
	・レポート (25%)
	・討議(25%)
課題等に対する	・基本的には、授業の中で行う。
フィードバック	・本授業は、履修者の関心にあわせた指導が主となる。個別指導時はビ
	デオ会議システムのブレイクアウトルームなどを利用する。他者の指導
	の間に、与えられた課題に対する調査などを行う。
	そのため、履修者が積極的、自発的に自身の問題関心に応じて探究し
	ていくことが必要となる。毎回の授業ごとにレポート作成をするだけで
	なく、自身の研究報告の発表を行う。その上で、各履修者に対して助
	言・指導をする。また、履修者は、他者の発表に対してコメントをする
	こと。
オフィスアワー	授業の前後
(オンライン曜日・	
時間)	
受講生へのメッセー	
ジ*任意項目	
備考	
*任意項目	
授業用 URL	
*任意項目	
授業用 E-Mail	
*任意項目	

講義名	教育構想研究 (I)
単位数	2 単位
単位区分(必修・選択・自由)	必修
講義開講時期	2年前期
講義区分(講義・演習・実習)	演習
担当教員名	妹尾昌俊

	教育界における課題を発見し、背景や関わる要因をグローバル視点で俯瞰し定義する	
DP1	ことができる。	
	(課題発見・要因定義能力)	
DP2-1	教育界における課題に情報学の知識・スキルを活用し改善・解決することができる。	
DF2-1	(改善・解決能力)	
DP2-2	教育界における課題に経営学の知識・スキルを活用し改善・解決することができる。	
DF2-2	(改善・解決能力)	
DP3	科学的知見に基づき実践からデータを取得し仮説を立て検証することができる。	
DIS	(科学的な検証能力)	
	教育テックによる教育界に関する社会変革を目標に、自らの構想を立てることができ	
DP4	ప .	
	(社会変革への構想能力)	

履修条件	教育構想演習 (I) (II) を履修し単位		
	学期前(3月)に希望する指導教員を選	選択する。1 年次で作成したリサ	
	ーチペーパーをもとに、学生の設定した	テーマと指導教員の専門性が合	
	致しているかを指導教員が確認し、場合	んによっては面談を行って決定す	
	る。		
授業の概要	研究指導科目群では、教育情報・経営リ	ーダーシップ研究科が最終的な	
	成果物とする「教育構想実践書」の完成	(に向けた一連の指導を行う。	
	【教育構想研究(I)】では、履修者カ	ぶ「教育構想実践書」を執筆する	
	にあたり、教育的課題や社会課題に対して、基本構想を基に具体的な改		
	善・解決計画の仮説をたて、データを取	X得し科学的な検証を行う。	
授業のテーマ	教職員のウェルビーイング、教職員政策	5、人材マネジメントに関する各	
及び到達目標	自の問題意識を解決すべく研究計画を立	こてる。	
	○問題解決に向けての仮説を設定し、科	学的分析により検証できる	
授業計画 (授業は1回を90分とし、2限連続で実施する場合がある) 授業外の学習 (60時間)			

	(Mar. 191)	1	、こ、シュナルが用版
第1講	(第1回) イントロダクション(演習)	事前	シラバス内容閲覧 リサーチペーパーをもとにした
	現在の問題および関心を各履修者間で共有し、研究	2-110	前期研究計画の執筆 (3h)
	構想を確認する。また、リサーチペーパーから研究	市公	履修生同士の相互レビュー
	進捗状況の共有や年間のスケジュールを確認する。	事後	(1h)
	(第 2 回)問題意識の明確化と研究テーマの設定 1		
	(演習)	事前	前回レポートの執筆(2h)
	(第 3 回) 問題意識の明確化と研究テーマの設定 2		
total or title	(演習)		
第2講	各履修者の研究計画をレビューし、今後の研究の方		履修者同士の相互レビュー
	向性について討議する。解決の方向性のひとつとし	事後	(1h) 先行研究等のリサーチワ
	て、教育テックの活用、教育 DX についても注目し		ーク (5h)
	た指導、討議を行う。		
	(第4回)研究計画書の骨子1 (演習)		
	(第5回)研究計画書の骨子2 (演習)	事前	 前回課題の執筆(2h)
第3講	各履修者の研究の骨子を発表し、研究の構造を具体		
カリ冊	化するために討議する。		履修者同士の相互レビュー
		事後	(1h) 研究計画書骨子の修正
	(佐ノロ) ベート収集 ハゼコニュ (佐切)		(5h)
	(第6回) データ収集・分析計画1 (演習)	事前	 前回課題の執筆(2h)
第4講	(第7回) データ収集・分析計画2(演習)		
分生冊	研究データの収集計画、および科学的分析の計画を		履修者同士の相互レビュー
	立てる。	事後	(1h) データ収集、分析計画の 修正(3h)
	(第8回) データ収集・分析の実施1 (演習)		
	(第9回) データ収集・分析の実施2 (演習)	事前	前回課題の執筆(2h)
第5講	個人単位もしくはチーム単位で、研究計画書骨子の		
分り語	仮説を検証、修正するため、定量的な調査ないし定	事後	データ収集・分析 (8h)
	性的な調査で実施するための準備を行う。		ア
	(第 10 回) データ収集・分析の実施 3 (演習)	事前	データ分析 (2h)
	(第 11 回) データ収集・分析の実施 4 (演習)		
第6講	データ収集・分析結果をもちより、共有したうえ		
	で、分析方法や解釈についてディスカッションす	事後	履修者同士の相互レビュー
	3.		(1h) リサーチワーク (5h)
	研究の骨子を再構築する。		
第7講	(第 12 回)仮説の検討、報告 1 (演習)	事前	 前回課題の執筆(2h)
	(第 13 回)仮説の検討、報告 2 (演習)		. ,
	個人もしくはチームで、課題分析したことや政策・	事後	データ収集 (6h)
	施策のアイデアについて、関係者等に発表する。	7.10	, , , , , , , , , , , , , , , , , , , ,
第8講	(第 14 回) 仮説の検討、報告 3 (演習)	事前	データ分析 (2h)
	(第 15 回)仮説の検討、報告 4 (演習)	非 則	/ /J/II (ZII)
		事後	履修者同士の相互レビュー

主要な仮説	を整理し、その妥当性について議論す (1h) リサーチワーク (5h)		
る。			
定期試験	各自の発表(発表資料提出)及び、レポートとする。		
使用テキスト	別途指示する		
参考文献	別途指示する		
受講生に対する評価	・発表内容(50%)		
	・レポート (25%)		
	・討議(25%)		
課題等に対する	・基本的には、授業の中で行う。		
フィードバック	・本授業は、履修者の関心にあわせた指導が主となる。個別指導時はビ		
	デオ会議システムのブレイクアウトルームなどを利用する。他者の指導		
	の間に、与えられた課題に対する調査などを行う。		
	そのため、履修者が積極的、自発的に自身の問題関心に応じて探究し		
	ていくことが必要となる。毎回の授業ごとにレポート作成をするだけで		
	なく、自身の研究報告の発表を行う。その上で、各履修者に対して助		
	言・指導をする。また、履修者は、他者の発表に対してコメントをする 、		
	こと。		
オフィスアワー	特定の時間は定めません。事前にメール等で予約してください。		
(オンライン曜日・			
時間)			
受講生へのメッセー			
ジ*任意項目 	での合宿形式なども含めることを検討する。		
	担当教員の1年後期の教育構想研究と連続性はあるが、別の教員のゼミ		
/#: +v	を履修していて、今回新規参加であっても歓迎する。		
備考			
*任意項目			
授業用 URL			
*任意項目			
授業用 E-Mail			
*任意項目			

講義名	教育構想研究(I)
単位数	2 単位
単位区分(必修・選択・自由)	必修
講義開講時期	2年前期
講義区分(講義・演習・実習)	演習
担当教員名	松田 孝

	教育界における課題を発見し、背景や関わる要因をグローバル視点で俯瞰し定義する	
DP1	ことができる。	•
	(課題発見・要因定義能力)	
DP2-1	教育界における課題に情報学の知識・スキルを活用し改善・解決することができる。	_
D1 2-1	(改善・解決能力)	
DP2-2	教育界における課題に経営学の知識・スキルを活用し改善・解決することができる。	
D1 2-2	(改善・解決能力)	
DD3	科学的知見に基づき実践からデータを取得し仮説を立て検証することができる。	_
DP3	(科学的な検証能力)	
	教育テックによる教育界に関する社会変革を目標に、自らの構想を立てることができ	
DP4	ప 。	
	(社会変革への構想能力)	

履修条件	教育構想演習(I)(II)を履修し単位	立取得していること。
	 学期前(3 月)に希望する指導教員を選	選択する。1年次で作成したリサ
	ーチペーパーをもとに、学生の設定した	テーマと指導教員の専門性が合
	致しているかを指導教員が確認し、場合	たよっては面談を行って決定す
	る。	
授業の概要	研究指導科目群では、教育情報・経営リ	ーダーシップ研究科が最終的な
	成果物とする「教育構想実践書」の完成	なに向けた一連の指導を行う。
	【教育構想研究(I)】では、履修者が	ぶ「教育構想実践書」を執筆する
	にあたり、教育的課題や社会課題に対し	て、基本構想を基に具体的な改
	善・解決計画の仮説をたて、データを取	双得し科学的な検証を行う。
授業のテーマ	教育 Tech と①非認知能力、②プログラ	ラミング教育、③学校経営等との
及び到達目標	関わりをめぐって各自の問題意識を解決	そすべく研究計画を立てる。
	○問題解決に向けての仮説を設定し、科	学的分析により検証できる
授業計画 (授業は1回を90) 分とし、2 限連続で実施する場合がある)	授業外の学習 (60 時間)

		1	<u> </u>
第1講	(第1回) イントロダクション(演習) 現在の問題および関心を各履修者間で共有し、研究	事前	シラバス内容閲覧 リサーチペーパーをもとにした
			前期研究計画の執筆 (3h)
	│構想を確認する。また、リサーチペーパーから研究 │進捗状況の共有や年間のスケジュールを確認する。	事後	履修生同士の相互レビュー (1h)
	(第 2 回)問題意識の明確化と研究テーマの設定 1		
	(演習)	事前	前回レポートの執筆(2h)
	、~~~ (第 3 回)問題意識の明確化と研究テーマの設定 2		
第2講	(演習)		
>11 — H13	各履修者の研究計画をレビューし、今後の研究の具		 履修者同士の相互レビュー
	体的進め方について討議する。	事後	(1h) リサーチワーク (5h)
	研究実証のための準備		
	(第4回)先行研究レビュー1(演習)		
	(第5回)先行研究レビュー2(演習)	事前	前回レポートの執筆 (2h)
<i>\$</i> \$ 0 ₹#	各履修者のテーマに応じて、論文または報告書(そ		
第3講	れに相当する書籍の 1 章分相当)を読み、発表す		屋修孝同士の相互しば。。
	る。	事後	履修者同士の相互レビュー (1h) リサーチワーク (5h)
	「教育構想実践書」の序章部分の作成		
	(第6回)研究計画書の骨子1(演習)		* - 1°) a + 1 * * (01)
第4講	(第7回)研究計画書の骨子2(演習)	事前	前回レポートの執筆(2h)
N1 1 HH	各履修者の研究の骨子を発表し、研究の構造を具体	主 松	履修者同士の相互レビュー
	化するために討議する。	事後	(1h) リサーチワーク (5h)
	(第8回)データ収集・分析計画1(演習)	事前	 前回レポートの執筆(2h)
	(第9回)データ収集・分析計画2(演習)		
第5講	研究データの収集計画、および科学的分析の計画を		
	立てる。	事後	データ収集(6h)
	データ収集のための具体的な段取り		
	(第 10 回)研究計画書の骨子 3 (演習)	事前	 データ分析 (2h)
第6講	(第 11 回)研究計画書の骨子 4 (演習)		
	調査結果の整理と分析	事後	履修者同士の相互レビュー
	調査結果を基に、研究の骨子を再構築する。		(1h) リサーチワーク (5h)
	(第12回) データ収集・分析計画3(演習)	事前	前回レポートの執筆(2h)
第7講	(第13回)データ収集・分析計画4(演習)		
	新たな研究計画に対して、研究データの収集計画、 および科学的分析の計画を立てる。	事後	データ収集 (6h)
第8講	(第 14 回)仮説の検討 1 (演習) (第 15 回)仮説の検討 2 (演習)	事前	データ分析 (2h)
	(第15回)仮説の検討2(横首) 主要な仮説を整理し、その妥当性について議論す		
	主安な似就を登埋し、その安ヨ住にういて議論する。	事後	履修者同士の相互レビュー
	③。 「教育構想実践書」の SUMMRY と序章の作成		(1h) リサーチワーク (5h)

定期試験	各自の発表(発表資料提出)及び、レポートとする。
使用テキスト	別途指示する
参考文献	別途指示する
受講生に対する評価	・発表内容(50%)
	・レポート (25%)
	・討議 (25%)
課題等に対する	・基本的には、授業の中で行う。
フィードバック	・本授業は、履修者の関心にあわせた指導が主となる。個別指導時はビ
	デオ会議システムのブレイクアウトルームなどを利用する。他者の指導
	の間に、与えられた課題に対する調査などを行う。
	そのため、履修者が積極的、自発的に自身の問題関心に応じて探究し
	ていくことが必要となる。毎回の授業ごとにレポート作成をするだけで
	なく、自身の研究報告の発表を行う。その上で、各履修者に対して助
	言・指導をする。また、履修者は、他者の発表に対してコメントをする
	こと。
オフィスアワー	授業の前後
(オンライン曜日・	
時間)	
受講生へのメッセー	
ジ*任意項目	
備考	
*任意項目	
授業用 URL	
*任意項目	
授業用 E-Mail	
*任意項目	

講義名	教育構想研究(I)
単位数	2 単位
単位区分(必修・選択・自由)	必修
講義開講時期	2年前期
講義区分(講義・演習・実習)	演習
担当教員名	大和田 茂

	教育界における課題を発見し、背景や関わる要因をグローバル視点で俯瞰し定義する	
DP1	ことができる。	
	(課題発見・要因定義能力)	
	教育界における課題に工学/情報科学の知識・スキルを活用し改善・解決することが	
DP2-1	できる。	
	(改善・解決能力)	
	教育界における課題に経済/経営学の知識・スキルを活用し改善・解決することがで	
DP2-2	きる。	
	(改善・解決能力)	
DP3	科学的知見に基づき実践からデータを取得し仮説を立て検証することができる。	
DIS	(科学的な検証能力)	
	教育テックによる教育界に関する社会変革を目標に、自らの構想を立てることができ	
DP4	る。	
	(社会変革への構想能力)	

履	修	条	件	教育構想演習 (I) (II) を履修し単位取得していること。		
				学期前(3月)に希望する指導教員を選択する。1年次で作成したリサ		
				ーチペーパーをもとに、学生の設定したテーマと指導教員の専門性が合		
				致しているかを指導教員が確認し、場合によっては面談を行って決定す		
				る。		
授業	の概要	į		研究指導科目群では、教育情報・経営リーダーシップ研究科が最終的な		
				成果物とする「教育構想実践書」の完成に向けた一連の指導を行う。		
				【教育構想研究(I)】では、履修者が「教育構想実践書」を執筆する		
				にあたり、教育的課題や社会課題に対して、基本構想を基に具体的な改		
				善・解決計画の仮説をたて、データを取得し科学的な検証を行う。		
授美	業 の	テー	- 7	技術的な面から各自の問題意識を解決すべく研究計画を立てる。		
及び	到達目	標				
				○問題解決に向けての仮説を設定し、科学的分析により検証できる		

授業計画	三 (授業は1回を90	分とし、2 限連続で実施する場合がある)	授業	外の学習 (60 時間)
第1講	現在の問題は構想を確認す	イントロダクション(演習) および関心を各履修者間で共有し、研究 ける。また、リサーチペーパーから研究 は有や年間のスケジュールを確認する。	事前	自己紹介と抱負を発表する準備。1年次にサーベイした内容から変更する場合は新しい内容で。(1h) 履修生同士の相互レビュー
	進抄1人化のチ	で有や中間のベグシュールを唯認する。	事後	(1h) 自分の抱負を改善・レポートに (3h)
第2講	(第3回) 硕	肝究計画書の書き方(講義) 肝究計画書の骨子1(演習) O書き方を学び、実際に書く。	事前	
	(倫理審査書	碁類も書き始める)	事後	研究計画書・倫理審査書類執筆 (8h)
第3講	(第5回) 分	た行研究レビュー1(演習) た行研究レビュー2(演習) テーマに応じたサーベイ結果を発表す	事前	
	る。1年次に 筆に移っても	に終了している場合は、研究計画書の執)良い。	事後	研究計画書・倫理審査書類執筆 (8h)
第4講	(第7回) 詣	研究計画書の骨子 2 (演習) 倫文ドラフト執筆 1 (演習)	事前	
	各腹修者の切執筆も開始す	ff究の骨子を考えながら、最終的な論文 ├る。	事後	研究計画書・倫理審査書類・論 文執筆(8h)
第5講	(第8回) データ収集・分析計画1 (演習) (第9回) 論文ドラフト執筆2 (演習)		事前	
37 J III	研究データの収集計画、および科学的分析の計画を立てる。			研究計画プレゼンテーション作成 (8h)
第6講	(第11回)	研究計画共有 1(演習) 研究計画共有 2 (演習)	事前	
) - HI	ンし、ディス	で、自分の研究計画をプレゼンテーショ スカッションする。 	事後	リサーチワークと発表準備 (8h)
第7講		研究進捗発表(演習) 研究活動(演習)	事前	
	進捗発表と研	T究実施	事後	リサーチワークと発表準備・論 文の改善・中間発表準備(8h)
第8講	(第 14 回)研究中間発表 1 (演習) (第 15 回)研究中間発表 2 (演習)		事前	
N ○ 1114	ここまでの約 いてもディフ		事後	リサーチワーク・論文ドラフト の提出(7h)
定期試験	美 	各自の発表(発表資料提出)及び、レス	ポート。 	とする。
使用テキ		別途指示する		

参考文献	別途指示する
受講生に対する評価	・発表・レポート(30%)
	・論文ドラフト(70%)
課題等に対する	・基本的には、授業の中で行う。
フィードバック	・本授業は、履修者の関心にあわせた指導が主となる。個別指導時はビ
	デオ会議システムのブレイクアウトルームなどを利用する。他者の指導
	の間に、与えられた課題に対する調査などを行う。
	そのため、履修者が積極的、自発的に自身の問題関心に応じて探究し
	ていくことが必要となる。毎回の授業ごとにレポート作成をするだけで
	なく、自身の研究報告の発表を行う。その上で、各履修者に対して助
	言・指導をする。また、履修者は、他者の発表に対してコメントをする
	こと。
オフィスアワー	授業の前後
(オンライン曜日・	
時間)	
受講生へのメッセー	
ジ*任意項目	
備考	
*任意項目	
授業用 URL	
*任意項目	
授業用 E-Mail	
*任意項目	

教育構想研究 (II)

講義名	教育構想研究(II)
単位数	2 単位
単位区分(必修・選択・自由)	必修
講義開講時期	2 年後期
講義区分(講義・演習・実習)	演習
担当教員名	竹村治雄

	教育界における課題を発見し、背景や関わる要因をグローバル視点で俯瞰し定義する	
DP1	ことができる。	
	(課題発見・要因定義能力)	
DP2-1	教育界における課題に情報学の知識・スキルを活用し改善・解決することができる。	
D1 2-1	(改善・解決能力)	
DP2-2	教育界における課題に経営学の知識・スキルを活用し改善・解決することができる。	
D1 2-2	(改善・解決能力)	
DP3	科学的知見に基づき実践からデータを取得し仮説を立て検証することができる。	
DF3	(科学的な検証能力)	
	教育テックによる教育界に関する社会変革を目標に、自らの構想を立てることができ	
DP4	る。	
	(社会変革への構想能力)	

履修	条	件	教育構想演習(I)(II)、教育構想	研究(I)を履修し単位取得して	
			いること。原則として研究(I)と同	じ指導教員となる。	
授業の構	既要		研究指導科目群では、教育情報・経	営リーダーシップ研究科が最終的	
			な成果物とする「教育構想実践書」の	完成に向けた一連の指導を行う。	
			【教育構想研究(II)】では、履修者	がたてた教育・社会変革のための	
			仮説を実装または実践し、さらなる科	学的な検証を行い、最終的に「教	
			育構想実践書」を完成させる。自身の	構想とその具体的な計画および実	
			践について、関係者に賛同・共感を得	られるよう、わかりやすくプレゼ	
	ンテーションできる知見を身につける。				
授業	のテ、	ا م	ICT の教育応用に関して研究計画を遂行し得られた結果より、教育構想		
及び到達	到達目標 実践書の執筆を行う。				
			○教育構想研究(Ⅰ)で立てた仮説を実践し、新たな構想を計画する		
		○教育構想を実践書として纏め説明することができる			
授業計画	1 (授業は	1回を90	分とし、2 限連続で実施する場合がある)	授業外の学習 (60 時間)	

	(第1回) /	イントロダクション(演習)	事前	後期研究計画の執筆 (3h)
第1講		究(I)を踏まえ、研究成果を共有す	事後	履修生同士の相互レビュー(1h)
	る。			
		研究計画書の骨子再検討 1 (演習)	事前	 前回レポートの執筆(2h)
第2講		研究計画書の骨子再検討 2 (演習)		
		構想研究(I)の助言を踏まえ、各履修者の		履修者同士の相互レビュー(1h)
		告書の骨子の状況について検討する。 		リサーチワーク (5h)
		研究仮説の実践計画 1 (演習)	事前	前回レポートの執筆 (2h)
第3講		研究仮説の実践計画2(演習)		
		究(I)の仮説を踏まえ、各履修者に まに関する計画について検討する	事後	フィールド実践・実装(6h)
		表に関する計画について検討する。 数本機相字時書お道1 (注羽)		
		牧育構想実践書指導1(演習) 牧育構想実践書指導2(演習)	事前	実践結果分析 (2h)
第4講		スト件忠大政音11号2(英音) 残された課題を抽出し、具体的にどの		屋板水戸「の相互)が (11)
		まに落とし込むのかを検討する。	事後	履修者同士の相互レビュー(1h) リサーチワーク(5h)
		世紀での200%を検的する。 数育構想実践書指導3(演習)		
		次百構想実践書指導 4 (演習)	事前	前回レポートの執筆 (2h)
第5講		残された課題を抽出し、具体的にどの		 履修者同士の相互レビュー(1h)
		と	事後	リサーチワーク (5h)
	(第 10 回)	教育構想実践書指導5(演習)		
holes a Table	(第 11 回)	教育構想実践書指導6(演習)	事前	前回レポートの執筆(2h)
第6講	各履修者の死	残された課題を抽出し、具体的にどの		履修者同士の相互レビュー(1h)
	ように実践書	書に落とし込むのかを検討する。	事後	リサーチワーク (5h)
	(第12回)	教育構想実践書指導7(演習)	事前	前回レポートの執筆(2h)
第7講	(第 13 回)	教育構想実践書指導8(演習)	尹刖	刑回レホートの執事 (Zn)
<i>为 1</i> 册	各履修者の死	者の残された課題を抽出し、具体的にどの		履修者同士の相互レビュー(1h)
	ように実践書	書に落とし込むのかを検討する。	事後	リサーチワーク (5h)
	(第 14 回)	教育構想実践書 発表(演習)		 前回レポートの執筆(2h)
第8講	(第 15 回)	教育構想実践書 発表(演習)	事前	発表準備(5h)
)14 G III 1	口頭発表練習	習を通じて、1年間の成果を確認しつ	±.w	
	つ、自身の研	肝究を他者に伝える。 	事後	履修者同士の相互レビュー(1h)
定期試験		各自の発表(発表資料提出)及び、	レポー	ト(教育構想実践書)とす
		る。		
使用テキスト		LMS 上で提供する。		
参考文献	状	LMS 上で参考リンクを提示する。		
受講生に対する評価		・発表内容(30%)		
		・教育構想実践書の内容(70%)		

課題等に対する	・基本的には、授業の中で行う。
フィードバック	・本授業は、履修者の関心にあわせた指導が主となる。個別指導時はビ
	デオ会議システムのブレイクアウトルームなどを利用する。他者の指導
	の間に、与えられた課題に対する調査などを行う。
	そのため、履修者が積極的、自発的に自身の問題関心に応じて探究し
	ていくことが必要となる。毎回の授業ごとにレポート作成をするだけで
	なく、自身の研究報告の発表を行う。その上で、各履修者に対して助
	言・指導をする。また、履修者は、他者の発表に対してコメントをする
	こと。
オフィスアワー	授業の前後
(オンライン曜日・	
時間)	
受講生へのメッセー	本授業は各履修者のテーマにあわせた研究の進捗状況の管理と助言指導
ジ*任意項目	が主となる。最終成果物は、演習に出席すれば自動的に完成するもので
	はなく履修者が自律的に執筆する。数回の発表を求める。また、自身の
	発表だけでなく、他者の発表に対してもコメントをすること。
	授業ごとにレポーを作成することを求める。初回授業で詳しく述べる。
備考	
*任意項目	
授業用 URL	
*任意項目	
授業用 E-Mail	
*任意項目	

講義名	教育構想研究(II)
単位数	2 単位
単位区分(必修・選択・自由)	必修
講義開講時期	2 年後期
講義区分(講義・演習・実習)	演習
担当教員名	秋田 次郎

	教育界における課題を発見し、背景や関わる要因をグローバル視点で俯瞰し定義する	
DP1	ことができる。	
	(課題発見・要因定義能力)	
	教育界における課題に工学/情報科学の知識・スキルを活用し改善・解決することが	
DP2-1	できる。	
	(改善・解決能力)	
	教育界における課題に経済/経営学の知識・スキルを活用し改善・解決することがで	
DP2-2	きる。	
	(改善・解決能力)	
DP3	科学的知見に基づき実践からデータを取得し仮説を立て検証することができる。	
D1 3	(科学的な検証能力)	
	教育テックによる教育界に関する社会変革を目標に、自らの構想を立てることができ	
DP4	る。	
	(社会変革への構想能力)	

履	修	条	件	教育構想演習(I)(II)、教育構想研究(I)を履修し単位取得して
				いること。原則として研究(I)と同じ指導教員となる。
授業	の概要	į		研究指導科目群では、教育情報・経営リーダーシップ研究科が最終的
				な成果物とする「教育構想実践書」の完成に向けた一連の指導を行う。
				【教育構想研究(Ⅱ)】では、履修者がたてた教育・社会変革のための
				仮説を実装または実践し、さらなる科学的な検証を行い、最終的に「教
				育構想実践書」を完成させる。自身の構想とその具体的な計画および実
				践について、関係者に賛同・共感を得られるよう、わかりやすくプレゼ
			ンテーションできる知見を身につける。	
授	業の	テー	- 7	近代経済学・計量経済学を背景とする教育テックの領域で研究計画を遂
及び	到達目	標		行し得られた結果より、教育構想実践書の執筆を行う。
				○教育構想研究(Ⅰ)で立てた仮説を実践し、新たな構想を計画する
				○教育構想を実践書として纏め説明することができる

授業計画		分とし、2限連続で実施する場合がある)	授業	外の学習 (60 時間)
	(第1回) /	イントロダクション(演習)	事前	後期研究計画の執筆 (3h)
第1講 教育構想研究 る。		究(I)を踏まえ、研究成果を共有す	事後	履修生同士の相互レビュー (1h)
第2講		研究計画書の骨子再検討 1 (演習) 研究計画書の骨子再検討 2 (演習)	事前	前回レポートの執筆 (2h)
分 2 		宅(I)の助言を踏まえ、各履修者の 后書の骨子の状況について検討する。	事後	履修者同士の相互レビュー (1h) リサーチワーク (5h)
第3講		肝究仮説の実践計画 1 (演習) 肝究仮説の実践計画 2 (演習)	事前	前回レポートの執筆(2h)
N1 0 III-1		完(I)の仮説を踏まえ、各履修者に 践に関する計画について検討する。	事後	フィールド実践・実装(6h)
第4講		效育構想実践書指導 1 (演習) 效育構想実践書指導 2 (演習)	事前	実践結果分析(2h)
N1 1 H4		践された課題を抽出し、具体的にどの 書に落とし込むのかを検討する。	事後	履修者同士の相互レビュー(1h) リサーチワーク(5h)
第5講	(第8回)教育構想実践書指導3(演習) (第9回)教育構想実践書指導4(演習)		事前	前回レポートの執筆(2h)
分り時		践された課題を抽出し、具体的にどの 書に落とし込むのかを検討する。	事後	履修者同士の相互レビュー(1h) リサーチワーク(5h)
学 (建		教育構想実践書指導 5 (演習) 教育構想実践書指導 6 (演習)	事前	前回レポートの執筆(2h)
第6講		浅された課題を抽出し、具体的にどの 景に落とし込むのかを検討する。	事後	履修者同士の相互レビュー (1h) リサーチワーク (5h)
第7講		教育構想実践書指導7(演習) 教育構想実践書指導8(演習)	事前	前回レポートの執筆 (2h)
分 7 册	各履修者の残された課題を抽出し、具体的にどの ように実践書に落とし込むのかを検討する。		事後	履修者同士の相互レビュー(1h) リサーチワーク(5h)
第8講	(第15回)	教育構想実践書 発表(演習) 教育構想実践書 発表(演習) 習を通じて、1 年間の成果を確認しつ	事前	前回レポートの執筆 (2h) 発表準備 (5h)
		「究を他者に伝える。 「究を他者に伝える。	事後	履修者同士の相互レビュー(1h)
定期試験		各自の発表 (発表資料提出) 及び、1 る。	ノポー	ト(教育構想実践書)とす
 使用テキスト		別途指示する		
参考文献		別途指示する		
受講生に対する評価		・発表内容(30%)・教育構想実践書の内容(70%)		

課題等に対する	・基本的には、授業の中で行う。
フィードバック	・本授業は、履修者の関心にあわせた指導が主となる。個別指導時はビ
	デオ会議システムのブレイクアウトルームなどを利用する。他者の指導
	の間に、与えられた課題に対する調査などを行う。
	そのため、履修者が積極的、自発的に自身の問題関心に応じて探究し
	ていくことが必要となる。毎回の授業ごとにレポート作成をするだけで
	なく、自身の研究報告の発表を行う。その上で、各履修者に対して助
	言・指導をする。また、履修者は、他者の発表に対してコメントをする
	こと。
オフィスアワー	授業の前後
(オンライン曜日・	
時間)	
受講生へのメッセー	本授業は各履修者のテーマにあわせた研究の進捗状況の管理と助言指導
ジ*任意項目	が主となる。最終成果物は、演習に出席すれば自動的に完成するもので
	はなく履修者が自律的に執筆する。数回の発表を求める。また、自身の
	発表だけでなく、他者の発表に対してもコメントをすること。
	授業ごとにレポーを作成することを求める。初回授業で詳しく述べる。
備考	
*任意項目	
授業用 URL	
*任意項目	
授業用 E-Mail	
*任意項目	

講義名	教育構想研究 (II)
単位数	2 単位
単位区分(必修・選択・自由)	必修
講義開講時期	2 年後期
講義区分(講義・演習・実習)	演習
担当教員名	河崎 雷太

	教育界における課題を発見し、背景や関わる要因をグローバル視点で俯瞰し定義する	
DP1	ことができる。	
	(課題発見・要因定義能力)	
DP2-1	教育界における課題に情報学の知識・スキルを活用し改善・解決することができる。	
D1 2-1	(改善・解決能力)	
DP2-2	教育界における課題に経営学の知識・スキルを活用し改善・解決することができる。	
D1 2 2	(改善・解決能力)	
DP3	科学的知見に基づき実践からデータを取得し仮説を立て検証することができる。	
DIS	(科学的な検証能力)	
	教育テックによる教育界に関する社会変革を目標に、自らの構想を立てることができ	
DP4	ప .	
	(社会変革への構想能力)	

履	修	条	件	教育構想演習(I)(II)、教育構想研究(I)を履修し単位取得して
				いること。原則として研究(I)と同じ指導教員となる。
授業	の概要	į		研究指導科目群では、教育情報・経営リーダーシップ研究科が最終的な
				成果物とする「教育構想実践書」の完成に向けた一連の指導を行う。
				【教育構想研究(II)】では、履修者がたてた教育・社会変革のための
				仮説を実装または実践し、さらなる科学的な検証を行い、最終的に「教
				育構想実践書」を完成させる。自身の構想とその具体的な計画および実
				践について、関係者に賛同・共感を得られるよう、わかりやすくプレゼ
				ンテーションできる知見を身につける。
授美	業の	テー	- V	本講座では、ゲームライクな教育を構想する。その手法としてコンピ
及び	到達目	標		ュータグラフィックスや VR などの活用を学ぶ。例えば、近年、楽器の
				演奏スキルを向上させるゲームライクな教育アプリがある。そのような
				考え方を様々な教育への適用を研究する。
				飽きてしまいがちなスキル教育には、学びたい気持ちを起こさせる行
				動変容が必要である。ゲームはやりたい気持ちを作る仕組みの宝庫であ
				り、行動変容を起こさせる「寄り添い(コーチ)」とタイミングよい
				「インセンティブ」を実装していると考える。

今後、ウェアラブルデバイスでの24時間コーチングや、VRによる疑似体験で行動変容した後(あるいは変容しなかった)の将来をリアルに体験するなど、ゲーム的な要素をより深く与えることができるようになる。そのような未来に向けての新しい教育をベースに、研究計画を遂行し得られた結果より、教育構想実践書の執筆を行う。

- ○教育構想研究(Ⅰ)で立てた仮説を実践し、新たな構想を計画する
- ○教育構想を実践書として纏め説明することができる

授業計画	 (授業は1回を 90 分とし、2 限連続で実施する場合がある)	授業	外の学習 (60 時間)
	(第1回) イントロダクション(演習)	事前	後期研究計画の執筆 (3h)
第1講	教育構想研究(I)を踏まえ、研究成果を共有する。		履修生同士の相互レビュー(1h)
第2講	(第2回)研究計画書の骨子再検討1 (演習) (第3回)研究計画書の骨子再検討2 (演習)	事前	前回レポートの執筆(2h)
71 2 III-7	教育構想研究(I)の助言を踏まえ、各履修者の研究成果報告書の骨子の状況について検討する。	事後	履修者同士の相互レビュー (1h) リサーチワーク (5h)
第3講	(第4回)研究仮説の実践計画1 (演習) (第5回)研究仮説の実践計画2 (演習)	事前	前回レポートの執筆 (2h)
为3時	教育構想研究 (I) の仮説を踏まえ、各履修者に 対応する実践に関する計画について検討する。	事後	フィールド実践・実装(6h)
tota	(第6回)教育構想実践書指導1(演習) (第7回)教育構想実践書指導2(演習)	事前	実践結果分析(2h)
第4講	各履修者の残された課題を抽出し、具体的にどの ように実践書に落とし込むのかを検討する。	事後	履修者同士の相互レビュー (1h) リサーチワーク (5h)
hole = the	(第8回)教育構想実践書指導3 (演習) (第9回)教育構想実践書指導4 (演習)	事前	前回レポートの執筆(2h)
第5講	各履修者の残された課題を抽出し、具体的にどのように実践書に落とし込むのかを検討する。	事後	履修者同士の相互レビュー (1h) リサーチワーク (5h)
第6講	(第 10 回)教育構想実践書指導 5 (演習) (第 11 回)教育構想実践書指導 6 (演習)	事前	前回レポートの執筆 (2h)
弗 0 神	各履修者の残された課題を抽出し、具体的にどの ように実践書に落とし込むのかを検討する。	事後	履修者同士の相互レビュー (1h) リサーチワーク (5h)
第7講	(第 12 回)教育構想実践書指導 7 (演習) (第 13 回)教育構想実践書指導 8 (演習)	事前	前回レポートの執筆 (2h)
	各履修者の残された課題を抽出し、具体的にどの ように実践書に落とし込むのかを検討する。	事後	履修者同士の相互レビュー (1h) リサーチワーク (5h)

				I		
	(第 14 回)	教育構想実践書 発表(演習)	**	前回レポートの執筆(2h)		
第8講	(第 15 回)	教育構想実践書 発表(演習)	事前	発表準備(5h)		
No out	口頭発表練習	習を通じて、1 年間の成果を確認しつ				
	つ、自身の研	肝究を他者に伝える。	事後	履修者同士の相互レビュー(1h)		
定期試験	奂	各自の発表(発表資料提出)及び、レ	ノポー	ト(教育構想実践書)とす		
		る。				
使用テキ	キスト	別途指示する				
参考文献	伏	別途指示する				
受講生は	に対する評価	・発表内容(30%)				
		・教育構想実践書の内容(70%)				
課題等は	こ対する	・基本的には、授業の中で行う。				
フィー	ドバック	・本授業は、履修者の関心にあわせた	指導カ	『主となる。個別指導時はビ		
		デオ会議システムのブレイクアウトル	ームな	などを利用する。他者の指導		
		の間に、与えられた課題に対する調査	などを	2行う。		
		そのため、履修者が積極的、自発的に自身の問題関心に応じて探究し				
		ていくことが必要となる。毎回の授業ごとにレポート作成をするだけで				
		なく、自身の研究報告の発表を行う。その上で、各履修者に対して助				
		言・指導をする。また、履修者は、他者の発表に対してコメントをする				
		こと。				
オフィス	スアワー	授業の前後				
(オンラ	ライン曜日・					
時間)						
受講生~	〜 のメッセー	本授業は各履修者のテーマにあわせた	研究の)進捗状況の管理と助言指導		
ジ*任意	意項目	が主となる。最終成果物は、演習に出	席すれ	ιば自動的に完成するもので		
		はなく履修者が自律的に執筆する。数回の発表を求める。また、自身の				
		発表だけでなく、他者の発表に対して	もコメ	『ントをすること。		
		授業ごとにレポートを作成することを求める。初回授業で詳しく述べ				
		る。				
備考						
*任意功	頁目					
授業用	URL					
*任意项	頁目					
授業用〕	E-Mail					
*任意項	頁目					

講義名	教育構想研究(II)
単位数	2 単位
単位区分(必修・選択・自由)	必修
講義開講時期	2年後期
講義区分(講義・演習・実習)	演習
担当教員名	木岡一明

	教育界における課題を発見し、背景や関わる要因をグローバル視点で俯瞰し定義する	
DP1	ことができる。	
	(課題発見・要因定義能力)	
DP2-1	教育界における課題に情報学の知識・スキルを活用し改善・解決することができる。	
D1 2-1	(改善・解決能力)	
DP2-2	教育界における課題に経営学の知識・スキルを活用し改善・解決することができる。	
D1 2-2	(改善・解決能力)	
DP3	科学的知見に基づき実践からデータを取得し仮説を立て検証することができる。	
DF3	(科学的な検証能力)	
	教育テックによる教育界に関する社会変革を目標に、自らの構想を立てることができ	
DP4	ప .	•
	(社会変革への構想能力)	

履	修	条	件	教育構想演習(I)(II)、教育構想研究(I)を履修し単位取得して
				いること。原則として研究(I)と同じ指導教員となる。
授業の	概要			研究指導科目群では、教育情報・経営リーダーシップ研究科が最終的
				な成果物とする「教育構想実践書」の完成に向けた一連の指導を行う。
				【教育構想研究(II)】では、履修者がたてた教育・社会変革のため
				の仮説を実装または実践し、さらなる科学的な検証を行い、最終的に
				「教育構想実践書」を完成させる。
				自身の構想とその具体的な計画および実践について、関係者に賛同・
				共感を得られるよう、わかりやすくプレゼンテーションできる知見を身
				につける。
授業	の	テー	- 7	学校組織開発を促進する研究計画を遂行し得られた結果より、教育構想
及び到]達目	標		実践書の執筆を行う。
				○教育構想研究(Ⅰ)で立てた仮説を実践し、新たな構想を計画する
				○教育構想を実践書として纏め説明することができる。

授業計画	団 (授業は1回を 90 分とし、2 限連続で実施する場合がある)	授業外の学習 (60 時間)		
	(第1回)後期イントロダクション(演習)	事前	後期の研究計画書を作成する(2 h)	
第1講	教育構想研究(I)を踏まえ、講義概要を理解		,	
	し、今後の学修を見通す。また、後期の研究計画	事後	討議をもとに、必要に応じて研究	
	書を発表し、全体で適切性を討議する。		計画書を修正する(2h)	
	(第2回) 研究計画書の骨子再検討 (演習)		修正した研究計画書の骨子と研究	
	前回の討議を基に修正した研究計画書の骨子を	事前	主題について整理し、説得力のあるプレゼンテーションを準備する	
	プレゼンし、適切性を全体で吟味する。		(6 h)	
	(第3回) 研究主題の明確化 (演習)			
第2講	なぜそれを研究主題とし、いかなる方法を用い			
	て何をどこまで明らかにできるのか、それによっ		 討議をもとに、必要に応じてプレ	
	て研究対象にどのようなメリットが生じるのかに	事後	ゼンシートを修正する (2h)	
	ついて説得力のあるプレゼンテーションを行い、			
	全体で適切性を討議する。			
	(第4回)研究対象の現状分析(演習)		前期に描き出した教育ビジョンに	
	教育ビジョンに照らして研究対象がどのような	市共	照らした現状分析を行い、プレゼ	
	現状にあるのかの分析・考察を精緻な論理でプレ	事前	ンシートにまとめるとともに、研 究仮説に関してプレゼンシートを	
	ゼンテーションを行い、全体で適切性を討議す		まとめる (6 h)	
-t+- o -t+	ప 。			
第3講	(第5回)研究仮説の吟味			
	なぜその研究仮説が成立するのか、その仮説の	±.//	 討議をもとに、必要に応じてプレ	
	立証にいかなる価値があるのかについて精緻な論	事後	ゼンシートを修正する (2h)	
	理でプレゼンテーションを行い、全体で適切性を			
	討議する。			
	(第6回) 研究仮説の実践計画1 (演習)		これまでの学修をもとに研究仮説	
	吟味された研究仮説を踏まえ、その仮説検証の	事前	を検証するための実践計画を作成	
hohe a title	ための実践に関する計画を発表し、全体で適切性		する (6 h)	
第4講	を検討する。		 討議をもとに、必要に応じて実践	
	(第7回) 研究仮説の実践計画 2 (演習)	事後	計画を修正する (2h)	
	検討を基に、実践計画を再構築する。			
	(第8回)教育構想実践書指導1(演習)		これまでの研究成果を整理し、得	
	研究成果を発表し、全体で残された課題を検	事前	られた知見と残された課題につい	
第5講	討・抽出する。		│ てプレゼンシートにまとめる(4 │ h)	
	(第9回)教育構想実践書指導2(演習)		, , , , , , , , , , , , , , , , , , ,	
	抽出された課題について、具体的にどのように	事後	討議をもとに、教育構想実践署案	
	実践書に落とし込むのかを全体で検討する。		を作成する(4h)	
	(第 10 回)教育構想実践書指導 3(演習)		これまでに収集できたデータにつ	
第6講	どのようなデータがどのような方法で収集され	事前	いて分析と考察を行い、プレゼン	
	ていて、どのように分析し、考察しているのかに	事後	シートにまとめる(6 h) 討議をもとに、必要に応じて研究	
		丁 仅	11月1日に 11日に 11日に 11日 11日 11日 11日 11日 11日 11	

				計画を修正する (2h)	
		ゼンテーションを行い、さらなるデー		計画を移正する (211)	
	<i>y</i> *****	いはデータ分析が必要かを全体で吟味			
	する。	W.구.[# 14 급유 대 구 14 [
		教育構想実践書指導 4(演習)			
		を結果を基に、追調査の必要性を検討			
	し、今後の研究計画を見直す。			300) 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	
		教育構想実践書指導 5(演習)		新たに収集できたデータの分析と 考察を行うとともに、これまでの	
	. — , —	X集したデータとその分析、新たに深	事前	データ分析と考察を深め、プレゼ	
		こついてプレゼンテーションし、全体		ンシートにまとめる(4 h)	
第7講	で適切性を呼				
		教育構想実践書指導 6(演習)	事後	討議をもとに、必要に応じて教育	
		今味を基に、具体的にどのように実践		構想実践署を修正する(4h)	
		<u>、</u> むのかを検討する。		5.00	
		教育構想実践書プレゼンテーション 1		これでの学修をもとに「教育構想 実践書 を完成させるとともに、	
		と「教育構想実践書」の模擬プレゼン	事前	その説明用としてこれまでのプレ	
		を行い、その共感度や説得性について		ゼンテーションを集約する(4	
第8講	討議する。			h)	
	, , ,	教育構想実践書プレゼンテーション 2		討議をもとに、必要に応じて「教	
		こプレゼンテーションを修正し、1 年	事後	育構想実践書」を修正して提出す	
		確認しつつ、自身の研究を他者に伝え 		る (4h)	
	るスキルを獲				
定期試験	奂	各自の発表(発表資料提出)及び討議、レポート(教育構想実践書)と			
		する。			
使用テキ	トスト	必要に応じて別途指示する。			
参考文献	 状	必要に応じて別途紹介する。			
受講生は	 C対する評価	・発表内容(25%)			
∠ 1113 <u>.</u>	->·1> 9 H IM	・教育構想実践書(50%)			
		· 討議 (25%)			
課題等は	 C対する	・基本的には、授業の中で行う。			
アイードバック		・本授業は、履修者の関心にあわせた	指導カ	『主となる。個別指導時はビ	
		デオ会議システムのブレイクアウトル			
		の間に、与えられた課題に対する調査			
		そのため、履修者が積極的、自発的に			
		いくことが必要となる。毎回の授業ご			
		く、自身の研究報告の発表を行う。その上で、各履修者に対して助言・			
		指導をする。また、履修者は、他者の			
			•		

	と。
オフィスアワー	原則として毎週水曜日・18:00~20:00
(オンライン曜日・	希望する人は事前予約してください。
時間)	
受講生へのメッセー	
ジ*任意項目	
備考	
*任意項目	
授業用 URL	
*任意項目	
授業用 E-Mail	
*任意項目	

講義名	教育構想研究(II)
単位数	2 単位
単位区分(必修・選択・自由)	必修
講義開講時期	2 年後期
講義区分(講義・演習・実習)	演習
担当教員名	柴山 慎一

	教育界における課題を発見し、背景や関わる要因をグローバル視点で俯瞰し定義する	
DP1	ことができる。	
	(課題発見・要因定義能力)	
DP2-1	教育界における課題に情報学の知識・スキルを活用し改善・解決することができる。	
D1 2-1	(改善・解決能力)	
DP2-2	教育界における課題に経営学の知識・スキルを活用し改善・解決することができる。	
D1 2 2	(改善・解決能力)	
DP3	科学的知見に基づき実践からデータを取得し仮説を立て検証することができる。	
DIS	(科学的な検証能力)	
	教育テックによる教育界に関する社会変革を目標に、自らの構想を立てることができ	
DP4	る。	•
	(社会変革への構想能力)	

履	修	条	件	教育構想演習(I)(II)、教育構想研究(I)を履修し単位取得して			
				いること。原則として研究(I)と同じ指導教員となる。			
授業	の概要	į		研究指導科目群では、教育情報・経営リーダーシップ研究科が最終的			
				な成果物とする「教育構想実践書」の完成に向けた一連の指導を行う。			
				【教育構想研究(II)】では、履修者がたてた教育・社会変革のための			
				仮説を実装または実践し、さらなる科学的な検証を行い、最終的に「教			
				育構想実践書」を完成させる。自身の構想とその具体的な計画および実			
				践について、関係者に賛同・共感を得られるよう、わかりやすくプレゼ			
				ンテーションできる知見を身につける。			
授美	巣の	テー	- 7	教育機関経営について、そのベースになる組織論を通じて組織のあり			
及び	到達目	標		方やマネジメントの理論を学び、マーケティングや広報・ブランディン			
				グの理論を通じて、教育機関の成長に向けた戦略・施策の考え方をベー			
				スに、研究計画を遂行し得られた結果より、教育構想実践書の執筆を行			
				う。			
				○教育構想研究(Ⅰ)で立てた仮説を実践し、新たな構想を計画する			
				○教育構想を実践書として纏め説明することができる			

授業計画	 	授業外の学習 (60 時間)		
	(第1回) オリエンテーション (演習) 研究の全体像とゴールイメージ、受講生の問題意	事前	各自の教育構想実践書につながる ような問題意識を再整理(3h)	
第1講	識、進め方などについての中間地点としての再共 有	事後	他のゼミ生の問題意識との差異を 振り返り(1h)	
	(第 2 回)教育構想実践書の改善案発表① (演習)	事前	自身の教育構想実践書の改善案作 成と発表準備 (7h)	
第2講	(第 3 回)教育構想実践書の改善案発表②(演習) 前回案に対する改善案を反映したものを発表し議 論する。特に研究仮説の実践計画を策定する。	事後	自身の発表に対するコメント等の 振り返りと他のゼミ生の発表を受 けての振り返り (1h)	
	(第 4 回)教育構想実践書の改善案発表③(演 習)	事前	自身の教育構想実践書の改善案作 成と発表準備 (7h)	
第3講	(第 5 回)教育構想実践書の改善案発表④(演習) 前回案に対する改善案を反映したものを発表し議 論する。特に研究仮説の実践計画を策定する。	事後	自身の発表に対するコメント等の 振り返りと他のゼミ生の発表を受 けての振り返り (1h)	
	(第 6 回)教育構想実践書の改善案発表⑤(演習)	事前	自身の教育構想実践書の改善案作 成と発表準備(7h)	
第4講	(第 7 回)教育構想実践書の改善案発表⑥(演習) 前回案に対する改善案を反映したものを発表し議 論する。特に、教育構想実践書の実践を目指す具 体的指導を行う。	事後	自身の発表に対するコメント等の 振り返りと他のゼミ生の発表を受 けての振り返り (1h)	
	(第8回)教育構想実践書の改善案発表⑦(演習)	事前	自身の教育構想実践書の改善案作 成と発表準備 (7h)	
第5講	(第 9 回)教育構想実践書の改善案発表®(演習) 前回案に対する改善案を反映したものを発表し議 論する。特に、教育構想実践書の実践を目指す具 体的指導を行う。	事後	自身の発表に対するコメント等の 振り返りと他のゼミ生の発表を受 けての振り返り (1h)	
第6講	(第 10 回)教育構想実践書の改善案発表⑨ (演習)	事前	自身の教育構想実践書の改善案作 成と発表準備 (7h)	
N1 0 III1	(第 11 回)教育構想実践書の改善案発表⑩(演	事後	自身の発表に対するコメント等の 振り返りと他のゼミ生の発表を受	

	習)			けての振り返り (1h)	
		する改善案を反映したものを発表し議		, , , , , , , , , , , , , , , , , , , ,	
		9 る以音系を及映したものを光衣し議			
	論する。 (第 10 日)	- 松本性和な時事の14. * * * *			
		教育構想実践書の改善案発表⑪(演	事前	自身の教育構想実践書の改善案作 成と発表準備(7h)	
	習)			从 C 元 公 午 開 (TII)	
第7講		教育構想実践書の改善案発表⑫(演		自身の発表に対するコメント等の	
	習)	ᅩᇬᄱᆇ ᄼ ᆇᅶᅜᄥᆡᇫᇫᄼᆇᅑᆉᇅᆇ	事後	振り返りと他のゼミ生の発表を受	
	·	する改善案を反映したものを発表し議		けての振り返り(1h)	
	論する。	# ~ [### ~ 10 ~ 10 ~ 10 ~ 10 ~ 10 ~ 10 ~ 10 ~ 1			
		教育構想実践書発表(演習)	事前	自身の教育構想実践書の最終案の	
<i>'</i>		教育構想実践書 発表(演習)	7, 11,1	作成と発表準備 (7h)	
第8講		審査用に取り纏めた教育構想実践書を		自身の発表に対するコメント等の	
	発表し議論す	する。	事後	振り返りと他のゼミ生の発表を受	
/→Hn⇒ ₽¤	<u> </u>		+ □ / + > □	けての振り返り (1h)	
定期試験	央 	試験ではなく、前後期を通じて教育構	怨夫段	&青の掟出を氷める。 	
使用テキ	キスト	教科書は指定しないが、必要に応じて	参考書	背は推奨する。	
参考文献	犬	柴山慎一(2011)『コーポレートコミュニケーション経営』東洋経済			
		新報社			
		清水正道、柴山慎一ほか(2019)『インターナル・コミュニケーショ			
		ン経営』経団連出版			
		ほか研究テーマに応じて			
受講生は	に対する評価	授業の進め方は、ゼミ生各自の発表と	ゼミ生	E全員参加のディスカッショ	
		ンを中心とする。ゼミ活動中の参加姿	勢や他	也者への貢献、ディスカッシ	
		ョンへの関与などの平常点と最終報告される教育構想実践書をもとに評			
		価する。平常点 50%、教育構想実践書 50%			
課題等は	に対する	フィードバックは受講生毎に都度、授	業の中	Pで行うが、必要に応じて個	
フィー	ドバック	別に行う。			
		本授業は、履修者の関心にあわせた指導が主となる。個別指導時はビデ			
		オ会議システムのブレイクアウトルームなどを利用する。他者の指導の			
		間に、与えられた課題に対する調査などを行う。 そのため、履修者が			
		積極的、自発的に自身の問題関心に応じて探究していくことが必要とな			
		る。毎回の授業ごとにレポート作成をするだけでなく、自身の研究報告			
		の発表を行う。その上で、各履修者に対して助言・指導をする。 ま			
		た、履修者は、他者の発表に対してコ	メント	をすること。	
オフィス	スアワー	社会人院生が中心になることから受講生の余裕のある時間帯を確保す			
(オンライン曜日・		る。主に平日夜間と土曜日など(要予	約)。		
時間)					
受講生~	〜 のメッセー	本教育構想実践書は個人制作するもの	ですカ	、ゼミでの発表の準備や、	
ジ*任意	意項目	ゼミ内での議論などのゼミ活動そのも	のは、	ゼミ生一体となった団体戦	

	になります。お互いに切磋琢磨し合いながら、貢献し合う姿勢を求めま す。
備考 *任意項目	
授業用 URL *任意項目	
授業用 E-Mail *任意項目	

講義名	教育構想研究 (II)
単位数	2 単位
単位区分(必修・選択・自由)	必修
講義開講時期	2 年後期
講義区分(講義・演習・実習)	演習
担当教員名	藤本典裕

	教育界における課題を発見し、背景や関わる要因をグローバル視点で俯瞰し定義する	
DP1	ことができる。	
	(課題発見・要因定義能力)	
DP2-1	教育界における課題に情報学の知識・スキルを活用し改善・解決することができる。	
D1 2-1	(改善・解決能力)	
DP2-2	教育界における課題に経営学の知識・スキルを活用し改善・解決することができる。	
D1 2-2	(改善・解決能力)	
DP3	科学的知見に基づき実践からデータを取得し仮説を立て検証することができる。	
DP3	(科学的な検証能力)	
	教育テックによる教育界に関する社会変革を目標に、自らの構想を立てることができ	
DP4	る。	
	(社会変革への構想能力)	

履	修	条	件	教育構想演習(I)(II)、教育構想研究(I)を履修し単位取得して
				いること。原則として研究(I)と同じ指導教員となる。
授業	の概要	į		研究指導科目群では、教育情報・経営リーダーシップ研究科が最終的
				な成果物とする「教育構想実践書」の完成に向けた一連の指導を行う。
				【教育構想研究(II)】では、履修者がたてた教育・社会変革のための
				仮説を実装または実践し、さらなる科学的な検証を行い、最終的に「教
				育構想実践書」を完成させる。自身の構想とその具体的な計画および実
				践について、関係者に賛同・共感を得られるよう、わかりやすくプレゼ
				ンテーションできる知見を身につける。
授美	巣の	テー	- 7	現代の学校教育制度をめぐる諸課題について、特に学校教職員の役割と
及び	到達目	標		その変化などに着目しながら検討する。「チームとしての学校」が求め
				られる背景と現状など、児童・生徒の学びを保障するための条件を念頭
				に置いて考察する。これらを踏まえ、受講者各自が研究計画を遂行し得
				られた結果より、教育構想実践書の執筆を行う。
				○教育構想研究(Ⅰ)で立てた仮説を実践し、新たな構想を計画する
				○教育構想を実践書として纏め説明することができる

授業計画	· - - - - - - - - - - - - - - - - - - -	授業外の学習 (60 時間)		
	(第1回) イントロダクション(演習)	事前	後期研究計画の執筆(3h)	
第1講	教育構想研究 (I)を踏まえ、研究成果を共有する。	事後	履修生同士の相互レビュー(1h)	
第2講	(第2回)研究計画書の骨子再検討1 (演習) (第3回)研究計画書の骨子再検討2 (演習)	事前	前回レポートの執筆(2h)	
N1 7 m3	教育構想研究(I)の助言を踏まえ、各履修者の 研究成果報告書の骨子の状況について検討する。	事後	履修者同士の相互レビュー(1h) リサーチワーク(5h)	
第3講	(第4回)研究仮説の実践計画1 (演習) (第5回)研究仮説の実践計画2 (演習)	事前	前回レポートの執筆 (2h)	
77.0 1117	教育構想研究(I)の仮説を踏まえ、各履修者に 対応する実践に関する計画について検討する。	事後	フィールド実践・実装(6h)	
∽ 4 = 推	(第6回)教育構想実践書指導1 (演習) (第7回)教育構想実践書指導2 (演習)	事前	実践結果分析(2h)	
第4講	各履修者の残された課題を抽出し、具体的にどの ように実践書に落とし込むのかを検討する。	事後	履修者同士の相互レビュー(1h) リサーチワーク(5h)	
tototto	(第8回)教育構想実践書指導3(演習) (第9回)教育構想実践書指導4(演習)	事前	前回レポートの執筆(2h)	
第5講	各履修者の残された課題を抽出し、具体的にどの ように実践書に落とし込むのかを検討する。	事後	履修者同士の相互レビュー(1h) リサーチワーク(5h)	
第6講	(第 10 回)教育構想実践書指導 5 (演習) (第 11 回)教育構想実践書指導 6 (演習)	事前	前回レポートの執筆(2h)	
分 0 神	各履修者の残された課題を抽出し、具体的にどのように実践書に落とし込むのかを検討する。	事後	履修者同士の相互レビュー (1h) リサーチワーク (5h)	
第7講	(第 12 回)教育構想実践書指導 7 (演習) (第 13 回)教育構想実践書指導 8 (演習)	事前	前回レポートの執筆(2h)	
分 (各履修者の残された課題を抽出し、具体的にどの ように実践書に落とし込むのかを検討する。	事後	履修者同士の相互レビュー(1h) リサーチワーク(5h)	
第8講	(第 14 回)教育構想実践書 発表(演習) (第 15 回)教育構想実践書 発表(演習)	事前	前回レポートの執筆 (2h) 発表準備 (5h)	
	口頭発表練習を通じて、1年間の成果を確認しつつ、自身の研究を他者に伝える。	事後	履修者同士の相互レビュー (1h)	
定期試験	各自の発表(発表資料提出)及び、1 る。	ノポー	ト(教育構想実践書)とす	

使用テキスト	別途指示する
参考文献	別途指示する
受講生に対する評価	・発表内容 (30%)
	・教育構想実践書の内容(70%)
課題等に対する	・基本的には、授業の中で行う。
フィードバック	・本授業は、履修者の関心にあわせた指導が主となる。個別指導時はビ
	デオ会議システムのブレイクアウトルームなどを利用する。他者の指導
	の間に、与えられた課題に対する調査などを行う。
	そのため、履修者が積極的、自発的に自身の問題関心に応じて探究し
	ていくことが必要となる。毎回の授業ごとにレポート作成をするだけで
	なく、自身の研究報告の発表を行う。その上で、各履修者に対して助
	言・指導をする。また、履修者は、他者の発表に対してコメントをする
オフィスアワー	こと。 授業の前後
インイベノケー (オンライン曜日・	文未の則後
時間)	
受講生へのメッセー	 本授業は各履修者のテーマにあわせた研究の進捗状況の管理と助言指導
ジ*任意項目	が主となる。最終成果物は、演習に出席すれば自動的に完成するもので
	はなく履修者が自律的に執筆する。数回の発表を求める。また、自身の
	発表だけでなく、他者の発表に対してもコメントをすること。
	授業ごとにレポートを作成することを求める。初回授業で詳しく述べ
	る。
備考	
*任意項目	
授業用 URL	
*任意項目	
授業用 E-Mail	
*任意項目	

講義名	教育構想研究(II)
単位数	2 単位
単位区分(必修・選択・自由)	必修
講義開講時期	2 年後期
講義区分(講義・演習・実習)	演習
担当教員名	山田 恒夫

	教育界における課題を発見し、背景や関わる要因をグローバル視点で俯瞰し定義する	
DP1	ことができる。	
	(課題発見・要因定義能力)	
DP2-1	教育界における課題に情報学の知識・スキルを活用し改善・解決することができる。	
D1 2-1	(改善・解決能力)	
DP2-2	教育界における課題に経営学の知識・スキルを活用し改善・解決することができる。	
D1 2 2	(改善・解決能力)	
DP3	科学的知見に基づき実践からデータを取得し仮説を立て検証することができる。	
DIS	(科学的な検証能力)	
	教育テックによる教育界に関する社会変革を目標に、自らの構想を立てることができ	
DP4	る。	•
	(社会変革への構想能力)	

履修		件	教育構想演習(I)(II)、教育構想	研究	(Ⅰ) を履修し単位取得して	
/62 15			いること。原則として研究(Ⅰ)と同			
授業の権	既要		研究指導科目群では、教育情報・経	営リー	- ダーシップ研究科が最終的	
			な成果物とする「教育構想実践書」の	完成に	こ向けた一連の指導を行う。	
			【教育構想研究(II)】では、履修者	がたて	てた教育・社会変革のための	
			仮説を実装または実践し、さらなる科	学的な	は検証を行い、最終的に「教	
			育構想実践書」を完成させる。自身の	構想と	その具体的な計画および実	
			践について、関係者に賛同・共感を得られるよう、わかりやすくプレゼ			
			ンテーションできる知見を身につける	0		
授業	のテー	- 7	研究計画を遂行し得られた結果より、教育構想実践書の執筆を行			
及び到達	達目標		う。			
			○教育構想研究(Ⅰ)で立てた仮説を	実践し	、新たな構想を計画する 	
			○教育構想を実践書として纏め説明す	ること	:ができる	
授業計画 (授業は1回を90分とし、2限連続で実施する場合がある)				授業		
//r 1 =#:	(第1	回) /	(ントロダクション(演習)	事前	後期研究計画の執筆 (3h)	
第1講	教育構	想研夠	咒(I)を踏まえ、研究成果を共有す	事後	履修生同士の相互レビュー(1h)	

	る。			
第2講	(第2回)研究計画書の骨子再検討1(演習) (第3回)研究計画書の骨子再検討2(演習) 教育構想研究(I)の助言を踏まえ、 研究成果 報告書の骨子 について検討する。		事前	前回レポートの執筆 (2h)
N1 2 III1			事後	履修者同士の相互レビュー (1h) リサーチワーク (5h)
第3講	(**	研究仮説の実践計画 1 (演習) 研究仮説の実践計画 2 (演習)	事前	前回レポートの執筆(2h)
カリ時		究(I)の仮説を踏まえ、研究 実践 施計画について検討する。		フィールド実践・実装(6h)
第4講		文育構想実践書指導 1 (演習) 女育構想実践書指導 2 (演習)	事前	実践結果分析(2h)
分4 神		で想定される課題を抽出し、具体的に 『践書に落とし込むのかを検討する。	事後	履修者同士の相互レビュー(1h) リサーチワーク(5h)
		文育構想実践書指導 3 (演習) 女育構想実践書指導 4 (演習)	事前	前回レポートの執筆(2h)
第5講	研究実践で想定される、あるいは見いだされた 課題を抽出し、具体的にどのように実践書に落と し込むのかを検討する。		事後	履修者同士の相互レビュー(1h) リサーチワーク(5h)
	(第10回)教育構想実践書指導5 (演習) (第11回)教育構想実践書指導6 (演習) 引き続き、研究実践で想定される、あるいは見い だされた課題を抽出し、具体的にどのように実践 書に落とし込むのかを検討する。		事前	前回レポートの執筆(2h)
第6講			事後	履修者同士の相互レビュー(1h) リサーチワーク(5h)
		教育構想実践書指導7(演習) 教育構想実践書指導8(演習)	事前	前回レポートの執筆(2h)
だされた課題		研究実践で想定される、あるいは見い 題を抽出し、具体的にどのように実践 込むのかを検討する。	事後	履修者同士の相互レビュー(1h) リサーチワーク(5h)
笠 ○ 章	(第15回)	教育構想実践書 発表(演習) 教育構想実践書 発表(演習)	事前	前回レポートの執筆 (2h) 発表準備 (5h)
第8講	口頭発表練習を通じて、1年間の成果を確認しつ つ、自身の研究を他者と共有、相互に評価する。		事後	履修者同士の相互レビュー(1h)
定期試験		期末の定期試験は実施しない。	ı	
使用テキスト		別途指示する		
参考文献		別途指示する		
受講生に対する評価		・発表内容(30%) ・教育構想実践書の内容(70%) から総合的に評価する。		

課題等に対する	・基本的には、授業の中で行う。
フィードバック	・本授業は、履修者の関心にあわせた指導が主となる。個別指導時はビ
	デオ会議システムのブレイクアウトルームなどを利用する。他者の指導
	の間に、与えられた課題に対する調査などを行う。
	そのため、履修者が積極的、自発的に自身の問題関心に応じて探究し
	ていくことが必要となる。毎回の授業ごとにレポート作成をするだけで
	なく、自身の研究報告の発表を行う。その上で、各履修者に対して助
	言・指導をする。また、履修者は、他者の発表に対してコメントをする
	こと。
オフィスアワー	授業の前後
(オンライン曜日・	
時間)	
受講生へのメッセー	本授業は各履修者のテーマにあわせた研究の進捗状況の管理と助言指導
ジ*任意項目	が主となる。最終成果物は、演習に出席すれば自動的に完成するもので
	はなく履修者が自律的に執筆する。数回の発表を求める。また、自身の
	発表だけでなく、他者の発表に対してもコメントをすること。
	授業ごとにレポートを作成することを求める。初回授業で詳しく述べ
	る。
備考	
*任意項目	
授業用 URL	
*任意項目	
授業用 E-Mail	
*任意項目	

講義名	教育構想研究(II)
単位数	2 単位
単位区分(必修・選択・自由)	必修
講義開講時期	2 年後期
講義区分(講義・演習・実習)	演習
担当教員名	山本 淳子

	教育界における課題を発見し、背景や関わる要因をグローバル視点で俯瞰し定義する	
DP1	ことができる。	
	(課題発見・要因定義能力)	
DP2-1	教育界における課題に情報学の知識・スキルを活用し改善・解決することができる。	
D1 2-1	(改善・解決能力)	
DP2-2	教育界における課題に経営学の知識・スキルを活用し改善・解決することができる。	
D1 2 2	(改善・解決能力)	
DP3	科学的知見に基づき実践からデータを取得し仮説を立て検証することができる。	
DIS	(科学的な検証能力)	
	教育テックによる教育界に関する社会変革を目標に、自らの構想を立てることができ	
DP4	る。	•
	(社会変革への構想能力)	

履	修	条	件	教育構想演習(I)(II)、教育構想	研究(
/2	12	714	••			. ,		
	いること。原則として研究(I)と同じ指導教員となる。					秋貝となる。 		
授業の概要				研究指導科目群では、教育情報・経営リーダーシップ研究科が最終的な				
				成果物とする「教育構想実践書」の完	成に向	けた一連の指導を行う。		
				【教育構想研究(Ⅱ)】では、履修者	がたて	た教育・社会変革のための		
				仮説を実装または実践し、さらなる科	学的な	検証を行い、最終的に「教		
	育構想実践書」を完成させる。自身の構想とその具体的な計画および					その具体的な計画および実		
				践について、関係者に賛同・共感を得られるよう、わかりやすくプレゼ				
				ンテーションできる知見を身につける	0			
授業	授業のテーマ 保育・幼児教育分野での研究計画を遂行し得られた結果より、教育構想			られた結果より、教育構想				
及び	及び到達目標 実践書の執筆を行う。							
				○教育構想研究(Ⅰ)で立てた仮説を	実践し	、新たな構想を計画する		
	○教育構想を実践書として纏め説明することができる							
授業計画 (授業は1回を90分とし、2限連続で実施			回を 90	分とし、2 限連続で実施する場合がある)	授業	外の学習 (60 時間)		
第1	講				事前	後期研究計画の執筆 (3h)		

	(第1回)/	イントロダクション(演習)		
		究(I)を踏まえ、研究成果を共有す	事後	履修生同士の相互レビュー(1h)
	教育構造別える。	元(1)を囲また、明元成末を発行す	爭区	
		『売乳型事の周乙型枠計1 (冷羽)		
		研究計画書の骨子再検討1(演習)	事前	前回レポートの執筆 (2h)
第2講	, , , , ,	研究計画書の骨子再検討 2 (演習)		
		究(I)の助言を踏まえ、各履修者の	事後	履修者同士の相互レビュー (1h)
	, , , , , , , , , , , , , , , , , , , ,	告書の骨子の状況について検討する。 		リサーチワーク (5h)
		研究仮説の実践計画 1 (演習)	事前	前回レポートの執筆(2h)
第3講	, , , , ,	研究仮説の実践計画 2 (演習)		
		究(I)の仮説を踏まえ、各履修者に	事後	フィールド実践・実装(6h)
	対応する実践	桟に関する計画について検討する。		
	(第6回)教	教育構想実践書指導 1 (演習)	事前	実践結果分析(2h)
第4講	(第7回)教	数育構想実践書指導 2 (演習)		
N1 1 1117	各履修者の死	桟された課題を抽出し、具体的にどの	事後	履修者同士の相互レビュー(1h)
	ように実践書	書に落とし込むのかを検討する。	712	リサーチワーク(5h)
	(第8回) 教	牧育構想実践書指導 3 (演習)	事前	前回レポートの執筆(2h)
第5講	(第9回) 教	牧育構想実践書指導4(演習)		
N1 2 m3	各履修者の死	桟された課題を抽出し、具体的にどの	事後	履修者同士の相互レビュー (1h) リサーチワーク (5h)
	ように実践書	書に落とし込むのかを検討する。	, , ,	
	(第 10 回)	教育構想実践書指導5 (演習)	事前	前回レポートの執筆 (2h)
第6講	(第11回)	教育構想実践書指導6(演習)	尹刖	
20 円	各履修者の死	桟された課題を抽出し、具体的にどの	事後	履修者同士の相互レビュー(1h)
	ように実践書	書に落とし込むのかを検討する。	争仮	リサーチワーク (5h)
	(第12回)	教育構想実践書指導7(演習)	事前	前回レポートの執筆(2h)
第7講	(第13回)	教育構想実践書指導8(演習)		
NA 1 HH	各履修者の死	桟された課題を抽出し、具体的にどの	事後	履修者同士の相互レビュー(1h)
	ように実践書	書に落とし込むのかを検討する。	爭区	リサーチワーク (5h)
	(第 14 回)	教育構想実践書 発表(演習)		前回レポートの執筆(2h)
第8講	(第 15 回)	教育構想実践書 発表(演習)	事前	発表準備 (5h)
20 円	口頭発表練習	習を通じて、1 年間の成果を確認しつ		
	つ、自身の研	肝究を他者に伝える。	事後	履修者同士の相互レビュー(1h)
定期試験		各自の発表(発表資料提出)及び、に	ノポー	ト (教育構想実践書) とす
		る。		
使用テキスト		別途指示する		
参考文献		別途指示する		
受講生に対する評価		・発表内容 (30%)		
		・教育構想実践書の内容(70%)		

課題等に対する	・基本的には、授業の中で行う。
フィードバック	・本授業は、履修者の関心にあわせた指導が主となる。個別指導時はビ
	デオ会議システムのブレイクアウトルームなどを利用する。他者の指導
	の間に、与えられた課題に対する調査などを行う。
	そのため、履修者が積極的、自発的に自身の問題関心に応じて探究し
	ていくことが必要となる。毎回の授業ごとにレポート作成をするだけで
	なく、自身の研究報告の発表を行う。その上で、各履修者に対して助
	言・指導をする。また、履修者は、他者の発表に対してコメントをする
	こと。
オフィスアワー	授業の前後
(オンライン曜日・	
時間)	
受講生へのメッセー	本授業は各履修者のテーマにあわせた研究の進捗状況の管理と助言指導
ジ*任意項目	が主となる。最終成果物は、演習に出席すれば自動的に完成するもので
	はなく履修者が自律的に執筆する。数回の発表を求める。また、自身の
	発表だけでなく、他者の発表に対してもコメントをすること。
	授業ごとにレポートを作成することを求める。初回授業で詳しく述べ
	る。
備考	
*任意項目	
授業用 URL	
*任意項目	
授業用 E-Mail	
*任意項目	

講義名	教育構想研究 (II)
単位数	2 単位
単位区分(必修・選択・自由)	必修
講義開講時期	2 年後期
講義区分(講義・演習・実習)	演習
担当教員名	大和田順子

	教育界における課題を発見し、背景や関わる要因をグローバル視点で俯瞰し定義する	
DP1	ことができる。	
	(課題発見・要因定義能力)	
DD0 1	教育界における課題に情報学の知識・スキルを活用し改善・解決することができる。	
DP2-1	(改善・解決能力)	
DP2-2	教育界における課題に経営学の知識・スキルを活用し改善・解決することができる。	
DPZ-Z	(改善・解決能力)	
DP3	科学的知見に基づき実践からデータを取得し仮説を立て検証することができる。	
DP3	(科学的な検証能力)	
	教育テックによる教育界に関する社会変革を目標に、自らの構想を立てることができ	
DP4	る。	
	(社会変革への構想能力)	

履修		件	教育構想演習(I)(II)、教育構想	研究	(Ⅰ)を履修し単位取得して
/62 19		''	いること。原則として研究(Ⅰ)と同		
			いること。原則として明元(1)と同	レ油台	F 教員 こ な る。
授業の構	既要		研究指導科目群では、教育情報・経	営リー	-ダーシップ研究科が最終的
			な成果物とする「教育構想実践書」の	完成に	向けた一連の指導を行う。
			【教育構想研究(II)】では、履修者だ	がたて	た教育・社会変革のための
			仮説を実装または実践し、さらなる科	学的な	:検証を行い、最終的に「教
			育構想実践書」を完成させる。自身の構想とその具体的な計画および実		
			践について、関係者に賛同・共感を得	られる	よう、わかりやすくプレゼ
			ンテーションできる知見を身につける	0	
授業のテーマ SDGs、ESD とソーシャルイノベーションに関するテーマから研		関するテーマから研究計画			
及び到達	及び到達目標		を遂行し得られた結果より、教育構想	実践書	芹の執筆を行う。
○教育			○教育構想研究(Ⅰ)で立てた仮説を	実践し	、新たな構想を計画する
○教育構想を実践書として纏め説明することができる					
授業計画(授業は1回を90分とし、2限連続で実施する場合が			分とし、2 限連続で実施する場合がある)	授業	外の学習 (60時間)
公 1 ∃#	(第1	回) /	イントロダクション(演習)	事前	後期研究計画の執筆 (3h)
第1講	教育構	想研夠	咒(I)を踏まえ、研究成果を共有す	事後	履修生同士の相互レビュー (1h)

	る。			
第2講		究計画書の骨子再検討1(演習) 究計画書の骨子再検討2(演習)	事前	前回レポートの執筆(2h)
N4 = 1111		(I)の助言を踏まえ、各履修者の書の骨子の状況について検討する。	事後	履修者同士の相互レビュー (1h) リサーチワーク (5h)
第3講	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	究仮説の実践計画 1 (演習) 究仮説の実践計画 2 (演習)	事前	前回レポートの執筆(2h)
対り神		(I)の仮説を踏まえ、各履修者にに関する計画について検討する。	事後	フィールド実践・実装(6h)
学 4 建		育構想実践書指導 1 (演習) 育構想実践書指導 2 (演習)	事前	実践結果分析(2h)
第4講		された課題を抽出し、具体的にどの に落とし込むのかを検討する。	事後	履修者同士の相互レビュー (1h) リサーチワーク (5h)
// F = ±		育構想実践書指導 3 (演習) 育構想実践書指導 4 (演習)	事前	前回レポートの執筆(2h)
第5講		された課題を抽出し、具体的にどの に落とし込むのかを検討する。	事後	履修者同士の相互レビュー (1h) リサーチワーク (5h)
<i>次</i> / =#		教育構想実践書指導 5 (演習) 教育構想実践書指導 6 (演習)	事前	前回レポートの執筆(2h)
第6講		された課題を抽出し、具体的にどの に落とし込むのかを検討する。	事後	履修者同士の相互レビュー(1h) リサーチワーク(5h)
第7講		教育構想実践書指導7(演習) 教育構想実践書指導8(演習)	事前	前回レポートの執筆(2h)
分 / 讲		された課題を抽出し、具体的にどの に落とし込むのかを検討する。	事後	履修者同士の相互レビュー (1h) リサーチワーク (5h)
第8講	(第 15 回) 孝	教育構想実践書 発表(演習) 教育構想実践書 発表(演習)	事前	前回レポートの執筆 (2h) 発表準備 (5h)
		を通じて、1 年間の成果を確認しつ 究を他者に伝える。	事後	履修者同士の相互レビュー(1h)
定期試験		各自の発表(発表資料提出)及び、る。	レポー	ト(教育構想実践書)とす
使用テキスト		別途指示する		
参考文献		別途指示する		
受講生に対する評価		・発表内容(30%)・教育構想実践書の内容(70%)		

課題等に対する	・基本的には、授業の中で行う。
フィードバック	・本授業は、履修者の関心にあわせた指導が主となる。個別指導時はビ
	デオ会議システムのブレイクアウトルームなどを利用する。他者の指導
	の間に、与えられた課題に対する調査などを行う。
	そのため、履修者が積極的、自発的に自身の問題関心に応じて探究し
	ていくことが必要となる。毎回の授業ごとにレポート作成をするだけで
	なく、自身の研究報告の発表を行う。その上で、各履修者に対して助
	言・指導をする。また、履修者は、他者の発表に対してコメントをする
	こと。
オフィスアワー	授業の前後
(オンライン曜日・	
時間)	
受講生へのメッセー	本授業は各履修者のテーマにあわせた研究の進捗状況の管理と助言指導
ジ*任意項目	が主となる。最終成果物は、演習に出席すれば自動的に完成するもので
	はなく履修者が自律的に執筆する。数回の発表を求める。また、自身の
	発表だけでなく、他者の発表に対してもコメントをすること。
	授業ごとにレポーを作成することを求める。初回授業で詳しく述べる。
備考	
*任意項目	
授業用 URL	
*任意項目	
授業用 E-Mail	
*任意項目	

講義名	教育構想研究 (II)
単位数	2 単位
単位区分(必修・選択・自由)	必修
講義開講時期	2 年後期
講義区分(講義・演習・実習)	演習
担当教員名	妹尾昌俊

	教育界における課題を発見し、背景や関わる要因をグローバル視点で俯瞰し定義する	
DP1	ことができる。	
	(課題発見・要因定義能力)	
DP2-1	教育界における課題に情報学の知識・スキルを活用し改善・解決することができる。	
DF2-1	(改善・解決能力)	
DP2-2	教育界における課題に経営学の知識・スキルを活用し改善・解決することができる。	
DF2-2	(改善・解決能力)	
DP3	科学的知見に基づき実践からデータを取得し仮説を立て検証することができる。	
DIS	(科学的な検証能力)	
	教育テックによる教育界に関する社会変革を目標に、自らの構想を立てることができ	
DP4	ప .	
	(社会変革への構想能力)	

					/
履修	条	件	教育構想演習(Ⅰ)(Ⅱ)、教育構想	研究	(I)を履修し単位取得して
			いること。原則として研究(I)と同	じ指導	算教員となる。
授業の概	既要		研究指導科目群では、教育情報・経	営リー	-ダーシップ研究科が最終的
			な成果物とする「教育構想実践書」の	完成に	こ向けた一連の指導を行う。
			【教育構想研究(Ⅱ)】では、履修者:	がたて	た教育・社会変革のための
			仮説を実装または実践し、さらなる科	学的な	は検証を行い、最終的に「教
			育構想実践書」を完成させる。自身の	構想と	その具体的な計画および実
			践について、関係者に賛同・共感を得	られる	らよう、わかりやすくプレゼ
			ンテーションできる知見を身につける	0	
授業の	のテー	- 7	教職員のウェルビーイング、教職員政	策、人	(材マネジメントに関する研
及び到達	崖目標		究計画を遂行し得られた結果より、教	育構想	思実践書の執筆を行う。
			○教育構想研究(Ⅰ)で立てた仮説を	実践し	ノ、新たな構想を計画する
			○教育構想を実践書として纏め説明す	ること	こができる
授業計画 (授業は1回を90分とし、2限連続で実施する場合がある)		授業	外の学習 (60時間)		
第1講	(第1	回) /	イントロダクション(演習)	事前	後期研究計画の執筆 (3h)
分 1 神	教育構	想研多	咒(I)を踏まえ、研究成果を共有す	事後	履修生同士の相互レビュー(1h)

	る。教育政策	東や学校の取組に資するように、より		
	説得力を高る	めるための課題、方法等についても討		
	議する。			
	(第2回) 页	研究計画書の骨子再検討 1 (演習)	声兴	岩口、岩 しの料質 (21.)
第2講	(第3回) 6	研究計画書の骨子再検討2(演習)	事前	前回レポートの執筆(2h)
分 4 研	教育構想研究(I)の助言を踏まえ、各履修者の		事後	履修者同士の相互レビュー (1h)
	研究成果報告	告書の骨子の状況について検討する。	Ŧ Ø	リサーチワーク (5h)
		开究仮説の実践計画 1 (演習)	事前	前回レポートの執筆(2h)
第3講		开究仮説の実践計画 2 (演習)		
		究(I)の仮説を踏まえ、各履修者に	事後	フィールド実践(6h)
		表に関する計画について検討する。 ************************************		
		教育構想実践書指導1(演習) 教育構想実践書指導2(演習)	事前	実践結果分析(2h)
第4講		教育構想実践書指導 2 (演習) 残された課題を抽出し、具体的にどの		履修者同士の相互レビュー(1h)
		とされた課題を抽出し、具体的にとのとに落とし込むのかを検討する。	事後	フィールド実践、リサーチワーク
	, , , , , , ,			(5h)
		收育構想実践書指導 3 (演習) (大字標 4 () () () () () () ()	事前	前回レポートの執筆 (2h)
第5講		教育構想実践書指導 4 (演習) 残された課題を抽出し、具体的にどの		履修者同士の相互レビュー(1h)
		とれた試過を抽出し、具体的にこの とに落とし込むのかを検討する。	事後	フィールド実践、リサーチワーク
		教育構想実践書指導5 (演習)		(5h)
		教育構想実践書指導6(演習)	事前	前回レポートの執筆(2h)
第6講		我も構念天政 電話では 我された課題を抽出し、具体的にどの		履修者同士の相互レビュー (1h)
		となるというない。 という	事後	フィールド実践、リサーチワーク
	, , , , , ,			(5h)
		教育構想実践書 発表 1 (演習)	事前	前回レポートの執筆(2h)
第7講		教育構想実践書 発表 2 (演習)		履修者同士の相互レビュー(1h)
	,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,	習を通じて、1年間の成果を確認しつ	事後	機修有向工の相互レビュー (III) 発表内容のブラッシュアップ
	つ、日身の頃	开究を他者に伝える。 		(5h)
		教育構想実践書 発表 3 (演習)	事前	前回レポートの執筆(2h)
第8講		教育構想実践書 発表 4 (演習)	争削	発表準備(5h)
		習を通じて、1年間の成果を確認しつ	事後	履修者同士の相互レビュー(1h)
		肝究を他者に伝える。 「2008末(※末次以担山) みび、)		
定期試験		各自の発表(発表資料提出)及び、1	ノホー	Γ (
使用テキスト		る。 別途指示する		
参考文献		別途指示する		
受講生に対する評価		・発表内容(30%)		
		・教育構想実践書の内容(70%)		

課題等に対する	・基本的には、授業の中で行う。
フィードバック	・本授業は、履修者の関心にあわせた指導が主となる。個別指導時はビ
	デオ会議システムのブレイクアウトルームなどを利用する。他者の指導
	の間に、与えられた課題に対する調査などを行う。
	そのため、履修者が積極的、自発的に自身の問題関心に応じて探究し
	ていくことが必要となる。毎回の授業ごとにレポート作成をするだけで
	なく、自身の研究報告の発表を行う。その上で、各履修者に対して助
	言・指導をする。また、履修者は、他者の発表に対してコメントをする
	こと。
オフィスアワー	特定の時間は定めません。事前にメール等で予約してください。
(オンライン曜日・	
時間)	
受講生へのメッセー	本授業は各履修者のテーマにあわせた研究の進捗状況の管理と助言指導
ジ*任意項目	が主となる。最終成果物は、演習に出席すれば自動的に完成するもので
	はなく履修者が自律的に執筆する。数回の発表を求める。また、自身の
	発表だけでなく、他者の発表に対してもコメントをすること。
	複数回分をまとめて実施する場合がある。通常はオンラインだが、対面
	での合宿形式なども含めることを検討する。
備考	
*任意項目	
授業用 URL	
*任意項目	
授業用 E-Mail	
*任意項目	

講義名	教育構想研究(II)
単位数	2 単位
単位区分(必修・選択・自由)	必修
講義開講時期	2 年後期
講義区分(講義・演習・実習)	演習
担当教員名	松田 孝

	教育界における課題を発見し、背景や関わる要因をグローバル視点で俯瞰し定義する	
DP1	ことができる。	
	(課題発見・要因定義能力)	
DP2-1	教育界における課題に情報学の知識・スキルを活用し改善・解決することができる。	
D1 2-1	(改善・解決能力)	
DP2-2	教育界における課題に経営学の知識・スキルを活用し改善・解決することができる。	
D1 2 2	(改善・解決能力)	
DP3	科学的知見に基づき実践からデータを取得し仮説を立て検証することができる。	
DIS	(科学的な検証能力)	
	教育テックによる教育界に関する社会変革を目標に、自らの構想を立てることができ	
DP4	ప .	
	(社会変革への構想能力)	

履	修	条	件	教育構想演習(I)(II)、教育構想	研究(I)を履修し単位取得して		
				いること。原則として研究(Ⅰ)と同	じ指導教員となる。		
授業	の概要	į		研究指導科目群では、教育情報・経	営リーダーシップ研究科が最終的		
				な成果物とする「教育構想実践書」の	完成に向けた一連の指導を行う。		
				【教育構想研究(II)】では、履修者 仮説を実装または実践し、さらなる科			
				育構想実践書」を完成させる。自身の	構想とその具体的な計画および実		
				践について、関係者に賛同・共感を得	られるよう、わかりやすくプレゼ		
				ンテーションできる知見を身につける。			
授美	業 の	テー	· 7	教育 Tech と①非認知能力、②プログ	ラミング教育、③学校経営等との		
及び	到達目	標		関わりをめぐって研究計画を遂行し得られた結果より、教育構想実践書			
	の執筆を行う。						
				○教育構想研究(I)で立てた仮説を実践し、新たな構想を計画する ○教育構想を実践書として纏め説明することができる			
授業	授業計画 (授業は1回を90分とし、2限連続で実施する場合がある) 授業外の学習 (60時間)			授業外の学習 (60 時間)			

	(第1回)イントロダクション(演習)	事前	後期研究計画の執筆 (3h)
第1講	教育構想研究(I)を踏まえ、研究成果を共有する。	事後	履修生同士の相互レビュー(1h)
第2講	(第2回)研究計画書の骨子再検討1 (演習) (第3回)研究計画書の骨子再検討2 (演習)	事前	前回レポートの執筆(2h)
分 2 	教育構想研究(I)の助言を踏まえ、各履修者の 研究成果報告書の骨子の状況について検討する。	事後	履修者同士の相互レビュー (1h) リサーチワーク (5h)
	(第4回)研究仮説の実践計画1 (演習) (第5回)研究仮説の実践計画2 (演習)	事前	前回レポートの執筆(2h)
第3講	教育構想研究(I)の仮説を踏まえ、各履修者に 対応する実践に関する計画について検討する。 教育実践と教育課程、年間指導計画、学校経営	事後	フィールド実践・実装(6h)
	(第6回)教育構想実践書指導1(演習) (第7回)教育構想実践書指導2(演習)	事前	実践結果分析(2h)
第4講	各履修者の残された課題を抽出し、具体的にどのように実践書に落とし込むのかを検討する。 教育構想実践書の計画と学校現場(実態)との乖離とその克服	事後	履修者同士の相互レビュー (1h) リサーチワーク (5h)
第5講	(第8回)教育構想実践書指導3(演習) (第9回)教育構想実践書指導4(演習)	事前	前回レポートの執筆(2h)
	各履修者の残された課題を抽出し、具体的にどのように実践書に落とし込むのかを検討する。 教育構想実践書の計画とカリキュラムオーバーロードの検討	事後	履修者同士の相互レビュー (1h) リサーチワーク (5h)
	(第 10 回)教育構想実践書指導 5 (演習) (第 11 回)教育構想実践書指導 6 (演習)	事前	前回レポートの執筆(2h)
第6講	各履修者の残された課題を抽出し、具体的にどのように実践書に落とし込むのかを検討する。 教育構想実践書の計画に基づく授業の指導計画の 作成	事後	履修者同士の相互レビュー (1h) リサーチワーク (5h)
	(第 12 回)教育構想実践書指導 7 (演習) (第 13 回)教育構想実践書指導 8 (演習)	事前	前回レポートの執筆(2h)
第7講	各履修者の残された課題を抽出し、具体的にどのように実践書に落とし込むのかを検討する。 教育構想実践書と児童・生徒の資質・能力の検討	事後	履修者同士の相互レビュー (1h) リサーチワーク (5h)
第8講	(第 14 回)教育構想実践書 発表(演習) (第 15 回)教育構想実践書 発表(演習) 口頭発表練習を通じて、1 年間の成果を確認しつ	事前	前回レポートの執筆 (2h) 発表準備 (5h)
	つ、自身の研究を他者に伝える。	事後	履修者同士の相互レビュー(1h)

定期試験	各自の発表(発表資料提出)及び、レポート(教育構想実践書)とす
	る。
使用テキスト	別途指示する
参考文献	別途指示する
受講生に対する評価	・発表内容(30%)
	・教育構想実践書の内容(70%)
課題等に対する	・基本的には、授業の中で行う。
フィードバック	・本授業は、履修者の関心にあわせた指導が主となる。個別指導時はビ
	デオ会議システムのブレイクアウトルームなどを利用する。他者の指導
	の間に、与えられた課題に対する調査などを行う。
	そのため、履修者が積極的、自発的に自身の問題関心に応じて探究し
	ていくことが必要となる。毎回の授業ごとにレポート作成をするだけで
	なく、自身の研究報告の発表を行う。その上で、各履修者に対して助
	言・指導をする。また、履修者は、他者の発表に対してコメントをする
	こと。
オフィスアワー	授業の前後
(オンライン曜日・	
時間)	
受講生へのメッセー	本授業は各履修者のテーマにあわせた研究の進捗状況の管理と助言指導
ジ*任意項目	が主となる。最終成果物は、演習に出席すれば自動的に完成するもので
	はなく履修者が自律的に執筆する。数回の発表を求める。また、自身の
	発表だけでなく、他者の発表に対してもコメントをすること。
	授業ごとにレポートを作成することを求める。初回授業で詳しく述べ
	る。
備考	
*任意項目	
授業用 URL	
*任意項目	
授業用 E-Mail	
*任意項目	

講義名	教育構想研究(II)
単位数	2 単位
単位区分(必修・選択・自由)	必修
講義開講時期	2 年後期
講義区分(講義・演習・実習)	演習
担当教員名	大和田 茂

	教育界における課題を発見し、背景や関わる要因をグローバル視点で俯瞰し定義する	
DP1	ことができる。	•
	(課題発見・要因定義能力)	
	教育界における課題に工学/情報科学の知識・スキルを活用し改善・解決することが	
DP2-1	できる。	•
	(改善・解決能力)	
	教育界における課題に経済/経営学の知識・スキルを活用し改善・解決することがで	
DP2-2	きる。	
	(改善・解決能力)	
DP3	科学的知見に基づき実践からデータを取得し仮説を立て検証することができる。	
DIS	(科学的な検証能力)	
	教育テックによる教育界に関する社会変革を目標に、自らの構想を立てることができ	·
DP4	ి కే	
	(社会変革への構想能力)	

履	修	条	件	教育構想演習 (I) (II)、教育構想研究 (I) を履修し単位取得して
				いること。原則として研究(I)と同じ指導教員となる。
授業	の概要	i		研究指導科目群では、教育情報・経営リーダーシップ研究科が最終的
				な成果物とする「教育構想実践書」の完成に向けた一連の指導を行う。
				【教育構想研究(II)】では、履修者がたてた教育・社会変革のための
				仮説を実装または実践し、さらなる科学的な検証を行い、最終的に「教
				育構想実践書」を完成させる。自身の構想とその具体的な計画および実
				践について、関係者に賛同・共感を得られるよう、わかりやすくプレゼ
				ンテーションできる知見を身につける。
授	業の	テー	- マ	技術的な面から研究計画を遂行し得られた結果より、教育構想実践書の
及び	到達目	標		執筆を行う。
				○教育構想研究(Ⅰ)で立てた仮説を実践し、新たな構想を計画する
				○教育構想を実践書として纏め説明することができる

授業計画	 町(授業は1回を 90	分とし、2限連続で実施する場合がある)	授業外の学習 (60 時間)	
	(第1回) /	イントロダクション(演習)	事前	発表準備(3h)
第1講	教育構想研究	究(I)を踏まえ、研究の中間成果を	市沙	开你引示中点16年(91)
	共有し、後期	用研究計画を見直す。	事後	研究計画書の改訂 (3h)
	(第2回) 硕	研究計画書の骨子再検討 1 (演習)	**	
	(第3回) 硕	研究仮説の実践計画 1 (演習)	事前	
第2講	教育構想研究	咒(I)の助言を踏まえ、各履修者の		
	研究成果報告	告書の骨子の状況、仮説検証の実践計	事後	研究計画書の改訂(4h) フィールド実践・実装(4h)
	画について格	食討する。		7 1 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7
	(第4回) 孝	效育構想実践書指導 1 (講義)	事前	
第3講	(第5回)教	效育構想実践書指導 2 (演習)	事後	教育構想実践書執筆 (4h)
N1 0 III-1	教育構想研究	究(I)の仮説を踏まえ、各履修者に		フィールド実践・実装・リサーチ ワーク (4h)
	対応する実践	 ま計画について検討する。		ソーク (4h)
		牧育構想実践書指導3(演習)	事前	
第4講	(第7回)教	改育構想実践書指導 4 (演習)		
N1 1 H4		践された課題を抽出し、具体的にどの	事後	教育構想実践書執筆 (4h) フィールド実践・実装・リサーチ
	ように実践書	書に落とし込むのかを検討する。		ワーク (4h)
	(第8回) 教	收育構想実践書指導 5 (演習)	事前	
第5講	(第9回) 教	收育構想実践書指導 6 (演習)		教育構想実践書執筆 (4h)
知り時	各履修者の死	浅された課題を抽出し、具体的にどの	事後	フィールド実践・実装・リサーチ
	ように実践書	書に落とし込むのかを検討する。		ワーク (4h)
	(第 10 回)	教育構想実践書 発表練習1 (演習)	事前	
第6講	(第11回)	教育構想実践書指導8(演習)		教育構想実践書執筆・発表準備 (4h)
N1 O 111-3	各履修者の死	践された課題を抽出し、具体的にどの	事後	フィールド実践・実装・リサーチ
	ように実践書	書に落とし込むのかを検討する。		ワーク (4h)
	(第 12 回)	教育構想実践書 発表練習2 (演習)	事前	
第7講	(第 13 回)	教育構想実践書指導10 (演習)	事後	教育構想実践書執筆・発表準備 (8h)
>14 · 1111		浅された課題を抽出し、具体的にどの		
		書に落とし込むのかを検討する。		
		教育構想実践書 発表(演習)	車品	
第8講		教育構想実践書 発表(演習)	事前	
N = M11	.,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,	習を通じて、1 年間の成果を確認しつ	事後	教育構想実践書最終盤作成(6h)
		肝究を他者に伝える。		
定期試験		各自の発表(発表資料提出)及び、ル	ノポー	ト(教育構想実践書)とす
		る。 		
使用テキ		別途指示する		
参考文献	扰	別途指示する		

受講生に対する評価	・発表内容(30%)
大冊工に/リン の計画	
	・教育構想実践書の内容(70%)
課題等に対する	・基本的には、授業の中で行う。
フィードバック	・本授業は、履修者の関心にあわせた指導が主となる。個別指導時はビ
	デオ会議システムのブレイクアウトルームなどを利用する。他者の指導
	の間に、与えられた課題に対する調査などを行う。
	そのため、履修者が積極的、自発的に自身の問題関心に応じて探究し
	ていくことが必要となる。毎回の授業ごとにレポート作成をするだけで
	なく、自身の研究報告の発表を行う。その上で、各履修者に対して助
	言・指導をする。また、履修者は、他者の発表に対してコメントをする
	こと。
オフィスアワー	授業の前後
(オンライン曜日・	
時間)	
受講生へのメッセー	本授業は各履修者のテーマにあわせた研究の進捗状況の管理と助言指導
ジ*任意項目	が主となる。最終成果物は、演習に出席すれば自動的に完成するもので
	はなく履修者が自律的に執筆する。数回の発表を求める。また、自身の
	発表だけでなく、他者の発表に対してもコメントをすること。
	授業ごとにレポーを作成することを求める。初回授業で詳しく述べる。
備考	
*任意項目	
授業用 URL	
*任意項目	
授業用 E-Mail	
*任意項目	